

か

か(日)【名詞】日数の単位を表す語 [用例] そんな(それが) フツカ (二日) や ミツカ (三日) で 出来よかれ (出来ない)。

か(荷)【名詞】荷物、荷物を数える単位 一人で肩に担えるだけの物の量を言う [用例] あいら (彼等) にのたら (担なったら) イッカ (一荷) やれ (だ)。

…か(かあ)【終助詞】1) 疑問 反語の意を表す 打ち消の語と共に用い意味を強調する。ほんとカ(員、阿) 2) です でしょう 断定を表す(志、多、上、北、南) [会話] 2) はざんやんカ (いけないでないか) とか、しやせんやんカ (しないでないか) とか、尻 (接尾語) のカかい (ですか)。ほんなら、言うどる やんカ (それなら言うて居るでないか)、したやんカ (したでないか) しやせんやんカ (しないではないか) うちゃったやんカ、言うやんカ (壊してしまつたでないか、言うでないか)。

かあ【保助詞】1) 名詞に のを介して付き その語を強調する語 うそのカア ざまのカア 2) …かと同義 疑い 問いかけの気持ちを表す かい 反語を表す(志、鳥、度) 3) 確かめの気持ちを表す 反駁の気持ちを表す 相手をなじる気持ちを表す 誘い 依頼の気持ちを表す [会話] 1) そんな事 うそのカア やれ (だ) 嘘のカアのへりだめやれ 言うて、嘘のカアに しんにゅうかけて (更に強く言うて) へりだめ。あんまりよけ (余り多く) 嘘言う時に、そいな (そんな) 事つけんのお (付けるのです)。ものすごお、よお (大変よく) 嘘言うた時に 嘘のカアのへりだめやれ つてなあ (と言います)。ざまのカア 言うて ざまのカアやれ とか、ばちのカアや (罰だ) とか言うて。憎さも憎い言い方やなあ(です)。

かあ(蚊)【名詞】双翅目 カ科に属する昆虫 体長5～6mm位 体色黒褐色 褐色 体、翅、足ともに細い、雌は口吻を人や動物の皮膚につきさし 血を吸い、雄は植物の汁を吸う かの二拍化した語(志、鳥、伊、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、亀、一、久、松、多、上、阿、張、名、北、尾、南) [会話] ぶんぶん飛んで来るカア (蚊) 蚊になる迄の浮き沈み言うて、ぼおふり (ぼうふら) で わしら (私達) と一緒や(です)。うごいて (動いて)、動いて 動きすえて (動く・すえる盛んに行なう) ぼおふりは。そして カアになる迄の浮いたり沈んだり。おら (俺) は ぼおふりのしよお

やんか (性格です)、あや (あれは) あいなしに (間無し・休み無しに) こちこち 動いとるやんな (ているでしょう)。浮いたり沈んだりして そして 蚊になって 挙げ句の果てに しと (人) に 叩かれて、あげん (あんなに) 叩かんでも 血を分けた兄弟やよつて (だから) 言うて、生まれ代わりや (だ) 言うて、叩きすえて (叩いて叩いてする)。和具の古い言葉に 蚤のしんがつ (四月) 蚊の五月 言う。四月頃が 蚤がよけおるもんで (多く居るので) 蚤のしんがつ 蚊の五月 六月 蟬の泣き別れ (すべて大陰曆) 八月の別れ蚊 言うて 行く時に おめえ (お前) が行たた (行ってしまった) 後のつら (面) 見よ、言うてなあ さぶ (寒く) なって来るよつて (から) カアな (が) 言うて 食い逃げしといて (しておいて)。

蚤のしんがつ 蚊の五月 (西世古恒也氏 志摩の古謡より) 一月 門松 しめ飾り 二月 初午 厄おとし 三月 桜の花ざかり 蚤のしんがつ (四月) 蚊の五月 六月 蟬の鳴き別れ 七月 盆の十三日 八月 紅葉 (もみじ) で秋が来る 菊は九月の半ば頃 十月 山田の大祭り 十一月 十二月 皆さんの楽しいお正月 待つばかり。

かあ(かほ)【川、河】【名詞】川 次項参照(鳥、北)

かあ(かほ)【皮】【名詞】皮膚 肌 皮(志(布施田)、鳥、北) [会話] 川の事も カア 言うの (のです)。体の皮とか 魚の皮とか かわ言うのは みんな (皆) カア。

があ(蛾)【名詞】鱗翅目昆虫の内、蝶類を除いたもの形、大きさなど蝶によく似て居るが、普通体が太く、鱗片が密集し 羽が比較的狭く 一部のものを除き羽を広げたまま止まり、夜間に活動する。母音の二拍化した語(志(国府)、度)

があ(我)【名詞】自己 自分 [会話] ガア張つて かい しよものおておつてん (甲斐性も無くて居るのに) 言うて、ほん (本当に) ガア張つてまあ よおせんでも (出来なくても)、口だけ、ガアはつとんね (張っているのです) なんもはざんとおつて (全く出来ないのに)。意地んなつとる (になつている) ガアはあんななあ (張るのは) まあ、よおせんとおつて (出来ないのに) あれん (彼に) まけんよんせな (負けないようにしなければ) おもて (思つて) ガアはんのなあ (張るのです)。わがと (自分) そんだけ、かいしよな (それ

だけ甲斐性が無い思もとても (思っている) 人ん
(に) まけんのな (負けるのが) 嫌いな にげな (人
間が) ガアはってまあ 俺が俺が言うて。

かあいがる (可愛) 【他ラ五】 可愛がる

かあいげ (可愛) 【形容詞】 かわいげ いかにも愛らしい
と感じさせるさま 形容詞があいいの語幹に接尾語げ
のついたもの [会話] カアイゲな子やなあ (だ)、子
供らでも 子供らししとると (らしくしていると) か
わいらしけど (可愛らしいが) あんまり、おとなげみ
たよなこと (あまり大人のようなこと) 言うて ひね
とると (大人びていると) にくらしなあ言うのも 一
緒でなあ カアイゲな (が) ないのな (のです)。おぶ
こくさい (幼なじみている) しとると カアイゲなさ
すけど (がするが)。

かあいそおん (かあいさうに) 可哀想に

かあいそげ (可哀) 【形容詞】 可哀想な様子 哀れで人の
同情をさそうさま 気の毒なさま、不憫なさま。

かあいそげな 可哀想な [会話] 海い (へ) ほりこんど
いて (でにおいて)、突っ込んで カアイソゲなよおな
った (ようでした)。

かあいそげに。かあいそげん かわいそうに ん、は
にの訛 [会話] カアイソゲン言う、カアイソゲニ言うて
な、あの人な (が) ここい (此処へ) 迄くんのん (来る
のに) 足な (が) えらいのん (大変だのに) カアイソゲ
ン、車で うくってくれやええのん (送ってくればよ
いのに) 言うてな カアイソゲン、いたわる事やな (で
す)。

かあいらし (可愛) 【形容詞】 可愛らしい

かあおい 【名詞】 蚊を追うもの かくすべ参照

があおる (我折) 降参する 屈服する 我を折る

かあかあ 【名詞】 鴉 その鳴き声から幼児語 (志 (布施
田)、阿、張)

かあかぶり (かほかぶり) (皮被) 【名詞】 1) 虚勢を張
る人 2) 包茎 [会話] 1) カアカブリやなあ (だ)
言うて なんもはざんとおって (全く駄目なのに) え
らっそおな (偉そうな) 事 言うたりすると、カアカ
ブリやどお (だ) 言うて、カアカブリや (だ) なんも
はざんとおって 言うて。

かあく (乾) (渴) 【自カ五】 かわくの変化した語 1)
湿気や水分が蒸発して無くなる 乾燥する 2) 喉に
うるおいが無くなり水が飲みたくなる カワ (渴) き
て、飲を欲する義より (大言海) (鳥、北) [用例]
2) 喉な (が) カアク。水な 飲みたい。

かあくすべ 【名詞】 蚊やり火 かあふすべ (京都) かや

りに同じ 蚊やり 木の葉や草、みかんの皮などを燻
して蚊を追いやる事、又、そのための燻すもの 蚊や
り火 蚊いぶし 旧来、杉の葉の枯れた物を用いて、
煙を出して居た かくすべ参照 くすべる 煙が多く
でるようにいぶす くすぶらせる (志 (神明、志島、
国府)、阿、張、名) [会話] カアクスベ、よごめ (よ
もぎ・蓬) くすべたり、そこらの ごみくた (その処
の塵・芥) くすべたり、よごめを刈って 干しといて
(において) 蚊取線香の代わりに くすべた。蚊取り線
香も無いし キンチョールも無いし、よごめ刈って、
干して、煙で蚊を追いおったんなあ (追って居たので
す)。日暮になると それ、くすべて、そして。ばあや
ん (婆様) ら 蚊帳 入るよおんなると (入るようにな
ると) 笹箒で かっといて 蚊帳かぶんの (頭上迄
まくり上げる)。蚊入るとははざん (駄目だ) 言うて。

かあさん (母様) 【名詞】 1) 母、かかさんの変化した語
(志 (志島、畔名、片田、船越、布施田、御座、立神)、
鳥 (坂手、国崎、桑市、松、阿、張、度、伊、南、
熊) 2) 主婦 (志 (国府、布施田)) [会話] 1) あん
たげいたら (貴方の家行ったら) カアサンに こげん
言うてくれえ (こんなに言ってください)。

かあせん 買わない かわせん [会話] あれこおて
(買って) きたかてや (と言えば)、何もカアセン
われ (買いません)、かわんときたれ (買わずに来た) 言
うて。かわせんわれ言うてな、かわんと くるとな
カアセンわれ言うて かわらったれ (買わなかった)
とか。

があはる (我張) 自分の思うことを押し通す 自己主張
する 固執する (南)

かあぺえ 【名詞】 小さい魚 丸のまま食べて骨を吐き出
すところから ぺえは吐き出す事 [会話] ちっちゃ
あい、ぜん (小さい、銭) に ならせんの (ならない
のを) カアペエや (だ) 言うて、カアペエばっかやよ
お (ばかりだ) 言うてなあ。骨ばっか (ばかり) やも
んで (なので)、食べるとすぐとなあ (すぐに)、カ
ア、ペエ言うて、するもんで (ので)、カアペエや
(だ) 言うて。

かあむいたはなし (かわむいたはなし) 【名詞】 真相
本当の所 [会話] カア (皮) ムイタハナシや (だ) 言
うて。内緒しとんのを (しているのを) カアムイタハ
ナシで言おなら (言うなら) 言う事やなあ (です)。隠
さんと (隠さずに) ありあけ (全部) を話すのおを
(のを) 正直に話すのおを (のを) むいたはなし言う
ねわいなあ (言うのです)。

かあやん (母) 【名詞】 おかあさん 母 とおやん参照
(志 (越賀)、飯、松、多、度、北、尾) [会話] とおやん (父) カアヤン (母) じいやん (爺) ばあやん (婆) 言うて。おかあさん言うの (のが) 言いのくいもんで (言いにくいので) カアヤン 言うね (言うのです)。

かあら (かはら)。があら (瓦) 【名詞】 かわら 粘土を一定の形にし かまで 蒸し焼きにしたもの 主として屋根を葺くのに用いる (志 (立神、国府、安乗)、三、鈴市、一、松、多、度、伊、鳥、北、尾、南、熊) [会話] すみけし (炭消し・火消壺) 言うて カアラの壺の事 言わせんかい (言いませんか)。

かあらおき 【名詞】 瓦屋根を葺くこと [会話] あの家な(が) カアラオキしとんね (しているのだ) おらげも 行かんならんなあ (俺の家も行かぬばならない) とか、いてこんならんなあ (行て来なければならぬ) とか言うて。

かあらき 【名詞】 かわらけ、土器に同じ (尾) [会話] ほうろくは 素焼きやった (だった) カアラキも素焼きやったやんない (だったでしょう)。

かあらけ (土器) 【名詞】 1) 釉をかけない素焼きの陶器 素焼きの杯 (志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗、甲賀)、松、多、尾、鳥) 2) 女性が年頃になっても陰毛の無いことを言う俗語、又、その人 (志 (布施田、甲賀)、鳥 (答志)、多、北、尾) [会話] 1) カアラケ 盆に供えよったなあ (供えて居ました)。いましゃ (今は) 皆 れいくぜん (霊府膳・霊供膳) するけど、昔や (は) 素焼きの薄いのな (のが) カアラケや (です)。煎餅みたいのを (のようなのを)、うっすう (薄く) して カアラケや (だ) 言うて、2) そおすと どこやら (何処か) の、カアラケも有るし (有ります)。毛の生えとらせんの (ていないのを) カアラケ、ほおろくの事や (です)。あや (彼) ほおろくの子やどお (だ) 言うて、毛が無いと言うやんか (言います)。ほおろくも一つのカアラケ。素焼きで、カアラケと一緒の焼き方や (です)。あれの小っちゃいのやもん (小さいのです)、盆に供えおったのは (供えて居たのは)。今こそ れいく膳やけど (だけれど) 昔は、皆カアラケ 十位並べて 茶碗と皿としてしおった (して居ました)。今しは あいなもんしやせんけど (あんなものしないが)。そやけど (それだが・しかし) いましでも 結婚式で 三三九度の盃 おみき (お神酒) 頂くのんなあ (のに)。

かあらぶき (かはらぶき、かわらぶき) (瓦葺) 【名詞】

屋根を瓦で葺く事 又、その家 かわらぶき参照 [会話] 昔や (は) びんぼ (貧乏) な家や (は) カアラブキよおせんやんない (出来ないでしょう)。

かありがかり (かはりがかり) (交代) 【副詞】 交代に交代 代る代る (南) [会話] カアリガアリ 言うて かためん (交互に) することなあ (です)。あんなな (貴方が) 今日は したら あした (明日) わしな (私が) する言うな かためがわり 言うてなあ、かためかため 言う人もあるしなあ、かためがわり 言う人もあるし かためにしよおやんか (しましよ) 言うて。**かありばん (かはりばん、かわりばん)。かありばんこ (かはりばんこ) (代番) 【名詞】** 交代でする事。かわりばんに同じ。こは接尾語。

かある 代る 交替する 変る

かあるい (軽) 【形容詞】 1) 目方が少ない 軽い (志 (御座、布施田)、鈴市、多、度、伊、北) 2) たいした程度ではない 3) 馬鹿だ [用例] 3) あや (彼は) 頭な (が) カアルいねよって (のだから)。

かあるう 【形容詞】 軽く [会話] おもたいよってん (重いから) カアルウなるよん (ように) 干しとけ (ておけ) 言うて。ご飯でも 一膳もると (一杯よそうと) 多い時に はんぜんもって (半杯よそうて) 貰いたい 時に カアルウもってくれえ (よそって下さい) 言うて。

かあるうい 【形容詞】 かあるいと同じ。軽い。かあるいより更に軽い状態。[会話] カアルウイ 言うて、荷物な (が) ふわふわしとんの (しているのを) ふうみ たよな (麩のような) のを 持つと こや (これは) カアルウて ふうみたよななあ (麩のようだ) 言うやん かいな (言います) 軽い言うの (のを) カアルウて 言うてな、カアルウい われ (です) こや (これは) 一人 よお持たれ (よく持ちます) 言うて。カアルイ 言うのと カアルウイ 言うの なあごお (長く) 引ん張って まあ カアルウイ 言うな (は) ものすごい (大変) カアルイのなあ (のです)。

かい (痒) 【形容詞】 かゆい かき (掻) の転 痒い 痒い 皮膚がむずむずして 掻きたいような感じ (志 (浜島、志島)、桑市、三、四、鈴市、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、南) [会話] ひぜん 掻き とかき (とかげ) やまんなかで (山の中で) がしゃがしゃ 言うて、わしら (私) 小さい時分 (頃) ひぜんかきを かま いおった (からかって居た)。とかき 言うのは とかげの事。ひぜん カイカイ 三年 痛た痛た 三年 治って 三年 あと (後) 三年 十なん 年

かかんねて (かかるといふ) 治る迄、ひぜんかくと。

かい (蓋) 【接尾語】 傘の数え方 傘などを数えるときに用いる助数詞 おおうもの意 (張) [会話] 傘をいっかい にかい 言うて。

かい (粥) 【名詞】 水分を多くして米などを柔らかく煮た食べ物 かゆ (志、員、三、鈴郡、一、多、上、阿、張、名、度、熊) [会話] かゆやけど (だけれど) カイ言うなあ (言います)。おかゆ言うけど (けれども)。カイや (だ) オカイや (です)。オカイすずって言うしな (言います)。

…**かい** 【接尾語】 【終助詞】 疑問の言葉 否定的言語 肯定等 各種に使用 かもイも終助詞 …か …かれ参照 あるカイ おろカイ 否定 見たカイ 聞きたいカイ 疑問 来たカイ 行たカイ 肯定 疑問 前後の文章で異なる 行かんカイ 強く相手を促す語 (志 (布施田)、鳥、桑郡、桑市、三、鈴市、安、津、一、上、阿、張、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] すんのカイ (するのですか) とか、後にカイ 付けんのな (付けるのです)。おんのカイ (居ますか) 行って来たカイ (行って来ましたか) 言うのも、皆 付けおったな (付けて居ました)。他所は 行てきたのかな 言うて。後へ な付けるし、此処らは 皆 かやなあ (です)。あるカイ おろカイ言うのは 有りません おりません言う事やなあ。そおすると 見たカイ 聞いたカイ言うのは 相手に尋ねる時、来たカイとか おったカイと言う様な 尋ねる時は おったカイ言うし、おると (居ると) おったか言うて。おらせんと おろかれなあ (居ません) 言うて どこや (どこかに) 行つて おらせんわれ (居ません)。

がい (害) 【名詞】 障害。邪魔。(張) [用例] おらな (俺の) 仕事、ガイすんな (するな)。

がい。がいな (概、程) 【名詞】 【形容詞】 大変 大層 1) 程度の甚だしいさま 沢山のさま 大きいさま ひどく (志 (布施田)、鳥 (鳥羽、答志)、三、鈴市、安、久、松、北、南) 2) 乱暴なさま 手荒いさま 無理にするさま (北) [会話] 1) ガイに うまない (まずい) とか、ガイに忙して (忙しくて) 何んも出来んでなあ (何も出来なくて) とか 忙しとか言う時に使うなあ (使います)。ガイナ言うのは ガイナこた 無いやんか (事ありません) 言うて あんまり (余り) 漁が出来なかったとか 鳥の物が獲れんとか 言う時な (が) ガイナこた (事は) 無かったなあ言うなあ (言います)。大漁したかてや (と、尋ねると) ガイ

ナこた 無かったよお言うて 漁師なあ (が) たいしたこた 無かった。たいした事言うのを ガイに言う事やなあ (です)。

かいあさる (かひあさる) (買漁) 【他ラ五】 あちらこちらと探して買う。すべて買う。[用例] あつちやこつちやで (あちらこちらで) カイアサツテ 皆 こおて (買って)。

かいいい 痒い

かいいて 痒くて [会話] いび (指) の 股な カイイテ言うて。

かいいん (かひいぬ) (飼犬) 【名詞】 飼犬

かいおき (かひおき) (買置) 【名詞】 買って置いて有る物。万一に備えて買って置くもの。[用例] カイオキも しとかなはざんわい (しておかなければ駄目です)。

かいおけ 【名詞】 お替り 替わりを出すこと かえおけ (替桶) [会話] カイオケ 言うのな (のです) 磯い (海女に) 行くと めえかづいてなあ (若布採つて)、一杯ん (に) なつてくると ひくのん (桶を引くのに) えらいもんで (大変なので) とまえなとこい行て (船頭の所に行つて) あげてくれえ (上げて下さい) 言うて 舟い (へ) あげてもらうの (乗せてもらうのです)。今日はまあ 大漁で カイオケした言うて 一杯ん (の) のを まあ かあるう かえんのなあ (軽く代えるのを) それ カイオケ言うの (のです)。御飯のおかわりでも カイオケ言うやんかな (言います) もつてくれえ (よそつて下さい) 言うの (のを) カイオケしたよお (しました) 言うて。二杯目も三杯目も食う時 今日 ごつおな、うまいもんで (御馳走が美味しいので) カエオケしたよお言うて。つねや (普段は) いちぜん (一杯) より 食わんでも (食べなくても)、ごつお して 美味いとさいご (その時) カエオケしよおや (しましよ) 言う時もあるし、おかわり言う人も有るしなあ。そやけど (しかし) 昔 もつてえ (よそつて下さい) 言うて くたてすると (食べてしまうと) お代りする時なあ (に) もつてえ言うて 言よおった (言っていました)。

かいおけ 【名詞】 鯉漁に出て各人が餌を入れて持つ桶。洗面にも使用する。飼桶。かゝり桶からか。

かゝかゝい (痒痒) 【名詞】 慢性湿疹 介癬 かゆいかゆいの变化した かゝいかゝいの変化した語 [会話] びぜん カイカイ、カイカイ三年 言うもあるし。

かゝがし (かひがひし) 【形容詞】 甲斐甲斐しい かゝいが いしい 動作がきびきびして手際がよい てきぱきして居る 仕事をする動作に真心がこもつて居る けな

げである それをただけの**かい**がある しっかりして頼もしい 頼りになる きちんとして居る **かい** 甲斐 その行為に値するだけの印、又それだけの値打ちや効果 [会話] **カイガシ**言うのは 子供らでも ませとる (年令以上の事をする)、ませて なんでも よお (よく) 仕事すんのと (するのと)、しゃっきり ちやっかりしとんのを (しているのを) **カイガシ**な。子供でも 早よ (早く) ほおて来ると (這って来ると) こや どいらい (大変) **カイガシ**なあ言うて。早よ歩いたり もの (言葉) も、早よ 言うたりすると **カイガシ**なあ こやまあ (此は)。

かいがらぼし。かいがらぼね (貝殻骨) 【名詞】肩甲骨

かいがる 【他ラ五】 1) 可愛がる かわいいと思う気持ち態度に示す 2) やさしく大事に扱う [会話] 1) かわいいがる言うのも あんまり カイガリ過ぎやれ (だ) 言うてな。

かいがる 【自ラ五】痒い感じを様子に表す 痒ゆがる [会話] かあな (蚊に) 食いつかれて カイガッテ (痒がって) 言うて、あんまりよけ (あまり沢山) 搔くなよお言うたてて (言っても) カイガルもん (痒いもの) 言うて 搔きむしって つめおぼえこさえてな あ (爪傷作つて)。

かいき (かひき) (甲斐絹) (海気) 【名詞】絹織物 近世初期頃に渡来した中国産の絹布、甲斐の国、郡内地方で産するようになったので郡内海気とも、染色した練絹糸で緻密に織った手織りの絹布で、無地、縞、玉虫等有り、平滑でつやが有る。[会話] 垢で めえせん (銘仙)、しらめ (虱) で カイキ言よおったわい (言っていました) **カイキ** 言うて 羽織の裏い (に) つけんのなあ (着けるのです)。絹で きいきい 言うて 着るとなんのなあ (鳴るのです)。

かいき (くわいき) (快気) 【名詞】病気の治る事 快方に向かう事 全快

かいき (咳気) 【名詞】咳、咳の出る病気 此のわたりの人、風邪引きたるを**ガイキ**といへりき。宣長がわかかりしほどまではなべていへりし言なるを、今はさいふことをさおき聞かず。これもふるきこと也。中昔五六百年さきの記録などに風病おほく咳気としるせり (玉かつま)。(志、南)

かいきいわい (くあいきいはひ) (快気祝) 【名詞】全快祝 病気が全快したのを祝うこと [会話] 病気が治った時に カイキイワイ 全快ゆわい (祝い) 言うのを。

かいきり (かひきり) (買切) 【名詞】 1) 全部買い占める事 2) 車、船などを約束して雇い、他人を乗せな

い事

かいきる (かひきる) (買切) 【他ラ五】 沢山有る品物を全部買う [会話] パス カイキッテ行た (行つた) とか、蜜柑 売りんきて (売りに来て) ふごんいっばい いこのて (ふごに一杯担つて) 来た、ぼおぬきん (棒抜きに天秤棒を除いて) **カイキル** 言うて。昔 ふご でにのて せだ (布施田) の人らや (人達とか)、立神から 売りん来よおったわい (売りに来て居ました) 蜜柑を。そすとまあ ぼおぬきや (だ) 言うて、皆 いっかごちなあ (一荷全部) まあ しきったるわ (全部買ってやる) 言うて 皆 買うと ぼおぬきまあ こおた (買った) 言うてなあ。

かいぐい (かひぐひ) (買食) 【名詞】 1) 決まった食事以外に、好む食べ物を買って食べること 2) 子供達が駄菓子などを買ってすぐ食べること みちぐい (上、阿、伊) [会話] 1) カイグイ言うて なんやかや あまいもんな (甘い物が) 好きで 餅 こおて、くうたり (買って食べたり) かしん こおて、くうたり 蜜柑 くうたりしとると おた あのにげや (人間は) ど じもんくさで (怠け者で) **カイグイ**シで言うて なん もせんとおつて (なにもせず居て) **カイグイ** ばっか (ばかり) して 食うて 言うて。今しみたよん (今のよう)に こげん、めずらしもんな (こんなに珍しい物が) 豊富やないやろ (でないでしょう)、そやもんで (それで) あまいもんな 好きなもんなあ (者は) く いと おて、こおて (食べたくて買って) 食よおったん やろ (食べて居たのでしょう)、**カイグイ**する人間な (が) あよおったわい (有りました)。そすと、あやま あ (すると彼は) 仕事も なんもせんと ど じもんく さの **カイグイ**シで言うて 言よおったなあ (言っていました) **カイグイ**シや (だ) 言うて。

かいぐいし (かひぐひし) 【名詞】 買い喰いをする人。間食をよくする人。[会話] **カイグイ**シ言うのは よく、**カイグイ**する そいな お菓子やとかなあ 蜜柑やとか言うて そげん (そんな)に 買喰いするにげや (人間は) 子供や病人以外 んな かつたわい (以外に有りませんでした) そやもんで、そいな こと (それでそんなこと) するにげや (人間は) また 特別な もんや (者です) あそんで おつて、よお (遊んで居てよく) **カイグイ**する人な (が) あよおったわい (有りました)。あの人まあ ど じもんく さ (怠け者) で **カイグイ**シで言うて よお 言よお つた (よく言っていました)。三度三度の食事以外に食べる あ い ぐ い や な あ (です)。食事は、まあ、むろん 朝 く わ な は ざん (食べなければ

いけない) 昼あ(は) くわなはざんし 夕飯くわなはざん そのあいに(間に) こおて(買って) 食うのを あいぐいしや(だ) 言うしなあ(言います) あいぐいし カイグイシ言うてなあ。

かいぐすり(かひぐすり)【買薬】【名詞】 医師の処方によらないで 薬局から買った薬

かいぐそ(かひぐそ)【名詞】 真珠貝を掃除する時に出る汚物

かいぐらい【名詞】 かいぐいに同じ

かいぐらいし【名詞】 かいぐいしに同じ

かいぐらみ(掻暗)【名詞】 夕方、日暮、かひは撥頭語くらみは暗くなる意のくらむ(暗)の連用形の名詞化 かいぐらみどき かいぐらみもと かいぐらもと と同じ。

かいぐらみどき。かいぐらもと。かいぐらみもと(掻暗時)【名詞】 日暮時 たそがれ時 夕方。[会話] 夕方の ひのくれ(日の暮れ・日暮) ちろちろ(薄明かり) 日な(が) 暮れる、日没やわなあ(です) カイクラミドキは。

かいぐりかいぐりととのめ【俚諺】 子供の遊び 目の周囲を指で撫でながら言う

かいぐれ(掻暮)【副詞】 打消の語を伴って 全く 一向 全然 さっぱり(志(布施田)、鳥、上、阿) [会話] いきぐれカイクレ いたやきやせん(行ったら来ない) 言う事を 行きぐれカイクレ 姿見せやせん(見せない)。

かいぐれ【名詞】 魚名 ころだい、イサキ科の海魚 全長50cmに達する。体はタイ型、体色は成魚では青色の地に黄褐色の斑点が有る。幼魚では灰青色の地に四~六條の灰黒色の縦縞が有る。こしよおだい、イサキ科の海魚 全長60cmに達する。体はタイ型灰褐色の地に背部から二、三條の幅広い灰紫色の斜走帯が見られ体側の上半部と背鰭、尾鰭に多くの黒褐色の斑点が散在する。(度) [会話] 魚のなあ(名) カイグレの目みたいな(目のようだ) 言うて、目な(が) 汚れとると(汚れて居ると) 何やら(何か) 飛び出して濁ったよおに くすんだよおに しとんのやろな(して居るのでしょうか)。よお(よく) カイグレの目みたいな な あ 言うて、目な(が) なつとかしとると(なんとかしている) よお 言うてや(よく言います)。

かいぐれのおば【名詞】 ころだい かいぐれ 参照

かいけ【名詞】 甲斐絹 かいきに同じ [会話] カイケ 言うて、羽織の 裏ん(に) する 生地な(が) 有りお って(有って) きさくと(裂くと) きいきい 言う音な

(が) しよおったもんで(して居たので)、へえ(屁) ひつても きいきいひいひい 言うと カイケ きさく 様な へえやなあ(屁だ) 言うて。

かいけえ(くあいけい)【会計】【名詞】 1) 金銭の出入りを取り扱って管理する事 又、その係りの人 かいけいの訛 2) 給料 勘定 [会話] ① 金の出入りをつけたり(記入したり) 出したりする人をなあ カイケエや(だ) 言うて。昔 あの人な(が) ぎんしもと(会計人) と言うて、金なぶる 人をなあ あの人な(が) ぎんしもとで、何んもかも(すべて) 皆 しとんね(しているのだ) 言うて、よお 言よお たけど(よく言っていました)。

かいご【名詞】 葬式の程度(志(布施田)) [会話] 佛事はええし(よいし)、カイゴはわりし(悪るいし)、ふつうは、皆と一緒のお(のを) するのは ナミカイゴ 言うて。

かいこまれる かいこむ 参照 1) 汲みこまれる 2) 抱えこまれる

かいこむ(掻込)【他マ五】 1) 水などを汲み入れる かきこむ(掻込) の変化した語 2) 内側に入れる かかえ込む [会話] ① 海い(へ) ビン、底つけたまま放ると そんで(それで) カイコマレンノオデ(汲みこまれるので) ビールビン 放ったや(たら) そんで(それで) カイコマレテ水船ん(に) なって。

かいごめ【名詞】 かごめ [会話] かごめを カイゴメ 言う(言います)。かごめ鳥言うのを カイゴメや 言う。

かいごめこえ【名詞】 甘え声 猫なで声 [会話] カイゴメゴエ 言うな(のは)、ちよいと(少し) 普通の人より 違よお な 声の人な(が) 有るやんかい(有ります)。あばえた(甘えた) よお な 声 すると、あや(あれ) カイゴメ こえ 出して 言うて。カイゴメ な(が) 鳴くよお な 声 で、あばえた よお な なん やら、みよお な(なにか変な) 声 出す人 な(が) 有るわい(有ります)、かごめを カイゴメ 言う。

かいごろし(かひごろし)【飼い殺し】【名詞】 1) その人の能力を発揮出来る様な仕事を与えず ずっと雇っておく事 2) 一生養って食わせて行く人 [会話] ② まあ あの人は 小母さん(嫁に行かなくて) で 本家で カイゴロシ やれ(だ) 言うやんかい(言います)。

かいさ(くあいしゃ)【名詞】 会社 [会話] 会社 おらげの(私家の) 会社 言うて、かいしゃも よお 言わんと(言えなくて)、カイサ 年寄り は じい(字)を 知らんと(知らずに) 言うもんで(ので) わが とな(自分の) 口の調子で 発音 な(が) ちごとく んね

あ (違がって来るのです) カイサや (です)。

かいさらさん 買わないの卑語

かいさらして 買っての卑語 [用例] いなんもん (不要の物) カイサラシテ ぜん (銭) も のおておて (無いのに)。

かいさらす 買うの卑語

かいじ (海事) 【名詞】 海の上の仕事、真珠養殖の作業の内、核入れ作業を除くその他の仕事。核入れ前後の真珠貝の管理 [会話] カイジ 真珠する たまいれ (珠入れ) するもん (者) は たまいれ で、その たまいれ の下働き すんの (するのを) 貝揚げて来たり そして 入れたのおを (のを) ま いけん (活けに) 行たり 貝掃除したり すんのを (するのを) カイジ言うの (のです) 珠を入れる人だけ、たまいれ そしてその下働き すんのを (するのを) カイジ。

かいしき (播敷) 【名詞】 木を薄く削った物 品物を包んだり 煮物をする時の下敷きに使用する (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、津、上、阿、張、名) [会話] カイシキ言うのは 木で削るけど (けれど) 今しや (今は) ナイロンやな (です)。昔は、木の削ったのを あや (あは) ええ けど (よいが)。ナイロンの (のは) 魚、煮付ける時、敷くとまあ 鍋へひつついて (ひつついていって) はざん (いけない)。木で削って、竹の皮 みたい に (のように) うっすう (薄く) して あんの (有るのです)。昔 なあ (は) かしん屋 (菓子屋) 皆、使 おったし (使って居ました)。ご馳走になると さいご (その時) カイシキ切って てびきい (大皿に) 魚 もの (盛り付ける) 飾りにして シュシュシュと ほっそお (細く) 切って まんなか切っ といて (ておいて) すると シュと腕 (枝) が 出ん (出るので)。鮪、盛ったり 魚、盛ったり すんの (するもの) 飾りに しおった (して居ました)。 そやもんで (だから) ごっつおごと な っ (御馳走事なると) カイシキが 要 おった なあ (要りました)。一束買おても (買っても) 皆、使 きたて (使ってしまった)。 今し はナイロンの、竹の皮の模様 した の (のを) するわい (します)。木の のお は (物は) よけしやせん なあ (多く使いません)。そすと 盆 (お盆) になって 仏さん へ ころころ 団子、供え っ (供えると) 必ず あれ が要って。

かいじゃくし (かひじゃくし) (貝杓子) 【名詞】 板屋貝帆立貝などの殻に竹や木の柄をつけたもの 汁物をすくうのに用いる (志 (布施田)) [会話] カイジャクシ 言う なあ (のは)、しるじゃくし言うのを、真珠貝

かづきん (採取に) 行くと しんじゅ 取りもて (真珠貝採りながら) しるじゃくしは 泥の上 に すわ っとて (据わっていて)。そすと その つんでん (ついでに) ひとつ つ 捨て 来て (一つづつ拾って来て) 家でおかずん (に) するやん ない (するでしょう)。そすと その むいた た (剥いてしまった) 貝を なあ ふた あと こ (二ヶ所) 穴あけて ええ (柄) を 竹で じつば ん (立派に) 削って な 付けて カイジャクシ や (貝杓子だ) 言うて。おたまじゃく しや なあ (は) 木で なあ しよ おった やん ない (して居たでしょう) カイジャクシ 言うて しるじゃく しい (に) ええ つけ ん ねて や (柄付けるのです) そすと 丁度 ええ (よい) 杓子 ん (に) なん ね (なるのです)。

かいじゃくしがい (かひじゃくしがひ) 【名詞】 板屋貝イタヤガイ科の二枚貝。浅海の細砂底に住む。形は片面は平で一方は深く湾曲する。殻長約12cm、幅が広くて低い放線筋が8~12條あり板葺き屋根の棧に似て居るのでこの名が有る。貝柱は美味、殻は杓子などに使われる。

かいしよ (かひしよ) (甲斐性) 【名詞】 かいがいしい性格 しっかり頼りになる性質 満足の行く生活を営んでいく力 そうしようとする気力 生活能力 よく働く事。かいしよもん参照 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鈴市、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、鳥、北、尾)

かいしよなし (かひしよなし) (甲斐性無) 【名詞】 1) 意気地の無い事 頼りにならない事 又、その人 (志 (片田、布施田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、上、阿、張、名、度、鳥、北、尾) 2) 貧乏人 (鳥) 3) 怠け者 (鳥) [会話] 1) カイシヨナシ 言う と なん も よ おせん (何も出来ない) て ず ち の てん ぼお (愚鈍な人) おろおろ や (です)。カイシヨナシ とか 金 も よ お儲 けん の おも (金儲けも出来ない)、しん じよ (会計・身上) よお 持 たんの を カイシヨナシ 言う し (言います)。仕事 よ おせん の も (出来ないのも) カイシヨナシ 言う。

かいしよもん (かひしやうもの) (甲斐性者) 【名詞】 甲斐性の有る者 気の効いた人 やり手 (志 (布施田、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥、阿、張、名) [会話] カイシヨモン (者) 言うのは、カイシヨの有る言う事 や わい (です)。 あ や (彼は) カイシヨモン や なあ (だ) 言うて。金儲けて 一生懸命なる。何でも よ おして (よくして) よ お (よく) 金も稼 せ んで す ると あ や (彼は) カイシヨ な (が) 有って

商売のこた (事は) えろおて (偉くて) 言うて。そすと カイシヨ言うたら よお 働くとか 金儲け上手な (だ) とか カイシヨの有る言うやんか (言うのです)。あや (彼は) カイシヨな (が) 有るんやよつて (有るのだから) しんしよ (身上) も ふやして (増加させる) 言うて よお言う (よく言います)。

かいす (かえす かへす) (返、反、帰) **【他サ五】** 1) 嘔吐する 2) 裏表を逆にする 上下を逆にする 3) 元の所にもどす 帰す 返す (上、阿、伊) [会話] 3) ま それを かやさなはざんわれ (駄目だ) 言うて、かつてきとんの (借りて来ているのを) かやさなはざんわれとか、そや、こおてきて (それは買って来て) かやさなはざんわれとか言うて。物を 戻す のおを (のを) カイス (返す) 言うの (のです)。戻す言うな (のは) それまあ かつてきとんの もどさな はざん 言うて 言う人もあるし、かやさなはざんわれ言う人もあるしなあ。戻しん (に) 行け言うて 昔まあ そんな (それが) おもやなあ (主です) 戻しん (に) いかな (行かなければ) はざんわれ 言うて。

かいす (かえす かへす) (孵) **【他サ五】** 孵化させる 卵を雛や子にする かえす [会話] 卵が かえるな あ (孵化する) あ の ひよこな まあこや 一月たつたよつて (経ったから) ひよこな (が) かえるどお (ぞ) 言うてな 割れることをなあ カイス言う。

かいず **【名詞】** 黒鯛の子 泉州、貝津のあたりでよく捕れるのでこの名がある (大言海) (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗、甲賀)、鳥、桑市、度、伊、尾、南)

がいする (害) **【他サ変】** 妨害する 邪魔する [会話] ガイスル。おらな (俺の) ガイ シテクレンナヨオ (してくれるな) 言うて、仕事 しとんのん (しているのに) 邪魔しん (しに) 来るとなあ、おらな ガイ スナナヨオ とか、邪魔すんなよお (するな) 言うてな。

かいそおじ (貝掃除) **【名詞】** 真珠貝に付く貝、藻などを取り除き 綺麗にする事 [会話] 婆らばつかな (ばかりが) カイソオジに行くんやんかい (行くのです)。真珠貝を のりな (海藻が) 付いたり ぜんぼなついとんのを (藤壺が付いているのを) 鉈でみな こつくんやんかい。こつておとすの (突つて落とすのを) カイソオジ。

かいぞろ **【名詞】** おはじき、子供の遊びの一つ、日本では昔小石を弾きあって遊んだが後に、キサゴ (細螺) と言う貝を使って遊んだ。遊び方は、地面にばらまいたおはじきを きめられた順序と方式で 弾き当て自

分の物として その数を比べる方法が多く遊ばれて居る。和具では海岸に遊びに適した小さな貝の殻が多く打ち上げられて居たのでこの貝殻を拾い集めて使用した。ニシキウズガイ科の巻き貝。(志 (布施田)) [会話] 波になつと (大波になると) 波打ちぎわへ カイゾロ拾て 言うて、朝起き (早起き) して 人がふんだらんうちに (踏まない間に) はよ (早く) 拾いに行きかな (行かなければ) 言うて、浜へ 拾いに行きおつた (行って居ました)。朝、早よ出やな (出なければ) 踏んだつと (でしまうと) 埋め込んだるもので (埋め込んでしまうので) 朝起きして 拾いに行きおつた。一升三銭やてやら (だとか) 五銭やてやら言うて カイゾロを 一升拾て山盛りしても 三銭やとか 五銭やとか なぶりがいやわな (黴買です)、子供やよつて (だから)。堀 (字名) の〇〇〇げ (家) 売りに 行きおつたもん (行って居たのです)。そすと、あや (彼は、〇〇〇は) 鳥羽へ もてて (持って行って) 売りおつたんやんか (売って居たのです)。子供らな (が) 拾て来るのを 黴買みたい (のように)、ねまかんじよお (寝間勘定) で 大体に買おて わがとら (自分達) 鳥羽へ持てて それ 貝細工して あきないして あの人、よけ (沢山) 儲けおつたんやろな (居たのでしよう)。これは女の子が遊んだ (で居た)。拾て来て カイゾロや (だ) 言うて しおつたけど (して居ましたが)、よけ (沢山) 拾うと 売りに行くんやんか (行くのです)。そおすつと わがとらな (自分達が) 使うのは ちよいちよいつ (少しずつ) 拾て来たのを 巾着入れて、カイゾロしよおか (しましようか) 言うと、それ出して やうちな (一同が) 出しよしてしおつた (出し合ってして居ました)。

がいだ **【名詞】** 鱧節 干物等に付く虫 かつおぶしむし。カツオブシムシ科の甲虫の総稱。体長数mmから大きくて約1cm、円形ないし長楕円形で鱗片または、細毛で覆われる。多くは黒味を帯びる。鱧節につくのはトビカツオブシムシ。(志 (甲賀、国府、安乗)、南) [会話] ガイダな (が) わいて (付いて) 言うて、かつぶし (鱧節) やとか、魚の干したのへ くうろい (黒い) 虫で 気持ちの悪いよおな虫が、わいてくんのなあ (出てくるのです)。あれが ガイダボシや (だ) 言うて。わるう (子供を叱る) よおになると ガイダボシや (法師だ) 言うて よお、わるうやんか (よく叱ります)。

かいだし **【名詞】** 流れをせき止め、或いは干潮時 岩礁に 生じた水溜りの水を汲み出し 内の小魚を取る子

供の遊び

かいだす【他サ五】 かえ出す。汲み出す。カキダスの音便（広辞苑）カエダスの音便（日本語大辞典）（張）

かいたて（かひたて）（買立）【名詞】 買って間もない事又、その物【会話】 道具 こおて（買って）来ててもこやなあ カイタテやのんなあ しもたんなよお（だのに壊すな）そや（それ）言うて。こおて 来て直ぐのことを、あたらし（新しい）のおを、そや しもたんなよお こおてきてすぐやどお（買って来て直ぐだぞう）言うてな カイタテ 言うのを。

かいたてとる かきたてて居る 火の勢いを強くして居る ランプなどの芯を多く出して居る【会話】 よさり（夜）よなべして よさごとつ（毎晩）そすと よけ（多く）カイタテトルやんか（ではないか）。油な（が）よけいんのん（沢山要るのに）。明るうすると カイタテトル言うやんか（言うのです）。

がいたばし【名詞】 がいだに同じ

かいたもん【名詞】 証文（上、阿）【会話】 お金でも借るとまあ 一筆カイタモン 貰るとかな（貰って置かなければ）言うてな、貸した人、かりかたに（借りた人に）、カイタモン 一筆貰るとこかいの（貰っておきましようか）こんだけ（これだけ）あんたん かした よってん（貴方に借したから）とか、物 貸したり やったりした時なあ（です）その 証拠の品やなあ（です）、カイタモン言うな（のは）。証拠 貰るとかな 言う訳やわいな（です）、証文言うことや（です）。何んでも 物を借したり やったり（与えたり）した時 証文ととつかな（取っておかなければ）言うて、それな（が）なけな言われやせんね（無ければ言えないのです）、おら、そいなこと（俺はそんな事）知らん言や（言へば）そんでしまいやよってんなあ（それで終りだから）くちじよおもん（口証文）では はざん われ（駄目だ）言うて。くちじよおもん言う時は、口約束 口で そや（それ）借した ああ かった 言うて 言うだけでは はざん。

かいたもん 書きました 掻きました

かいだり（かひだり）（腕弛）【形容詞】 1) かいだるい 腕緩 かいなだるいの転 疲れてものをする元気もない。だりはたるい、たるしの意でタルル（垂）の意がタルル（弛）に通ずる（大言海）（志（布施田、船越、畔名、志島、国府、御座、浜島、鶴方、神明、立神、安乗）、鳥（坂手）、鈴市、安、松、上、阿、張、名、度、伊、尾、南、熊）2) 面倒くさい【会話】 1) カイダリ言うのは 疲れた事なあ（です）。おおたまあ

（ああ）今日は 仕事でくたばった（疲れた）事を。くたばって カイダリなあ（です）。カイダリて カイダリて まあ くたばったなあ。

かいだりなる（かひだりなる） 疲れる

かいたる 1) 書いてやる 2) 掻いてやる

かいだるい（かひだるい）（腕弛）【形容詞】 かいだりに同じ 疲れた（志（神明、志島、甲賀、国府、安乗）、鳥、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、南）

かいちゅうでんき（くあいちゅうでんき）（懐中電気）

【名詞】 懐中電灯 懐中電池 携帯に便利のように作られた小型の電灯【会話】 カイチュウデンキ言うな（のは）、ぼお（棒）で しとんのも（しているのも）あるしなあ。何んやら まるくたいのおを（丸いのを）びゅっと 出してきよおったやんかいなあ（出してきました、出して来て居たでしょう）あいなのおを 懐いれやあるくもんで（入れているので）カイチュウデンキ言うんかいな（言うのでしょうか）。

かいちよお（かいちやう）（開帳）【名詞】 隠しているものを衆人の目にさらす事 特に女陰を人に見せる事（上、阿）【会話】 天理教やとか かみさん（神様）え 信心すんのを（するのを）偉い人に カイチョオ してもるて（貰って）言うて、祈祷して貰うことを言うんやろな（言うのでしょうか）。女子の人な 前広げる ゴカイチョオで、かんのさん（観音様）を現らわして言うてな よお言うな（よく言います）。若い男らな（が）観音さんえ 参いしたら御利益な（が）あったよお言うて。

かいつけ（かひつけ）（買付）【名詞】 ふだんよく買って慣れて居る事【会話】 じよおく（いつも）〇〇屋で何んでも 物、買うもんで（ので）、あの家な（が）カイツケやよって（だから）あの家で こおてこんかれ（買って来なさい）言うて、じよおく 買う家を カイツケや（だ）言うて。その店屋も カイツケやし（です）、買おとる（買って居る）人も カイツケや（です）。おやま（女郎）かいん行ても（買いに行っても）こおた（買った）おやまばっか（女郎ばかり）買うと あや おんな（あれは俺の）カイツケや（だ）言うて。

かいつけ（飼付）【名詞】 魚など一定の場所にまき餌をして集めておく事 又、人に普段から便利を与へいざと言う時に 役立ってもらう事 又、その人。飼慣らし【会話】 カイツケ。餌をカイツケて言うて、人な来ると その人に 酒飲ましてすると カイツケて言う

て、なんかして貰らお思て(貰らおうと思つて) 毎晩酒、買おて持てて(持って行つて) あや(あれ) カイツケて言うて。人に上手に言うのと、そして 物やったりすんのもなあ(与えたりするの) それも カイツケて、言葉で上手言うて カイツケル人もあるし、品物やつて カイツケル人もあるしなあ。これは 人だけやなしに(でなくて) 魚も餌やつて 鳥でも餌まゝといて(撒いていて) カイツケて、そやもんで(それで) その家の そこい(其処) 行くと めつたん(絶対) 人な(が) おおもいかせん(追つても行きません) カイツケてあるもんで(ので) 言うてな。鳥でも 動物でもな なんでも 餌やつて(与えて) すると ひとなつこお(人になれて) なつて にげやせん(逃げません)。

がいつけない【形容詞】 大変な[会話] がいなもんや(大変な者だ)、ガイツケナイもんやなあ(だ) 言うたり、ガイツケナイ にげやなあ(人間だ)とか、人でも あんまり(あまり)がめついい人、あや ガイツケナイねよつて(のだから)とか、ガイツケナイ 大変な言うこと。

がいつけないもん【名詞】 大変なもの(物、者) がいなもん参照

かいつて 1) 帰つて(伊) 2) 倒れて [用例] 1) 用事な(が) 済んだら カイツケくれ

かいつて 1) 帰つて来た 2) 倒れて来た

かいつて 逆に(三、鈴市、鈴郡、安、伊) [用例] こんだけ持て来たばかん(此れ程、持て来たばかりに) カイツケ、迷惑かけてのお(掛けました)。

かいつてきた 1) 帰つて来た 2) 倒れて来た

かいつてきて 帰つて来て [会話] しょおろさん(先祖様)を 水向けん(に) いて、むこて(行つて迎えて) 来て、わがうち(我家)の ほとくさんえ(仏壇に) しょおろさんな(が) 入ったわけや(です)。寺の水向けすると、わがうちい、カイツケキテ、するとおちつきや言うて、水、供なえて、こんだ(今度は) さきげ飯と、もみ菜として、十三日ん(に) 供えんの(のを) おちつきや(と) 言うのな(のです)。

かいつてきて 倒れてきて

かいつてく 1) かえつていく 帰る 2) 倒れる かい[会話] 2) つっぱりこおとけ(支持棒しておけ) 言うて。カイツケ こけてく(こけていく) かたんで(傾いて) 来たり こけてきそおんしとと(こけていきそうにして居ると) つっぱり(支持棒) こおとけ言うて。

かいつてくる 倒れて来る [会話] カイツケルと 危ないよつて(から) そつちやえ(そちらえ) 横にしとけ(しておけ) 言うのを、かいらかしとけ(倒しておけ) 言うの(のです)。横ん(に) ねやしとけ(寝させておけ・倒しておけ) 言うのを かいらかせ(倒せ)。

かいつてくる 帰つてくる

かいつてけ 1) 帰つて行け 2) 倒れて行け [会話] 1) まあ(もう) ひいな(日が) 暮れたよつて(から)、行けまあ(行きなさい) 言うて、カイツケ言うのをいけまあ。

かいつてた 1) 倒れてしまった 2) 帰つていった

かいつててくれ 帰つて下さい [会話] 今日 こんで(これで) 済んだよつて(から) カイツケテくれ。

かいて(かひて)【買手】【名詞】 買う人。買う方の人、売手に対して

…かいて と見えて。かと思えて。

かいと(垣内)【名詞】 家の周りの開いて居る場所。カキウチ(垣内)の約転。カキツの音便転(大言海)(志(布施田)、伊賀地方) [会話] カイト言うのは 家の離れの前の あしこら(あの辺)を カイト。角の入りつて来た ぬくたい ええとこ(暖かいよい所)を カイトい(に) 行て(行つて) ぬくとまつてこい(暖たまつて来い) 言うて、家のあいとるとこな(空いている所) であると。

かいと【名詞】 和舟で八丁櫓の時 一番前に漕ぐ櫓 [会話] 表い(前に) カイト 二丁して、あいども まどどに とものに 八丁で 漕ぎおつたね(漕いで居たのです)。

かいとお【名詞】 海女が使う鮑起こしのへら

かいとおすじ(かいどうすじ)【街道筋】【名詞】 他の土地に通ずる大きな道に沿つた所、又その道も言う。かいどうすじ [会話] カイトオスジ 和具でや(では) カイトオスジや(は) 江田の方とか 越賀のたこか(地名)の あしこな(あすこが) カイトオスジであれから入つて くんねなあ(くるのだなあ) 言うて よお言うやんかい(よく言います) 入つて来るとこや(所とか) じよおく(いつも) 人な(が) とおりよいとこ(通りやすい所)を カイトオスジやなあ(だ) 言うて。人が よおけ(沢山) 出入りしとるとこ(している所)を カイトオスジ。あしか(あすこは) カイトオスジで 人通りな(が) たえやせんやんかあ(絶えないではないかあ) 言うて。

かいとし【名詞】 片手に持てる一本の爪の土地を突く道具(くまで) かい 櫓 掻きの転。とし 利し 鋭し

するどい よく切れる (志 (片田、布施田、浜島、神明、立神)、鳥 (安楽島)、度) [会話] 草 掻くのを先の曲つとんの (曲がって居るのを) カイドシ。

かいとた 1) 書いて居た 2) 掻いて居た

かいどり 【名詞】 鯛の巻網漁 夕方に行こなされる [会話] よさり (夜) 夕方かけて行くねてや (のです) カイドリは、鯛を引くね (網を引くのです)。なんぼくはひいな (日が) いった (入った) 言うと おいて (終つて) 来るやんない (でしょう)、カイドリは その時ん (に) 神の島で 入れ違ひんなんの (になるのです)。カイドリは いっばい (一艘) で 網やつてとんねてや (入れて獲るのです) 鯛をとてきよおった (獲つて来て居ました)。カイドリの鯛や (だ) 言うて いっばいの舟で 網まいてとんの (獲るのです) じょおふね (漁船) の大きな舟なあ (です)、若い乗な (が) 一杯乗つて来て 一杯舟ですんね (一隻の船ですのです)。カイドリのもんらわ (者達は) わかいしゆの あらて みたいのぼっか (元気のよいのようなものばかり) 乗つて くんねやんかい (来るのです)。

かいどり (替取) 【名詞】 川の支流、海の一部を塞ぎ止めて水を汲み出し魚を取る子供の遊び (志、鈴市、一、上、阿、張、名、北) [会話] カイドリ言うて 上と下とせんどいて (塞いでおいて) どじょおや、うなぎを そげんしてしよおったなあ (して居ました)。

かいな (かひな) 【名詞】 腕 (志 (浜島)、鳥 (菅島)、桑市、鈴市、安、松、多、張、北、尾) [会話] カイナ言うのは 腕やなあ (です)。カイナボシな (が) やめる (痛む) 言うて。今日は 仕事したや (したら) カイナボシな (が) やめられ (痛む) 言うて。腕全体がやめる。

…**かいな** 【終助詞】 でしょうか 疑問の意をもって確かめる気持を表す (志、三、鈴市、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾)

がいな 大変な 非常に (志 (浜島、鶴方、志島、国府、安乗)、鳥 (答志)、松、度、伊、北、尾、南) [会話] わしげや (私の家は) ガイナええのが (良いのが) 有つて。

…**かいなあ** 疑問の意味を持って確かめる気持を表す だろうか…**かいな**に同じ **かいな**え参照 (志、鳥 (坂手)、鈴市、安、久、松、上、阿、伊、北、南)

かいない (かひない) (甲斐無) 【形容詞】 効果がない

がいなこと 1) 意外なこと 大変なこと (志、鳥 (浦村)) 2) 沢山なこと (志、度、尾、南) [会話] 1) ガイナコト おおぎよし (大仰しい) 事言うて。医者

どんな (が) お前の じいやんな (爺さんが) どいら い (大変) ぐわいなわりなつてくる (調子が悪くなつてくる) あの病気わりなつてくる 病気やで (だぞ) 言うて、先生 あんまり (あまり) ガイナコト 言うやんか (言うでは有りませんか) 言うたや、ほんとやんか (言ったら、本当だぞ) 言うて 先生な (が) 言うのなあ (のです)。先生な (が) 言うこと 聞いと たや (ていたら) 先生 ガイナコト 言うたとど (言つていたぞ) そんな ほんとやったら (それが本当なら) えらいことやなあ (大変なことだ) 言うな (言います)。

がいなことあるかい 容易だ。大変な事では無い。

かいなじみ (かひなじみ) (買馳染) 【名詞】 いつも買つてくれる人 常客 [会話] あやまあ (彼は) あの店 行くと お顔やよつてん (だから) 言うて じょおく 行き (いつも行つて) カイナジミの家なあ (です)。あの人 じょおつく こおてるよつてん (買つてくれるから) 言うて。

かいなぼし 【名詞】 腕 [会話] **かいな**参照

がいなもん 【名詞】 大変な物、者。偉い人。(志 (片田)、一、北、尾、南) [会話] あや (彼は) ガイナモンや なあ (だ) 言うて、おもとのより (思っているのより) おつき (大き) かつたり、偉らかつたり すると おおた (ああ) ガイナモンやなあ 偉いもんやなあ 言うのな (のです) ガイナモンや (だ) がいつけない もんやなあ (大変な者だ) 言うたりな。あやまあ (彼は) がいつけない人間やなあとかな。人でも あんまり がめつい人 あや ガイナモンやれ (だ) 言うし、あれも がいつけないぬよつてなれ (のだから) とかな がいつけない 言う時も 有るわい (有ります)。

がいなもんや 大変な物、者だ。沢山の物だ。がいなもん参照 (北)

かいならす (かひならす) (飼慣) 【動詞】 餌を与えて魚を一定の場所に集める。**かい**つけ参照

がいに 1) 下に打消の言葉を伴つて あまり たいして それ程に 一向に 2) がいなに同じ 大変 はなはだしく 非常に (志 (波切、御座、浜島、鶴方、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、員、安、松、多、度、北、南、熊) [会話] 1) ガイニ 今日は そんな でも、えらいこた (それでも大変なことは) なかつた、 ガイニ (に) えらなかつたなあ (大変ではなかつた) とか、がいなこと やったなあ (事だつた) とか、がいな こた (事は) 無かつたなあとかな。2) おた、がいな かつた (だつた) 今日はまあ 意外や (だ) 言うのを

言うんやろな (言うのでしょうか)。ガイニ 今日は大漁やった (だった) 言う時も あんねてや (あるので) ガイン (に) 大漁やって (だつて) 今日はよかったよお言うて 大漁して来るとなあ 意外に言う事やろな (でしょう)。

がいになる。がいなる 邪魔になる 障碍になる [会話] おらな (俺の) 仕事の邪魔すんな (するな) 言うところ、ガインナル言うて ガインナルことすんなよお (するな) 言うたり。

…かいねえ。…かいのお【終助詞】疑って尋ねたり確かめたりする気持ちを表す 反語を表す だろうか (志、員、鈴、久、上、阿、伊、北、熊) [会話] 疑うことを、そおカイナア (そうだろうか) 知らんけど (知らないが) そいなん (そんなの) カイノオ言うて、えごと知らんけど (充分に知らないが) そげなん (そんなの) カイノオ言う時な (が) あるな (有ります)。ネエと、なあと一緒やけどな そいなんカイネ言う時もあるしなあ カイナア言う時もあるし。

かひのくち (かひのくち) (貝口) 【名詞】 鮑の解禁。又は禁止の時。カイノクチな開く。カイノクチな止まる。

かいばしら (粥柱) 【名詞】 正月十五日の粥に入れる餅 (志 (志島)) [会話] 正月十五日のカイバシラ。めし (飯) の中へ餅入れて 豆も入れて めしやけど (飯だが) カイバシラ言うて、昔の人ら おかひ (粥) に しおったかいの (して居たのかな?)。米が無いよって (無いから)。おかひにして 餅入れて 喰いよったんやろ (喰って居たのでしょうか)。それで、柱になりおったんやろな (なつて居たのでしょうか)、おかひの柱に。十四日の晩に 親元い (夫婦の生まれた家、両親の家に) れい (礼、年始) に 行くやんかな (行きます)。嫁に行くと 米 重箱入れて ひとかさね (一重、大小二つを一かさね) 入れて 十五日の カイバシラやとか (だとか、なのかのなあがい (七日の菜粥) 言うて、むゆか (六日) の日に 礼に行つて 持って来た餅入れて しいよったけど (して居たが)、いましやしやへん (今はしません)。

かいばしら (かひばしら) (貝柱) 【名詞】 真珠貝 (あこや貝) の貝柱。往時は他になかったの。

かいばなし (かひばなし) (飼放) 【名詞】 1) 束縛しないでそのものの自由にさせて置く事。放し飼ひ。2) 男性が下着をつけなくて陰部を出して居る事。 [会話] 1) カイバナシ 鶏でも 囲いして 垣して ほかい でてかんよん (他に出て行かないように) しとんのおを (しているのを)。檻い (に) いれとけ (入れてお

け) 言うの (のです) 垣ん (の) 中い (に) おいこんどけ (追い込んでおけ) 言うのも有るし、それを 垣 せんと (せずに) はなしとくの (放しておくのを) カイバナシ言うてな、はなしがいとかな。鶏も はなし がいして そこら糞だらけやれ (だ) 言うて。犬でも 檻い (に) いれときやえけど (入れておけばよいが) ま はなしがいしとて おぞげやなあ (していて嫌だ) 言うて。2) ちんぼ (男根) ふりはなしとると (囲って居ないと) あや 禪もかかんと (せずに) はなしがいん (に) してまあ 言うて、あや (あれ) カイバナシしとんねよお (しているのだ) 言うて、ぶらぶらしとるとなあ (している)。

かいふ 【名詞】 大きな魚を調理する刃物 開附か (三重県全域)

かいほう (介抱) 【名詞】 世話をする 看護する かいほう の末尾母音の省略 かいほうに参照

かいほうおする 介抱する 看護する (志、鳥 (坂手)、張)

かいほうおにん (かいほうにん)。 **かいほにん (介抱人)**

【名詞】世話をする人 看護する人 [会話] 病気の世話する人をな カイホニンや (だ) 言うてな。あの家 ぐわいなわりけど (調子悪いが) カイホニンの おて (が無くて) まあ 家政婦たのどる (頼んでいる) 言うて、かいほうお言うて ほを なあごお (長く) 引っ張る人も有るし、カイホ言う人も有るしな その人ん (に) よつてな 引っ張る人と ちぎつたる (ちぎつてやる) 人となあ。カイホニン言うのは 世話する人のことなあ。

かいまし (貝廻し) 【名詞】 真珠貝を避寒のため暖かい海へ持って行く事、又、持って行った貝を暖かくなって作業するために持って帰る事 [会話] カイマアシ言うな (のは)、真珠を この英虞湾で しおな (海流の) いきまわりなわりもんで (流れが悪いので) 他の熊野やとか あちらの方い (に) いそば かつて (海面借りて) それを舟で回わしてくのを (していくのを) カイマアシ言うて。カイマアシン (に) 人な (が) のおて (無くて) やとわなはざんね (雇わなければ駄目なのだ) 言うて、カイマアシは そおどやて や (騒動です)。珠入れたのおを (のを) 避難してくの なあ (して行くのを) 冬中な (です)、そすと (すると) また春ん (に) になると それをまわして来て そして 家の 海い (に) いけといて (活けておいて) そして 入れんのわ (入れるのは) 入れたり、むくな (剥くのは) 剥いたりすんのな (するのです) それを

カイマアシな (です)。

かいまい 支障、さしつかえ

かいまき (掻巻) **【名詞】** どてら 丹前の大きい物 寝具として使用する かいまく (掻巻) かいまくの音便が名詞化したもの (大言海) (志) [会話] カイマキ言うな (のは) 丹前のかいな (ですか)。丹前の大きなへ襟付けて いましゃ (今は) あいな (あんな) 事しやせんけど (しませんが)、昔は、カイマキや (だ) 言うて 丹前せんと (しなくて) もつぱのわり (悪い) のを 布団の なかい着よった (中へ着て居ました)。カイマキの代わりや (だ) 言うて、そこそこせんで よおて (しなくてよくて)。肩な (が) すこすこするやんな (するでしょう) 布団ばかや (ばかりだ) 言うて、今しみたいな (今のよう) やいこい (柔らかい) 布団なら ええけど (よいが) 昔や 石布団 煎餅布団で 寝よったよってんな (寝て居たのだから)、綿な (が) そぐわせんやんな (密着しないでしょう) そやよって 中い (だから内に) なんか 掛けん (けない) と 肩が すこすこするん (するのです)、そやもんで (それで) もつぱでも 何でも 中へ。カイマキ言うのは どてら着る 丹前やなしに (でなくて)、丹前よりおつきい (大きい) 縫い代を 一杯 一杯にして どえろお (大きく) 丹前みたいな (のような) 形やけど (だけれど)、ふちも どいろお (大きく) 出して 綿どさり入れて 寝て、肩越す 汚れるもので (ので) 裏から 襟かけて そんにしおったけど (そんなにして居たが) それは 高級やわ (です) そいなの (そんなのが) 有る家 (うち) よけ有るかな (多く有りません)。皆 もつぱのあがり (古くなったもの) もつぱの外へ (で) 着れんよおに (着れないように) になったのを みっとものおて (見苦しくて) こや (これは) 外へ着て かれやせんわれ (着て行けない) 言うて、しきし (当て布) を当てて それを中へ着て 昔は寝よったの (寝て居たのです)。

かいまづみ **【名詞】** 夕方の薄暗がりの時 日没後、真暗になる迄 (志 (甲賀)) [会話] カイマズミ 言うなな あ (のは)、ひのおちやいに (日没に) うちあみとか よあみ (夜網) とか カイマズミ うちん行く言うて よお行きおったわい (よく行って居ました)。カイマズミ言うて ひのおちやいをなあ まつとて (待っていて) あみやんの (綱いれるのを) それ カイマズミうつ 言うて、夕方に カイマズミや (だ) 言うて、そして 魚でも カイマズミにくう (釣れる) 魚もあるしなあ 魚ん (に) よってなあ (です) そやけど (し

かし) 網でとんのわなあ (取るのは) カイマズミうつ 言うて よあみん行くと こや (これは) カイマズミうつねどお (のだ) 言うて。

かいみ (痒) **【形容詞】** 痒い感じ [会話] むかじん (百足に) くいつかれたや (咬まれたら) 毒な (が) 廻って カイみな (が) やませんよお (止まらない) 言うて、毒のまわってくと (が廻って行くと) あかみもつてきて (赤くなって) そんな、かいいて (それが痒くて) 何つともしよないんてや (仕方がないのです)。おおた このかいの (痒いのが) 親の死に目もあわれんほど (逢えない程) かいいれ (痒いです) 言よおった (言っていました)。

かいみそ **【名詞】** 店で買う味噌 自家製の味噌に対して言う(度) [会話] こおた (買った) 味噌を カイミソ。家で しこむと (作ると) 家の味噌や (だ) 言うし。こおて (買って) 食うみそあ (味噌は) カイミソや (です)。カイミソのおつけやうまないわれ (味噌汁は美味しくない) 言うて 家の おつけやうまいけど (味噌汁は美味しいが) 言うて。

かいむ (皆無) **【名詞】** 全く無い事 一つもない事 不漁 (志 (布施田)) [会話] カイム言うんかな (言うのですか)。魚な (が) つれらった (釣れなかった) とか、今日は カイムやなあ (だ) 言うて 何んにも無いことなあ (です) カイム、はざあらったよお (駄目だったです) 言うて カイムやった (だったです) 言うな (のは) 全然無しや (です)、今日は なんもはざんで (全く駄目で) カイムやったよお (だった) 言うて、じよおし (漁師) の人ら あがってくんのん (帰って来るのに) よお言うやんかい (よく言います) 大漁かい (ですか) 言うて 今日はまあ カイムやったよお 言うて。

かいむき (貝剥) **【名詞】** 真珠を真珠貝から取り出す作業 [会話] カイムキ言うな (のは) 真珠の 入れたのおを (のを) 秋ん (に) になると剥いて 真珠市場 入札すんの (するのを) カイムキする。入れた珠を 一年 たったの 一年貝とか、二年貝とか言うて そして カイムキ いちねんがい 今年むくね (剥くのだ) とか言うて、それ剥くのをなあ 秋春に剥くやがな (でしょう) その時 カイムキな (です)。真珠貝から 真珠を取り出す作業を カイムキ。

かいもく (皆目) **【副詞】** 全然 まるっきり 少しも [会話] しなもん (品物) でも 何処やらへ (かへ) やったたて (失って)、あれも 此処らん (に) 有ったのん (のに) 何処やら いて判らしえん (行って判らな

い) とき、無縁境界や(だ) カイモク判らせんわれ(判りません)。

かいもち (かひもち) (買持) 買って持って居る事

かいもん (かひもん) (買物) 【名詞】 1) 物を買う事
又、その物(志(布施田)、桑市、鈴市、伊、南) 2)
買っても充分にそれだけの価値の有るもの。価値以上のもの。[会話] 1) カイモン言うて、何んやかや 今日 やさいもん(野菜物)も カイモンしてこなはざんわれ(来なければ駄目だ)、味噌も こおてこい(買って来い)、すう(酢)も こおてこい 言うて、カイモンをする言うのな(です)。何んか 食料品でも衣料品でも買うことをなあ カイモン言うて。

かいやま (かひやま) (買山) 【名詞】 他所の所有地の樹木を買い求め自家の薪を作る事(志(布施田)) [会話] カイヤマ言うのななあ(言うのは、木な(が) のおて(無くて) 越賀の山こおて(買って) 〇〇小父な(が) 山こおとくね(買っておくのです)、あのら 仲買いや(です)、わしらが 又 山見せてくれえ(見せて下さい) 言うて その人の こおとんのを(買って居るのを) 買いんて(買いに行つて) 五十円とか 八十円とか言うて 買おて(買って)、こんだ(今度)はそれを 五軒でも 六軒でも 仲間で切つて 積んでも もて(貰つて) 分けて すんの(するのを) カイヤマ。桧山路(地名)の方も 行きよつた(行つて居ました)。わたりやまや(渡り山だ) 言うて 迫子山(地名)を買おて そおすと(そうすると) 舟が なけな、はざんけど(なければいけないけれど)。櫓 漕んで行 かなは ざんもんで(漕いで行かなければいけないので) 迫子山迄 買いん(買いに)行くと、そんだけ(それだけ) 安いけど、そんで やんやん 言うて 迫子の浦へ迄 漕んでくと(漕いで行くと)、朝起きして行て よさり(夜)も はよおいて(早く終つて) こなは ざん(来なければいけない) 漕んで来な はざんよつて(漕いで来なければいけないから) 安いけど。一年でも 二年でも よお 大つきい(よく大きい) 山 買や(買えば) 二年でも 買わんで ええ(買わなくてよい)程 当たる時も 有るけど(が)、そやけど(しかし) ひと くど やま(一年焚くだけの薪の取れる山) ひと ふゆ(一冬) 言うて 木の はぎ(葉木? 焚き付け用に用いる)を 百位 あた つと(当たると) こんで たい がい(これで大体) 今年焚くだけ 有る かいな(有るだろうか) 言うて、そお すと さい ご(すると) 葉から出た、ぼく(木)を わり きん(割木に)して 積み おつた わい(積んで居ました) 一年中 焚くのを。

そんな(それが) こん だ きれる と(今度は無くなる)又 今頃(九月)になつて(なつて居て) カイヤマど きや わ(時分です)。冬に 買お たり(買つたり)、あき やま 買う 人も 有るし、秋に 買わ ん(買わない) 人ら 冬山へ行てな 冬に 買う 人らも 居る し(居ます)。昔の四季の歌で 春は 嬉しや 二人揃つて 肥(こえ)持ちする、夏は二人で いそ ど 漕ぎ(海女作業) 秋は二人で カイヤマへ、冬は ひな た(日当りの良い場所)で きん こ 炊く。まあ 昔の生活のが 皆う とと 有る ね(歌つてあるのです)。その時に さん たろ ばい 作つた ん(こま・独楽作つたのです)。木を車 で 曳いて来て置くと 男の子 らな(が) 桜の木 引き つり 出して(引き出して) 三太郎 ばい 作られ んの(作るので)、なあ(縄)で ひつ くく つと いても(固くくつておいても) 朝ん(に) なると みん な(皆) 引き つり だして 桜の木 ぬす んで きお つて(盗んで行つて)。そや(それ)又、こら らん(子供達に) 盗まれた らん よお ん(盗まれないように) 早よ はぎ(葉木)で 隠さ なは ざん われ(なければいけない) 言うて、はぎ ん(の) 中を こん だ(今度) 引き ずり 出して みん な 盗んで きお つた の。わしら 御座 山い(地名・御座の山へ) 迄 車 曳いて はぎ を 二十 把くらい ひと ぐる ま(一車)へ付けて 一人 後 押して た こか(高岡)の 坂や、越賀の 阿摺の 坂な(が) なあ ごお て 汗水で 一日 ん(に) 四回 位 曳くと くた ばつて の さば り おつ た(疲れてのびました)。その かい だり の な(そのかいだるいの)は 後 押して よい そら よい そら 言うて た こかの 坂と 阿摺 な(が) なあ ごお て(長くて) 骨の 山 折り よつ た ねん(折つて居たのです)。一日 四回 位 つ(宛) し い おつ た(して居ました)。四回も 曳くと ほんと(本当に) くた ばん ねん な(疲れるのです)。夏は しや せん(しません) 暑い し 仕事もあるし、磯(海女作業) 行か ん らん よつ て ん(行かなければならないから)。八月から 十一月、十二月、一げ つ(月) 頃迄 な(が) 海女 い(に) おり る(海に入る) 迄 な(です) 冬山 春山 言うて 春する 人らも 有る し(有ります)。

かいよ。かいよお(痒) 【形容詞】 痒い [会話] かあ(蚊)に 食われて カイヨオ ま おと つし や ほん(あつあ本当に) 言うて おお た く われた や(食われたら) カイヨオ まあ 言うて。

かいよひ(飼) 養いやすい [用例] いん(犬)は、カイ ヨイ けど ライオンは カイ ノク イ(飼いぬくい)。

かいよひ(買) 買いやすい。気楽に買える。[用例] ○

○屋は なんこおても (何を買つても) カイヨイけど
××屋は カインクイ (買いぬくい)。

かいよせ (かひよせ) (貝毒) かいよせじお【名詞】 1) 三月頃の冷たい海の潮流 鮑が深い所へ移動して行く (方言辞典 広辞苑とは逆の解釈) 2) 三月頃東から西に流れる赤く濁った冷たい潮 (雪解け水か) (志 (布施田)、鳥) [会話] 1) カイヨセ言うな (のは) 三月になると 潮が冷とおなつてくんで (冷たくなって来るので) 三月の カイヨセジオ言うて。海女に いんのんな (潜水するのに)、ほおた (感動詞) 今日は どいらい (大変) 潮が冷たい。カイヨセで 言うて、三月になると。貝な (が) 中に入つてくわい (深い所入っていきます)。潮が冷とおて (冷たくて) そいな (そのような) 時は カイヨセで おおびな (鮑が) 中へ 入つておらへんな (入って行っておりません) 言うて。潮が ぬくとお (暖かく) なつたりすると 又 出て来んねけどな (出て来るのだが) 中、入つてくonna (入って行くのです) 潮な (が) ひやしおや (だ) 言うて、カイヨセジオ言うて。三月頃やなあ (です)。冷たい潮を カイヨセジオ言うの (のです)。

がいら【名詞】 鯉節などにわく虫 がいだ参照 (志 (布施田)、鳥) [会話] 食料えわく (つく) 虫 がいだなわいて 言うて。鯉節にわく あれは がいだの事がいだよお言わんと カイラ 言う人も あんね (有るのです)。

かいらかしたた。かいらかしたたない (女性語)。かいらかしたたれ 帰してやった [会話] 今日は こんで (これで) 済んだよつて (から) かいつててくれ (帰って下さい) 言うのを カイラカシタタレ まあ よおじゃ (用事は) 済んだもんで (ので) 言うて。かいぎや (会議は) 済んだもんで カイラカシタタ よお 言うて。

かいらかしたた。かいらかしたたない (女性語)。かいらかしたたれ 倒してしまつた

かいらかしとけ。かいらしとけ 1) 倒しておけ 2) 帰しておけ [会話] 1) そや (それは) 杭な (が) 立つとんの (ているのは) そや (それは) 邪魔なよつて (だから) カイラシトケ 言うて。

かいらかす (かえらかす、かへらかす)【他サ五】 1) 立って居るものを倒す 横にする 2) ひっくりかえす 表裏を反対にする 3) 孵化させる 4) 帰す [会話] 1) 立つとんのおを (立っているのを) カイラカスと (てやると) やつからかえしといて (倒しておいて) 放つといて (ておいて) いたない (行った) 言う。

かいらかせ 1) 倒せ、横にしておけ かいらかせとけ 参照 2) 帰えせ

かいらかせとけ 1) 倒しておけ 2) 帰しておけ [会話] 1) そやま (それは) そこい (其処に) 置いとくと (ておくと) 危ないやんか (です)、横ん (に) ねやせ (寝させ・倒せ) とか、カイラカセ とか言うて カイラカセトケ 危ないに (のに)、そんな かいつて (それが倒れて) 来ると、言うて。

かいらし【形容詞】 可愛らしい、かわゆらしいの変化した語 (松、名、北、尾) [会話] ささこし (すばしこい) と カイラシ ねやろなあ (のでしょう) あんで (あれで)。

かいらす かいらかすと同じ 1) 倒す 2) 帰す 3) 孵化させる [会話] 1) 杭な (が) 立つとんの (立っているのを) そや邪魔なよつて (それは邪魔だから) カイラシトケ 言うて、桶でもなんでも そやま (それは) そこい置いとくと (そこへ置いておくと) 危いやんか (ではないか) 横んねやせ (に寝させなさい) とか カイラシトケ とか言うて。横ん (に) ねやす 言うのを カイラス 言うて。かいらかせとけ (倒しておけ) まあ 危いこ (で)、そんな かいつて (それが倒れて) くると言うて。かいつてくると 危いよつて そつちやい (そちらへ) 横にしとけ (しておけ) 言うのをな カイラス 言うのな (です) 横んねやしとけ 言うのを かいらかせ。紙を 表向きを裏向けんのも 裏表 カイラス 言う時もあるし、かやし とけ言う時もあるし、カイラセ 言うのもある。2) カイラス で まあ 帰つてけ (ていけ) 今日は こんで (これで) 済んだよつて (から) かいつててくれ (帰って行って下さい) 言うのを、かいらしたたれ まあ (帰してやりました) よおじゃ (用事は) 済んだもんで (ので) 言うて かいぎや済んだもんで (会議は済んだので) かいらしたた よお 言うて。

かいらり だるい 疲れた らと、だの音の訛 [会話] かんだるい 言う人間もあるし カイラリ 言う人間もあるし 今日 仕事 よけたや (沢山したら) カイラリ て まあ言うて。

かいり (帰)【名詞】 1) かえり 帰の変化した語 2) 往復の回数を表す語 [会話] 1) わしら (私達) かいやまい行くやがな (買山へ行くでしょう)。そすと 家い (へ) カイリ に いちわあつ (一束ずつ) 持てこや (持って行きましょう) 言うて。

かいりがけ (かへりがけ、かえりがけ) (帰懸)【名詞】 帰る時 帰る途中 帰り道のついで [会話] カイリガ

ケの駄賃や(だ)言うて、いきがけに(行く時に)これもててくれるかい(持って行ってくれますか)、カイリガケに言う時もあるしカイリガケに、これしといていてくれえ(しておいて下さい)言う時もあるし。仕事をしてもらお(してもらおう)思もうとまカイリガケやけど(だが)これもちょいと(少し)しといていてくれえ(しておいて下さい)言う時もある。

かいりしな(かえりしな、かへりしな)【名詞】 帰りがわ帰る時 帰る途中 [会話] カイリシナ言うて、行こ思とんのん(行こうと思って居るのに)何か有ったとか、カイリシナ 仕事が出来て来てとか すんのを(するのを)、カイリシナ い(へ) 仕事が出来て来て 仕事しとたもんで(していたので)遅なつたとか。カイリシナ 俺家(おれげ) 寄ってけよ(て行きなさい) 家、行くまで カイリシナ ちょっと 寄って呉れるかあ(呉ますか)言うて。

かいりょう(かひれう)(飼料)【名詞】 1) 牛馬などを飼う費用 2) 転じて子弟を食べさせる費用 [会話] 2) お前な(の) くいぶち言うて、お前な(の) こや(これは) くうあたりや(食べる分だ)言うばやい(場合)は、お前な くいぶちや(だ) こんだけ(これだけ)は言うて、お前な 分だけ 残しといたよつてん(ておいたから)言うたり、カイリヨオを取らな(なければ)言うたり くいぶちもとらんとあ(取らずに) ただ(只) くわしたらなあ(食べさせたら)言う時もあるし、カイリヨオや(だ)言うて。

かいる(かひる)(帰)【自ラ五】 帰る(志、員、鈴市、三、一、松、上、張、名、度、伊)

かいる(返、帰)【自ラ五】 1) 倒れる 2) 孵化する 3) 転ぶ(志(志島)) [会話] 1) しんしょもおて(身代貰って)入ったら、うちや(家は) がつたらば こ(ぼろぼろ) 御飯 食べておったや(居たら) 柱な(が) カイツテ来て。

かいる(蛙)【名詞】 蛙 がえる参照(志(国府、甲賀、志島、船越、片田、布施田、越賀、浜島、鶴方、安乗、立神)、鳥(桃取)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、安、亀、久、一、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] いくら飲んででも しゃんとしとや(していると)、あや(彼は) 幾らのおだてて(飲んで) ガイルの面い(へ) 水、掛けるよおんしとられ(ようにして居る)言う。

かいる【名詞】 五丁櫓、八丁櫓の位置(志、鈴市、尾、熊) [会話] ごちよろん(五丁櫓に) なんと、とりか

じ(左舵) おもかじ(右舵) のカイロ、二丁すんで(するので) そすと 櫓櫓で 五丁櫓言うて。

かいわい(界限)【名詞】 その附近一帯 近所 [用例] 此処ら、カイワイに そいな(そんな) 人、おらせん わい(居ません)。

かいわい(賀祝)【名詞】 年祝い 即ち 一定の年齢に達した事を祝う習慣は 1) 長寿の祝い 2) 厄年の祝い 3) 成年祝い及びそれ以前の幼少年期の祝いの三に区分されるが 賀寿の祝は通例1)の類を指すものといつてよい。中世以前は 四十歳に始まり 以後十才毎に祝賀を行ったが 以後は四十二、六十一、七十、七十七、八十八を祝う風が起り 近世以後は此が定着し 統一され 四十二は、むしろ男の厄年祝いとされた。[会話] ガイワイ 六十一のガイワイとか 七十のこき(古希) 六十は還暦かい(ですか)。米寿は 八十八や(です)。茶寿 一番長んがい(長い) 茶寿の峠で一休み言うて。九十は 卒寿やら(とか) 言うんなし(言うのです) 白寿は九十九。(参考) 六十一才 還暦。七十才 古希。七十七才 喜寿。八十才 傘寿。八十八才 米寿。九十才 卒寿 九十九才 白寿。百才 上寿。百八才 茶寿。百二十九才 皇寿。

かいわれ(かひわれ)(貝割)【名詞】 大根の双葉カヒワリ(殻割)の義(大言海) [会話] 大根の二つ葉をカイワレ。青菜の二つ葉から馴染んだ 縁やもん(だもの)のお(だから)言うて。

かいわれ(痒)【名詞】 痒いです。

がいん たいして がいに参照 [会話] そんでも(それでも) ガイン気に しやせんねんなあ(しないのです)。

かいんた 買いに行つた(志、鳥(浦村)) [会話] かいに いたや(ら) 無かつた 言う 〇〇〇い(に) カインイタや のおて(無くて) ××××え 行たれ(行きました)。買いに いた(いった) 言うの(のを) カインイタ言う。

かいんな 帰るな 倒れるな 転ぶな [用例] いそんで(急いで) カインなよお。

かう(飼)【他ワ五】 親 子供の世話をし養う。物を食べる(ロカウ) [会話] 親養う、親の面倒を見るのを、カウ。兄 貴らん(に) こおてもおとる(養ってもらっている)言うて、やしのもろとる(養って貰っている)言うのを、こおてもろとる言うて、犬 カウ くらいや(です)。

かう(かぶ)(支)【他ワ五】 物の下や横に当てて支えにする 添え支える 鍵などをかける(志(布施田)、上、阿) [会話] かいいつて こんよん(倒れて来ないよう

に つっぱり (支柱) カウ言うてな。 たっこお (高く) 積むと かたんで (傾いて) くと、 かいってく るよって (倒れてくるから) つっぱり (支柱) こおとけ 言うて、 ぼお (棒) でも なんでも しゃしゃえん (支えるのを) つっぱり カウ言うて。

かえ (かへ) (替) 【名詞】 取り替える物 代わりになるもの [会話] 着替え言うのを カエ。着替え 言わんと (言わずに) カエももてかなはざんわれ (持っていかなければ駄目だ) 言うて、 カエも持て 言うて、代りのことを、 カエ 言うて。 カエ 言うのは 着物だけできなしに、何んでも、代りの もんなあ (物です) しなもん (品物) でも これも しや (それ) うちやつたる (壊してやると) はざんよって (いけないから) かわりもてけ (持っていけ) 言う (のです)、これも 破れてくとはざんよって カエ もてけ とか。

かえおけ 【名詞】 お代わり かえおけに同じ

かえかえ (かへかへ) (替替) 【名詞】 交換 物々交換 取替えっこ (志 (浜島)) [会話] 交換する事 カエ カエしよおか言うて。

かえぎ (かへぎ) (替着) 【名詞】 着替えの着物 [会話] カエギ 言う (のは)、 きもん (着物) を 白と黒と替えると カエギや (と) 言う のなあ (です) 代りに きんのお (着るのを) カエギ。

かえこと (かへこと) (替事) 【名詞】 互いに取りかえる事 交換 物品をとりかえる事 (志 (鶴方、神明、立神、国府)、員、鈴市、張、南、熊) [会話] かとぶし (鯉節) もてて (持っていって) 米と替えて来ると、 あの家の婆さん かえことしやよってん (だから) 言うて、 かとぶしもてて やまかた (農村・山村) で 米と替えたり 麦と替えたり してくんの (してくるのを) カエコトな (です)。 カエコト 言うな 交換、物をこれやって、 かわりん (代わりに) 何か貰ろう それを カエコトや (だ) 言うて。 かえこと 言うのは それを商売に しとる (している) 人な (が) かえこと し。ここから 海物を持って やまかたい 行て そえんしてしよおったの (そんなにしてしたのです) 皆 カエコト行きよおったの (行って居たのです)。

かえごと (かへごと) (替事) 【名詞】 物を交換する事 かえこと (志)

かえことし (かへことし) 【名詞】 物々交換を職業にしている人 海物を農村部に持って行き、農村の生産物と交換し、交換したものを海産物と又交換し、それを職業としている人。 かえこと 参照

かえされる (かへされる) (帰、返) 離婚される (上、阿、

張) [会話] あやまあ (彼女は) かえされたんてわい (帰されたそおだ) 嫁んいて (嫁に行つて) その家気に入らんと、お前 ひとばか (少しの間) あずかっ てもらええ (実家に帰つて居なさい) 言うて 行くと、 あや 戻されて 来たんてわい 言うて。 カエサレル とも言うし 戻されてきた言うて。

かえし (かへし) (返) 【名詞】 1) 返礼 (志 (浜島、片田、甲賀)、鳥 (坂手、桃取、答志)、上、阿、名、南) 2) 風の方向の変わる事 反対方向から吹いてくる風 西風 かえすの連用形の名詞化 (張、度) 3) 仕返し [会話] なんやかや (いろいろ) 物を 貰 た (貰った) ときの カエシかい (ですか)。葬式の時の れいガエシとか 建築祝いのカエシ。

かえす (かへす) (解) 【他サ五】 卵を温めたりして孵化させる。 カヘル (解) の他動詞

かえす (かへす) (帰、返、反) 【他サ五】 1) 裏返す 反対にする 2) 倒す ひっくり返す 3) 吐く 嘔吐する かやす参照 カヘル (返) の他動詞 (志 (浜島、甲賀)) 4) 離婚する (張) 5) 返却する 6) 帰す、戻す [会話] 物をカエスな (のです)。裏返すとか 物かっ (借りて) カエスとか、 卵もかえ る (孵化する) 雛にかえる 言うな (言います)。

かえたる 1) 交換してやる 2) 変えてやる 変えてしまう [用例] おんな (俺が) カエタル。

かえたる 水などを汲み出す [用例] 池の水 カエタル。

かえってく (返) 1) 倒れて行く ひっくり返って行く 2) 帰って行く [会話] カエツテク 今日仕事も終つたよって (から) こんで (これで) カエツテク わいとか、旅行に来て あんまり (あまり) ひにちな たつて (日数が過ぎて) 家んも (家にも) 用事な (が) 有るよって (あるから) かいってかなはざん (帰らなければ駄目だ)、 カエツテク わい 言う のな (のです)。 もどされる (離縁される) の カエツテク 言うのもあるし、帰らされた言うのもあるし、 まあ はよ (早く) 行け言うて かえらしたた (返してやった) 言うのもあるし。

かえってこんならん 帰つて来なければならぬ [用例] カエツテコンナラン時間やのん (だのに) まだ 来やせん (来ない)。

かえつてもおた。かえつてもろた 帰つてもらつた 帰らした [会話] 先生 今日 病気も ええさけん (よいから) 言うて 先生 カエツテモロタ 言うて。

かえどり (かへどり) (替取) 【名詞】 かいどりに同じ

(鈴市、上、阿、度)

かえやい【名詞】 交換 [会話] とりかえる あっちゃんのおと (あちらののど) こっちゃんのおと (こちらのと) とりかえやいしよおや (交換しましょう) 言うてな、カエヤイする時も とりかえしよおや。

かえらかしたた 1) 帰した 2) 倒してしまった 3) 離婚した

かえらかす(かへらかす)【他サ五】 1) 倒す くつがえす 2) 孵化させる 3) 返す、帰す 4) 離婚する [会話] ₁₎ カエラカス。立つとんのお (立っているのを) こかすの (倒すのを) カエラカス。それもあるしそして ₃₎ 先生 今日病気もええさけん (よいか) 言うて 先生カエラカスとか、かえっててもおた (帰ってもらった) とか言うて、これは ひつ繰り返る言うのと 家え帰えす、もといもどん (元に戻るのを)。

かえらしたた 1) 帰した 2) 離婚した 3) 倒してしました [会話] ₁₎ 早よ (早く) 行け 言うて カエラシタタ。

かえり(返、帰) 数の終りにつけて 回数を表す [会話] 畑え 幾カエリ 行て来た。畑い(に) よおカエリ (四回) こえ (肥料) 持て行て来た言うのもあるし、今日は いっしよけんめ (一生懸命) して いっつカエリ (五回) もしたねない (したのだ) 言うて、畑え行て 幾カエリ言うし。磯え行ても、頭突っ込んで ひとカイリ ふたカイリ言うて、ひとつ ふたつ言うて 数えるだけやなしに (でなくて) 自分が 一度 行てかえってくんのを (帰て来るのを) ひとカイリ ふたカイリ言うて ひとカイリした ふたカイリした言うて。

かえりがけ。かえりしな(かへりしな)(帰)【名詞】 かいりしなと同じ 帰る時 しなは その時 その際などの意の接尾語 [会話] カイリシナに 何んか (なん) こおて来てくれえ (買って来て下さい) 言う時 な (が) あるやんか (有ります)。カエリシナに なん こおて来て呉れえ 言うて かあさんに (妻に) たのまれんのな (頼まれるのです)。

かえりぐち【名詞】 返礼 御礼 [会話] みかえり もろて (貰て) 言うて、カエリグチの事 みかえりや (だ) 言うて。

かえる(かへる)(代、替、変)【他ア下一】 1) 或る物を与え その代わりに他の物をもらう。交換する 変わる (カハル) 代 (カハ) ると通じるか (大言海) 2) 汲み出す (池 井戸 船底などの水を汲み出す)

(志 (布施田))

かえる(かへる)【自ラ五】 孵化する カへ (反) る義 (大言海)

かえる(かへる)(返、帰、反)【自ラ五】 1) 倒れる ころぶ 覆える ひっくりかえる 2) 帰る [会話] ₁₎ とおとカエル 言うて、頭、下にしといて (しておいて) ばたんとカエルのを。うち (家) へ、帰るとか ひっくりカエル うてカエル でんぐりカエルも 一緒や (です)。

かえる(かへる)(蛙)【名詞】 蛙 がいる (志 (神明、片田)、鳥 (神島、相差、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、亀、安、一、久、松、上、阿、張、名、度、北、尾) [会話] ガエル 蛙の事 おたまじゃくしは蛙の子。あれは蛙やよってんなあ (蛙だから)。こ こ ら (此方) の人は ガエル 言うやんか (言います)。家の中 ばっか (だけ) 居るも な (者)は 家のガエルや (だ) 穴ガエルや (だ) 言うて。

かえん(ぐあえん)(臥煙)【名詞】 乱暴者 臥煙は江戸時代の町火消で乱暴者が多かった

かお 買おう (鈴市、鈴郡、伊)

かお(かほ)【名詞】 顔がきく おかお 御得意様 知名度 [会話] あやまあ (彼は) あの店行くと オカオヤ よってん (だから) 言うて、じよおく (いつも) 行き (行て) 買いな じみの 家 な (です)、あの人 じよおく、こおてくれる よってん (いつも買てくれるから) 言うて カオ な (が) きくの な (です)、カオ や、オカオヤ 言うて。

かおあわせ(かほあはせ)(顔合)【名詞】 1) 一つの集団で働く者同士が初めて顔を合わせる事 2) 寄り集まる事、特に漁船員がその年の始めに全員集まる事 かこ よ せ、かこ が た め 3) 結婚時両家の親類が集まる事 [会話] ₃₎ カオアワセ 言う な (のは) 初めて、結婚式で 今日は たる い れ (結納) して 相手の人と こ っ ち や と (こちらと) 親と兄弟で カオ ア ワ セ し よ お や (しましょう) 言うて、た の む わ い (頼みます) 言うこと、ハツ カ オ ア ワ セ 言うて。カ オ ア ワ セ だ け し と か な (しておかなければ) 道 で お お て (逢て) も ろ て も ろ て の お (貰て貰て) た の も ん の お (頼みます) 言う な (のは) わり よ っ て ん (悪いから)、道 で お お て (逢て) 挨拶 せ ん で え え よ ん (しなくてよいように) 親兄弟だけ集まって カ オ ア ワ セ し よ お や 言う の な あ (のです) お や こ な り。₂₎ カ オ ア ワ セ で 艇 船 に 乗 る 正月始め か こ よ せ 言うて、ハツ カ オ ア ワ セ とも カ オ ア ワ セ とも言うけど、

かこよせ言うて この人と この人と 10人なら 10人やとて(雇って)したけど(が)その内また かわってくのも(替わって行くのも)あるとはざんよつて(いけないから)かこよせしよおや 言うて、昔その10日なら 10日に その やとた(雇った)人だけ 10人なり 15人なりよおで(呼んで) ごつおしてくうの(御馳走食べるの)かこよせ。ハツカオアワセ言うことやけどな(だが)かこよせや(だ)言うて。

かおおて 可愛くて 可愛らしくて おとご参照

[会話] おとご(末っ子)で カオオテ カオオテ。

かおおとす 顔を洗う 化粧した顔を洗い流す [会話] 化粧落し言うのなあ(です)カオオトス。化粧する人ら(は)けしよおおとしすんのお(するのを)言うんやろな(言うのでしょうか)。

かおかす 乾かす(鈴市、津、多、伊)

かおきき(かほきき)(顔利)【名詞】その人を介すれば多少の無理でも叶えられるような権勢の有る人。有力者。

かおく(かわく)【自力五】乾く(鈴市、安、久、一、多、度、伊) [会話] 干したのな(のが)今日は おてりな、あんもおて(日差しが少なくて) かわかせんわれ(乾きません)言うて。今日はよお(よく)照つて よおカオク(よく乾く)言うて。

かおだし(かほだし)(顔出し)【名詞】1) 死亡、火災などのあった家へ見舞いの挨拶に行くこと 人の家を訪問する事 くやみ 見舞い(志(布施田)) 2) 久しぶりに皆の前に出かける事 3) 初めて皆の前に出る事 [会話] 2) カオダシ言うな(のは)今日は 休んでばっかおったけど(ばかりいたけれど) カオダシに出て来たよお(出て来ました)言うて。初めて行く事を 今日初めてカオダシや(だ)言うて。しばらく 行かんとおつて(行かずに居て)初めて 行くのを カオダシして 言うて。 1) 死んだ家や(家とか)、病人、火事になった家、災難が有ったとこ(所) 向いて ちよいと(向かって少し)見舞いに行くも カオダシ ちよいと 顔でも出してこな(来なければ) すまんな 言うて。ちよいとしてこなあ(少ししてこなければ) 言うて。

かおだす(かほだす) 1) 出席する 2) 出席して義理を立てる

かおつき(かほつき)(顔附)【名詞】顔の様子 おもち かおもち [用例] なんやら知らんけど(何か知らないが) あの人がいな(大変) カオツキな(が)

わりなあ(悪いです)。

かおつくる 化粧する [用例] まいのきもすつて(眉も刷つて) カオツクル。

かおつなぎ(かほつなぎ)(顔繋)【名詞】1) 知り合いになる事、又それを続けるため出入する事 2) ある集団が全員始めて集まる事。顔合わせ。

かおなええ 1) 信用がありその人が出ると少しの無理でも通る 2) 信用されている 3) 美人だ [会話] 1) 2) あの家、行くと 顔な(が) よおて(よくて)言うて、あんたな(貴方の) 友達な(が) 来ると あの人 あんたげ(貴方の家)で、カオナエエよつてん(顔がよいから) 言うて。この時は、何時も つきあいしとるもんで(交際しているの)信用のある言うことやわいな(です)。かおなじみや(だ) 言うんよつてんなあ(言うのだから) そやよつて(だから)信用しとる(している) 言うことやわいな(です)。 3) カオナエエで 器量な(が) ええ(よい) あの人、別嬪で 器量な(が) よおてな(よくて)。

かおなわり 1) 信用されていない、相手にされない 2) 不美人だ

かおまいか(買) 買わないでおきましょうか

かおまいや 買わないでおきましょう [用例] あいな たつかいもん(あんな高価な物) カオマイヤ。

かおもち(かほもち)(顔持)【名詞】顔の様子 顔付き おもち(南) [会話] びっくりした時は カオモチも 違わな(違います)。

かおや(買) 買しましょう [用例] あやええよつてん(あれは好いから) カオヤ。

かおや(顔) 顔の利く事。おとくい様だ。

かおよおする(かほやうする) 顔の様子 顔をしかめる [会話] 苦いもんで(ので) カオヨオスルもんで。

かおよごし【名詞】面汚し。恥をかく事。(志(甲賀))

かか(母)【名詞】1) 自分の妻(志(浜島、布施田、片田、畔名、志島、国府、立神)、鳥(相差、桃取、答志、国崎、坂手、神島)、員、三、安、津、張、名、北、南、熊) 2) 又は他家の主婦を 或いは親しんで、或いはぞんざいに呼ぶ称(志(浜島、国府) 鳥羽市(国崎)、桑市、上、阿) [会話] 1) 家のカカ。奥さんの事を カカや(だ) 言うね(言うのです)。

かかあ(嬢)【名詞】かかと同じ。かかを引っ張った俗語。(志、南)

かかあざえもん(嬢左衛門)。かかあだいまようじん(かかあだいまやうじん) **嬢大明神**【名詞】妻を戯れて言う語

かかあでんか (天下) 【名詞】 一家の中で妻が夫より権力を持って居て威張ること [会話] カカアデンカ言うて かかな (妻が) たいしょ (大将) で、とおさんばな (夫を) 尻敷んして言うて よお言うやんかい (よく言います)。とおさんな 言うこと (ことは) きかんと (聞かずに) かかな わがと (自分) 言うことを通すのを カカデンカ言うなあ (言います)。尻敷言うのは しりしきん (に) して言うて とおさんな (の) 言うことを きかせん (聞かない) 言うことな (です)。とおさんを たてんと (立てずに)、家は とおさんな たいしょ や よつて (大将だから) 何でも とおさんに 相談して とおさん、はざん (駄目だ) 言うことは 出来やせんし (出来ないし)、とおやんな 言う通り ん (に) せなはざん (しなければ駄目だ) 言うて ほかのうち (家) は しとんねけど (しているのだが)、カカアデンカで とと (夫) 尻い (尻に) しくのは ととな 言うこと た とおさんと (通さずに)、わが (自分) 言うことだけ 通すのなあ (のです) と とばな (夫を) しりしきん (に) しとんねよつて (しているのだから) あの家 言うて。

がかい 【名詞】 1) 外見 構え 大きさ (鳥 (鳥羽)) 2) 支柱 支え 頼り 3) 体格 体つき (鳥 (鳥羽)) 4) 抵抗力 もちこたえ [会話] ²⁾ ガカイな (が) 無い やんか (ではありませんか) 言うやんかな (言うて有りませんか)。何やか、かいしょ (何か甲斐性) の無い事を、頼りないのを ガカイな (が) 無い よおななあ (ようだ) 言うて。何か かえつてくよお なんか (傾く・倒れて行くようなのを) 言う時も 使う しなあ (使います)。かえつてく 言うのは ひっくり返る かたんで (傾いて) 来る時な (が) あるやんか (あるでしょう)。²⁾ そすと ガカイに 何か やつ とけ言うて、カカエ (支え) 言う事 や (です)。ガカエ に なんか (何か) 突っ張つとかなはざん (ておかなければいけない)。

かかえ (かかへ) 【名詞】 支持するもの ささえ [会話] 葬式の かかえども カカエ言うしなあ (言います)。かかえど 言うて 隣の人らな (が) すんの (するのです)。こお、おおでも (子負んでも) 尻 カカエな はざん われ (なければ駄目だ) 言うて てえ (手) で、あげんのお (上げるのを) 尻カカエな はざん われ 言うて。物でも 重たいもん (重い物) ちよいと (少し) カカエて 呉れまあ (下さい) 言うて、てつとでも らう (手伝って貰う) ことなあ (です)。カカエてくれ まあ 重たいわれ (重いです) 言うて。カカエ 言うの

は 支え カカエ とかな (ておかなければ) そや (それ) かいつて こんよん (倒れて来ないように) カカエ もやつとけ (しておけ) 言うて、おつてくるとはざん よつて (落ちてくるといけないから) カカエ とけ (ておけ) 言うて。

かかえ 【名詞】 がかい に同じ [会話] ガカエ も おて おつて (無いのに) あえん よけ (あんなに多く) 商売広げて言うて。かいしょ も (甲斐性も) 無い 言うこと やな (です)。かいしょ も おて おつて てびろお (手広く) して言う。ガカエ も おて おつて 言う ん やんかな (言うのです)。もちこたえ 言う んか (のか) ガカエ な (が) ないのん (無いのに) わがと のかいしょ (自分の甲斐性) も おて おつて ん 家 も おつきい の (大きい) 建てる とか、借金 こさえて (作つて) 言う のな (が) ガカエ も おて おつて 言うて。

かかえごし 1) 立ち上がりたい様子 2) 帰りたい様子
かかえこむ、**かかえこんどる (かかへこむ) (抱込) 【他マ五】** 自分の物として離さない

かかえて、**かかえど (かかへて) (抱手) 【名詞】** 葬式の時、棺を守る人の補助をして棺をかつぐ人 ては、人の意 かかえ 参照 [会話] カカエド 葬式の行く時吊つて、のせんの (乗せるのを) カカエテ や (だ) 言うて、よつたり (四人) それ 持つ のを あれ カカエテ。

かかえる (かかへる) (抱) 【他ア下一】 両腕で支へ持つ。抱く。カコフ (囲) と通ず (大言海)

かかぐ (掲) さし上げる。高く上げる。かか げ る 参照

かかくさ 【名詞】 妻 又は、母を卑しめて言う語 かか 参照 [会話] わるわれて (叱られて) ごおなわいと る時ん (腹が立って居る時に) カカクサ 言うて。

かかげ 【他ガ下一】 物を手などで高い所に置く 差し上げる、灯明などを灯す

かがし 【名詞】 案山子 (かかし) ヤキカガセ (獣肉を焼き串に刺して田畑に立てるもの、その臭で動物を追う) の上略でセをシと発音したもの (大言海) (志、鳥伊、松、桑市、桑郡、員、三、鈴郡、鈴市、津、一、多、尾、南) [会話] おどし のことなあ (です)。でこ ぼお のことな (が) カガシ。でっころぼおず言うて カガシ 言わんと (言わずに) でっころぼおず、でっころぼおずも こしやえて (作つて) 立て な はざん われ (立てなければ駄目だ) 言うて。

かかして 書かせて (安)

かかして 結婚して [用例] はよ (早く) カカシテ

するもんやど 飯もる (よそう) 時は かしき そこ
もり言うて。そげん (そんなに) 言うて 何もかも
教え込むんやんかな (込むのです) そんなのを 引っ
張って貰るて (貰って) 言うて 世話してやんのを
(やるのを)。

かかってこい 来い 相手になって挑んで来い

かかっとる 仕事、状態が進行中で有る [用例] 仕事
い (に) カカットル

かかっとる 一人前になり収入を得て居る [用例] あの
家 こららな (子供等が) カカットルもんで (ので)
楽に やってかれられ (生活出来る)。

かかっとる 引っ掛って居る えびなよけカカットル

かかっとる その傾向が有る

かかっとんね 掛っているのだ [会話] 追手な (が)
カカットンネ 言うて。

かかでんか 【名詞】 かかあでんかに同じ

かかなし 【名詞】 独身者を卑しめて言う語 [用例] あ
や (彼は) まだ、カカナシや (だ)。

かかべえ 【名詞】 母、妻を卑しめて言う言葉 かか
かかくさ 参照 (志 (片田)、鳥 (石鏡)) [会話] わ
るわれて (叱られて) ごおなわいとる (腹の立っている)
時ん (に) かかくさ カカベエ。

かかまいか 書かないでおこうか 掻かないでおこうか
[用例] 書こか (書こうか) カカマイカ カカマイヤ
(書かないでおこう)。

かがみ 【名詞】 供え餅 鏡餅 いそかがみ (志 (御座、
甲賀)、鳥 (長岡)) [会話] カガミ イソカガミ言う
のも有るし (有ります)、大きな餅を カガミモチ言う
てなあ (言って)。どいらい (大きい) のを イソカガ
ミ 言うけど (言いますが)。物置きへ飾りおった (祝
った・供えて居ました) 磯桶へ。イソカガミや (だ)
言うて 十一日になつと (なると) カガミピラキや
(だ) 言うて、十一日は浜祭りになつと (なると) ホ
イツイヤ コンコンと こつて (軽く叩く) おおび
な (鮑の) はな (端・行く先) 止める言うて おほお
 (小母さん) おおびな (の) はな呉れ、おおびな は
な 呉れや (下さい) 言うて。貰いに行きおった (行
きました)。子供らな (達が)、桶を わしらな (が)
のみ (鉄製の鮑を採るへら) 持つとて (持って居て)
餅を三つして それの上へ米を三つ供えて そいて
(そいて) ホイツイヤこんこんと その桶 叩いとい
て (ておいて) まめそくさい (健康・息災 (災なし))
で 商売 (仕事海女作業) さして 貰うよお、拝むや
んな (拝むでしょう)。ホイツイヤ こんこんと こつ

くと (叩くと) ほかへ渡る おおびな (鮑が) 渡りお
おび してくのを (して行くのを) そんで止まんねて
わな (それで止まるのだそうです)。十一日に 磯口開
ける言うて、磯口あける時 こんこんすんで (する
ので) よその磯場へ渡ってく (て行く)、おおびな 止
まる言うて (言って)、ほんで (それで) おおびのはな
や (だ) 言うて (餅の事を) おおびの はな呉れや
言うて みなな (皆が) 貰いに行くんかな (行くの
です)。さぶいのん (寒いのに) さぶうても (寒くて
も) 朝起きて おおびの はな呉れや 言うて、正
月の十一日言うて 寒かりおつて (寒かって) 家のも
んな (者が) 行くな言うのに 行て 風邪引いて 怒
られて それから ふつつり行かだつた (絶対に行か
なかつた)。カガミモチのうわもち、ちっさいのを (上
餅小さいのを) 上、据えとらな (据えて居なければ)
それを切って そいて (そして) カガミモチは 延餅
にして ぜんざいにして また まつり (祭り・祝
り) 行て。一日三回、祭に行くのに、最初に 洗米と
イソカガミ持って ツイツイして 磯口とめて来て
そいから (それから) イソカガミ持って来て 又 延
餅にして 又、来て 三回、祭りに行きおった (行っ
て居ました)。わしら いそどやよつてん (磯人・海女
だから) 磯口開けに行くけど (けれど) 普通の家は
正月十一日の 磯口言うのは しやせん (しません)。
おおびのはな言うのは 渡りおおびしてくの はな
一番先になつとんの (なつて居るの) 止める言う事や
わいな (です)。おおびのはなくれ おおびのはなくれ
子供らに おおびのはな言うて 皆 米と餅としとい
てあんのを (しておいてあるのを) 一握みいつ (ず
つ) くれんねてや (くれるのです)、そおすと 無いよ
おになつてくと (なつて行く) こんして (このように
して握って、物がある様に見せかける) から (空・く
う) ばつか (だけ・ばかり) 手ばつかする。とびき
 (ときび) の餅ばつか あの人 は くれて、どこやら
 (どこか) の人は 米餅ばつか くれてのお言うて
行てくと話しや (行てくと話します)。誰も、今日
は 貰うもん (者) おらせん (居ない) 思うと、船
のかげ (側面) に すくんどて (隠れて居て) 祭ると
ばたばたと出て来て 子供らな (が) おほおくれ (小
母さんください)、おほおくれ、言うて そやもんで
(だから) とびきでも 粟でも よつけきぞで (沢山
刻んで) 持てかなはざんなあ (持っていかなければい
けない) 言うて。ホイツイヤ言うのは 神さんへ 祭
んのんな (のに) 言うて 災難からのがして下され

(逃げさせて下さい) 言うよおな、頼むよおな、大漁さして(させて) 貰うよおな意味や(です)。竜宮さんに 掛ける言葉やなあ(です)。飛び込んでく時でも大漁させて下さい言う意味で ホイツイヤで 飛び込みおったもん (飛び込みで居ました)。今日一日 まめで (元気で) 大漁させて下さい言うもんや (ものです)。えべす (恵比寿) 大黒 何食うて肥えた ツイヤ ツイヤの米食うて肥えた (食うから肥えた) 言うやんかい (言います)。ツイヤ ツイヤ言うて 米、撒きよる (撒く) のを 食うて肥えた言うて。ホイツイヤ言う ことわり (許可) 竜宮さんへ 願い事する事や(です)。鯉船の漁師もホイツイヤ言う。皆、ホイツイヤ。海、祭る時は ホイツイヤ言うて。そすと ちょおとじ (帳綴じ・帳始め) の時でも 十一日なあ えべすさんへ掛ける (奉げる) 時は ホイツイヤ、大漁して今年はええ (良い) 年で有りますよおに 言うて、押んで、神さんへ おみき (御神酒) 上げて、ホイツイヤ何でも 神さんに上げる時は ホイツイヤ言うわい (言います)。

かがみ (鏡) 【名詞】 四角の木枠の底に ガラス板をつけて 海中をのぞく道具 覗きかがみ (志 (神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (菅島、答島、南、尾) [会話] 突きてな (銚で漁をする人が) 持つ ノゾキカガミな (です)。いそどんのは (海女のは) いそめがね。突き手な持つ覗き眼鏡 あれ カガミ。

かがむ (屈) 【自マ五】 1) 体を低くしてしゃがむ うずくまる 中腰になる (志 (浜島)) 2) 隠れる

かがめる (屈) 【他下一】 しゃがむ 腰や膝を曲げて低くなる

かかよ 夫から妻を呼ぶ語 (志、鳥)

かから (代) 【名詞】 仲間の妻が集まった時、複数の者を同時に呼ぶ語 (志、鳥)

かかり (掛) 【名詞】 1) 仕事の費用 (張) 2) 仕事をする時の身構え 3) 仕事の始まり (阿、張、名) 4) 仕事をする人、又リーダー 5) 場所のとりのつきの所 (伊賀地方) [会話] 3) カカリ言うのは 仕事が始まった時 カカリや (だ) 言うなあ (言います)。仕事カカリ言うし 4) 仕事を指揮する人を あの人のカカリやよってん (だから) 言うし、今し (今で) 言うリーダーを カカリや (と) 言いおった (言っていました)、仕事の責任者を。1) いろんな行事をした時 どんだけいったか (どれだけ必要だったか) 言うのもあれも カカリ。わりあいな (割合・持ち分が) かかった 言うて、此れには よけ (多く) わりあいな

(が) かかったとか やすかったとか言うて。

かがり 【名詞】 籠。畑や海に持って行く竹で編んだ(か)がった 籠。腰につけるもの 背負うもの 大小がある (志、飯、張、北) [会話] 二重籠を腰籠、子供らな(が) 持つのを ちっちゃあい (小さい) のを カガリ 小籠入れとけ (入れておけ) そや (それ) 言うて、竹で編む 籠屋でなあ。

かがり (篝) 【名詞】 籠火 (桑市、桑郡、北)

かかりど (掛人) 【名詞】 徒食する人。居候 (上)

かがりまき 【名詞】 網や糸の巻き方

かかりもん 【名詞】 網に掛かった物 特に海藻など利益にならない物 [会話] 今日は 底な (海底の流れが) いごいて (動いて) カカリモンな (が) おいいて (多くて)、もおや (藻だ) とか がりな (珊瑚が) ひつついとて (ていて) 網、捌くのん (の)に 昼迄かかったよお 言うて。底な (海の底の流れが) いごと (動く)と 網い (に) カカリモンな (が) して、それから 海老も掛るし (掛ります)。

かかりやい (かかりあい かかりあひ) (掛合) 【名詞】

- 1) 喧嘩。相手のやり方などに対し、苦情を言う事。
- 2) 人や物事とあるつながりを持って居る事。関係。(上、阿) 3) 他人の事件などに関して遺恨などを受けること。まきぞえ。

かかりゆ (掛湯) 【名詞】 入浴して出る時に体に浴びる湯。あがり湯。

かかる 【自ラ五】 1) 仕事を始める (取り掛かる) 2) 網にひっ掛かる (志 (浜島)) 3) 攻撃する 4) 一人前の収入を得るように成長した 5) なにか物に ひっかかる 6) 気にかかると心配する 7) 始動する (機械) 8) 設置される 9) だまされる 10) 扶養される (兄貴にかかると) (上、阿、四) 11) 経費を必要とする 12) 雨などが降る (桑市) 13) 身方する、援助する (志 (志島)、張、北) [会話] 1) 仕事へカカル (始める)、2) 網にカカルも有るし (有ります)、3) かかってくるの (攻撃する) 喧嘩カカル。4) それから ぜんかせぎ (収入を得る) かかって来て、まあ ひとしろ (一代、一人前の分け前) 当る (配当を受ける) 一人前になった者を カカル言うて。5) きり (端) にひっカカル事も カカルやんなあ (です)。きい (木) にひっカカル 言うて。6) 心配する 気にかカル 7) 機械な (が) カカル、8) 船に機械なカカル (設置された)。9) 海老も よれ (沢山) カカル言うし。9) 借金に引っカカル しんしょしもたんでない (身上なくした) 言うのも有るし、かけられたんでない (引っ掛け

られたそうだ、だまされた) 言うて。

かがる【他ラ五】 巻き付ける 着物の破けた所などをつくろう (南) [会話] 桶カガル言うしなあ (言います)、こいなもん (こんな物) を 糸でカガルとか、巻きつける言うのを カガル 言うて。なおすとか 修理するとか言うのも カガル。何かこお 網で カガルとか言うのは言うけど (言うが)。網で 破れた時 ちょいと (少し) カガツとけ (ておけ) 言うて言うけど、ひっちゃかかってくやんか (広がって行くではないか) 糸で カガツとけとか そん時 (そんな時) に 使うけど、まつる 言うのは なにか こお 物をそそくる (修理する) まつつとけ (修理しておけ)。

かかわり (かかはり) (係、関)【名詞】 つながりの有る事 関係する事 関係 動詞 かかわる (係) の連用形の名詞 [会話] カカワリのないよおん (ように) なんも (少しも) 口出しせんとおいとけ (せずにおいておけ)。

かかわる (かかはる) (係、関)【自ラ下一】 ある関係を持つ 干渉する [会話] 人が何かしたのおを (のを) こっちゃ (此処ら) に カカワルと あんな (彼の) とばかりで言うて。

かかん 書かない 搔かない 汗などをかかない (志、員、四、安、一、飯、松、多、張、度、北、尾、熊)

かき (垣)【名詞】 1) 垣根、柵 カク (構) の名詞形 (大言海) (三、鈴市、安、一、松、) 2) 人を隔てる 気持ち

かき (餓鬼)【名詞】 1) 子供を卑しめて言う言葉 特に男の子 (志 (全域)、桑市、三、一、多、張、度、伊、北、南) 2) 飲食をむさぼったり 物惜しみしたりする人 食を貪るよりして言う (大言海) (上、阿、名、南) 3) 無縁佛 かきだな参照 [会話] ¹⁾ ガキヤ (だ) 言うて 子供ら 特に男の子 怒る時に この ガキヤ (かきは) 言うて。ガキツブシよ くらいつぶしよ 言うて。男の子だけで なしん (無くて) 誰にでも 言う (言います)。女の子でも 言う (言います)。憎らしい時に この ガキヤ 言うて。この ガキヤ こいな (こんな) 事さらして (して) 言うて。ごおわかす (腹立てる) 時に くちぎたのお (口汚く) 言う時に この ガキヤ 言うて。

かきおき (書置)【名詞】 遠方に行く時 留守にする時 又、訪ねた人が 不在の時 用件を書き残して置く事 又、その文書

かきかえ (かきかへ) (書換)【名詞】 1) 遺産相続 (鈴郡、鈴市、安、名) 2) 登記の変更 3) 上手に書け

たのを下手なのと交換する [会話] ²⁾ 田地を 借金して 畑 やる よってん 言うて、それを 役場い (に) 登記する言うこと な (です) カキカエ 言うの な (のです)。借金のかたに 取られたのと、¹⁾ 親からゆずりうけん (譲りうける) のを カキカエ せんと (せずに) おって言うて、それもあるし。そんな (それが) 第一 やわいな (です)。親から まあ もろたけど (貰ったが) カキカエ な (が) 兄貴の もんに (もの) に せんと (せずに) 親の もんに して あんのな あ (あるのです) もろただけで (貰っただけ) 口だけで カキカエ せんとおる (せずにいる) 言うてなあ。³⁾ こやまあ (これは) へたなよって (下手だから) ええのと (よいのと) カキカエ たるわい (てあげます) 言うて な そいな (そんな) 時も カキカエ。

かきくさる 書く 搔くを卑しめて言う語 [会話] うその事を カキクサル 言うて、ほんとや (本場で) 無いことを書くと あいな (あんな) 嘘のこと ばっか (ばかり) カキクサル 言うて な。カキクサル 言うことは なあ 腹の立っとる時 ん (に) 言うこと な (です)。

かきぐすり (嗅薬)【名詞】 飲み薬 塗り薬などに対して鼻から嗅いで用いる薬 よだれたらし参照 [会話] おまや (お前は) 毒 な (が) あんねや ら 判ら せん ね よって (有るのか判らないから) カギクスリ せえ (しなさい) 言うて。

かきこむ (掻込)【他マ下一】 1) 搔いて自分の方によせる 2) 抱え込む 自分の物として離さない

かきこむ (掻込)【他マ五】 急いで食べる

かきざお (鉤竿)【名詞】 1) 船を操る時に用いる一端に鉤のついた竿 張り竿 2) 海底、高い所のものを取るのに先に鉤のついた竿 [会話] ²⁾ カギザオ 言う な (のは) ひっかけ ざお な (が) ある やん かい (あります) カギ ダ ケ で 引つ 掛け 言うて、綱を 底 ん (に) と ご つ と ん の を (洗んでいるのを) 鉤で ひっ かけ ん の な あ (引つ掛けるのです) 竹の 先に 引 掛ける も ん な つ い と ん の (物が付いているのです) カギ ザ オ で 引 つ 掛け ま あ (なさい) 綱 な (が) と ご つ て あ げ ら れ や せ ん わ れ (洗んでしまっあげられない) 言うて。綱 や ど け な (などが) 下 ん (に) し と る と な あ (している) それを カギ ダ ケ で 引 つ 掛けて あ げ ん の な あ (あげるのです) そ げ な 時 や (そんな時とか) か な み な (金網が) お つ て た (落ちていった) あ つ さ い よ つ て (浅いから) 鉤で 引 つ 掛け 言うて これは さ おの 先 な (が) ま が つ と ん の (曲がっているのです)。何んでも 人の も ん と て く る と (物取って来ると) ま

がとんねよって言うやんない (曲がっているのだから言うでしょう)、それも一緒に 海の底に あるもん (物) を 棒だけでは とりのくいよって (取りぬくいから) 引っ掛けるもんこさえて (物作って) 引っ掛けて来るしなあ (来ます)。そしてまた 横にあるもんでも 引っ掛けんいくしなあ (行きます) 遠いとこ (所) に 有るもん (物)。そして てんじょん (天井、上) あっても 桃な (が) なつとでも (なっている) も 鉤で こさえといて (作っておいて) 引っ掛ける。

かぎざき (鉤裂) 【名詞】 衣服などを釘などに引っ掛けて鉤状に裂く事、又その裂目

かきさく (掻裂) 【他カ五】 1) 爪でひっかいて破る ひきさく 破る 2) ひっ掻く かきむしる [会話] 1) カキサク 言うの (のです)。血が出てくんの (くるのを) カキサイトテ (てしまつて)。カキサク カキマクル カキサイトタ 言うの (のです)。血が出てくんの カキサク。着物でも破れて来ると 引っ掛けてカキサイトテ、破ったたれ (てしまつて破ってしまった) 肘 引っ掛けて カキサイトタナア (てしまつた) 言うて。

かきさす (書止) 【他動五】 書きかけて途中でやめる

かぎさわ 【名詞】 竹竿の先に鉤をつけたもの、かぎだけ 参照

かきすえる 盛に掻く、書く。すえるは盛に行なう意。かきたくる参照

かきする 1) 隔てる 2) 仲間外れにする [会話] 1) 鳥な (が) 入ってこんよん (来ないように)、狸んくわれたらんよん (に食べられないように) 垣せな (しなければ) 言うて、網、張つたり 何かで入ってこんよんすんのを (来ないようにするのを) カキスル 言うのな (です)。2) にげ (人間) でも かきせな あの人な (が) 来ると はざんよって (いけないから) 言うてな、何んやかや (色々) 言いに来んのを (来るのを) ゆわさんよん (言わさないように) せな はざん (しなければ駄目だ)、垣しとけ (しておけ) 言うてな、ゆわれんよん (言われないように) せなはざん 言うよおな場合も カキスル。その人を 入れまいよん (入れないように) して、垣しとかな (しておかなければ)。

がきだいしょ (がきだいしゃう) 【名詞】 餓鬼大将 子供の中の指揮者。

かきたくる (掻手繰、書手繰) 【他ラ五】 掻く 強く掻く やたらと掻く 掻きむしる 書く やたらと書く 書

きなぐる

かぎだけ 【名詞】 竹竿の先に鉤をつけたもの かぎざおに同じ [会話] カギダケ言うな (のは) 竹い (に) かぎな (鉤が) 付けてあるもんで (ので) カギダケ 木は おもたいもんでなあ (重いので、木に付けてあんのもあるし (あるのもあるし) 竹に付けてあんのもある (あるのもあります) カギザワ言うの (のです) 木でも 竹でも カギザワ言うのな (のです)。

かきだし (書出) 【名詞】 請求書 大福帳から個人別に抜き出して作るところから。(上、阿、張、名) [会話] 節季にかけとるとか言う それの カギダシあるなあ (あります)。かきだすのを カギダシとかな (ておかなければ)、しやまあ (それ) かけまわりん行かなはざんよってん (なければ駄目だから) 言うて、つけを、カギダシて みな 借しとんの (借せているのを) を しょおつたな (して居ました)。カギダシ言うことは 請求書。

かぎだす (嗅出) 【他サ五】 掘り出す 嗅ぎつける

かきたてる (掻立) 【他タ下一】 1) 火を燃えあがらせる 2) 相手の感情をたかぶらせる あふる (志 (布施田))

がきだな (餓鬼棚) 【名詞】 精霊棚 盆の間 餓鬼に飲食物を与える棚 (志 (布施田、甲賀)、北、尾) [会話] 盆 (盂蘭盆) のガキダナ あれは まつてくれる人が無い 餓鬼を 無縁仏を。あともち (跡取り) が、のおてすんのを (無くてするのを) めんめん (銘銘・各人) の家でも 無縁仏をまつる言う事やなあ (です)。がきに供える言うて。うろうろと、盆や (だ) 言うても (言っても) 迎えてくれる人も無いし あちらへ行てな捨て (行つては捨て) 食い こちら来てな (来ては) 捨ては食いしとんのやるなあ (して居るでしょう)。その餓鬼へ くれるもん (物) 自分が供えたのお (物) を一つづつ 何でも、茶でも おかざ (副食) でも、飯でも一品 (ひとしな) づつ 供えたのおを 食うたあと (食べた残り) を 普通 がきに供えた。仏さんに供えたあがり (残り物・不要のなつた物) を ガキダナに供えるの (のです) ちゃあ (茶) でも 何でも新しいのを しやせん (しません)。家のしょおろさん (精霊様・仏様) の下げたのを、ひとしるおつ (一品づつ) 餓鬼に与える言うて。そお言う意味や (だ) 言うけどなあ (言います)。がき言うのは あんで (あれで) 無縁仏の事言うんやるな (言うのでしよう)。無縁仏で まつてくれるもん (者) が おて (無くて) 食べんとおるもんで (食べないでいるので)。

がき言うて 瘦せ乾いてして 瘦せて餓鬼みたいなな
あ (だ) 言うやんかい (言います)。 そやよってんなあ
(それだから) 食わんと (食べずに) おるのを 可哀
いそおやもんで (なので) 無縁仏で、まつるにげなの
おて (人間が無くて) うろちよると さまよおとんの
(て居るの) へ、朝 ちやと (茶湯・仏前に供えるお
茶とお湯) したあがり (残り) を 今度すつとき (す
る時) がきに言うて、ながし (流し・台所の洗い場)
放らんと (放らずに・捨てずに) 外に放るわい (家の
外へ放ります)。茶湯さげて 今度、新しいのをする時
に、そのさげたのを ながし (洗い場) 放らんとなあ
ともとん (外庭へ) 放ると 餓鬼な (が) 飲むよおん
(ように) 言うて。昔の人ら (達は) そげんせえ (そ
んなにしなさい) 餓鬼のあたりやど (当り分・取り分
だぞ) そや (それは) 言うて、茶湯さげたのおを (の
を) 外に放る。盆は ガキダナにするけどなあ (け
れど)、つね (常・普段) でも 茶湯さげたのを わし
らげや (私の家では) 外い (へ) 放る。餓鬼な (が)
飲むのに 言うて、内へ放らんと (捨てずに) 外に放
んの (放ります)。

かきつけ (書付) 【名詞】 請求書 領収書 (津)

かぎつける (嗅附) 【他カ下一】 隠れて居る事を掘り出し
て知る

かぎつぶし (餓鬼潰) 【名詞】 子供などをののしって言う
語 (度、伊、北) [会話] 子供ら 特に男の子 怒る
時 此のかきや (は) 言うて ガキツブシよ (奴) く
らいつぶしよ (奴) 言うて。

かきて (書手) 【名詞】 書いてくれる人 書く役目の人
[会話] 書いてくれる人 言やええんけど (言えばよ
いのだが) カキテ 言うてなあ。

がきなついた。がきなついたよおな 物を貪り食べる様

がきのあたり 【名詞】 佛の茶湯をさげた物を庭に捨てる
事 がきだな参照

かぎばな (嗅鼻) 【名詞】 よく臭いの判る鼻 臭いに敏感
な鼻 又、その人 [会話] 鼻な (が) よお (よく)
きいてなあ ちよいと (少し) へえひつても (屁して
も)、誰やら へえひつて 臭いよお 言うて、おらな
んも (私は少しも) かぎなしやせんのもん (臭いがしな
いののに) 思もととも (思っていて) カギバナの に
ぎやなあ (人は、誰やら へえひつたかして (屁した
と思えて) 臭いよ 言うて、あや (彼は) カギバナやな
あ (だ) 言うて、鼻な (が) よお きく にげなあ
(人間です)。

かきまあす (かきまわす かきまはす) (掻回) 【他サ

五】 1) かきまわす かきまはす 手 棒などを物の
中に入れて 円を描くように回す。又、乱暴にあちら
こちら いじくりまわす 2) 干渉する 勝手な事を
して秩序を乱す かきまわす参照 3) かき集める
[会話] ① 何んもかも 一人で みな カキマアス言
うて、わがと (自分が) 何んもかも (何も彼も) 皆
わがもん (自分の物) に すんの (するのを)、わがと
皆 カキマアシテ あげん なんもかも 言うて 欲
の深いにげ (人間) のことを 言うんやろな (言うの
でしょう)。② カキマアシテ わがもんにして言うて。
掻き集めてくんの (来るのを) なんもかも 皆 あや
れ (あれ) わがもんにして 言うて、わがとなどこい
(自分の所へ) 皆 よせこむとなあ (集めると)。③
カキマアスで 人の話を あれ 嘘言い、これも 嘘
言いで カキマアシテ 喧嘩さして言うて、混ぜる
ことな (です)。④ そやまあ 塩な (が) いきまある
よおん (行き渡るように) カキマアシたれ (てやれ)
言うてな、こねんのをなあ (こねるのを) まぜあわし
たれ言うて、かきまぜたれ 言うて。カキマアシタ
レとか カキマアスで にじくりさがす じい (字)
カキマアスのもの、楽書。

かぎまある (かぎまわる かきまはる) (嗅回) 【自ラ

五】 何か知ろうとして探り歩く 人の欠点を探して回
る かぎまわる参照 [会話] カギマアル 言うな
(のは)、あんな (彼が) なんしとらせんかいな (何か
していないか)、こんな (これが) なんしとらせんかい
な 思て (思つて)、人な (の) しとることを (してい
ることを) 人の様子を うかがうのをなあ、カギマア
ル、まあ なんやかや こそこそと 言うてな、いなん
こと (いらぬこと) 言うて 内緒話みたよんしとんの
を (のようになっているのを) ききまあんのを (聞き廻
るのを) カギマアル 言うてな。

かきまくる (掻捲) 【他ラ五】 一生懸命に掻く かきむし
る [会話] ふのりや あまのり いそばたい (海岸
へ) 行くと、貝持てて ひとん (人に) とられたらん
うちん (取られない間に) かきまあして 先い 先い
と 行て ききまあり (先廻り) して ふのりでもな
あまのりでもな カキマクン ネてや (るのです)。ええ
とこい (よい所へ) かきよいとこを (掻きやすい所を)、
皮膚でも かぶれると かいて かいて カキマクル
やんない (でしょう) それも 言うしなあ。

かきまくる (書捲) 【他ラ五】 さかんに書く [会話] 字
書くのもあ かいて かいて カキマクル 言うて。

かきまめ (籾豆) 【名詞】 支柱につるを巻きつける豆 ふ

じまめ いんげんまめ マメ科のつる性の一年草。葉は三出複葉でクズの葉に似ているが毛が無い。小葉は広卵円形で長さ5~7cm、夏、葉腋から長い花柄が伸び紫又は白色の蝶形花を多数階段状につける。豆果は長さ6~7cm、扁平で鎌状形の長楕円形若い時取って食用にする。(三重県) [会話] カキマメ言うのは垣い(に)巻き付いてあれ、カキマメ 巻かせんのは(巻かないのは)豆言うし 竹に巻き付くのを カキマメ。

かきまわす (かきまはす) (播回) 【他サ五】 干渉する、脇から余計な事をする(張) [会話] うちんなか(家の中)を カキマワシテ、喧嘩さすの(させるのを)を、なか カキマワス。どもならんよって(どうにもならないから) うちんなか カキマワシテ こねくり回して 言う事なあ(です)。こねくりまわして言うて、なんもかも(何も彼も) こねくんねやれ(こねまわすのだ) 言うて。

かきむしる (播筆) 【他ラ五】 むやみに搔く(志(布施田)、張、熊) [会話] カキムシル言うて、かいて(搔いて) かいて 傷な(が) 出来るほど 搔くのを、カキムシル言うて。搔くと 傷な(が) 出来るやんかな(です)それを カキムシル 言うて、かきむしられて 血な(が) 出たんよお(出ました) 言うて。

かきむしりやい 【名詞】 喧嘩 [会話] ごおなわいてきて(腹が立って) 喧嘩して カキムシリヤイする。

かきむすび 【名詞】 解けないようにする結び方 おとこむすび(志(立神)、鳥)

かきもん (書物) 【名詞】 文書、書類 証となる書いたものの 請求書 領収書など かきもの(三、鈴市、伊、北)

かぎや 【名詞】 盗人

かぎや (代) 【名詞】 あいつはの卑語

かぎやく (書役) 【名詞】 書く事をする人 書記

かきら (代) 【名詞】 あいつ達 がきの複数形、らは複数を表す(三、鈴市、安)

かく (懸、欠、搔、書) 【動詞】 1) 禪を締める 懸(志(志島、国府)) 2) 壁の下地を編む しだてカク 3) 掃く、搔く 4) 田の草取りをする、田を耕す、搔く 5) かき集める、搔く 6) 削る、欠く(熊) 7) 賃金を払う、搔く(志(布施田)) 8) 泳ぐ、搔く 9) 書く [会話] 2) しだて カク(編む)、4) 田の草 カク、じい(字) カク、頭、カク。3) 此処らのごみ カク、昔は たきもん(焚くもの・燃料)が 無いもんで(ので) 皆、山へ ごみかきに行て(行っ

て) たきもんに せえおった(して居ました)。ごみカク言うのは かき集める さらい(竹の熊手)で 寄せるのなあ(のです)。2) しだてカク言うのは 編むわけやわい(です)。網で 巻きつけるのやってん(のだから)。

かく (核) 【名詞】 真珠養殖で真珠を作るため真珠層を捲かせるもの

かく (隔) 【名詞】 胃癌(張、阿)

かぐ (嗅) 【他ガ五】 1) かむ 鼻かぐ たまった鼻汁を息で放出し、紙などで拭きとる(度) 2) 鼻で匂を知る 3) わかりぬくいことを探る

かく (学) 【名詞】 学ぶこと 教えるを受ける事 学問 勉強して得た知識 [会話] 学問な(が) ある人。あの人 ガクな(が) あるよって(有るから) 言うしなあ(言います)。

かく (額) 【名詞】 数量、分量 員数、特に金銭上の数値 [会話] 何んやかや ものなよけ(物が沢山) あっても、ガクな(が) おいなあ言うなあ(多いです言います) おおた どいらい(大変) こやまあ(これは) ガクな(が) おいやんかい(多いです) 言うてな。

かくざと 【名詞】 角砂糖。小さく立方体に固めた白砂糖。

かくし (隠) 【名詞】 ポケット(志(鶴方)、鈴市、多、張、南)

かくじ 【名詞】 各人 各自 かくじんに同じ

かくしおとこ (かくしをとこ) (隠男) 【名詞】 間男 女がひそかに情を通ずる男 情夫

かくしおなご (かくしをなご) (隠女) 【名詞】 男がひそかに困っておく女 妾 情婦 [会話] おぼ(情婦)。二号さん。カクシオナゴしとんね(しているのだ) 言うてな、カクシオナゴ言うのならええけど(よいのだが)、おぼくたな(が) 言うて。ま おれげん(俺の家の) ととな(主人が) おぼくたもって(持っていて) 毎日 おぼくたな(が) とこい行て(所へ行て) 言うて、ごおなわいた(腹が立った) 時 言う言葉やなあ(です) おぼくた言うの(のは)。

かくしがね (隠金) 【名詞】 隠して有る金 へそくり(上、阿)

かくしぐい (かくしぐひ) (隠食) 【名詞】 人にかくれて食べること かくれぐい [会話] カクシグイする。何んやかや あんのを(有るのを) 人ん(に) 見せんと(見せずに) 食うの(のを) カクシグイして あやれ(あれ) 言うて。 人ん(に) くれんと(くれずに) 自分だけ 食べんのを(るのを) そして 食うたとも何んも言わんと(言わずに) 隠れたよん(ように) し

て、口のごとんのを(ぬぐっているのを)カクシグイして 口のごとられ(ぬぐっている)言うて。

かくしご(隠子)【名詞】 正妻でない女に生ませた子供世間に内密にして居る子供(上、阿、張)

かくしごと(隠事)【名詞】 秘密にして居る事柄 人に悟られないように ひそかに行う事柄 [会話] あんな(彼が)知らんうちん(知らない内に)隠しとけ(ておけ)とか、とつとけ(取っておけ)とか 言う すこい(ずるい)事すると カクシゴト。

かくしだて(隠立)【名詞】 事をかくして人に知られないようにする事 [会話] 何でも まあ 隠して。おば(情婦)持っとなねやんないてや(持っているのでしょうと言えば)なんもやれ(何にもだ)なんも(全く)そいなもん有るかえ(そんな物有りません)言うて、持っとな(ていて)無い 無い言うのを カクシダテして 言うてな。食うもん(物)でも 内緒でま 戸棚い(に)隠したり 押入、入れたりするとカクシダテしてまあ 言うて。みな 知っとなのん(知っているのに)言うて。

かくしのみ(隠飲)【名詞】 人にかくれて酒を呑むこと [会話] 舅爺さんな(が)焼酎 売っとなねやんかな(売って居たのです)。そすと(すると)わがと(自分で)飲むのん(に)コップ一杯だいどこい(台所に)来て 飲むのは 飲むんけど(のだが)、そこで 汲んどいて(でにおいて)キュッと飲んどいて こっちやい(こちらへ)わがと(して)一杯飲んだふりしとんね(して居るのです)。ほすと(すると)婆やんな(が)見とて(見ていて)あやれ カクシノミして言よおつたね(言って居たのです)かくれのみやなしん(でなくて)カクシノミ。

かくしばしよ(隠場所)【名詞】 物を隠しておく場所 物を保存する所 [会話] 場所やわいな(です)。カクシバシヨを まあ あつちやい(あちらへ)置き、こつちやい(こちらへ)置きすんのを(するのを)、カクシバシヨは その隠す所。どこい(何処に)隠したらええかいなあ(よいか)言うて、カクシバシヨ 探すのん(に)弱わたつたよお、言うやんかい(言います)よお(よく)へそくりを 隠しとるやんかな(ています)。奥さんに隠して 額の 後ろい(に)置いたり、そすと 奥さんは 冷蔵庫い(に)入れたりしてなあ 隠しとる(ている)へそくりを。

かくしゃ(学者)【名詞】 物事をよく知っている人 理屈を言う人 [会話] もの よお(よく)知っとな(ている)人を、ガクシャ 言うし。学校出ると人とか

学問の出来る人をなあ ガクシャや(と)言う。あの 人 ガクシャやよってんなあ(だから)言うて、わしらな(私達が)なんか 知っとな(ていても)ガクシャや言わせんねなあ(とは言わないのです)。ものしり言うて あや(彼は)猿の尻より ものしりやなあ(だ)、言うて ものしりや(です)。

かくじん(各人)【名詞】 それぞれの人 おのおの 独自に 一人一人 [会話] カクジン言うな(のは)一人一人のことな。かくじん(に)まあって(廻って)言うよってな(から)なんや(何か)こべつんまあるとなあ(個別に廻ると)カクジン まあって 言うてな、一人一人のことをなあ そげん言うんやわい(そんなに言うのです)。一人一人に言うことを カクジンにまあって 言うて。カクジン言うことを おのおの、言うことやる(でしよう)一人一人言うことやる。

かくすべ(蚊燻)【名詞】 蚊を追うためにいぶすものかあくすべ参照(志、松、多、上、阿) [会話] カクスベ言うて、昔、よごめ(蓬)を 干しといて(てにおいて)そして 蛸壺みたよなのおな(のようなのが)有って、土器ののおい(のに)ぼらなあいとて(穴が開いていて)それい よごめの乾いたのお 詰めて火つけといてなあ(つけてにおいて)くすべんの(いぶすのです)蓋しといて(してにおいて)。そすと けぶりな(煙が)出て、そして カクスベ、かあ(蚊)を燻す言うのを カアクスベ言うのなあ。カアオイ(蚊追い)言うのは 笹を切つといて(てにおいて)ゆわえといて(東ねてにおいて)そんで(それで)かあおうの(蚊追うのです)。笹箒でかつといて(追ってにおいて)蚊帳い入れい言うて 蚊帳、捲くって 入る時 かあいれるもんで(蚊入れるので)ささぼおきで かつといて入れよお(追ってにおいて入りなさい)言うて。

かくせえ(かくせい)(学生)【名詞】 学生 特に高等教育を受けて居る者

かくたい(楽隊)【名詞】 器楽を演奏する人の集団 音楽隊 ちんどん屋(志(布施田)) [会話] ガクタイ。太鼓叩いたり じゃじゃん どんん言うのを ガクタイ。鼓笛隊のことを 今し(の)あれを ガクタイ言よおつたのな(言って居たのです)。

かくのごとく(如此)【副詞】 その通りに 思った通りにこの様に [会話] カクノゴトクに御座候。カクノゴトクに 思った通りに言う事を、カクノゴトク言うんな(言うのです)おもた(思った)とおりに言うのをカクノゴトクや(だ)言うて。カクノゴトク あやれやって来たれ(あれやって来た)言うて。

かくばる (角張) 【自ラ五】 かたくなる 緊張している 威張っている 改まる [会話] カクバル言うて、どいらい (大変) 緊張することやなあ。どこやかやい (何処かに) 行くと 人な (が) よけ (沢山) 居ると 緊張しいきったとんのを (ているのを) かっとおなっ とんのを (堅くなっているのを) カクバル。

かくまう かくまい (かくまふ) 【他ワ五】 隠す かばう 庇護する [会話] 家へかくもといてくれ (まっっておいて下さい) 言うて、カクマウ言うのも有るし。何かを これ かくしといてくれ 言うのを かくもと おてくれ 言うけど。これ まあ かくといてくれ (囲っておいて下さい・かくしておいて下さい・保存しておいて下さい) 言うて。

かくまき (角巻) 【名詞】 女性が防寒用に頭顔を覆う布 (志 (布施田)、鳥) [会話] 頭にかぶる 三角のカクマキ、四角んのおを (四角の布を) ぼんと折って、そ おすつと (すると) 三角になって カクマキ。カクマキに使う布は 四方な 二尺位や (です)。それより ちいそおてもだ、ええけど (小さくてもよいが) たいがい (大概・大部分) 二尺位のを、角にしといて し おったけど (しておいてしましたけど) 今しは (いまは) カクマキシやんと (せずに) あの 帽子なあ (です)。

かくや (楽屋) 【名詞】 舞台裏 内幕 物事の内情や真相ないしょ 内情 [会話] ガクヤ言うて 化粧したり いしょ (衣装) つけたりするとこ (所) をなあ ガクヤ 言うて。舞台裏のことを ガクヤや (だ) 言うて、おらげの (私の家の) ガクヤ 誰やら (か) のぞいて た (覗いて行った) 言うて、その ガクヤ お勝手の ことのお (です) お勝手な (が) なんもかも (いろいろ) 置いて がしやがしやん (に) してあると、ガクヤ みたよななあ (のようだ) 言うやんかな (言います)。ま 整頓せんと (せずに) 置いてあると 人らな (が) 見てくと (行くと) はずかしやんない (恥ずかしいでしょう)。そやもんで おらげやまあ ガクヤ のぞかれたたなあ (てしまった) 言うて 言うんでや (言うのです)。人に 見せたくない (見せたくない) 乱れたとこやなあ (所です)。

かぐらさん (神楽棧、神楽山) 【名詞】 舟を引き上げる時に使用する巻綱器 太い軸木に長い柄をつけたものろくろ しゃち (車地) しゃじく (車軸) の略と言う (大言海) (志 (布施田)、鈴市、津) [会話] カグラサン言うのは 舟まく (巻き上げる) よいしょ よいしょ 今しは無いなあ (今は無い)。

かくらん (くあくらん) (霍乱) 【名詞】 暑気あたりの病 普通、日射病をさす。きかくりょうらん (気揮霍捺乱) の略 もがいて手を激しく振り回す意 から。(志 (浜島)、上、阿) [会話] カクラン 鬼のカクラン 言うて、あつけ (暑気・高温) 当てられる事 あつけあたりすんのを (日射病・うつ熱状態になるのを) カクランや (だ、と) 言うて。昔は、カクラン 言うて おとろしよおなわ (怖いようだ) 思っておった (思った)。あつけあたり言やええもんなあ (言えよいのに)。い かつい (健康な・元気な) 人らな (が) 風邪引いたり すると 鬼の カクランやなあ (だ)。今しのにげ (今の人間) は カクラン でや (とは) なんかいなあ (何かな) 思とるわいなあ (て居るでしょう)。あつけに当てられた言や (言えよ) 暑さに負けた 思とるけど (思っているが) カクラン した言うて なんやかな (何だろう) 思う。

かくり 【名詞】 避病院 伝染病患者を一定の場所 (避病院) にへだて離すこと 又その場所 (志、鳥 (答志))

かくれあそび (隠遊) 【名詞】 人に隠れて遊ぶ事 遊興の町で遊ぶ事

かくれぐい 【名詞】 かくしぐい 人に隠れて物を食べる事 [会話] かくしぐいする。何んやかや 有んのを なあ (有るのを) 人ん (に) 見せんと (見せずに) 食うの (のを) かくしぐいして あやれ (あれ) 言うて、人ん (に) くれんと (くれずに) 自分だけで食べんの をな (食べるのを)。そして 食うた (食べた) とも 何んも言わんと (何も言わずに)、隠れたよん (ように) してなあ 口のごとんの (ぬぐっているのを)。あや (彼は) かくしぐいして 口のごとられ (ぬぐっている) 言うて カクレグイ 言わんと かくしぐい かく くて食うこと かくしぐい 言うてな。

かくれこ (隠子) 【名詞】 子供の遊び 隠くれんぼう (志、度、伊) [会話] かくれんぼ カクレコ する者 寄つといで かくれんぼ カクレコ。

かくれのみ 【名詞】 人にかくれて酒を飲む事、又、かくして飲む事 かくしのみ 参照

かくれば (隠場) 【名詞】 隠れる場所 場所

かくれんぼ (かくれんぼう) (隠坊) 【名詞】 鬼ごっこ (志、桑市、員、三、四、鈴市、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、北)

かけ (賭、掛) 【名詞】 1) 約束 (志 (御座)) 2) 借金 かけ売り かけ買いの略 かけ とり参照 (上、阿) [会話] 2) カケ 取り言うのは、正月カケ 取り言うて、みせや (店屋) から 借つとるのを (借りている) カケ

取り言うのも 有るし (有ります)。かけとり言う鳥な (が) 止まって やぼ (野暮) 言う棒で かったおしたたんでわ (かりたおしたそうだ)。正月ん (に) かけとりな (が) 来るやんな (でしょう)。自分で借つとておつて (借りておつていながら) 払わまい (払わない) 言う事や (です)。野暮な事言うて (言つて) 払わんと (払わずに) おくのを。今しのにげ (今の人) でも だらしな だしぎたないなあ (支払いをいやがるのは) なかなか出させんし (出さないし)、取りん (取りに) 行くと ひゃっぺらべんも (百度・多く) 文句ばつか (ばかり) 言うて。出し汚い家は ほんとに (本当に) ことわり (許し) 言うのも 又 上手で、有つても払わへん (金が有つても払わない) 人も居るし (居ます)。そのカケと 1) もう一つ 約束やなんか (とかを) カケしょおか (しましょう) 言うて、よお 言うなあ。何々を 今日か あした (明日) かにする言う、カケを。あした (明日) のする、カケ しとこか (しておきましょうか) 言うてなあ。あの人な (が) 何時なら 何時 来るやんな (来るでしょう)。来るか 来んか (来ないか) カケしょおかとか、負けるか 負けへんか (負けないか) カケしょおかとか言うて。

かげ (影) 【名詞】死体 実体なく形のみある事から かげかくす参照

かげ (陰) 【名詞】日陰地 物陰 [会話] カゲ 人影 あのものカゲへ かくれるとか、人のカゲ かげぼおしのカゲとか 物のカゲとか コカゲい (木陰に) 行こやたら (行きましょうとか) 言うてなあ。木のカゲへ行くよおになると。

がけ (崖) 【名詞】山や崖などが険しくそばだつて居る所 岩壁 (張)

…**がけ** 【接尾語】ある事をして居る途中である し始めである し始めそうな状態である かかり、かかると、との関係ある語 (方言俗語語源辞典) (志、員) [会話] 仕事のシカケなあ (です)。しとると 仕事の シガケやのんなあ (だのに) あの人な (が) 言うて来て、こや (これは) 行かなはざんわれ (なければ駄目だ) たら、言うてなあ。仕事の シガケやよお (です) ちよいとまつとてえ (少し待って下さい) 言うたり。

かけあい (かけあひ) (掛合) 【名詞】相談 話し合い (志 (布施田)) [会話] カケアイ言うたら なんやかやを (何か彼か) かけよて (かけあって・相談して)、割りおとこか (割りあっておこうか・分担する) 言う時も 言わせんか (言いませんか)。物買うのに 仲間

でカケヨテ買おか (相談して買おうか) 言うたり、する時も有るけど (が)。仲間でぜん出し (といて (銭出して) 五人でも十人でも そこにおける人が 皆で、買おて ぜんを割りおて買おか (各自平均して買おうか) とか、分けよ (分けよう) とか 割りあい (割り当て) 言う事を、かける言うなあ (言います)。割りあしようか言う事を カケアウ言うな (言います)。かけおとおて (ておいて) しょおか言うしなあ。一旦 (一度) かけおとおて 分けよか、そう言う時にも 使うけどなあ (使います)。あすこ (あそこ) の家へ カケアイしてこおか (こようか) おらん (私に) それ売つてくれとか 言うて カケアイして 相談する言うんかい (言うのですか)。喧嘩しに カケアイに行こか (行こうか) 喧嘩のカケアイ あやまあ (彼は) 喧嘩 買いやよつて (だから) 喧嘩ふっかける にげ (人間) は 喧嘩買いや (だ) 言うて。

かけあう (かけあふ) 【自ワ五】相談する 話し合いをする 要求、要望などを持って相談に行く

かけあわす (かけあはす) (掛合) 【他サ五】動物を交尾させる 植物を交配させる [会話] カケアワス言うな (のは) 花と花と カケアワス。かぼちやを 雄花と雌花と あさつゆ (朝露・朝早く) に カケアワスと おつてかんと (落ちていかずに) とまる言うてな。すいかでも 雄花と雌花と かけたる (てやる) となあ、おつてかんと 皆なあ とまる言うてな。花粉を はちやなんに (蜂とかに) すわれたらんうちん (吸われない間に) あさつゆ (朝早く) に 交配さすのなあ (させるのです) カケアワスは 交配させる 言うこと。

かけうり (掛売) 【名詞】借の銭を貸して品物を渡し後日 金銭を受取る商いの仕方

かけえ 1) 書きなさい 2) 掻きなさい (度、尾)

かけがい (かけがえ、かけがへ) (掛替) 【名詞】かけがえ 掛替 とり替える事 代り 控え [会話] カケガイな (が) ない にげやつた (人間だった) とか、品物でもな 大事の物を。カケガイな (が) ない人を 亡くした言うて。物でもなあ カケガイの 無いもん (ない物) を 失したたよお (失ってしまった) 言うてなあ言うの、大切な物 言う事やわな (です) それを カケガイのない。

かげかくす 仮埋葬 (志 (浜島、布施田)) [会話] カゲカクス あの人な (が) 死んでて (でいって) カゲカクス。今日は 友引で カゲカクスンテワレ (隠すそおだ) 言うて、死んだ人のからだを 隠す事なあ (で

す)。本葬式 やなしに (でなくて) 仮埋葬することをカゲカクス。カゲは 死骸や (です) 死骸かくすんで われ 言う、ききのくいよってなあ (聞きぬくいから) カゲカクス言うてな。

かけかまい (かけかまひ) (掛構) 【名詞】 関係 気にかける (かけかまい) 掛け構い 気にかける事 こだわること かわりあい

かけかまひのない (掛構) 【名詞】 無関係である事 (熊) [会話] 関係ない言う事や (です) カケカマイノナイ。おらげ (私家) と かんけえ (関係) 無い 言うのを、カケカマイノナイ うちやとか (家だとか) 言うけど (言うけれど)、そいな事な (そんな事は) カケカマイノナイ事 おらに言うたて (私に言っても) わかる かれ (判りません) 言うて。

かけぎ (掛木) 【名詞】 物をつり上げる時 レ形になって居る木 一端に綱をつけて 一端に物を吊り上げる。多く木の枝を利用する [会話] 二階 物置に 物上げる 引っ掛ける鉤なあ (です)。またいし (股にして) おいて 引っ掛けといて (て) おいて にかえ (二階) から、ひっかけや (と) 言うて こげな かぎ (こんな鉤) こさえといて (作って) おいて 家の やね いなあ (屋根裏に) かい や まして 来て わり き や (薪だ)、はぎ や (だ) とか言うて ゆ わ え ると な あ (結わえる) と) みんな 二階で乾燥させて なあ 二階 い (に) 貯 わ え る 訳 や ん かい (です) 一年中の物を その時に その鉤で 引っ掛けて なあ、にかえに 居る人は お る や ん ない (居るでしょう)。そすと 下 ん (に) 居って ひ よ つ と ひ っ か け た ら と (引っ掛けてやると) にかえ から 上げて なあ、し よ お つ た (して居ました) 二階 え、さ し や げ ん の な (差し上げるのが) え ろ お て、お も と お て な あ (大変で重くて) 男の人は、い か つ い よ つ て ん な あ (強いから) 一束 よ お (よく) し ゅ つ と す る か あ る う い (軽く) よ お す ん ね ん け ど (よく出来るが)、わ し ら (私は) 一束 な ま ん の (生ののを) よ お あ げ ん ね (あげられません)、そ や も ん で ひ っ か け と い て (引っ掛けておいて) カケギで。かけんじ言うて 若布でも なあ よ つ と ろ と (寄っていると) あれで か き ん 行 き よ お つ た や ん か な な あ (引っ掛けに行つて居ました)。い つ ま た ん な つ と ろ (五股になっている) 松の枝を 切 つ て き と い て (来ておいて) 真中の き い (木) を ぼ お さ い と い て な あ (棒刺しておいて) な あ (縄) を 巻 い て (くくつて) そ ん で、め え (若布) や な あ、も お ひ っ か け ん の な あ (藻引っ掛けるのです) は い つ て く の ん え ら い も ん で (入つて行

くに大変なので) 遠 い と こ (所)、そして ひ っ か け や (だ) 言うて カ ケ ギ 言う時は 二階へ上げる時の、か け ん じ 言うのは 松の枝を切つて来て そ れ い、な あ (縄) を巻きつけて に か い え あ げ ん の わ (二階へ上げるのは) 網 で す る し、これは 竹 い (に) し て あ ん ね (してあるのです) 竹 の な あ が い の い な あ (長いのに) ぐ も の へ ん ば み た よ ん し と い て (蜘蛛の巣のようにしておいて) そ ん で (それで) め え や ど け (若布など) 引 っ 掛 け に 行 き よ お つ た わ い (行つて居ました)。

かけぎよ (景清) 【名詞】 魚名 金時鯛、キントキダイ科の海魚。体長は30cmに達する。体形はタイ型、体色は鮮紅色で背鰭、尻鰭、腹鰭に褐色の小円紋が散在。目、口とも大きく下顎がやや突き出る。食用。(尾、南) [会話] 魚のカケギョ 平家の大將 景清。

かけきん (掛金) 【名詞】 ある目的のために定期的に蓄える金、掛銭 かけせん参照

かけぐち (陰口) 【名詞】 内緒話 本人に聞こえないように その人の悪口を言うこと (阿) [会話] カゲグチ。ど こ や ら い (何処かへ) 行て お さ う つ と て、来 や せ ん わ れ ま あ (怠けて居て来ない) 言うて カ ゲ グ チ。

かけくら 【名詞】 走りくらべ かけくらべの略

かけご (懸籠) 【名詞】 木で作った四角な枠のついた浅い箱 さ ま し [会話] 餅 し た り あ ら れ し た り 団 子 し て も そ れ い (それに) 入 れ と け (て) お け 言うて カ ケ ゴ と か さ ま し と か 言うて。

かけごと (賭事) 【名詞】 博打

かけこむ (願込) 【自マ五】 押しかける 許可無く相手の家に行く 怒鳴り込む のりこむ [会話] カ ケ コ ン で 来 て 言 う な (のは、まあ あの人、追われて カ ケ コ ン だ よ お 言 う て、勢 い よ く 走 り こ ん で 来 る は あ は あ 言 う て な あ ふ い ご お こ し て (大きな息をして) 走 つ て 来 る こ と カ ケ コ ム 言うて。

かけごや (掛小屋) 【名詞】 臨時に作った興行物などのための小屋 一時住まいのため作った簡単な家 [会話] カ ケ ゴ ヤ 言うて じ つ き ん (すぐに) う ち や つ た ん ね よ つ て (壊してやるのだから) ト タ ン 葺 き と か か や 葺 (草屋根) とか言うて す ん の を (するのを) カ ケ ゴ ヤ。

かけじ (掛字) 【名詞】 床の間にかける軸物 掛軸 (志 (布施田)、員、鈴市、松市、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南、熊)

かけじく 【名詞】 床の間にかける軸物 [会話] カ ケ ジ な あ 床 の 間 い (に) 掛 け る 天 照 大 神 や と か 氏 神 さん、あ れ や (あれだ) とかなあ。カケジ、カケジク

言うのな (のです) 絵が描いといて有っても 軸ん (に) なつとんのは (なっているのは) カケジ。カケジ言うたり、カケジ言うなあ (言います) カケジも掛けて言うてな 字な (が) 書いてあんのを (有るのを) カケジ言うんかい (言うのですか) そおやない皆 カケジ、絵な (が) 描いてあっても みな カケジ言うんな (言います) 山水でも何んでも カケジや 言うてな (だ言います)。

かけしよおや 約束しましょう [会話] カケシヨオヤ言うて、指きり言わせんのなあ (言いません)。カケシヨオヤ言うて こやいび (小指) と こやいび ねじて。

かけする 約束する かけ参照

かけせん (掛銭) 【名詞】 ある目的のため月掛け日掛けなど定期的に積み立てて行く金銭 [会話] 毎月 カケセンして、積立金のことを カケキンや (だ) 言うてな。毎月まあ 5円つ (づつ) かけよやんか (掛けましょう) 旅行い (に) 行くのん (の)に 言うたり、たのむしや (頼母子だ) 言うて カケセンしよおったやんかい (して居たで有りませんか)。カケセンな (が) してあって言うて、毎月でも 毎日でも 毎日 かけんな (掛けるのは) 日掛け言うしな、毎月すんな (するのは) 月掛け言うし そお言うのを ひっくるめたもん (もの) を カケキン 言うのな (です)。

かげぜん (陰膳) 【名詞】 旅行などで不在の人が飢えないように留守宅でその人のために供える食事 (尾) [会話] カゲゼン言うの 何処やかやい (あちらこちら) 働きん (に) いとと (行っている)、腹な (が) へるとはざんよってん (いけないから) 言うて、家のおかあさんな (が) 膳えなあ おしん (味噌汁) でも、おつけ (味噌汁) でも、わがとらな (自分達が) 食うもん (物) を一組作って そして それ、もっておいとくこと (よそって置いておく事) カゲゼン言うて。カゲゼン作って言うてな 腹へらすとはざんよって カゲゼンや (だ) 言うて、家で 膳作ってだいでこい (台所へ) 置いといて (ておいて) 食よおったわい (食べて居ました)。昔、食うもんな (食物が) 会社なら 会社で 食うだけで、他に 間食するともないもんで (ので) 腹、へらす 言うて 家のもんな (者が) きい使こて (気使って) そえんしよおったんやろな (そんなにして居たのでしょうか) カゲゼンや (だ) 言うて。

かげぜんあげる。かげぜんすえる 陰膳を供する事 (員) [会話] 一緒のことやなあ (です) 膳作って置くことを カゲゼンアゲルとか スエルとか。

がけち (崖地) 【名詞】 崖のある所 崖 不毛の地 (志 (安乗)) [会話] 崖な (が) くずれて (崩れて) くる よおなとこ (所) を ガケチやよってん (だから) 言うて、ガケチで危険だ言うて。

かけちろ 【名詞】 欠けて居る部分が多く有る器物 [会話] 欠けとんのおな (て居るのが) よおけ、いくところ (沢山いく所も) 欠けとると (て居ると)、こや (これは) カケチロやれ (だ)。

かけっこ。かけくらべ 【名詞】 競走 走りくらべ。はしりやい [会話] カケッコ言うのは 走りやい (走りあう事・徒歩で走り争う) の事を 言わせんかい (言いませんか)。カケッコ カケクラベ 走りあい 走りやいしよおや (しましょう) 言うて 昔や (昔は)。カケッコ しよおや 言う人も有るし、走りやいしよおや。走りやい言うのは としりあいやら (走る・疾るとか) 昔の人は としろや言いよった (走りましょう言って居た)。

がけつちよ 【名詞】 崖 (志 (越賀、片田、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、安乗)、三、鈴市、安、松、多、上、阿、張、名、伊、鳥 (桃取)、尾) [会話] 山のガケツ チョから 降りたとか、ガケツ チョ言うのは 崖の険しいところ (所) を、ガケツ チョに登って (行って) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。ちよ言うのは 一番はしっぽの方 言う意味やるなあ (でしょう) ガケツ チョ言うよって (から)。

かけとり (掛取) 【名詞】 掛け買い代金の取り立て。又、その人 借金取り。かけ 掛け買い 掛け売りの略 買掛金 売掛金 掛け売り 代金を後で払って貰う約束で品物を売る事 掛け買い 代金を後で払う約束で品物を買う事 (志 (布施田)) [会話] かけ取る言うのは 借金を取る、取りん行く (取りに行く) 事を カケトリ。せつき (節季) と言う木へ かけ取りな (鳥が) 止まって やぼ (野暮) 言う棒でかったた (狩った)。節季な (が) 来ると カケトリ 言う鳥が 飛んで来んの (来るのです)。節季、つまって (押し迫った) 来た事を。年の瀬な (が) つまった事を 言うんやろ (言うのでしょうか)。盆 (盂蘭盆) 暮れ (年の暮れ) 節季になつたんやろ (なつたのでしょうか)、盆の節季に払うわ (払います) とか言うのなあ (のです)。盆の節季と 正月の節季と 二期に 払わして貰うとか言うて、借金払う時に言うけど (言いますが)。

かけとる (欠) 欠けて居る 一部分欠損して居る。かける 欠ける 硬い物が、別の硬い物にぶつかって一部が 本体から離れる。きちんと揃って居るべき物が一

部分無くなる あるべき要素が不足する。[会話] 半分うちゃれた (壊れた) のを カケトル (欠けて居る) 言うのもあるし、あの家は 五人兄弟やった (だった) けど 一人カケテ言う時も 有るし。一人 死んでくと (しまうと) 五人兄弟やけど (だが) 一人欠けてて (ていつて) あとあ (は) 四人やなあ (だ)。皿や (とか) なんやら ちよいと (少し) 欠いたても (欠いてしまっても) カケテ危いわ。欠けてたよお 欠いたたよお 言うて 欠け茶碗や (です)。

かけとる 1) 書けている 2) 掛けている 3) 賭けている

かげない 往時の面影がない。影がうすい。(志 (布施田))

…**がけに** ついでに 行きガケニ (員) [会話] いきガケニ かえりガケニ、これ、ちよいと (少し) いきガケニしといて (しておいて) 行てくれまあ (行って下さい) 言うて。いきガケニ言うて 行く前に こや行く迄ん (に) これちよいとしといて 呉れ言うのいきガケ。そして かえりガケ言うな (のは) 帰って来る時ん (に) かえってかんならんけど (帰って行かなければいけないが) これ、ちよいとしてもらお (少ししてもらおう) とか、これ、もててくれ (持っていて下さい) とか言うてすんの (するのを) イキガケカエリガケ 言うのな (です)。行く時とか 帰る時いきガケニ、これ、持てて 呉れ言うな (言います) ことづけんのなあ (ことづけるのです)。行くついでにこれ、持てて やって呉れえ言うことやな (です)。

かけね (掛値) 【名詞】 実際の売り値より値段を高く言う事又、その値段 (上、阿) [会話] カケネする。ねえよお入れる (値段よく買う) 言うのも 有るし、なんやかや (何か) 物こおても (買っても) ねえをかける (高値をかける)。

かけのいね、**かげのいね**、**かけのうお** (懸魚) 【名詞】 婚礼の時に使用する同種、同大で腹を合せて結び合わせた二匹の魚 一掛け 二匹の意あり かけざかな かけだい (神前に供える魚、古代は枝に懸けて供えた) 祝賀の時、美しい縄で結び合せて台の上に置く二匹の生鯛からの語か (志 (布施田)、尾、熊) [会話] 結婚式の時にうなし (同じ) 魚を 藁に通して、腹と腹を合わして (合わせて)、つの (角樽) に掛ける。それを、カケノイオ (魚)。そやもんで (それで) おなし (同じ) よおなのを カケノユオみたいななあ (ようだ) 言うて よお (よく) 言う。おなし (同じ) 物見ると二匹やけど (だけど) おん (雄) とめん (雌) 言う事

やなしに おんとめん言うても 整わせんし (手に入らないので、同じ こんくらい (30cm~50cm 位) の大きさんのを (大ききののを) 有ると そんで (それで) 一対にしとくの (しておくのです)。カケノイオは めったん揃わへんもんで (なかなか揃わないので)、めんや おんや言うて 分けとるなんは (分ける事は) 無いやろなあ (無いでしょう)。唯、同じよおに揃とると (揃って居ると) ええんやろな (よいでしょう) 夫婦、言うよおな意味やなあ (意味です)。腹と腹を合わして (合わせて) 藁の三つ組い (へ) 組んだのを たまむすびに (玉結、解けないように) して、ほんがい (ほが^い・顎の下) から通して 腹向き合して 掛けんの (掛けるのです)。

かけはなれとる 【動詞】 次のものとの隔りが大きい 身分 資産 学問 あらゆる事に言う (志 (布施田))

かげひなた (陰日向) 【名詞】 人の見て居る所と見ていない所で所業が違う事

かげふみ (影踏) 【名詞】 相手の影を踏みあい 踏まれた者が鬼になる子供の遊び (三重県全域) [会話] カゲフミよおしよおったな (よくして居ました)。日の照る時んなあ (に) 影を よお ふみよおったなあ (よく踏んで居ました) 走って 影 追わえて カゲフミ言うて しよおったな 遊び 子供らの。

かげま (陰間) 【名詞】 男色を売る事又その人。歌舞伎の語。舞台に出ず陰に居る間の意 (大言海) 江戸時代の初期はメカケ (妾) の別名。景政は片目がかけて無かった。即目カケであったから妾をカゲマ (景まさ) と言った。もとカケマでカキクケコのカとケの間キクで菊座、即 男色の意。

かけむすび (欠きむすび) 【名詞】 解けないように固く結ぶ事 (志、鳥、上、阿) [会話] きちんと結んだると (結でやると) カケムスビにして言うな (言います)。カケムスビ言うのは きちんと ひきほどきせんと (引き解き・引く張るとすぐ解けるせずに)、ほどくのに (解くのに) 手を加えなはざんやろ (なければいけないでしょう)、それを カケムスビ言うんな (言うのです)。男結び言うんやろな (言うのでしょうか) カケムスビは、蝶結びは女結びや (だ) 言うし、ほんで (それで) 蝶にせんと (せずに) きちんと ひっぱたんね よって (引く張ってやるのだから)、かったいよって (堅いから)、男結び言うんやろ (言うのでしょうか)。かき結び言うのは こおして 輪にしといて (して) きゅつと引き出すの かき結び。荷物や (とか) なんやかや 作る時に 荷物縛る時するけど (けれど) ほ

どけてこんよおに (解けてこんように)。

かけや (掛矢) 【名詞】 樫など堅い木で作った大きな槌
(志 (布施田)、鳥 (加茂)、員、上、阿、張、名、度、南) [会話] カケヤ言うのは 槌。杭打つな (打つのは)、大工な (が) 建て前の時 タンタンすんな (するのは) カケヤ。

かけやい 【名詞】 掛合 相談 要求などを話し合う事
談判 かけあい [会話] カケヤイしとんね (しているのだ) 言うて、相談して、なんしょおか かんしょおか言うて 相談しとることな (していることを) カケヤイしとる (している) 言うて 言うしなあ (言います)。カケヤイしてまあ まけてもおたね (負けてもらったのだ) 言うて、カケヤイして、まあ あんた (貴方) これ いくらのん (幾らだのに) ちよいと (少し) 高いよってん (から) 十銭のもん (物) を七銭にして呉れんかい (呉れませんか) とか、五銭にして呉れんかい とか言うてな カケヤイして言うてな 相談する言うことかなあ (ことでしょうか)。

かけやう (かけあう、かけあふ) (掛合) 相談する 交渉する 談判する

かけやかす 欠く 器物の端を損じる

かげやま (蔭山) 【名詞】 日陰にある山 日の当たらない山、所 [会話] 日な (が) 照つとらんとこ (ていない所) カゲヤマでまあ なんもかわかせんわれ (少しも乾かない) 言うて。何んやかや 物干しても 影な (が) さしとると (さしている) カゲヤマでまあ 乾かせんねなあ (ないのだ) 言うて。日光のささんとこ (当たらない所) をなあ カゲヤマ言うの (のです)。

かげやまのとびき (俚諺) 日の当たらない所で育った黍は細長くて出来の悪い所から 蒼白くやせて居る人 [会話] カゲヤマノトビキ言うな (のは) かげ (日陰) で 日な (が) ささせんもんで (当たらないので) ちよろちよろつと ふつとおならんと (太くならず) なあごおなんのを (長くなるのを) カゲヤマノトビキや (です)。ほっそおい (細いと) とさいご (その時、カゲヤマノトビキみたよなあ (のようだ) 言うて、やせとると (痩せている) 栄養失調みたよん (のように)。そすと、あやまあ (すると彼は) カゲヤマノトビキやなあ (だ)。ひよるひよる なあがい (長い) と 力な (が) ないよん (ないように) して たよりないよんしとんのを (ようにしているのを) カゲヤマノトビキ。

かけら (欠片) 【名詞】 1) 欠けた物の一つ 2) 少しの物、物の端を少し切り取ったもの

かげり (陰) 【名詞】 1) 日陰 2) 落ちぶれる前の状態 悪くなる前 [会話] ¹⁾ カゲリ。日な (が) 陰って来たとか、²⁾ 人な (が) 何んか (何か) 心配事しとると (していると) あの人 顔にカゲリな (が) あるなあ、たらなあ (とか)、あの家、ちよいと (少し) カゲリな (が) 見えて来たぞ言うて。ちよいと ふってん (貧乏に) なって来ると 落ちぶれん (に) なって来るとなあ、家な (が) ばんばんしとる (している) 時や (は) なんも くよ (何にも呉れよう) かも くよ (あげよう) 言うて 貰らうもんで (ので) てればれん (気持ちよく) 言うてくけど (て行くが)、びんぼん (貧乏に) なって来て なんもはざんと (全く駄目だと) まあ あいてんしやせん (相手にしない) 事なあ (です) その時まあ カゲリな (が) 見えた言うことやわいな (です)。

かける (懸、掛) 【他カ下】 好ましくない事 迷惑 苦労 損害などを他人に与える

かける 【他カ下】 交尾させる、交配する

かげる (陰) 【自ラ五】 1) 陰になる 日が当たらなくなる 2) 落ちぶれ始める [会話] ¹⁾ カゲル言うのは、日な (が) ささんよんなつくと (射さないようになって行く) と 日な (が) 西い (に) かたんで (傾いて) まあ かげって来たれ (来た) 言うて、かげってきた言うの (のです)。

かける 【名詞】 櫓の位置

かげん (加減) 【名詞】 物事の状態や程度、調子、健康、時候、味覚、その他について広く用いる [会話] カゲンな (が) わりなつて (悪くなって) 来ると 何処かにしつらいな (疾患が) あんね (有るのだ)。

かけんじ 【名詞】 海岸から海藻を引っ掛ける五股の松の枝に竿をつけたもの。かけぎ参照

かげんする 手加減を加える 適当にする (志 (布施田))

かげんなわり 1) 体調が悪るい 様子が変わる (志 (布施田)) 2) 調子が悪るい

かこ (水夫) 【名詞】 かは梶 こは人の意 船を操る人 古くは船乗り全員をさしたが 江戸時代以降は 下級船員をさす (志 (浜島、布施田)、一、度、伊、尾、北、熊) [会話] さいら船 (秋刀魚船) のカコ言うて、その人数の事なあ (です)。いっばい舟 十人なら 十人乗ると いっばい舟のカコやなあ (だ) 言うて、かな い言う事やわい (です)。いっばい舟の カコに 雇われて 言うて 船員や (です)。せんどや (船頭とか) かざ とりや せんのりや おやじや へのりや へうちや

言うて そいら (そのような) 人やなし (でなく
て)、一般の人らや (です)。言うて 人夫や (です)。
責任者はせんど (船頭) とか 船長とか 親方とか
機関長とか言うて そいら (その人達) 以外は カコ
なあ (です)。

かこい (かこひ) (囲) 【名詞】 動詞かこう (囲) の連用
形の名詞化 1) 屋敷などを囲う塀 家の外側に張る
板 (板囲) 2) 周囲を被って内部の物を保護するもの
(南、熊) [会話] 2) 割木 (薪) 外へおいときや (お
いておけば) カコイすんのんえらいし (するのに大変
です)。

かこいいた (かこひいた) (囲板) 【名詞】 家の外側に張
る板

かこいもん (かこいもの、かこひもん) (囲者) 【名詞】
妾

かこう (かこふ) (囲) 【他ハ五】 大事にしまって置く
[会話] こや (これは) しょんがつぎいや (正月焚く木
だ) 言うて いまめな (が) 有るとカコヨオッタ (保
存した)。

かこがため 【名詞】 その年乗組む船員を一堂に集め全員
の紹介と大漁を祝う行事 かこよせ (尾)

かこぞろえ 【名詞】 海女が出嫁に出る時、親方に招かれ
る事 (志)

かこたる 1) 囲む 2) 取り片付けて仕舞う 3) 人
目にふれないようにする 隠す [会話] 3) なんもか
も出さんと (なにもかも出さずに) しまいこんでまあ
見せやせんない (見せない) 言うて カコタルとなあ、
カコタン (ル) のを、とつとく (取っておく) 言うの
(のです)。

かこで (囲) 周囲を取り巻いて [会話] 山や家でも
取りカコデ 袋みたいんなつととこを (のようにな
って居る所を) そっぽこ谷言うやんかい (言います)。

かことく 隠しておく しまっておく [会話] 此れ
カコトク。

かことる 隠して居る しまつて居る [会話] たくし
こんどんね なんもかも (何彼) 言うて、カコトル事
をなあ、隠す事を たくしこんどんね 言うて。

かごまき 【名詞】 糸などを台に捲かずに束ねて有る巻き
方 [会話] カゴマキ 言うななあ (のは) 物い
(へ) 巻かんと (巻かずに) 糸だけ篋みたよん (の
ように) 巻いてなあ 今し (今) のレエス糸な (が)
カゴマキ。ちっそお (小さく)、丸くとお (丸く) 穴な
(が) あいとて (ていて)、篋みたよん (のように)、
くるくると巻いてあんのなあ (有るのです) 篋型ん

(に) なるやんかい (なります)。

かこみ (囲) 【名詞】 垣 囲周にめぐらす障壁

かこむ (囲) 【他マ五】 囲う 物の周囲を取りまく 中に
とり込めて周囲をふさぐ かくす しまう [会話]
輪になって カコム 言うやんか (言います)。取りか
こまれて 言うて。

かごむ 【自マ五】 かがむ 屈む 足腰を曲げて姿勢を低
くする しゃがむ うづくまる (志 (国府、安乗)、松、
上、阿、南、北) [会話] カゴム言うのは うつぶい
てく事 (うつぶいていく事)、そつちや (そちら) 行く
と カゴマナ (なければ) そや (それ) 頭打たれ (打
つぞ) 言う。

**かごめ (屈) 1) 腰を折って、体を小さくしなさい
2) 座りなさい**

かごめる 曲げる かがむ 屈する [会話] 体カゴメ
ル 腰カゴメル、まあ言うてな、曲つとんのなあ (て
いるのです) カゴメル。

かこよせ (水夫寄) 【名詞】 出航前に水夫を集める事
[会話] カコヨセ 言うのは、初めて 皆 まだ その
仕事に掛からんうちに (間に) 顔合わせすの (する
の) カコヨセ。終りのごつおは (御馳走) のきわ 言
うの。のきわは あくる年 (翌年) 乗つても 一緒の
人が一緒 (同じ) の舟に乗つても 終りの時は のき
わ。言うて見ると カコヨセは 新年宴会で のきわ
は 忘年会、始めと終り。

かごんできた 曲がつてきた 屈んで来た [会話] 麦
もみい (実) な (が) いつて来たかして (入いつて来
たのか) カゴンデキタ。

かさ (嵩) 【名詞】 容積 重なつた物の高さや大きさ、物
の分量や容積 (志 (布施田)) [会話] カサ 言うのは
高さの事。カサな (が) 高ばつたとか (高くなつた)
カサな (が) 高つかいとか ひつくい (低い) とか言
うねで (言うのです)、高さの事を。

かさ 【名詞】 椀 (木製) しる椀の一種 (志 (布施田、甲
賀、国府)、鳥 (国崎、長岡、鳥羽)、桑市、伊賀地方、
度、伊、北、南、熊) [会話] 昔や (昔は) 汁する
(よそう) 椀を カサや言いおつた (言つて居ました)。
さい (木) でああ 椀をカサや (だ) 言うて、カサで
汁飲んで 言うて。今し (今の) のにげ (人間) そいな
事言わへんけど (言わないけれど)。木な (が) 削つて
有つて それを、ちよつと (少し) 何やら塗つて有つ
て それを カサや (だ) 言いおつた (言つていまし
た)。

かさ (過差) 【名詞】 思い上がつて居る [会話] カサ張

つとる事なあ (です)。おもやがつとる (思い上がって居る) 事な (を) カサな (が) たつかい (高い)。

かさ (瘡) 【名詞】 1) 出来物 腫れ物などの皮膚病 梅毒の俗称 かさかき 梅毒 (志 (浜島、片田、鶴方、布施田、越賀)、鳥 (国崎)、阿、張、度) 2) 皮膚病 [会話] ガンガサ (雁瘡 湿疹 雁が来る頃できて 帰る頃治る事)。よこね (横玄・リンパ腺腫れ) ガンガサ よおばいそお、こせかき (搔く) 言うのも。ぜん (銭) 欠いても カサさい (さえ) 搔かな (搔かなければ) 渡る世間で恥搔かん言うて。よおばいそお言うのは知らん。横玄みたいな (のよう)な カサやろなあ (でしょう)。よこねに ガンガサ 昔、踊ると 横に寝といて (寝ておいて) 傘さして 横玄に ガンガサ 言うて よお (よく) 踊りおった (居ました) にわかして (俄芝居をして)。よこねにガンガサ。ガンガサ言うて いまだき (今頃・6~7月頃) 雁が鳴くよおになると それで ガンガサ言うんやろ (言うのでしょう)。

かさ (暈) 【名詞】 月の周囲に見える光の輪

かざ (気) 【名詞】 匂いにおい カ (香) ざすの語根 (大言海) (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、桑市、員、鈴市、鈴郡、安、津、一、多、松、上、阿、張、名、度、伊、鳥、北、尾、南、熊) [会話] カザ 匂い へえ (屁) のカザ、屁はなりもん (鳴り物) の 頭 (かしら) にて 琴、しゃみせん (三味線) に 匂い無し言うんやんか。屁は臭いけど (けれど) 頭やわい (大将です)、琴や 三味線 匂いはしゃせん (しない) 音だけで。屁には 三つの徳が有る 尻の埃も皆吹いて おなかもすいて 気も晴れて 人もどおどおと笑わして (堂々と笑わせて)。フウブウ ピーの三種有り言うて、フウは音低くして 匂い多し、ブウは 音高くして匂い少なし ピーはおら (俺) 家に行たら (行ったら) とおやんに言うたる (父さんに言ってやろう) 言うて。

かざ (気) 【名詞】 気配

かざあし (風足) 【名詞】 風の強さ、速さを言う

かざお 【名詞】 猛々しい人間 気性の荒い人 [会話] 気な (が) はしかいにげ (荒い人間) を カザオなに げやなあ (人間だ) 言うんやんかい (言います)。

かさかき (瘡掻き) 【名詞】 皮膚病にかかって居る人 梅毒者 かさ (瘡) 参照 (志 (鶴方)、度、名) [会話] カサカキ言うな (のは) あやまあ (あれは) どいらい 悪り (大変悪い) 病気やんか (です) あや、毒やろなあ (でしょう) カサカキや (は) なあ。

かざかぐ 【動詞】 匂いを嗅ぐ (志 (鶴方、立神、志島、

国府)、鳥、桑郡、桑市、員、四、鈴市、鈴郡、亀、安、一、飯、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] においかぐ (臭い嗅ぐ)、へえ (屁) の カザカグ (臭い嗅ぐ) 言う。たあるごえのかざなえろ おて (臭いが大変) 言うて、におい (臭い) 言うの かざや言うね (だ言うのです)。

かざかざ (風陰) 【名詞】 風を防ぐ物が有って風の当たらない所

かさかさ 【副詞】 1) 乾燥して水けや油けのなくなっている状態を表す語 (志 (布施田)) 2) 乾燥している物が触れあう音 [会話] カサカサん (に) なってた (なっている) 言うて、乾いてなあ がさがさしとると (している) カサカサん なってて (なっている) 言うて、しめりけ (湿気) や ねばりけ (粘り) のないのを カサカサしとる (している) 言うなあ (言うのです)。

がさがさ 【副詞】 1) 束ねた物に隙間がある状態 2) 落ち着き無く、軽率なさま 粗野なさま 又、その人 3) 肌の荒れた状態 4) 乾燥した物が触れ合う音 [会話] ガサガサ言うと しば (柴) が ガサガサしとる (して居る)、しつとりしとらん事 (水分の少ない事)。人間でも落ち着きのないのを ガサガサや (だ) 言うな (言います)、がしやがしやも 一緒や (です)。ガサガサ言わんと (言わずに) がしやがしや、鳴り音 一緒やけど (けれど) 言い方が違う。肌な (が) 荒れるのも ガサガサ 肌な (が) ざらざら 鮫肌で じゃりじゃりしとる 言うて、がしやが しゃしとる。肌な (が) ガサガサになってた (なっている) 言うて、油け (気) がのおて (無くて) ガサガサになってた、お産した後 油気な (が) 無いもんで (もので) 肌な (が) カサカサになってくんな (なっている) 言うて、しゃらしゃらしとるけど (して居る) が、体な (が) ととのて来ると (快復して来ると) 普通の肌なになんねけど (のようになるのだが)、お産した ひと月 (一か月)、ふた月 (二ヶ月) 位 鮫肌 みたいに (のように) ざらざらしとて (して居て) 体な (が) ととのて来ると 元の肌なに なってくんの (なっている) 言うて、がしやがしやする言うのは よけ (多く・よけい) がしやがしや、すんな (するな) 喧しのん (のに)。新聞がみやどき (紙など) ガサガサさして (させて)。旅行行っても 袋ばつか (だけ) なぶつて (さわって) がしやがしやしておうて (して居て)、物置、鼠な (が) 入ったよおん (ように) 寝やれやせん (寝られない)。荷物を出したり、

入れたり ガサガサ 音な (が) するわい (します)
ほと寝とて (すると寝て居て) ほんおとっしや 寝と
て喧し (やれやれ寝て居て喧しい) ガサガサと 押入
れに 鼠な (が) 入ったよおに ま 言うて。

がさがさする 1) 乾いて水分、脂肪分がなくなり ざ
らざらして居る 2) 乱雑なさまを表す 3) 中味が
少なくなり、隙間が出来て居る状態 4) うるさく音
を立てる

かざぐすり (風邪薬) 【**名詞**】 風邪の治療に用いる薬
【**会話**】 風邪薬のこと カザグスリ。しゃじ (匙) の
加減してくれえ (下さい) 言うの。かざぐすりのこと
を カザグスリ言うの (のです)。

かざぐも (風雲) 【**名詞**】 風の吹き起こる前ぶれとして現
れる雲 【**会話**】 カザグモな (が) して来た言うのを
カザグモや (です)。カザグモな あやれ (あれ) あし
こい (あすこに) 真黒ん (に) なって来た、あや (あ
れは) カザグモや れ (だ)、雨やねえわれ (で無いで
す) 言うて。黒いは 風、白いは 雨言うて。あや
(あれは) カザグモや れ (だ) 言うてなあ。くうるい
(黒い) 雲な (が) 来る。

かさけ (瘡気) 【**名詞**】 梅毒の兆候

かざけ (風邪気) 【**名詞**】 風邪の気味 少し風邪にかかっ
て居る事 風邪にかかった感じ (志 (浜島)) 【**会話**】
風邪ひいたや (引いたら) はなみずな (鼻水が) 出て、
くっしよめな (嚏が) 出て、カザケや なあ (だ) 言う
て。何んか 風邪 引きそおやなあ (だ) 言うのを
カザケや なあ (だ) 言うのな (のです)。風邪の引き始
めを言うん お (言うのです) カザケや (だ) 言うて
な。

かざけ (風気) 【**名詞**】 風が強く吹こうとする気配

かざごえ (風邪声) 【**名詞**】 風邪を引いて、かすれた声、
又、鼻のつまった声 (志 (布施田)) 【**会話**】 声な し
やれごえん (嘎れ声) なって来ると、ちよいと (少
し) カザゴエや なあ (だ) 言うて。はなくた ごえん
(鼻にかかる声) になって来るやんか (来るで有り
ませんか)、風邪引くと。なんやら (何か) 鼻い (へ)
引くよおな カザゴエや (だ) どいら い (大変) 声な
(が) しゃれて 来たわい (嘎れて来ました) 言うて。
しゃれて きた 言うな しゃしゃ ら ごえん なる やんか い
(嘎れ声になるで有りませんか)、声な (が) 嘎れた
言うのなあ (のです) 声な (が) 普通の声やなしん
(でなくて) ちよいと (少し) 声な (が) しゃらけて
来る やんか い (来ます) あい な と きん (あんな時に)
声な (が) 嘎れて しゃしゃ ら ごえ で 言う て なあ、ま

あ 風邪ひいたや (引いたら) 声な (が) 嘎れて言う
て それ カザゴエや (と) 言うて。

かざした。かざしも (風下) 【**名詞**】 風の吹いて行く方向

かざだま 【**名詞**】 突風 かぜのたま参照 (志 (国府))

【**会話**】 カゼノタマ 風な (が) よけ (沢山) 吹いて
くると カゼノタマな (が) 来て言う やんか い (言
います)。カザダマ言うと 物凄い カゼノタマ やんか い
(です) よお (よく) 吹く言う こと や ない んか い (で
ないのですか)、よお 吹くのを カザタマ い (に) 当
たつ て 言う て。

がさつ 【**名詞**】 【**形容詞**】 細かい 所まで神経が行き届かず
言動が荒つ ぼい さま。落ち着きがなく、雑なさま (志
(布施田、鶴方)、鳥、鈴市、鈴郡) 【**会話**】 あや
(彼) ガサツ で なあ 言う け ど (けれど)、がしゃ が し
や し と る (している) に げ (人間) を ガサツ で なあ
言うて。あん ま り (あまり) 神経 使 わ ん と (使わず
に) 行き 届 か ん (届かない) 言う んか (言うのか)。

がさつく 【**自力五**】 1) がさがさ音がする 2) 言語が
粗野で有る 落着かない 【**会話**】 ₁₎ ガサツク 言う の
は、がさがさ 音な (が) する。がさがさ と 音な (が)
す ん の (するのを) ガサツ イ テ さ お が し て (騒がしく
て) 言う 事 や なあ (事です)。

かざなぐれ 【**名詞**】 風のため、波の起こる現象 (志) 【**会**
話】 カザナグレ 言う な なあ (のは)、波 な なあ (が)
しゃ しゃ な み (細波) で、大 波 な (が) た た ん と (立
たずに) カザナグレ だけ や れ (だ) 言うて。しゃ しゃ
な み の こと を カザナグレ。風 な (が) よ つ け (沢
山) 吹い と る (ている) 時、う ね り な (が) し て く る
や ん な い (でしょう)、そ す と 今日 は 西 の 風 や よ つ
て (だから) カザナグレ だけ や なあ 言うて、ち よ い
と (少し) し ぶ い て し い ろ お (白く) な つ て 波 な
(が) しゃ しゃ しゃ し と る と なあ (している)、う ね り
せ ん と なあ (せすに) 白 波。風 の な ん で なあ (力
で) し い ろ お (白く) な つ て しゃ しゃ つ と な し と ん
の (しているのを) カザナグレ だけ や (だ) 言うて、
カザナグレでまあ言うて。

かざなする 1) 匂いがする 2) 気配がする (志) 【**会**
話】 ₁₎ カザナスル 匂 な (が) する。時 化 な (台風
が) し て く る し け く さ い 沖 から し け ん (台風) に
な つ て く る ひ い (日) は 何 ん やら (何か) な ま ぐ さ
い よ お な か ざ な (匂が) し て く ん の なあ (来るのです)。
そ す と、し け か ぜ や なあ 言うて、し け か ぜ な (が)
よ お (よく) 吹いて来る思 う と、沖 から 吹いてくる
風 何 ん やら 匂 な (が) し て く ん の (して来るので

す。しげかぜな (が) 来るかして (来るのか) どいら
い何んやら臭いなあ言うて、いそかづいとても (海女
作業していても) 何んやら えらい (大変) かざな
(匂が) してくんな (くる) 時化な (が) してくんね
なあ (してくるのだなあ) 言う時な (が) 有る。そげ
ん じょおく (そんなにいつも) は 無いけどなあ
ほん たまになあ (本当にまれに) 匂いななあ (が)
何んやら ま すかん (嫌な) なまぐさい様な みよ
おなかざな (変な匂が) してくんの (くるのです)。

かさなたつかい 思い上がって居る [会話] おもやが
つとる (思い上っている) 事。カサナツカイ言うて。

かざなみ (風波) 【名詞】 風によっておこる波 (志) [会
話] カザナミ言うの (のは) かざなぐれのこと、カザ
ナミ言うね (のです)。風だけでなあ うねりん (に)
ならんと (ならず)に しゃしゃなみみたよん (細波の
ように) すんのを (するのを) かざなぐれや (だ) 言
うて。

かさなきる 勢に乗って相手を下に見る (上、阿)

かざはな (風花) 【名詞】 1) 風の吹き出しの始まり
2) 寒風に伴ってちらちら降る雪 遠方より風によっ
て送られて来る小雪 (志、鳥) [会話] 1) カザバナ言
うな (言うのは) 風な (が) 吹き出して来た時を 風
の出端に (でばな・出てくる始め・はな) 舟出すな言
うて。風な 吹き出して来た事を カザバナ言うけど
(けれど)。

かさばる (嵩張) 【自ラ五】 1) 容積が大きくなる 高く
なる かさ (嵩、容積) がはる (一杯になる) (志 (布
施田)) 2) 威張る [会話] 1) たかばる (高くな
る) 言う事や (です) カサバル。荷物な (が) もやが
る (盛り上がる) 事を カサバル。もやがる てんこ
もる やまもり (山盛り) の事 もり上がる。

かざひき 【名詞】 風邪にかかっている事、かぜひき

かさびた (瘡蓋) 【名詞】 皮膚に生じた水泡、膿疱の内容、
又は、ピラン、潰瘍面上の漿液、膿汁の凝固したもの
黄色～褐色を呈し、表面にシワを生じ岩石の表面の様
に見え、やや固く、これを皮膚から剥がすとその表面
に漿水、膿汁がそのまま付着して居る かさぶたの変
化した語 かさぶたの転 かさ (瘡) 参照 (志、三、
鈴市) [会話] カサビタ言うな (のは)、できもん (出
来物・膿疱) の治った、膿な (が) 固まったのおな
(のが) カサビタや (だ)。昔や (昔は) よお出来おつ
たわい (よく出来て居ました) 頭によお カサビタな
(が) 出来て。

かさぶく 【名詞】 盂蘭盆 十三日の大念仏法会に使用す

る傘 傘には故人の戒名、日用品、仏具等を吊し此を
親しい人が持って、念仏を稱えながら廻る。ぶく 仏
供 仏に供える物 (志 (浜島、鳥、度) [会話] 盆の
カサブク あや (あれは) 男は男の一式、煙草入れに
剃刀に、てぬぎい (手拭) さんがらかして (吊して・
さがらせて)、おなご (女) は又、いれがみ (入髪) と
か なんとか おなごの持つ道具 皆さんがらかして
しよったの (して居たのです)、そやけど (それだけれ
ども) 今は、せいしゅ (施主・最高年令の死亡者) だ
けな (が) するだけやけど (するだけだが)。昔 カサ
ブク出すと その道具かりんのん (借りるのに) 死ぬ
とすぐから (すぐに) カサブク さんがらかす道具を
(が) 有る家はしれとりおったわい (少なかった)。カ
サブクん (に) 箱提灯 それから 椰子の実を磨いた
のを 椰子の水飲みや (だ) 言うて、それもさがら
かして、なんもかも りんやとか (鈴だとか) いりおつ
た (必要だった)。

かさぶた (瘡蓋) 【名詞】 かさびたに同じ、出来物の上に
出来る痂皮、瘡の蓋の意。(志 (甲賀)、張)

かざま (風間) 【名詞】 風の吹きやんで居る時 風の絶え
間 [会話] 風のあいな (間)がある時なあ (です)。
カザマにまあ 早よこがな (早く漕がなければ) はざ
んわれ (駄目だ) 言うて、ちよいちよい (少し) いき
(息・休憩) する時な (が) あるわい (有ります) 風
ななあ (が)。カザマに 早よおせ (早く漕げ) 言うて
西の風な (が) おとしてくるとなあ (強く吹くと) 波
間言うたらなあ 波もうねりな (が) おおき (大き
く) してくるもんで (ので) 波のこおしてくる (次が
来る) までのとこ (所)を なみまに 早よ行こや
(早く行きましょう) 言うやんかい (言います)。ま
言うのは間で カザマも、なみまも一緒やわいな (で
す) 言うて。

かさまい 借せない 借せてやらない まいは否定

かさまいや。**かさまいやねえ** 借せないでおきましょう。
や、は強調又は相談 [用例] あの家や (は) 借った
ら (借りたら) 返す事 知らんねよって (知らないの
だから) カサマイや。

かざまち (風待) 【名詞】 1) 吹いて居る風が静まるのを
待つて居る事 2) 帆走に都合よい風の吹くのを待つ
ている事 [会話] 2) カザマチ 風、待つとんの (て
いるのを)、あらしまち おいまち おいてまち言うて
なあ。西の風ん (に) なるとさいご (その時)、夕方ん
(に) なると よあらし (夜嵐) 言うて 出てくんね
わな (出て来るのです)。それを あらしまちしよおか

どおこぐな (櫓漕ぐのは) えらいよってん (大変だから) 言うて、そして、夜明ん (に) になると あさあらし言うのな出てくんね (出てくるのです) 西の風な (が)。そすと、夕方ん (に) になると よあらし言うてな よあらしな (が) 来るまで ちょいと (少し) 港で やすんどろや (休んでいましょう) 言うて、さあよあらしな (が) 出てきたど (出て来たぞ) 早よ (早く) 錨あげて 早よまけ (帆をあげよ) 言うて、帆まいて (あげて) よあらしで よぶね (夜舟) 走る時もあるしなあ (有ります)。日中は びかっしとして まあこや (これは) どおこぐのん (櫓漕ぐのは) えらいよってん (大変だから) あさあらしん出よか (に出ようか) とか、よあらしん (に) 出よかてら (とか) 言うて、どおこがまい (櫓漕ぎたくない) 言うて。

かざむき (風向) 【名詞】 1) 風の吹く方向 2) 人の気分 機嫌 態度 (志 (布施田)) [会話] 1) 風でもなあ、西い (へ) 行こ (行こう) 思もとんのん (ているのに) 西の風な (が) 吹いて来ると さかあらしん (逆風に) になると カザムキな (が) わりよってん (悪いから) 言うてなあ。カザムキな わがとな方向の方より違ごとると (違っていると) カザムキな (が) わりよってん ちょいとやめとこや (少しやめとおきましょう) 言う。2) にげな (人間の) 気嫌な (が) わり (悪い) と 今日 カザムキな わりかして (が悪いと見えて) 吹いとられ (ふくれている) 言うて、なつとも言わんと (なにも言わずに) ほつとけよお (ほつておけ) 言うてな。

かざも 【名詞】 1) 蕁麻疹 2) 寒冷蕁麻疹 [会話] 2) わしら (私) の母親ななあ (が) よお (よく) カザモな (が) でんで (出るので) 海女行かれんで (行けなくて)。海女に入ると 体な (が) たっこお (高く) 瓦葺いたよおになって、動悸な (が) 打って、磯 (海女作業) 入られやせん (潜れない) 言うて、磯行かだつて (なくて)。カザモで出やれんで (行けなくて) 年とつてから (大きくなってから) 治つて (ていつて)、海女にも行きおつたけど (行って居たけれど) 若い時分 身上ざかり (働き盛り) の時分 カザモで体な (が) ぼおつと 高張つてくのやんか (高くなつて行くのです) 水につかると、水につからんと なつとも (なんとも) 無いけど (けれど)、冷たい水につけると 肌な (が) もやがつて (盛り上がつて) 来て、始めのうち (間) ポンポンとして (して居て) そんな (それが) 重なつて来ると じなりに (地なり・一面に) 高張つてくんなあ (くるのです)、おかに (陸

に) 上がるとなつとも無いけど (何とも無いが) 海に入ると出てきて はざんで (駄目で)、そんで (それで) 海女へしばらく行かだつて (なくて)。そやけど (然し・それだけれど) 五十代なつたや (なつたら) 治つて来て 海女行きよつた (行って居ました) けど、自然と抵抗が出来てくんのやかなあ (来るのでしょうか)。でやん (出ない) よおになつてた (なつて行つた)。鯖、喰うて 当たたりすると 魚に酔おた言うな (言います)、魚に酔うと 顔、まつか (真つ赤) にして さいらん (秋刀魚に) 酔いおつたのなあ (酔いました)。さいらな (が) よけあがる (沢山獲れる・水揚げがある) 時分に さいらな ちょいと (少し) 塩のああまいの (甘い、不足して居るのを) 喰うて すと (すると)、舌な (が) いらいら (苛々) とする。舌さす (舌を刺激する) 言うやんない (言うでしょう) そいな (そんなのを) 喰うと 酔おて。顔な (が) まつかになつて ほつて (火照つて) なんやかや出て来んの (来るのです) 蕁麻疹みたいに (のように)。わしら (私) の子供の時分 (頃) に さいらな (が) よけあがつて (沢山獲れて) 猫またぎや (だ) 言うて、猫も跨んでく (跨いで行く) 程に さいらな (が) あがつて 猫も なんも喰わせんの (全く食べないのです)。そお言う時分に (時・頃) 塩な (が) ちょいと うつすいんかもなあ (少ないのでしょうか)。舌をいらいらと喰うとすんな (するの) 有つて、ちょっと舌刺すなあ、言うて。そいな (そのような物) 喰うと 酔いおつたの (酔つて居たのです)。蕁麻疹な (が) 出て来おつたの。蕁麻疹は カザモや (と) 言わせん (言わない)。さいらに酔おたとか言うてなあ。カザモや (と) 言わせんの (言わないのです)。冷たい水に入つたり 使たり (使つたり) した時に 出んのは (出るのは) カザモや (だ) 言うて、そんな時に出るのは ポンポンと始め ひとつうつ (一個ずつ) 出て来んのは (来るのは) まるくとおて (丸くて) ちよぼちよぼと 出とんのやけど (出ているのだが) そおすと まあ一面に ベタツと 体中に (体全体) 高張つて来んの (来るのです)。そんなの カザモ言うけど (が)、魚に酔おたのは 蕁麻疹みたいなのおほ (のようなのは) 魚に酔おたんな (酔つたのだ) 言うて言いよつた (言っていました)。そと (すると) 網かぶれ言うて 網かぶつと (かぶると) 治つてく (治つていく) 言うて、さいらに酔おた言うて 網かぶりおつた (居ました)。網かぶると 治るの (のです)。あざれとんのを (古くなって傷んで居る物を) 食べおつたんやろな

(食べていたのでしょうか) カザモと 蕁麻疹は違うわ
い (違います)。蕁麻疹はプツツと 粒な (が) こま
こおて (小さくて)、カザモは ふさな (が) なんも
(何も) 無しに (無くて) ぼこんぼこんと牡丹みたい
(のように) して来んの (来るのです) 始めな (が)。

かさもち (瘡持) 【名詞】 いつも皮膚病を病んで居る人
梅毒者

かさやのこぞお 【俚諺】 骨折り損 骨を折って叱かられ
る事から

かざりえび (飾海老) 【名詞】 正月、鏡餅と共に供える
海老 餅の上に載せたり、横に置いたりする。[会話]
しよんがつん (正月) 飾るもんで (ので、ちっちゃい
(小さい) 海老な (が) くると、こや (これは) カザ
リエビやなあ (だ) 言うて、おっきい (大きい) のは
そげん言わせんけどな (そんなに言わないが)。おっき
い のは お金な (が) 高いよって (から) よおなあ
かざらんもんで (飾れないので)、漁師でも それ お
つきいな (大きいのは) 売らんならんし これ カザ
リエビン (に) しとけ (しておけ) 言うて 小海老を
しよおったんやろな (して居たのでしょうか) カザリエ
ビン (に)。

かざりごと (飾) 暮れに神様を飾る、初盆で仏壇を作る
正月の神棚 盆の仏壇を飾り付ける (志) [会話] カ
ザリゴト 正月の神さん カザリゴトする。神さんや
わいなあ (です) カザリゴトする言うな (言うのは)。
カザル言うな立派にする。恵比須さんカザルんやで
(のだから) 立派に飾らな (飾らなければ) 言うて。
どいらいのおを (大きい物を) 恵比須さんにやな (に
は)。注蓮縄を 神さんにする事を 飾って言うて 正
月に。正月だけや無しに (で無くて) 初盆の家が 仏
壇を あれもカザルや。仏さん飾って言う (言います)。
子供らに リボンさしたり (させたり) なんやかや
すんのも (するの) 飾ったろんだれ (飾ってやろうど
うれ) 言うて、よおしよったやんか (よくして居たで
有りませんか) 綺麗にする事を カザル。

かざりや (飾屋) 【名詞】 1) 装飾となる金属製品を作る
人 2) 身辺を飾りたてる人

かざる 【他ラ五】 1) 祭壇を作る かざりごと参照
2) 化粧をする よい着物などを着て居る 着飾る
3) 表面をつくらう かざる 飾る 見た目に立派にな
るように 美しくなるように 物を添えたり 手を加えたり
する。外観がよいようにする 見かけをよくする
はなやかさや 立派さを加える 見せるための見目よ
く並べる

かし (河岸) 【名詞】 海岸、又は乗船に便利な海岸 かせ
ばた (志 (国府、片田、浜島)、鳥 (答志)) [会話]
築港のカシ 棧橋。カシ言うて かせばた言うんか
(言うのですか)。河岸の事 岸の事をな カシや (で
す)。

がし 【名詞】 魚 笠子 カサゴ科の海魚 全長約 25 cm、
体色は黒褐色から赤色迄変化に富み、体側に約 5 條の
不規則な暗褐色の横帯が有る。背鰭の棘は 12 本、沿岸
の岩礁帯に住む。繁殖は卵胎生。(志)

かじえ (かぜ) 【名詞】 1) 風 (志 (甲賀)、鳥 (答志)、
鈴市、津、一、飯、松、多、度、伊、北、南) 2) 風
邪 (志、鳥 (答志)、度、北) [会話] 2) カジエひい
た言うて。カジエぐらやなあ じよおく (いつも) ひ
いとるよってんなあ (ひいているから) かぜよお言
わんと カジエ。

かしえぎ 【名詞】 稼ぎ 収入 かしえぐ参照 (志)

かしえぐ 【自ガ五】 稼ぐ 収入を得るように働く (志、
北) [会話] かせぐ、よお言わんと、カシエグやたら
カシエギやたら (だとか)、あぜる (舌のもつれる) 人
間な (が) あるよってなあ (有るから) ぜん (銭) カ
シエギん (に) 行とんね (行っているのだ) 言うてな、
ぜんカシエギや かねカシエギや言うな 言うけどな。
かね (銭) カシエギ言うの (のを) ぜんカシエギん
(に) いとんね 言うて 今年どいらい (大変) ぜん
カシエギな (が) よかったなあ言うて。

かじえとおし 【名詞】 風通し 風の吹き抜ける状態
(北)

かしえる 借せる 借す (志) [会話] かせる言うのな
(のです) ぜん (銭) カシエルわい (借せてあげま
す) 言うてな。

かしえる 【自サ下一】 出来物などが治る

かしえるわい 借せてあげます。[会話] ぜん (銭) カ
シエルワイ言うて、借してあげる言うのを、カシエル
ワイ言うて。

かしおけ (かしをけ) (炊桶) 【名詞】 1) 米、麦をとぐ
(洗う) 桶 又、その米を入れておく桶 (桑市、上、
阿、熊) 2) 台所の洗い物をする桶 [会話] 1) 勝手
(台所の流し場) にあるバケツの代わりに、カシオケ
や (だ) 言うて、米かしたり (といだり) 麦かしたり
すんの (するのを)。

かしかい 【形容詞】 賢い 他からあがめ敬われる程にす
ぐれているさま (志 (神明、国府、安乗、立神)、鳥
(相差、国崎、桃取、坂手)、松、多、度、伊) [会話]
賢い言うのな (のです) カシカイ言う人な (が) ある

なあ(有ります)。かしこい言うのを ああ カシカイ
なあ言うて 言うにげな(人間が)あるやんかい(有
ります)、カシカイ言うて そのにげ によって。

かじかう 1) 舵で方向を定める 舵を取る 2) 水先
案内をする [会話] 1) カジカウ事をやれ言うて 下
手へやれとか 上手いやれとか。

かじがじ【副詞】 砂、芋を噛んだ時の表現 [会話] ガ
ジガジ 砂な(が) ガジガジするなあ。芋のかつたい
のおを(堅いのを) ごじごじ、半煮のおを(のを) 芋
な(が) ごじやなあ(です) 言うて、生焼け 生煮、
ごじやなあ。ほや(それ) ごじごじでまあ言う(言い
ます) あんご(馬鹿)の生煮。

かじかむ。かじける(悴)【自マ五】 1) 寒さに縮こまる
寒がる(上、阿) 2) 恐れ、縮み上がる [会話] 1)
カジケル言うな(のは)、今日はさぶうて(寒くて)カ
ジケル 震えあがってしとんのな(して居るのが)カ
ジケル。今日はさぶうて カジケテ なんもしたない
よお(何もしたくない) 言うて、震えあがるとる(あ
がって居る) 言う事を 言うんやろなあ(言うのでし
ょう)。

かじかんどる 1) 縮まっている。堅くなって居る 2)
寒さのため手足が自由に動かないでいる どちら、で
いるの略転 [会話] 1) さむうて(寒くて) 手ななあ
(が) 思うよん、かなわへん(ように使えない)のを、
カジカンドル 言うの(のです)。

かしき(炊き)【名詞】 炊事する事 飯を炊く事 又、そ
の場所 生活するてだて 炊事する役の者 特に近世
の廻船で炊事した者 普通、年少者がなり船乗りにな
る第一段階であった 1) 船乗りの炊事役(志(浜島、
甲賀、国府、安乗)、鳥、度、北、熊) 2) 炊事 食事
の用意 [会話] 1) カシキの底盛りかい(ですか)、
カシキの底盛り 飯炊き。カシキ言うのは おか
(陸)では そげん言わへんけどなあ(そんなに言わ
ないが)。陸で 飯炊きとか、はじゃんばん、船乗りん
のおは(ののは)カシキ。さいらぶねや(とか)かと
ぶね(鯉舟)のカシキ。はじゃんばん言うのは 朝鮮
語やけど(だけれど)今し(今)言うんな(言いま
す)おら(俺)今日は はじゃんばんで言うて。朝鮮、
行てきた(行って来た)もん(者が)皆 言うもん
で(ので)はじゃんばんや(だ)言うて。

かじき(かぎき)(梶木、旗魚)【名詞】 海魚。メカジキ
科とマカジキ科の海魚の総称、多くは体長約2m、鮪
に似て居るが、上顎が剣状に長くのび、下顎もやや、
突き出ている。外洋に分布し、マカジキ(マカ)、メカ

ジキ(メカ)、シロカジキ(シロカワ)、クロカジキ
(クロカワ)、バショウカジキ(バショオ)などが有る。
(鳥)

かしきのそこもり【俚諺】 炊事夫が自分の飯椀を押しつ
けて、多くよそう事 役得 [会話] カシキノソコモ
リ言うななあ(言うのは)。みんな(皆)の飯 めつぱ
(漁民用の食器・曲物)へ 飯を 十人おつたら(い
たら)十にもるやんない(盛り付けるでしょう)。と、
わがとら(自分)かしきやもんで(なので)わがとな
のおや(自分のには)底い(へ)へし込んで(押し込
んで)もつてするもんで(ので)カシキノソコモリ言
うて。かかの(女房)おたべ(性器・性交)と、カシ
キノソコモリは しても せんでもかすかんねど(し
なくても疑われるのだ)。わがもんやつて(自分の物だ
から)よけ(沢山)もる 思うもんで(ので)誰でも
思うわいな(思います)。

かじく 少し削り取る(北)

かしくう 1) 借りたまま返さない 2) 借したものが
返ってこない

かじけ(悴)【名詞】 動詞かじける(悴)の連用形が名詞
化したもの。寒さのために、ちぢまる事又、その人
寒がり 寒いこと(上、阿)

かしげる(傾)【他下一】 傾ける(多)

かじける 1) 寒がって居る 2) 寒さのため手足が自
由に動かない 指先が自由に動かない(志、鳥、員、
松) [会話] 1) 今日は さぶうて(寒くて)カジケテ
何んもよおせん(何も出来ない) 言うてな。さぶうて
カジケル。

かしこあんごし【名詞】 賢いようで 馬鹿である [会
話] あんごし(馬鹿)よおな 賢いの(のを)こあん
ごし(少し馬鹿)言うたり カシコアンゴシ言うたり。

かしこいなあ 子供をほめる語(桑市、桑郡)

かしこがる【自ラ五】 自分で賢いと思う 賢そうな態度
をする

かじこどる 凍たくて、指の知覚や運動が充分に行えな
いさま(志(布施田))

かしこぶる(賢振)【自ラ五】 賢そうなふりをする 賢そ
うに見せかける ぶるは接尾語 [会話] かしこのお
ておつて(なくて居て)かしこそおん(に)言うのを
な(です)。阿呆でおつてん(ありながら)ま カシ
コブリすのを(するのを)カシコブル言うねわい
(のです)。昔はなあ えらっそぶる(偉そうにす
る) 言うて 言うねけどな(のだが)。

かしこまる(畏)【自ラ五】 正座する 端座する(志(御

座、布施田、船越)、鳥(相差、国崎、答志)、鈴市、安、北、南) [会話] ちんと座る事 正座 カシコムル。

かしこまれ 正座しなさい

かじこむ 寒がって居る 冷えて手足が自由に動かない (多) [会話] カジコム。さぶうて (寒くて) 手な (が) はじかむ言うのをなあ、カジコム言うね (ので) す。かじかんどて (でいて) 言うてな。

かしごめ (浙米) 洗って有る米 (度)

かした 借せた (志、鳥、四、安、一、飯、松、多、上、張、度、北、尾、熊)

かしたた 借せてやった [用例] カシタたら 返って来やせん (来ない)。

かしたる。かしたるわい。かしたるわな (女性語) 貸せてやる [会話] 銭 カシタルワイ おんな (俺が) よけあんねよってん (沢山有るのだから) 言うて、道具でも あんたげん (貴方の家に) ないまん (物は) おんな カシタルワイ (俺が借してあげます) 言うてなあ。きまえよおなあ (気前よく)。これはかしてやる そして あんたげん (貴方の家に) あるもん かしてくれえ (物、借して下さい) 言うて かんのと (借りるのと)。

かしたれ 貸せてやれ [用例] 銭 カシタレ あや (彼は) 忘れて来たんでわい (来たそうだ)。

かじづか (かぢづか) (舵柄) 【名詞】 舵を操作するため 舵にさす棒 舵の柄 (北) [会話] カジヅカ言うの (のは) 舵の頭に 穴な (が) あいとて (ていて) ぼおな (棒が) さしてあんね (あるのです)。そすと、むこと いて (座って) 舵な (が) とりよいよん (取りやすいように) 勝手な (が) ええよん (よいように) 曲ったのを 山いて (行って) いまめのきい (木) を切ってくんね (来るのです)、カジヅカん (に) 言うて。こや (これは) カジヅカん (に) ええんなあ (よいなあ) 言うて、ちょいと (少し) 曲つとんのをなあ (ているのを)。それを持って 舵とんのん (取るのに) むこととんの (座って) 取るので)。山い、いて (へ行って) いまめのきいを 切って来るわい (来ます)。じょおし (漁師) の人ら (は)。いまめやなけな (でなければ) はざんねやんかい (駄目なのです) かつたい (堅い) きいやなけな (木でなければ) カジヅカは、そすと、喧嘩すると、カジヅカで、どぐらしたんど (撲ってやるぞ) 言うて。

かしつば 【名詞】 菓子を入れる椀 菓子皿 [会話] 茶 菓子出すのおでも (のでも) 菓子椀とかカシツボ言う

けどなあ (言います)。

かして 1) 貸せて 2) 借せて下さい [会話] ② カシテくれえ (下さい) あんたな (貴方が) わし (私) にカシテ言うのと、これを、かんのと (借りるのと) カシテくれえ言うな (のは) 同じ意味やけど (だけれど) 言い方な (が) ちょいと (すこし)。

かして (貸手) 【名詞】 貸す人

…かして と、思えて (志、桑市、鈴市、安、津、一、伊、南)

かしてえ 借せて下さい かして参照

かしてくれ。かしてくれえ 借せてください [会話] あんたげん (貴方の家に) 有るもん (物) カシテクレエ、言うて。

かしてもおて 借りて、借せてもらって

かしてもおてきた。かしてもおてきたれ。かしてもおてきたわい。かしてもおてきたわな (女性語)。かしてもおてきたわら。かしてもおてきたわれ 借りて来ました

かしてもら 借せてもら 借りる [会話] かってこんなあ (借りて行きます) 言うて 人なもん (の物) カシテモラウ時ん (に)。

かしてもろて 借りて 借せてもらって

かしてもろてきた。かしてもろてきたれ。かしてもろてきたわい。かしてもろてきたわな (女性語)。かしてもろてきたわら。かしてもろてきたわれ 借りて来ました 借せて貰って来ました。[会話] これかって (借りて) 来い言うて それをかって 行くと かってきたれ (借りて来ました) 言うて 借して (借せて) 貰らって来ました言うのを かって来たれ カシテモロテキタレ 言うね (のです)。

かしてや 借せて下さい

かしてやる 借せてやる 借す

かしたく 借せておく

かしどり (榎鳥) 【名詞】 かけす。好んで榎の木に棲むので名とす (大言海) かしましいか 或いはかしこい鳥の意か (和句解) (志)

かじとり (かぢとり) (舵取) 【名詞】 1) 舵を操って船を一定の方向に進ませる事 2) 人や集団に行動を一定に導き指導する事、又、その人

かじになる (家路) 家に帰る [会話] カジニナルと (帰るようになる) ほびつ (帆櫃) 一杯、餅 (にぎり飯) 握って土産ん (に) 持って来て。

かしのきのむじおれ やなぎにしもおれなし 【俚諺】 強情にして居ると倒れるが柳の様に柔軟にして居ると折

れることは無い。[会話] 頑固なおを (のを) かしのきい (檜の木) 言うて、檜の木や (は) 風な (が) 吹いて来ても お前らみたよなもん (のようなものに) まきよかれ (負けない) 言うて、威張っておって (いて)、そすと (すると) あんまりよけ (あまり沢山) 吹いてくると かったいもんで (堅いので) まがらせんもんで (曲がらないので) へしよれてくやんない (折れて行くでしょう) そやもんで (それで) カシノキノムジオレ (無理折れ) 言うの (のです)。ヤナギニシモオレナシ言うて、やなぎや (柳は) 吹いた方、向いて なびいとるもんで (ているので) 逆からわせんもんで どげなえらい (どんな大変な) 風な (が) 来ても めったん (絶対) へしよれやせんやんない (折れないでしょう) そやよって (だから) やなぎや (は) いくら 霜な (が) 降ってしてもまあ 言うて おりん (に) なつとるもんで (なっているので) めったんおれやせん (絶対に折れません)、そんで (それで) ヤナギニシモオレナシ、カシノキノムジオレ言うな、人間に例えると なつとものおて (なんともなくて) しとるやんない (しているでしょう) そんな (それが) ぼきとと死んでくやんかい (死んで行きます)。そんな (それが) カシノキノムジオレで、ヤナギニシモオレナシ言うのは よおおて (弱くて) 医者にぼつか (ばかり) 掛って 先生などこい (の所に) ぼつか行とても (行っている) めったん (絶対に) 死んでかせんのを (死んでいかない) 言うのやんか (です)。

かしばた 【名詞】 河岸 (桑市) [会話] カシバタ 言うな (のは) 波止場の河岸のはた (側) 言う事を カシバタ 言うのなあ (です)。かせばたに 船は着けども乗りわけぬ 波があるおてのられん のられん言うて。かせばたい 舟着けとる (ている) 言うのはなあ 結婚しても 男な (が) かかてきやせん (こない) 言うことを、それを かせばたに ふねわ ついとるけど (が) のってきやせん (乗って来ない) 言うて、すと (すると) 男は 波があるおて のられん のられん 言うて それ かせばたやなあ (です)。

かしぼん (くあしぼん) 【菓子盆】 菓子を入れる盆 菓子皿 (南、熊) [会話] カシボン 言うて どんぶりみたよん (のように) なった いれもん (入れ物) が あんねやんかい (あるのです) お菓子入れる。それを カシボン 言うてなあ かしぼちのことを言わへんかい (言いませんか) 菓子 入れるのを カシボン。

かしまだち (鹿島立) 【名詞】 旅立ち (志 (浜島))

かしめ 【名詞】 修理するための小さな金属、鍋などの底に穴のあいたのを防ぐ

かしめる 修理する 特に金属製品 (志 (布施田))

かしもん 【名詞】 貸せた物

かしょか 1) 貸せようか (志、鳥 (神島)) 2) 貸さない [会話] カショカ 金はよっけあんねよってん (沢山あるのだから) あんた 無かったら言うて。 こいえ (来なさい) かしたるよってん (借せてやるから)。 カショカイ 言うて そしたら、かしてくるかい (借してくれますか) 言うて カショカ カショカイも 一緒や (です)。 かしてあげる言うことや。 カショカイ 言うて そしたら、ひとばか (少し) どんだけでも (どれだけでも) かしてくるかい 言うて てなこ とや (とすることです)。

かしょかい 1) 貸してあげましょうか かしょか 参照 2) 貸してくれるものか

かしょかれ 借してくれない

かじよこにさいてもとおる 【俚諺】 舵横にして居ても進む どんな事でも出来る 無理な事でも出来る 普通舵を横にしていると舟は前に進まない とおるは通るで前進するの意 [会話] 舵 横んさいて (にさして) 舟な (が) よろよろしとても (して居ても) 金が ふさう (入る) 時は ふそて (入って) とんとん拍子に行く言う事やろなあ (でしょう)。

かしら (頭) 【名詞】 1) 大将 2) 海女の一回の潜水 海女の潜水の回数を数える単位 (志 (布施田)、伊、鳥) [会話] カシラ 大将 オカシラサン 大将の事な (です)。 カシラ 言うて 博打打ちや (打つ人とか) やくざもんな (者が) よお (よく) カシラ 言うて、海女さん 一遍入ってく (入って行く) のを ヒトカシラ。

がしら 【名詞】 とんぼ おおおにやんまの雄 がったい 参照 (志 (布施田)) [会話] とんぼ ガシラ がったい、あんたらな (あなたたちが) ちっさい時分 (小さい時) かり (取る、竿でかる) 行きおった (行って居ました)。「かったこし (交尾)、ちょんがれ (交尾) こしや こしや かった こしちよんがれ」(「内とんぼ釣りの唄」竿持ってかりん (に) 行たり (行ったり)、かみのいちに (女の人の頭髮) かいぞろ (小さな貝) 縛つといて (ておいて) ピュッと放ると それに掛か って来おって (来て居て)、(とんぼつりの唄)「ほろりや ほろりや めつぱち (目高) つるべに このちよお (雌のおにやんま) は いなんかなあ (いらんかい)」言うて。

かしらしめし 【名詞】 海女が潜るための体調を整えるの

に浅い所で潜ること [会話] 今日は カシラシメシ
ん(に) いた (行った) 言うて、あした (明日) てぐ
さの口やよつて (天草の解禁だから) 今日はちよいと
(少し) カシラシメシん(に) 行こか (行きましよう
か) 言うて、あっさいとこ (浅い所) けえこしといて
くと (稽古しておく)と、あしためん (翌日)になると、
ふっかいとこ (深い所) でも行かれんの (行けるので
す) 言うて 体を慣らすのなあ (です)。

かしらだつ (頭立) 【自タ五】 先に立つ 指揮、指導する
大将になる

かしわ (黄鶏) 【名詞】 鶏 鶏肉

かしわし 忙しい 落ち着きがない [会話] 出たり入
ったりすると、せかせかと カシワシて 落ち着き
がない言う事なあ (です)。

かしわもち (柏餅) 【名詞】 一枚の布団を二つに折り、そ
の間に入って寝る事 (志 (浜島)) [会話] カシワモチ
言うけどな (言いますが) 布団を 二つに折って、お
ら (私は) 一人寝んねもんで、(寝るので) 布団はんぶ
 (半分) 敷いて はんぶ着て、延餅なられんで (なれ
なくて) カシワモチやれ (だ) 言うて よお寝とりお
った (よく寝て居ました)。一人で かかな (妻が) ね
えもんで (ないので) おら (俺は) 延餅なられんで
カシワモチやれ (だ) 言うて 布団 二つん (に) 折
って その中入っておった (居ました)。

かしわん (くあしわん) (菓子椀) 【名詞】 糸底の深い大
きい椀 本膳につけて菓子を入れる (志、鳥 (菅島、
鳥羽)) [会話] 昔 菓子を据えて (入れて) 本膳へ出
しおって (出して)、カシワン言うけど (けれど)、茶
菓子出すのおでも (のでも) カシワンとか 菓子つぼ
 (壺) とか言うけど (言います)。茶菓子入れんのな
(入れるのも) カシワン言うし、本膳へつけても、菓
子を据えるもんで (ので) カシワン言うて、カシワン
や (とか) めし椀や 言うて、昔や (昔は) 汁椀とか。

かしん (くあしん) (菓子) 菓子 カシ (菓子) の訛 (広
辞苑) (志摩市全域、桑市、三、鈴市、鈴郡、亀、安、
津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、鳥、北、
尾、南、熊) [会話] お菓子の事を カシン。今で言
う、お菓子やけどな (だけれど)、カシンこおてこおや
(買って来ましよう) 言うて。餡がしやなしん (でな
くて) 餡ガシン言うの (のです)、餡菓子言やええのん
(言えばよいのに) 餡ガシン言うて 餡ガシンこおて
こお (買って来よう)。銭形平次な (が) 投げるのおで
(ので) 餡、買っておった (買って居ました)。一文 持
って行くと10~15買えおった (買えました)。あや

(あれは) 二厘銭やよつてなあ (だから) 一文銭言う
な (のは) あれよりちっさいのなあ (小さいのです)。
一文 二文。二厘銭言うな (のは) 銭形な (が) 持つ
あのおっさいの (大きいのを)、二厘銭言うて 一銭な
(が) 五枚、一文銭言うのは ちょおいと (少し) あ
れより、ちっそおて (小さくて) 十枚で一銭。わしら
(私) 朝鮮行くと その一銭を 十回に変えよつた
(変えました) トン (朝鮮の貨幣の単位) 一文言うて、
ぼらな (穴が) あいとるの (空いて居るのを) トン や
(だ) 言うて。トン一文で (だ) 餡、買おて ひとく
らん (一度に) 一銭な (ののを) 買うと 高いの
やんか (高いのです)、そと トン一文ですと 一銭
で とおくら (十回) 買われんのやんか (買えるので
す)、此処らの人ら よけで (多く) 買うと よけ く
れるやろ (でしょう)。それを 何回も買わななあ (買
わなければ)。十回に買うと よつけ (沢山) あんねや
んかい (有るのです)。餡の事 よし言うね (言うので
す) よし さっそう言うて 売りに来て。

がしん 【名詞】 凶作 飢饉 がし (餓死) の変化した語
(志 (布施田)、飯、阿、多、張、度、北、尾、熊)
[会話] ガシン言うのは、飢饉の事。海もはざんし
(だめだし) 陸 (おか) のもんも、はざんで (いけな
くて) ガシンや (だ) 言うて。

かしんざら (くあしんざら) 【名詞】 菓子皿 菓子を入れ
る皿 (熊) [会話] お菓子乗せる皿を カシンガラ言
うねわい (言うのです)。

かしんや (くあしんや) (菓子屋) 【名詞】 菓子を売る店
[会話] カシンヤ言うとお菓子屋さん。あのしま屋
やとか 宝来屋とか言うのを カシンヤ。

かす (浙す) 【他サ五】 米などをとぐ (志 (浜島、布施田、
鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥、桑市、鈴市、亀、
安、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、
南、熊) [会話] 米をカスとか 麦をカスとか その
カスも有るし (有ります)。

かす (渣) 【名詞】 残滓 要る物を取って残った不要の
物 (志 (布施田))

…**かす** 接尾語 動詞について させるの意を表す 泣カ
ス わらカス (笑わせる) (志、鳥、鈴郡、鈴市、安、
北)

かず (数) 【名詞】 年齢 年をとる カズが行く [会
話] カズ言うのは 一つ 二つやろ (でしょう)。と
し (年齢) のことをなあ。一つ 二つ言うて そのカ
ズも有るし としのカズも有るし カズが行く 年齢
の事を カズ言うよつて (言うから)。

かすあたま【名詞】馬鹿 [会話] あたまの (考えの) 無い 何んも (なににも) 知らんのを カスアタマ。

かすいき【名詞】老人 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥、安、一、松、多、度、伊、北尾) [会話] カズイキ言う と 年寄りな (です) 自分より かずの上の人。

かすいく 年を取る 老人になる (志、多) [会話] 年な (が) いく あの人な (は) カズナ (が) イトネよ ってん (行っているのだから) 言うて、年寄り だん だん年を重ねることを カズイク 言うね (言うのです)。カズナ イトル 人らな (が) 居て言うてな 年寄りのことを カズナ イトル 人や (だ)。

かすいばり【名詞】虚勢を張ること [会話] 年な寄っておって (年を取っているのに) 主婦業して 頑張らな (なければ) 言うて、カスイバリしとんね (しているのです)。カスイバリん (に) 威張って言うて、なんもならんとおって (何の役にも立たないのに) えらっそおな (偉らそおな) 事言う と なんもならんとおって カスイバリん (に) 威張っとられ (ている) 言うて。

かすうえ【名詞】年令の上の事 年長者 [会話] カズウエやてわれ (だそうだ) かかな (妻が)、言うやんかいなあ (言います)。だんねえわれ (構わない) カズウエでも なんも (なにでも) 算盤おいて するもんやないし (ものでない) 数な (が) 上でも下でもええやんかあ (よいでないか) 言うて。死んでくと (で行く) 一番カズウエの人を せえしゆやなあ (施主だ) 言うて、盆の一番年長者を せえしゆ。

かすかす【副詞】1) 甘み、うま味のない状態 2) 水気のないさまを表す (志 (布施田)) [会話] 1) カスカスしとる (して居る) 甘みな (が) 無い、2) すいすいん (中身の無い状態) なっとる (なっている)、芋な (が) すいすいんなって (になっで居て) すかすかで言うて、古なって (古くなっで) 来ると 九月頃になると すいすいに すかすかになっとるのを (なっで居るのを) 言うんやるな (言うのでしょうか)。

かすかつた かこつけられた

かすからまい かぶらない 罪をきたくない [会話] おまや (お前は) 此れをしたやんな (しただらう) 言う と、その子な (が) おらま (俺は) そいな事しやしえん (そんな事しない) 言うて、わり事 (わるい事) を カズカラマイ言うて。

かすかる (かづかる)【他ラ五】かこつけられる 罪を身に引き受ける また、無実なのに疑いを掛けられる。

動詞かすく(被)に助動詞らるのついた かすけられるの変化した語 (志 (片田、鶴方、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、一) [会話] カズカル言うな (のは)、おんなもんを (俺の物を) とてた (取って行った) 言うて、かずけると おらんもとらせんのん (何も取らないのに) かずかつた言うて。カズカル言うのは 自分の事、かずける言う事は 人にかずける。わがと (自分が) とっといて (取っでおいて) 人ん (に) かずけて。

かすごろ 1) 年齢 2) 適齢期 (志 (布施田))

かすしび【名詞】海魚 びんなが 鮪の一種 とんぼ びんちよお (志)

かすつた 極く近くを通過した 少し触れた (志 (浜島)、度、張)

かすつぽ【空】1) から 旨い汁を取ったかす (志 (立神、国府、安乗)) 2) 低脳 [会話] 1) カスッポ言う と 空 (から) の事、からつぽの事を。なんも (何も) 無いよおん (ように) になると カスッポん (に) なった言うて。

かすでつぽ【名詞】1) 空砲 2) 放屁 [会話] 1) カスデッポ言うな (のは) からでつぽ (鉄砲) のことを。2) へえ (屁) でも すかんべえ (すかし屁) カスデッポ はなした言うてなあ。便所、おりとおても (大便したくても) 屁だけ 出てくると カスデッポやつたなあ (だつた) 言うて、屁な (が) 先走りしてくると あや からでつぽな (が) 出たれ (出た) 屁の先走り。はこな (大便が) へえに (屁に) 行て いんな (犬が) 居らせんか (居ないか) 見てこいてや言う、おら (俺は) 行きや (行けば) 入つて来やれやせんもん (来れないから) 言うたや (言つたら) 鼻から入つて くやええやんか (来ればよいではないか) 言うて、屁やもんで (なので) 鼻から入いんね (入いるのです)。

ガスでつぽ【名詞】竹筒に石灰をつめ水を注いでガスを発生させ、音だけ出す仕掛け 田の雀を追うのに用いる [会話] たあの (田) おどし。ガステッポ から でつぽ放して ばあんばあん言うて 秋になつて 雀をおどす ガスデッポ。昔 あんでなあ (あれで) ばんばん言うて おどしよおつたやんかい (脅して居たで有りませんか)。

かすとり【名詞】1) 数量を数える人 2) 取って来た魚の数量を数えるため、十で区切って別にすること [会話] 1) 一つ 二つ言うて 十よ言う と、カズトリ 言うて 一つ違うとこい (所へ) 入れんのなあ (入れるのです)。

かずとる (数取) 計算する かぞえる [会話] 数える
事を かんじょしとけ (勘定しておけ) カズトル (数
える) 事を かんじょしとけ。

かすねぎ (槽祿宣) 【名詞】 1) 神官をいやしめて言う語
(志 (布施田)、伊) 2) 魚 るりはた。スズキ目ハタ
科の海魚。やや長い楕円形をしており、背鰭は9棘1
2軟條、尾鰭が3棘9軟條、腹鰭は短く体は紫褐色で
吻端から体の背側を走り、尾柄上方に達する黄色帯が
ある 体長25 cmに達す。岩礁に住む。

かすびき (槽曳) 【名詞】 一度臼で挽き 粉を取った後
を又、挽く事。二度目に挽く事 [会話] うどん小麦
のカズビキしょお (する) より、すわりやみ (つわ
り) して寝てござれ。

かすめる (掠) 【他マ下一】 少し盗む 一部を奪い取る

かすめる (掠) 【他マ下一】 目的の近くまで接触する。軽
く触る。かする。

かすゆき 【名詞】 老人 (志) [会話] カズユキ言うな
(のは) としよりのことを、ま カズユキや (です)。

かすよむ 数える 計算する (志) [会話] カズヨム さ
ばよむ。カズヨム言うて、さばよむ言うのもあるしな
あ、かずとるのを カズヨム言うてな 計算する言う
こと。

かすり (掠) 【名詞】 上前をはねる事、口銭 利益 かす
るの連用形の名詞化 (上、阿) [会話] 仕事をさぼん
のを (さぼるのを) カスリとる、カスリトリや (だ)
あや (彼は) 言うて、人な (が) 一生懸命しとて
(していても) わがと (自分)は かぜ (人の目にふれ
ない所) のほお (方) 行てしとるのを (行てして居
るのを) あや (彼は) カスリトリで言うて、あや (彼
は) カスリトリで じっきん (すぐに) どこやらい
(どこかへ) 仕事さぼって行とる (行てして居て) 言う
て、おさうる (怠ける) 言うて、人の上前はねたりす
る 頭かすって言うのも 言うけど (けれど)。ピンは
ね言うのを こおせん (口銭・賃金) を 五百円なら
(ならば) 五百円の給料払うのを 四百五十円にして
頭かすっておこしたたら (よこしたとか) あや (彼
は) かすったんなあ (かすったのだ・上前をはねたの
だ) ひとばか (少し)。

かすりごと (掠事) 【名詞】 上前をはねること

かすりとり (掠取) 【名詞】 上前をはねる人 かすり参照
かすりとる 1) 上前をはねる 口銭、割前を取る (志
(布施田)、上、阿) 2) 仕事を怠ける [会話] 2)
仕事のことをだ カスリトル言う、さぼることをな
あ カスリトリや (だ) 言うけどな (言います)。仕事さぼ

って、なまけとんのをなあ (怠けているのを) カスリ
トル 言うの (のです)。うわまえはねる言うよおなの
は それは うわまえとりやなあ (だ) 言うな (の
は) 言うけど (が)。うわまえはねるとか ぬすつと
(盗人) の うわまいとるとか言うてなあ。なまける
ことやなあ (です) 人の居るとこ (所) で働いて、人
な (が) 居らんよん (居ないように) になると、さぼつ
とんのなあ (怠けているのを) カスリトル 言うて
なまけるやなしに かぜひなたあ。

かする (掠、捺) 【他ラ五】 1) 僅かにふれる。僅かな関
係で外れる。(志 (布施田)) 2) かすめ取る かすり
とるに同じ

かすれる (掠) 【自ラ下一】 声かすむ。目がかす
む [会話] 声かスレル 目なかすむ 声なかすむ
なあ。

かずんはいらん 対象にならない 水準以下である (志
(布施田))

かせ 【名詞】 1) 漁具の数の単位 2) 中の形をした釣
糸をまきつける物 3) 樫木鮫 シュモクザメ科の鮫。
全長3 m位になる。頭部が左右に伸びて樫木状になり
その先端に目が有る。肉が白い シロシュモクと、赤
いアカシュモクと有る。上等のかまぼこの材料として
用いられる。頭部の形がサザに似て居る (志、鳥 (菅島)、
熊) [会話] 1) 漁師の人な (が) 籠い (へ) たぐって
(手探る) しぶ (柿渋) ふいてすんの (するの) ヒト
カセやなあ (だ) 言うて、まがい買おて (釣糸買っ
て) 来ると ヒトカセで こな (これが) 出来た言
うて 籠い しおったてや (して居ました)。

かぜいよや、**かぜいよやんかい**、**かぜいよやんかな** (女
性語)。**かぜいよやんかれ** 休憩しましよ

かぜいれる 1) 休憩する 休む (志 (布施田)、員)
2) 間隔を置く 3) 風を入れ空気を入れかえる [会
話] 2) ひとばか (少し) 風 入れとけ (ておけ) 言
うてな。嫁ななあ (が) 姑とおりやいな (折合が) わ
りいてもなあ (悪くても) もどってて (戻って行っ
て) すると、すぐん (すぐに) つれんいかんと (連れ
に行かず) ひとばか カゼイレトケまあ言う時もあ
るやんかいなあ (あります)。ひまを置け言うことを。
そお言う場合は いくら言うても いきりたつとて
(気が立って) 聞かへんよってん (聞かないか
ら) ま、ひとばか カゼイレトケ言うてな、喧嘩した
りする時でもなあ。3) 何んやかやでも、まあ むさつ
てくんの (くるのを) ちよいと (少し) 風も入れなは
ざんわれ (なければ駄目だ) 言う時もあるしなあ。ペ

たんとしてて (していて) 風入れな (なければ) むさつてかれ (て行く) 言う時もあるしな。1) 休憩する休む言うのもな ひとばか まあ カゼイヨヤ (いれましょう) 言うて、やすもや (休みましょう) 言うこともあるしなあ。息もせえまあ (しなさい) 言うてなあ。

かせぎ (稼) 【名詞】 生活の資を得るために働く事 働いて得る収入 稼ぎ高 かせぐの連用形の名詞化 [会話] カセギな (が) 無いのに そげん (そんなに) ばあばあつこたらはざんわれ (使ったらだめだ)。

かせぎがしら (稼頭) 【名詞】 収入の最も多い人

かせぎざかり (稼盛) 【名詞】 働いて盛んに金をもうける事 又、その事を出来る年齢 [会話] 働き盛りのこと言うんやわな (言うのです)。カセギザカリ やなあ (だ) もおかんねよってなあ (儲かるのだから)。

かせぎだか (稼高) 【名詞】 働いて得た金の額 もうけた金額 [会話] カセギダカな (が) えらいよってん (大変だから) 言うてなあ、よけ (沢山) 儲かることをな (です)。よけ 稼ぐことをなあ カセギダカ 稼いだ金が多い言う事を カセギダカな (が) よおて (よくて) 言うてなあ。

かせぎて (稼手) 【名詞】 働いて収入を得る者 働いて一家を養って行く人 [会話] とおさん助けなければざん (駄目) ので いっしょけんめ (一生懸命) でまあ かせんで (稼いで)、それが カセギテや (です)。あんたげや (貴方の家は) あんたな カセギテやわいな (です)、家族やしのでしとんのん (養なっているのだから)。これは稼ぐ人 カセギテな (が) なかつたら 生活やつてかれやへんやんない (やっついていけないでしょう)。そやよって (だから) 生活を支えてく (ていく) 人言う事やわな (です)。金 稼いで おらげや (俺の家) なんも (全く) カセギテな のおて (無くて) 言うて、働く人間な (が) 無いとなあ、生活に弱わる言うなあ カセギテな 無いと 其処の主人だけやなしに (でなくて) 誰でも、かせんで (稼いで) くる人をなあ (です)。カセギテな どっかい (何処かえ) 行たとか、病気しとる (している) とか言うて カセギテな のおて おらま (俺は) かつちえられ (飢える) 言うてな、食べんと (食わずに) 居る言う事やなあ (です)。かつちえてかれ言うてな うえじにする事を かつちえてく。

かせきど 【名詞】 働き手

かせぎどき (稼時) 【名詞】 働いて金を得るのによい時 [会話] カセギドキ言うのは 今し (今夏) 海女さん

ら な (が) カセギドキでなあ (です)。海女行て いっしょけんめ (一生懸命) かせがれるよつて (から)、カセギドキ言うのなあ (です)。カセギドキ言うのは かせぐじき シーズンやなあ。カセギドキ かせぎざかりも一緒に、今しや (今は) カセギドキやどお (だ) いっしょけんめ 働く時や 年代や、年代もまあ お前らな (が) 今し (今) 働き盛りやよって (だから) カセギドキやどお (だ) 言うのなあ (です)。

かせぎどこ 【名詞】 稼ぐ所 働く場所 [会話] 冬ん (に) になると 海女さんら (は) 行かせんやんない (行かないでしょう)。カセギドコな (が) のおて (無くて) 言うて、稼ぎん (に) 行く所な (が) のおて (無くて) 言うのを カセギドコなのおて言う。

かせぎにん (稼人) 【名詞】 よく働く人

かせぐ (稼) 【自動五】 1 働いて、報酬を手に入れる 2) 利益を得る

かぜぐすり (風邪薬) 【名詞】 風邪を治すための薬

かぜけ (風気) (風邪気味) 【名詞】 1) 風の気配 2) 風邪を引いた感じ かざけ参照

かぜとおし (かぜとほし) (風通) 【名詞】 1) 風の吹き通る事 2) 隙間を作る事

かぜないきする 風の吹くのが一時的に止む [会話] カゼナイキスル言うて。ちよいと (少し) 風ぐと カゼナ イキシタンナア (したのだな) 言うて。びゅうびゅうと 吹いとても (ていても) 静かん (に) なつてく (なつて行く) 時な (が) あるやんかい (有ります)。ばたんとしてく (していく) 時な (が) あつて、カゼナイキスル言うて。

かぜなぐれ 【名詞】 風のために波が高くなること (志) [会話] カゼナグレ 波な ちよいとなあ (少し) しゃしやらとすんのを (するのを) カゼナグレだけやれ (だけだ) なんも (少し) なみやないわれ (波は無い) 言うて。

かぜなみ (風波) 【名詞】 風によって波が立つ事 かざなみ参照

かぜにふかす 風に当てる [会話] 熱な (が) すると カゼニフカスなよ (当てるな) 言うて。

かぜのあばけ 【名詞】 風により波頭が飛沫くこと

かぜのいき 【名詞】 風の吹く状態

かぜのいきない 無風状態 (志 (布施田))

かぜのたま (風の玉) 突風 強い風 (度) 【会話】 カゼノタマな (が) 来たやんか (来たでないか)、時化になつて来ると ひとくらあつ (一度に) どいろお (大変) 吹いて来ると カゼノタマな (が) 通つたなあ。

突風の事 カゼノタマや(だ)言うて、カゼノタマな(が) 通るんかして (通るのか) どちらいよお(よく) 吹いた。

かぜのまるかり【名詞】 風邪にかかって居る者の集団

かぜのめえ【名詞】 台風の名

かせばた【名詞】 河岸 [会話] 河岸やなあ そおやかせ カセバタ言うて。

かぜばら【名詞】 感冒に下痢を伴う事

かぜひき(風邪引)【名詞】 感冒にかかる事(志摩市全域)

かぜひきそえる 他の病気をしている時、更に風邪を引く

かぜひきもおおどかい 風邪引きも終りですか 流行も終りですか [会話] オオドシタ言うて、おさまった(静まった)言うのを、カゼヒキモオオドシカイ言うて、言うやんかな(言います)。治まることを かぜひきも、オオドシタカシテ(したと見えて) よけ(あまり) かぜひきや(だ) 言わせんなあ(言わないなあ)言うて。おさまりかけて来たところをなあ オオドシタカシテ 言うの(の)です。カゼヒキモ オオドシタカシテ よけまあ 医者家も来やせんなあ(来ない) 言う時ん(に) オオドシタ言うの(の)です。

かぜひく 1) ゴムの硬化 物が変質する事(上、阿)
2) 感冒にかかる [会話] 1) カゼヒイタかして(とみえて)言うて、何でも 粘りな(が) ないとか、膏薬でも かっとおて(堅くて) のべられんのを(延べられないのが) 有ると、まあ こや(これは) カゼヒイタかして のばらせんわれ(伸びません)言うて。何んか 固い物が、びたびたん(に) なったのおでも なあ(の)でも) ま カゼヒイテテ(てしまつて) ま びたびたやれ(だ)言うてな。封 切ったると(てやると) 何んか べたついてくると こやま(これは) カゼヒイテタレ(ひいてしまった) 封切つてある よつてん(から) 言うて。封 切ったると カゼヒイテクド(ぞ) 言うてな、きちつと また あとしとかな(しておかなければ) 言うて、そのものが 変質した それを まあなあ 言うなあ。

かぜぶき(風吹)【名詞】 激しく風の吹く事 又その日(志(布施田))

かぜむき(風向)【名詞】 1) 風の吹く方向 2) その時の気分、機嫌 かざむき参照

かぜよけ(風除)【名詞】 風の吹くのを防ぐ物

かせる(痂)【自サ下一】 傷や出来物の表面が乾く 治る ひからびる(志(布施田、立神)、上、阿) [会話] カ

セル できもんな(出来物が) 治つて来ると カセル。
かせる。**かせるわい(貸)**。**かせるわな(女性語)** 貸せてやる 品物や金の所有者が所有権は、そのままに 後で返してもらう約束で 一時的に品物や金を他人に渡したり 使わせたりする(鳥) [会話] カセル 物もカセル、物、借るのもカセル、わしげん(私の家に) 有る よつて(から) カセルワイ(貸せてあげます) 言うて 貸す言やええんけど(言えばよいが) カセルワイ 言うて それと一緒に 貸したる 貸してくれえ(貸せて下さい) 貸したるわい。

かせわし【形容詞】 忙しい(志(布施田、鶴方、神明)、鳥(鳥羽)、度、伊) [会話] せせかし(忙しい・面倒だ)、せせかしとか、カセワシなあ言うて、いそいそ(動き回る) すんのを(するのを) ものすごい(大変) せわしないのおを(忙しいのを) カセワシて。いそいそする 忙しそおにだ あつちや(彼方) へ走り こつちや(此方) へ走り こしょこしょとするやんかな(します)、ほつと(すると) カセワシなあ あのひたあ(人は) こしょこしょやたら(だとか)、いそいそやたら、せせかして ほん(本当に) カセワシ にげや なあ(人間だ)。せせかしとか カセワシとか 一緒の意味やけど(です)。

かせん 貸せない

かせんだ 稼いだ(志) [会話] カセンダ言うな(のは) 金儲けして来た言うのを、金 カセンデキタ言うて。かせぎん(に) いとる(行っている) 言うて、働いて 金カセンデくんの(来るのを) 働らきん(に) いて(行って) 金 カセンデキテ言うて あの家 まあ よけ(沢山) カセンダてわれ(そおだ) 言うて、よけ 給料もろて(貰つて) くると なあ そげん(そんなに) 言うて。

かぞえ(かぞへ)。**かぞえどし(数年)【名詞】** 1) 生まれた年を一歳、翌年を二歳と数える年齢 2) 一月一日から 四月一日に生まれた者 [会話] 1) ほんとで ななつで、カゾエわ やつやれ言うて。カゾエ ドシ 言うの なあ(です)、わたしらわ まんで言うて、87 才 やけど なあ(ですが) カゾエ ドシで言うて 89 才 やんかい(です) それを 言うの なあ(の)です。カゾエ ドシ 言うてな カゾエで いくつ 言うて、言うやんかい(言います)。昔は なあ まん 言わせん(言いません) まるまる や(だ) 言うて、言よ おつた ね(言つて居たのです)。生まれた年 数えると ななつで、それ せんと やつや(です)、そ や よつて(それだから) まるまる 言うのは まんで言うのを まるまる 幾つ言

うて、¹⁾カゾエドシも カゾエも 生まれた年を、ひとつとして それから その次の年は ふたつん(に) なんの (なるのです)。それ まるまる言うのはな それ まるると1年たった時 ひとつ言うてな言うのなし (です)。それで まるまる言うて 今でまん言うことを まるまる言よおったんやろな (言つて居たのでしょう)。カゾエ言うのは これは カゾエドシも言うし、²⁾そすと 学校 行とる時に カゾエ言う時に 早生れ言うんかな 1月1日から4月1日まで生まれた者は あや カゾエヤよって (だから) はやうまれ言わんと カゾエ。

かぞえる (かぞへる) (数) 【他ア下一】 数える 計算する (志、鳥、員、四、鈴市、亀、安、津、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、北、尾、熊) [会話] 計算する かぞとる言うことを カゾエル。

かぞえるほど ほんの少し 少数 五本の指を折って数える程度の意から [会話] カゾエルホドよりおららった (居なかつた) 言うて、人間な (が) よけおらんとなあ (沢山居ないと)、何んも (少しも) おららった、かんじえるほどよりおららった (居なかつた) とか、かんじえるほどよりとららった (獲らなかつた) とかなあ。かんじえる言うね (のです)、カゾエル言うのを。みないたて (行ってしまつて) かんじえるほどよりおららつたんない (居なかつた) 言うてなあ。鮑とんのでもなあ (獲るのでも) まあ 大漁した人は 大漁やつた (だつた) 言うけど (言うが)、かんじえるほどしかとららつた よお言うて ま 一つか 二つしか (より) 取らへんと (取らないと)。

かそか 1) 借そうか、借せましようか (志 (甲賀))
2) 貸せてくれない、貸せないでしよう

かた (肩) 【名詞】 船の幅の一番広い所 (北)

かた 【名詞】 方法 (志 (布施田)) [会話] 神さん拝む カタな (方法が) 判らんねよって (判らないのだから)。

かた 【名詞】 決着 けじめ [会話] この際 えごと (完全に) カタつけとかな (つけておかなければ) 言うて。

かた (形) 【名詞】 物の形 様子 (志 (布施田)、南) [会話] 装束は体のカタの事を あの、そおぞく見よまい (見なさい)。

かた 【名詞】 方 人を言う時に用いる あのカタ (あの) このカタ (此の人)

がた 【名詞】 破損 壊れること 疲れ 疲れること 不調 (志 (布施田))

かたあいて (かたあひて) (片相手) 【名詞】 一方の相手

相手の一人 (三)

かたあし (片足) 【名詞】 やどかりで両方の鉄爪の大きさの違うもの

かたあしつっこんどる 1) 死にかけて居る 2) 仲間になって居るが余り深く関係しない (上、阿)

かたゐ 【名詞】 1) 手足の働きの正常で無い人 2) ハンセン氏病の人 (津) 3) 乞食 コツジキにてカッターと混じてはいけな (物類稱呼)

かたゐ (堅) 【形容詞】 1) 眞正直 疑う事をしない 2) つつましい 儉約する (志 (布施田)) 3) 理屈っぽい 頑固 (熊) 4) 確実である 5) 固い (志、伊賀地方) [会話] ¹⁾ カタイ言うな (のは) ものすごい 真面目なのおも (のも) カタイ言うし、石みたよおなのおな (のようなのが) あると、かたゐ 言うしなあ。あんまり (あまり) まるっぽみたよなのおもなあ (正直のようなのも) あやまあ カタイねよってん (堅い) のだから 言うなあ (言います)、あやまあ (彼は) かとおて (堅くて) こむぎだんごで まあ言うて。いちがいで何んも (少しも) ゆずうな (融通が) きかんよおなの (のを) こむぎだんごで かとおて 言う。かたぶつで いずうな きかせん言う。あやまあ (彼は) あんまり かたすぎて 言うてなあ、何んでも ちよいと (少し) 人に、こお いずう つける言う事な (が) 出来やせん (出来ない) 人間をな あんまり (あまり) かとおて 言うてな。

かたゐ (難) 【形容詞】 眠らない 目がカタイ (南)

かたゐき (肩息) 【名詞】 息たえだえ 瀕死

かたゐきつゐとる 死の直前で有る 息たえだえとして いる

かたゐきひく 絶え絶えと苦しそうな息をする、して居る、死の直前、又は激しい労働の後、呼吸するのに肩が動く事からか [会話] カタイキヒク 言うなあ (言えば)、死にかけたんの (死にかけて居る)、はんじにん (半死に) なつとんの (て居る) カタイキヒイトル (引いて居る)。今して (今で) 言うて 虫の息とられ (して居る) 言うよおな事やわなあ (です) カタイキヒク。

かたゐぢ (かたゐじ) (片意地) 【名詞】 頑固 強情 (張、南)

かたゐぢがい (固一概) 【形容詞】 強情なさま、頑固なさま、偏屈なさま、馬鹿正直なさま、又その人、わからずや 一刻者 (北)

かたゐぢはる 頑固に言いはる

かたゐつぽ (片一方) 【名詞】 かたゐつぽうの変化した語

片方(鳥、三、南、熊) [会話] ある人の類な カタイツボは、いっこんで(入り込んで)、かたつぽ(片一方) ふくらんどたや(で居たら) 二百十日や(た)。出たほお(穂・一方)も、あや(有れば) 出やん(出ない) ほお(方・頬・穂)も有る。

かたうち(肩打)【名詞】 体の部を作る布と、袖を作る布と異なる物を用いる。肩の部分の布の違った着物 ひらそで参照 [会話] 昔や(昔は) カタウチ言うて 緋のカタウチして、カタウチ着ると 若いしゅんなんので(衆になるので) 初めて着ると、嬉しのお(嬉しいの) 言うたら。

かたうま(肩馬)【名詞】 肩車 両肩に人をまたがらせ担ぐ事(志(鶴方)、鳥、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、亀、津、久、一、飯、松、多、阿、度、伊、南) [会話] 肩い(へ) 首たまい 跨らして 肩車言うのを。

かたえ【名詞】 代わりに 代替 かた、抵当、担保、借りた金が返せない時の保証として相手に渡すと約束した物 [会話] 借金しとて(して) 畑でも 家でも カタエン(に) とられたや(取られてしまうと)、ぜん(銭) よお払わんで(払えなくて) とやげられたんてない(取り上げられたそうた) 言うて。医者の薬礼(支拂い) よお払らわんで(払えなくて) よけたまつたて(沢山たまつてしまつて) しまいにや(終りには) カタエに畑やらなはざんわれ(やらなければいけぬ)。

かたえ(かたへ)【片方】【名詞】 側 かたそば

かたおち【名詞】 1) 値段、成績などが急激に下がる事 暴落 2) 段違いに劣る事 ガタンとオチル意 ガタンは急に落ちる音の擬声(方言俗語語源辞典) [会話] 1) ガタオチてや、魚な(が) 今日 どいらいねえな(大変値が) よおしとたのん(よくしていたのに) あしたん(明日に) なる ねえな(値が) ものすごいさがんのお(大変さがるのを) ガタオチ言うのな(です)。急に下がると ガタオチなしてたれ(していった) 言うてなあ。

かたかけ(肩掛け)【名詞】 主として婦人が外出する時、防寒用、装飾用として肩にかけおおうもの くびまき参照 [会話] カタカケこおてもおて(買ってもらつて) 喜んで。

かたがた(副詞)【形容詞】 1) 喧しくうるさいさま ガタガタすんな ガタガタ言うな(志(布施田)) 2) 激しくふるう 3) 壊れかかつて居る

かたがたぶるい【名詞】 寒くて激しく震えるさま(鳥(国崎))

かたがつく 解決する

かたがわ(かたがは)【片側】【名詞】 右か左か一方

かたぎ【片食】【名詞】 一回の食事 一食分 かたけ(片食)の変化した語。昔は食事が二回であったので、その一回を片食と言ったのが一日三食になつても残つた語。三食になつたため、ひとかたぎ、ふたかたぎ、みかたぎと数詞をつけるようになった。(北) [会話] 鯨でも ミカタギ喰うと(三食食べると) うもおても(美味くても) たんのやなあ(堪能だ)。

かたぎ【名詞】 傾斜 かたむき [会話] うめしよ(埋め地)は、じか(近々) 埋めたとこは(所は)、家、建てると 狂いなくんのなあ(狂いがくるのです) カタギな(が)。

かたぎ(堅木)【名詞】 堅い木 木質の堅い木(伊、南) [会話] いまめ(うばめ樫)のこを カタギ。樫のきいやとか(木だとか) いまめやとか言うのを、こや(これは) カタギでまあ もちなええねやれ(持久力がよいのだ) 言うてな。正月のきい(木・薪)に ええねなあ(よいのだ) 言うてなあ。焚いたのおが(のが) もちがええもんで(持久力がよいので)、こやまあ(これは) カタギやよつてんまあ(だから) どいらい(大変) こや 燠な(火が) 持ちな(が) ええわれ(よい) 言うて、ひい(火)のこを 燠や言うね(と言うのです) 炭がおこつとる(火になっている)のをなあ 燠や(と) 言うのなあ(のです)。いまめを焚いたのおが(のが) ひいん(火)になつて かとお(堅く)になつて 直ぐに こわれてかせんもんで(壊われていかないので) カタギのひいやよつてんなあ(火だから) そや(それは) ひいのもちな(が) ええわれ 言うてなあ。火鉢入れても 何時までも。

かたぎ【名詞】 1) いなご がたぎ参照(志(越賀、船越、浜島、磯部、立神、甲賀、国府、三、度、南)) 2) 非常にやせた人(松、北、尾、南、熊) [会話] 1) ガタギ言うな バツタの事やねえんかい(でないのですか) ガタギ言う人も有るけど(有ります)。

かたぎつじ【名詞】 頭の旋毛が中心にない事 [会話] 頭のつじ 担いつじやたら(二つあるとか)、カタギツジ、左かたぎのもんら(者は) 度胸なあんねてわい(が有るそうです)。

かたきん【名詞】 1) 陰囊の一方が大きいもの そけいへるにあ(北、尾) 2) 鳥の名称 よしきり [会話] 1) カタキン言うて、きんたまな(が) かたつぽ(片一方)より 無いの(のを) カタキン。片一方だけ おつきい(大きい) なつとる(て居る)のを カタキ

ン。どんび そいなな (そんなのは) どんび言わせん かい (言いませんか)。どんび言うて どいらい (大きい) のして どんびの人をなあ あや (彼は、かたつぽ きんたまな (が) 無いよおん (に) 歪んどる (歪んでいる) 言う、どんびな有るやんかい (有るで有りませんか)。あや (あれは) きんたまな (が) かたいつぽおやろな (でしょう)。2) 堤の橋ん (に) 葦原なあよおったやんない (有ったでしょう)。あしこで (あそこで) カタキン カタキン 言うて 鳴く鳥な (が) おりおったやんかい (居たで有りませんか)。あや (あれ) カタキンな (が) 鳴いとられ (鳴いて居る) 言うて。

かたぐ (傾) 【自ガ五】 1) 傾く 横になる 斜めになる (志 (布施田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府)、鳥、津、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾)
2) 破産する [会話] 1) カタグなあ (のは) こっち向いてカタグ。舟な (が) カタグ、おもかじかたぎ (左舷へ傾く) 寝ととも (寝て居ても) 三百言うて、おもかじい (に) カタグとええね (よいのだ) 言うて。とりかじ (右舷) かたぎは、わりんけど (悪いが)、おもかじかたぎは 寝ととも 三百言うて わしらな (私達が) 舟ん (に) 乗ととも (て居ても) とりかじい (に) かたげて、おもかじい寄らんかれ (寄れ) 言うて、男の人らん (人達)に わるわれおったね (怒られて居たのです)。舟な (が) 進みやすいのは 鱧い (へ) にげな (人間が) さがって おもてを (船首・へさき) 上がるよおん (ように) すると、舟な (が) 進みやすいもんで (ので)、舟い 乗ると 男の人らな (が) 帆まくよおん (揚げるように) なると 鱧い来い 鱧い来い 言うて、そして 鱧い (へ) くって (操って・移って) おもてな (が) 上ると 舟な (が) 進むのん (のに) 早いので、そんで (それで) おもてにおるとなあ 男の人らな (が) 鱧いさがれ 鱧いさがれ 言うて 怒らりよおった (怒られました)。おもてな うなずくと (首をたれる・後述) 舟な (が) おっそいやんない (遅いでしょう) 鱧い にげな (人間が) さがると おもてな (が) 上がるもんで (ので) 進むのな (が) 早いもんで 男の人らな (が) 帆まいたら鱧い (へ) さがれ 言うて 怒られおったわい (怒られました)。うなずく 表な (この場合、船首が) 下がる事うなずく。表な (が) うなずいてくと (下がって行く) 船な (が) 走んのな (走るのが) おっそいねよって (遅いだから) やうちな (一同が) 鱧い (へ) 下がりおった (下がって居ました)。2) うち (家) がし

やらく (斜落・おちぶれる) のも カタグ、しんしょな (身上、資産が) カタグ 言うて あのうちや (家は) しんしょな (が) カタグ。しんしょな (が) カタグ 言うて よけ (多く) ぜん (銭) 使うと。

かたぐい (かたぐひ) (片食) 【名詞】 副食が、野菜或いは、魚類の一方に偏る事 (志 (布施田)) [会話] 志摩のカタグイ 言うて (言って)、魚な (が) あがる (獲れる) と、魚ばつか (だけ・のみ) 食うて、そして 無い時や (は) 野菜ばつか 喰うて しとんの (して居るのです)。大漁すると、魚ばつか 喰うて 漁、行かれん (行けない) 時や (は) 魚あがらせんもんで (獲れないので) 魚、喰わんと (食わずに) 野菜ばつか 喰うて 志摩のカタグイ 言うて。

がたくた 1) 不安定 がた 機械や人間の体が年月がたつて 調子の悪くなること がたがた くた 物が細かくなってしまふ事 くたくた 2) 喧ましく言う [会話] 1) ガタクタ 言うて からうす踏む 言うて、なんかこお はんに掛とて (中途半端) 踏む かたくと かたくと 言うて からうす踏んで かたくと 言うるとる (言っている)。機械な (が) 壊れた場合 (時) も ガタクタン (に) なつた (なつて行った) 言うて やんない (言うでしょう)。ガタクタ ガタクタ 言うて すんの (するのです)。からうす踏んで、かたこと 言う とられ (言っている) 言うて、はんにかかつとんの (て居るのを) 真ん中い (中心に) なんか有って それへ 板でもなんでも (何でも) すえると (据える・おく) はんにかかつて ガタクタ ガタクタ するやんない (でしょう)、あや (あれ) からうす踏んで 言うて。

かたくち (片口) 【名詞】 1) 一方だけにつき口があり、取っ手のない鉢 液体を他の容器に移す時に用いる こかた 参照 (安、上、阿) 2) かたくち いわし の略 (志、安、度、鳥) [会話] 1) 親方 張り方 味噌こしや (こせば) カタクチ ぎっちゃんちゃん。

かたくるし (堅苦) 【形容詞】 堅苦しい、態度 人柄などが 生真面目で 厳格過ぎる感じである。形式張って 打ち解けない [会話] いづうな (融通が) きかんで (きかなくて) カタクルシこと 言うると (言っていると) いちがい (一概) 気狂い 阿呆の内 言うて。

かたくろし 【形容詞】 態度、人柄などが、きまじめで 厳格過ぎる感じがある うちとけない かたくるし 参照 (上、阿) [会話] なんやかや カタクロシ と あや (彼は) ごつよも (融通がきかなくて) でまあ 言うて。

かたげ 【名詞】 かたけ 片食 ひとかたげ は、食物 食

事の意 一回分の食事 一度の食事 朝夕二回の食事の内の一度 近世、食事は朝夕二回だったので、この語が生じた かたぎ参照 延期式齋宮忌詞に齊(トキ)を片膳といふよし見えたり。俗朝食、又は暮食のみをカタケといふ是也。(志(布施田)) [会話] ヒトカタゲ 一回食うの(のを)、ヒトカタゲ 抜いたれ(抜きました)言うて、食わんと(食わずに)おるとヒトカタケ抜いて、寝とれ(ておれ)言うて。

かたげる (傾)【他ガ下】 傾ける かたぶけるの転斜めにする かたむける かしげる かたぶく かたむくの古い言い方(志(浜島)、鳥、員、鈴市、安、久、一、北) [会話] カタゲルも一緒やわい(です)。わがとらな(自分達が) 傾げんの(かたむける)と、ひとり(自然に) 傾んどんのおと(傾いて居るのと)の違いで、傾ぐは 一緒やわい(です)。傾けた 傾ぎ 傾げた 傾ぐ言うのも有るし カタゲル言うな(言うのは) わがと(自分) 傾げたんのなし(てやるのです)。

かたごえ (堅肥)【名詞】 肉付きが堅くしまつて居る事 筋肉質 [会話] カタゴエ言うて しっかりしとる(して居る)、肥え方を言うし、ぶわぶわしたよおんしとんのは(ようにして居るのは) ぶわぶわごえやなあ(だ)言うて、しっくりがとお(しまつて堅く) いかつそおんしとんのは(丈夫そうにしている) 漁師の人らんのおは(人達のは) カタゴエ言うし、だんなし(旦那衆・よい生活して居る人) 人ら こえとんな(肥えているのは) 豚肥え 豚肥えやなあ(だ) あや(あれは)。

かたこと (片言)【名詞】 語形、発音、言いまわし、使い方などが不完全 不確かなため、意味がよく通じない言葉(鳥(国崎)) [会話] カタコトでまあ言うて、あぜこぜみたよんしとんのなあ(のようにしているのを) ものな(ものが) 判からんのも あやまあ(あれ) カタコトでまあ。子供らな(が) ものいいかけ(言い初め)の ときん(時に) 言う言葉 カタコト言うね(言うのです)。あの 逆さまん(に) 言うものなあ あや(あれ) カタコト言うてまあ 言うてなあ。

かたごめ (堅米)【名詞】 炊いたり、蒸したりしてない米 [会話] カタゴメ 二升なあ(を) じゅう(蒸し器)へ入れて それひとくぼ(一度に) 搗いて。

がたさがり【名詞】 大暴落 がたは過多に通ずるか [会話] がったりさがってくと(ていくと)、半値みたよん(のように) なつてくとなあ。おたまあ ガタサガリやよお(だ)、くだめな(が) ガタサガリしてた(していった) 言うて、ものすごお(物凄く) 値段が下

つた言うこと。半額ん(に)も なつてくとなあ(いくと) ガタサガリやよお 言うて、ぐつとさがった 言うのをな がったりさがったよお 言うのな ま、がったりいたよお 言うてな 何んか失敗するとなあ ま がったりいたよお 言うて。

かたすま (片隅)【名詞】 ものの一方の端 部屋の隅 [会話] かた一方のすま(隅)の事。隠居みたよお のを(のようなのを) ちよいと した 所 すると カタスマ いやなあ(だ) 言うて。隅の方も カタスマ、かたすま。あすこの隅 そのカタスマ 寄せとけ(ておけ) 言うて。カタスマ い(へ) ひそめとけ、ひそめ(片付けておけ) 言うのと かたすけんのは(かたすけるのは) 一緒やけど(だけれど)。

かたすまい (片住居)【名詞】 小さな家 かたすま参照
かたすみ (片隅)【名詞】 片方の隅 中心から離れた所 かたすまに同じ

かたずみ (堅炭)【名詞】 1) 木炭。消し炭に対し、一度も火の通つて居ない窯出しのままの炭(張) 2) 樫など堅い木で作られた炭(上、阿) [会話] ① カタズミ、いまめ(うばめ樫) やてら(だとか) 樫のおは(のは) カタズミ。あさ(木の名前) やなあ(とか) あいなのおは(あんなのは) ぐざずみ 言うて、やいこい(柔らかい) 炭なあ(です)。いまめや、樫のおは(のは) カタズミで、炭な(が) よお(よく) 持つもんで(ので)。そして なんやら(何か) ちんちん炭 言うのもあやおつたんやんか(有つたのです)。ちんちん 言うて 鳴る炭な(が) あいなのおは(あのようなのは) いまめの炭やないんか(で有りませんか)。いまめか、樫かなあ いまめののおな(のが) ちんちんすんね でえ(するのです)。いまめの炭 ものすごお堅いんよつて(大変堅いから)。消し炭は焚いた焚火ののお(のを) するけど、水で消すとか 消し壺 です とか言うのな(言うのが) 消し炭。② 炭焼きな(が) 焼くのは カタズミや(です)。そや(それ) 消し炭 せえよ(しなさい) 言うて、消し壺 有つて それ 入れて。“おや じ入れ とけ 消し壺 へ怒るたんび に (火が起るにかけて居る) 蓋 を取る” 言うて、親爺 な(が) 怒つて来ると やかん頭 が怒り出す 怒るたんび に (たびに) 蓋 を取る 言うて、消し壺 へ入れ といて (入れて置いて) やかん頭 言うな (言うのは) 親爺 な(が) かたぶつみたよな (堅物・堅い人のような) 親爺 そん な (それが) 頭 な (が) 禿げて来ると 禿げちやびんの やかん 親爺 や 言うて、それから 湯気 出し て 来る。秋の やかん 照り も 一緒 で あた と お て (熱

くて) あたとおてな^{とも}も (何とも) しゃないね (仕方ないのです)。

かだだ【名詞】体 からだ

かたちん。**かたちんば** (片跛)【名詞】【形容詞】1) 片方の足が不自由で普通に歩けない事、又、そのさま 2) 対で有るはずの物が揃って居ない事、又、そのさま (志 (布施田、鶴方、立神)) [会話] 2) カタチンバ言うのは おっきいのお (大きいのと) ちっちゃいのおと (小さいのと) 有ったり、草履と下駄と履いたのおも カタチンバ履いて、おっきいのと、ちっちゃいのおと (のと) 出来ると カタチンバやなあ (だ) こや (これは)。さっき (先程) の白鳥 尻な (が) カタチンバや (だ)。(手芸で白鳥を作ったが両方の尻が不揃いであったので) かたんどんのおな (かたいで居るのが)、尻な (が) カタチンバ。

かたづく (片附)【自カ五】1) 乱雑に置かれた物が、置かれるべき位置にきちんと置かれる 2) 娘が嫁に行く 縁づく 3) 話し合いがつく 解決する 4) 死亡する [会話] 1) 片付ける、物を散らばしとんのは (て居るのは) はよ (早く) 片付けんかれ (片付けなさい) 言うて、ひそめて (整頓する・人目につかないようにする) 整頓する事やわい (です)。片付けとけ (ておけ) 広げさがしとかんと (広げばなしにせず)に 言うて、子供ら (達を) わるうやんない (叱るでしょう)、ひそめとけ (ておけ) そこらも ひそめて えごとしとけ (立派にしておけ)。2) 片付ける カタツク 言う時 嫁にやる。嫁にやる時も、娘もカタツイテ安心したなあ 言うて。3) 話し合いがついて カタツク そいな (そんな) 事も使うわい (使います) 話し合いして えごと (立派に) かたづいた かたづいたんてわい (そうです) 言うて。

かたづける (片附)【他カ下一】1) 散乱して居る物を整理する かたづく 参照 (志 (鶴方)) 2) 物事を解決する

かたづける (片付)【他カ下一】娘を嫁入りさせる かたづく 参照 (志 (鶴方、布施田、片田、畔名、浜島)、鳥 (坂手、相差、桃取))

かたっぱし (片端)【名詞】端から順々に一つ残らず根こそぎ かたはしの転 [会話] カタツパシ 言うのは カタツパシから、かたづけて来い、他所のひとらは (人達は) 言い方な違うんやろけど (違うのでしようが)、こころん (の) 人らん (の) なあ (は) カタツ

パシや (です)。かたほおから言うのを カタツパシから言うんやろ (のでしょう) 端から順々に。

かたっぱしから【副詞】次々と かたっぱし参照

かたつぶし【名詞】食事の不足分を補う食べ物 [会話] 飯な (が) 腹一杯食う程無いと ほかのもの (他の物) 食うと そんな (それが) カタツブシン (に) なんね (なるのです)。

かたつぶり (蝸牛)【名詞】かたつむり (志 (越賀、浜島)、伊、南)

かたつぽ (片方)【名詞】片一方 かたはうの変化した語 (志 (浜島、布施田)、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、久、一、多、上、阿、張、名、度、伊、南、熊) [会話] きんたまな (鞆丸が) カタツポより無いのを かたきん。

かたつぽとび【名詞】片足とび (志 (浜島)) [会話] 石けりしよったけどなあ (して居たが)、石けり言よおった (言った)、かたつぽ (片一方) で跳ぶのを カタツポトビとか はしごきとかなあ。

かたつら (片面)【名詞】1) 隅 脇の方 (志 (布施田)、阿、張、名) 2) 物の反面 反対側

かたて 堅くて (桑郡、桑市)

かたて (片手)【名詞】五指で五を代表させる事 金銭、品物の五を表す

かたて (片手)【名詞】…するかたわら…しながら 二つ以上の事を同時に行う事 [会話] がっこい (学校へ) 行く カタテン (に) そげん (そんなに) して。

かたてま (片手間)【名詞】本業の余暇 用事のあいま 又、その時にする仕事

かたとき (片時)【名詞】ひととき (一時、一刻) の半分 わずかな時間

かたない (形無)【形容詞】形がつかない 格好がつかない 穢ない 醜い まるでしようがない 物事が目茶苦茶になる [会話] カタナシヤナア (だ) 言うやんかい (言います)。何や彼や失敗したと (すると)、こや (これは) カタナシヤナ。何か物を作とる (作って居る) 時に失敗すると だいなしやなあ言う事 カタナイなあ。

がたなくる 不調になる 壊れかける 疲れる [会話] ガタナ クンド (来るぞ) 言うと、疲れなくんど 言うことやなあ (です)。まあそげん (そんなに) よけ (沢山) 働いたら ガタナクル 言うて よお言うやんかい (よく言います)。働き過ぎのことを言うんやろ思う (言うのだと思う)。物でもあんまり (あまり) 使いすぎると ガタナクル 言うて、壊れてく (ていく) 言

う様な意味やなあ(です)。壊れる言うことを カタナクル言うんやる思うけどな(言うのだと思いますが)。

かたなし(形無)【形容詞】 面目が立たない 格好が立たない かたない参照 [会話] カタナシやなあ(だ) 言うてなあ 何かかしても わりと(悪いと) さいごんなあ(その時) まとまらへんとなあ(まとまらないと) まあこや(これは) カタナシやなあ(だ) 言うけどな(言いますが)。えごつと(完全に)物が 成功しないとか 物がまとまりのくい(にくい)とか言う様な意味やけどな(です)。カタナシ言うのはな、そいなこた(そんなことは) カタナシやなあ 言うて、格好がつかんとか まとまらんとかなあ 面目ないとか、そお言う様な時 カタナシやなあ 言うことやなあ(です)。

かたなわからん 仕方が判らない 様子が判らない 判断が出来ない

かたに(片荷)【名詞】 天秤棒で一方だけの荷物 両方の釣り合いがと取れていないこと(志(布施田)) [会話] カタニ言うて ひとつあ おもとおて(一つは重くて) ひとつあ かあるい(一つは軽い)のをなあ カタニ。おもに(重荷)は持っても カタニは持つな言うてなあ、重荷はなあ おもたなりん(重いまま)平均でええねけど(よいのだが)、カタニはなあ 前いや やなあ(やれば) 前な(が) つかえるし こっちゃい ひっぱや(引っ張れば) まあ 後な(が) かあるう(軽くなる) なてくるしなあ、どいらい(大変) 持ちのくいねてや(持ちにくいのです) そやよってなあ(だから) 重荷は持っても カタニはもつな言う。カタニはなあ、もちのくいの。

かたにえ(片煮)【名詞】 飯などが完全に煮えて居ない事 半煮え [会話] 飯は カタニエしとん(の) (して居るのを) かんち飯炊いて言うて。片いっぼ(片一方) 煮えて かたっぼ(片一方) 煮えとらんとこ(煮えて居ない所)を かんちや(だ) 言うて。

かたぬやげ。かたのやげ(肩縫上)【名詞】 肩あげ 子供の着物の衿を合わせて、長さを調節するために取ったあげ(志(甲賀、国府、安乗)、鳥) [会話] カタヌヤゲ 肩を縫い上げる事を、布(きれ)が、ながいもんで(長いので) 肩上げ、のやげ(縫上げ) 言うてなあ 肩上げすんのを(するのを) のやげしとけ(しておけ) 言うて。のやげとか、カタノヤゲ やたら(とか)、昔や(昔は) 皆なあ きだけん(着丈・着て丁度よい高さ、長さに) せんと(せず)に おつきいめん(大きい目に) こさえるもんで(作るもので、そして

又、カタヌヤゲを せんと(しない)子供ら みっ とものおて(見苦しくて)、縫い上げをのやげ のあげ。

かたはし(片端)【名詞】 一方の端

かたばっか(形許) 実質が伴わなくて、形式だけ 見掛け倒し [会話] カタバッカ作って言う。何んも(何も) 出来んとおってなあ(出来ないで居るのに) 出来た様な ふうばっか(格好ばかり)して そして かしの このおておて(賢くないのに) かしのぶってすんのを(するのを) カタバッカつくって言うて。

かたばかぞお【名詞】 外見だけの人

かたばね(片羽根)【名詞】 夫婦の一方が死亡して無い人、後家、寡夫 [会話] 後家、寡夫の事を、片親の事を カタバネや(だ) 言うて、かたっぼ(片一方)より 羽根な(が) 無い言う事やんかな(です)。かかな(妻が) おると(有ると) 両羽根あんねけど(有るのだが)。

かたはら【名詞】 片肌 半身 はら はだ ら行とだ行の交差 [会話] どお(槽) 漕んでも、あつなて(熱くなって) 来ると、肌のぎかける(脱ぎかける) 言うて な カタハラのんで(片肌脱いで) する時も有るし、もろはら(両肌) 言うと じょおほお(両方) のんだん(脱いでやるのです)。

かたはる(片張る) 1) 緊張する 2) 肩が凝る 肩の筋肉が硬くなる

かたびら(帷子)【名詞】 葬儀の時の婦女子の役割の一つ、善の綱を引く死者の親しい人がこれに当たる 喪服 かたひら 一方の転 かたびらかぶり参照(志(浜島))

かたびらかぶり【名詞】 葬式の時かたびらを付ける婦人(志(鶴方、甲賀、国府)、鳥) [会話] カタビラカブリ(帷子被) 言うな 葬式に 濃い人らな(血縁の近い・交際の深い人達が)、今は被らせんけど(被らないが) 昔や(昔は) 袖を かたいいっぼおつ(片一方ずつ) 左の袖 カタビラ言うのな(が) 有て。カタブラカブリみたよおん(のような) 言うて、袖で。こららな(子供達が) ちょおけて(ふざけて) 被るわい(被ります)、そいな(そんな) 事すんな(するな) 言うて 嫌うのなあ(嫌うのです)、縁起取って(かついで)、葬式ん(に) なると 必ず被りよおったがなあ(被って居ましたが)。たとどいて(たたんでおいて) あや おひいさん(太陽)に当たると わり(悪い) 言うので あんで(あれで) 穢れとる(て居る) 言う意味やるな(でしょう)、被んのを(被るのを)。ひい(日光)にあたんのを(当たるのを) 葬式な(が) 行くまで かげ(遺体) かくす(埋める) 迄はなあ。カタビ

ラ言うのは 普通のきもんやけど (着物ですが) 昔や (昔は) 麻のおおを (のを) カタビラや (だ) 言うて、盆 (孟蘭盆) になると 水向けん (仏を迎える行事に) 行くのん (のに) 着よおったわい (着て居ました)。 そすと (そうすると) それのなあ あんまり (あまり) ええねのおても (良いのでなくても) ふるう (古く) なったのでも カタビラや (だ) 言うて 被よおったわい 左の袖をなあ。着物の袖、被るだけ 普通のきもんやけど (着物だけれど)。今し 皆に しいるい (白い) あんな (あれが) カタビラの代わりや (です)。 カラビラカブリの しるしやんか (証明・目印です)。 そやけど (しかし) あの綱 善の綱。今しや (今は) 善の綱引かせんのなあ (引かないのです) 道な (が) 危ないよって (から) 引かんと (引かずに) すぐ切って。善の綱 引っ張ってといて (行って) 昔や (は) 墓できしゃいて (きさく・切り裂く) 皆ん (に) 手拭いをくれおった (くれて居た)。葬式な (が) よおて (よくて) 善の綱引くんでわれ (のだそうです) 言よおったもん (言って居ました)。葬式な (が) 悪い家は 善の綱引かせん (引きません)。今は、あれ引くと道な (が) 危ないもんで 引かんと (引かずに) 家から切って、首い (に) 巻いて、昔や (は) 引い (といて) 墓でみんなん (皆に) 配って。そんで ほれ、昔は、おおかた (殆ど) 海女しよおったもんで (して居たので) あれを いそでのぐいしよおって (磯手拭にして居たので) そやもんで (それで) 木綿のおおで (ので) しよおったけど 今は 木綿のもん (物) は、使わせんもんで (ないので)、タオルん (に) すんねてわな (するそうです)。

かたぶく (傾) 【自カ五】 傾く (鈴市、伊、熊)

かたぶける 【他下一】 傾ける (伊)

かたぶつ (堅物) 【名詞】 人間が馬鹿正直で 融通の利かない人 [会話] カタブツ 言うて 人間な (が) いちが い (強情で融通性ない) な事を、カタブツや (と) 言うけどなあ (言います)。 人間な かとおて (堅くて) いちがいで、嘘言うても ほん とん (に) するの なあ (です)。 あや (彼) 人間な かったいよって (から) まっとおて (正直で)。 まったい言うな (のは) 何でも 人の言う事、嘘言うても まうけん (真受に) して、ほん と (本当) にして、言う と にげ な (人間が) 正直で言うねわい (言うのです)。 馬鹿正直言うねわい、そいな (そんなのを) カタブツや (と) 言うやんかい (言うのです)。

かたぶとり (固太) 【名詞】 筋肉で太って居る事 太って

居るが筋肉が固くしまつて居る事

かたふね (片船) 【名詞】 共に作業する相手の船 僚船 (志 (志島)) [会話] カタフネ 言うな なあ (言うのは)、まあみ と さかあみ と しとて (して居て) すると、いっばい (一艘) の船を カタフネ 言うの (言うのです)、にはい しとると (二艘して居ると) いっばい を カタフネ や 言うの。まあみ と さかあみ や 言うて さいら 船 (秋刀魚を獲る船) でも うちあみ (四艘張り) でも 二はい 揃うわい (二艘揃います)。網やらん ならん よって (入れなければならぬから)。 そすと まあみ さかあみ や 言うて なあ 網積む舟は まあみ や 言う ん な し (言うのですし) それを 繋ぐ舟は さかあみ で、そして まあみ は 網引くと 魚な (が) の ると (穫れると) まあみ い (に) 魚、積むん やんか な (積むのです)。 まあみ な (が) 一杯 積んで 余ると さかあみ い (に) カタフネ い (に) 積む の (のです)。一番始め ちよいとやどけ (少し程) の ると (網に入ると) まあみ い (へ) 魚は 皆、あげん の (載せるのです)。 そすと まあみ な (が) 一杯 な った よって (から) さかあみ い (へ) 積め やうて。 さいら 舟 や (だ) 言う と 四 杯 ある もんで (四艘有るので)、てぶね、おきて ぶね たか て ぶね やうて 四 杯 有る もんで (ので) 大漁 する と 今日 は、さいら 舟 四 杯 積み や て われ (だ) そう だ 言う て その、てぶね い も (にも) 皆、積んで、そすと 大漁 で 四 杯 積んで 来た やうて。 そ お す と さいら 開 き ん (開きに) 行く ので 皆、し こ っ て (精出す・熱中して) 行き お つ た ね え (行って居たのです)。 そして 朝 迄 勘 定 し と よ お つ た (数を数えてして居た)。「一つ、二つ」 に ほ (二本) 持 っ て 一つ 二 つ やう て その よ け (沢山) の 舟 四 杯 ん の お を (ののを) 皆 勘 定 す ん ね や ん か い (するので)。 朝 迄 さい ら か ん じ え る (数える) 声 な (が) 聞 こ え と よ お つ た (て居ました)。と お よ (十) やう と か ず と り (計算係) やう て さい ら を 一つ 違 う と こ ん (所に) 入 れ ん の (入れるのです)。 後 で その さい ら を か ん じ え て (数えて) なん じ え ん (何千匹) と て (穫って) 来た やう の を 判 ん の (判るのです)。 ひと お つ ふ た あ つ やう て と お よ やう て ど い ら い (大きい) 声 で 十 な る と やう と、一つ、か ず と り な (が) さい ら を 違 う 入 れ も ん (入れ物・容器) へ 入 れ ん の (入れるのです)。 そ す と 皆 (全部) か ん じ よ (勘定) して 終 る と その か ず と つ た の を 勘 定 す る と (数えると) い く ら (何ヶ) やう の な (言うのです)。 十 で い っ ば や よ っ て なあ (一本だから) 何 千 穫 て (穫って) 来 た、

今日は十万も獲て (獲って) 来たんでんない (そうだ) 言う時な (が) 有よおったわい (有りました)。てぶね言うのは まあみと さかあみと 網やるやんない (入れるでしょう)。たかてぶね、おきてぶね言うて二はい有って、それは 石を積んどて (積んで居て) さいら 追うのなあ (です)。石 放って。休みんすると (になると) その石を かか (嫁・女性) らは 皆、拾いん (拾いに) 行くの、越賀の浜や 御座い (へ) 迄、荒砂な (が) 有るとこい (所へ) こいな (約20cm直径迄) 石を 車で曳きん行きおったわい (曳きにいきました)。漁師な (が) 休みな (が) すると、漁師の人ら わがと (自分) らな 拾いん 行くけど、沖な 幾日 (いつか) も続くと かからな (が) 石拾ん (に) 行きおった。そすと てぶねな (が) 二はいへ 積んどて (で居て) さいらな (が) ピョンピョン跳ぶやんない (でしょう)、そすと 石放ってさいら網い (へ) 追い込んで まあみと、さかあみで その網揚げん (ののです)。おきてぶね たかてぶね言うな (のは) 魚を 追い番や (追う役目です)。さいらを見付ける番やなあ (役目です)。おきてぶね言うのは、めえな (目が) よおめえる (よく見える) 人な (が) せびきや (だ) 言うて 船頭して さいらな ピョンピョンととおおいとこ (遠い所) で さいら跳ぶのを見付けん (けるのです)。そすと それむいて (向かって) おわえんのやんかな (おわえる・追いかけるのです) さいら向いて、そしといて (そうしておいて) てぶねな (が) 石放って さいらをひととこい (一カ所へ) 追いかためといて (ておいて) 網やって (入れて) 引くんやんかい (引くのです)。そすと ひと網で (一回の網入れ) 三万も五万も 乗る (穫れる) 時な (が) 有るし その時ん (に) なると 十万も穫って 四はい積や (だ) 言うて。

がたべり 【名詞】 急激に減少する事 激減 [会話] ガタベリ言うな (のは) ごおと へってく (減っていく) ことをなあ ガタベリやなあ (だ) 言うやんかいな (言います)。

がたぼち 【名詞】 凸凹 [会話] ガタボチ踏んで言うて 真っ直ぐん (に) なっとらんと (なっていないくて) がたんくたん がたんくたんと 段段みたよん (でこぼこのように) なっとんねやんかい (なっているのです) ガタボチ踏むのなあ (です)。

かたまあり (片回) 【名詞】 物事が平均しないで一方に偏る事

かたまつとる 1) 緊張している 2) 寄り集まっている

る 3) 物などが堅くつついている

かたまる (固) 【自ラ五】 1) 集まる (南、熊) 2) 緊張する 3) 結婚の話がまとまる [会話] ひととこい (一ヶ所) 寄せたると (てやると) そや (それ) ひととこい (一ヶ所に) かためとけ (集めておけ) 言う、人間も みんな (皆) ひととこいよると (一ヶ所に集まると) ひととこい、カタマル 言うて。 結婚すんのでも (するのでも) 話な (が) まとまると カタマツタなあ 言うしなあ (言います)。 皆 寄り集まって来るのを カタマル。カタマツタ 言うてな まあ、カタマツテこい (来なさい) 言うてな 今日は何んやかな (なんだろう) あしこん (あすこに) 人な (が) カタマツテ寄つとんない (ている)、かたまつとんない (集まっている) 言うて、人な (が) 沢山よつとんのをなあ (寄っているのを) カタマル 言うのなあ (です)。

かたみ (片身) 【名詞】 魚の背骨を境に平たく開いた半分 次項参照

かたみ (形見) 【名詞】 遺品 死んだ人を思い出すよすがとして残された物 [会話] 魚半分したの (のを)。それから 死んだ人の貰うと カタミや (形見だ) 言うしなあ (言います)。

かたみだり (片乱、肩乱) 【名詞】 かたみだれ 片乱 着物を着て前裾の不揃いなさま (志 (鶴方)) [会話] うわまい (上前) でも したまい (下前) でも どっち (どちら) でも上げて着とる (着て居る) 時な (が) 有るやんない (有るでしょう) そいなのおを (そんなのを) カタミダリ。

かたみわけ 【名詞】 遺品 死者の残した物を分ける事 しょうぶわけ (志 (御座、片田、船越、志島、国府)、鳥 (坂手、答志))

かたむき (傾) 【名詞】 傾斜 傾斜の程度

かため (互) 【副詞】 交互にする事 たがいにし合う事 交代してする事 代わる代わる かたみ (志 (浜島、越賀、鶴方、甲賀、立神)、鳥、度、伊) [会話] カタメン (に) しよおやんか (しましよ), 代わる代わる しよおや (しましよ) 言う事を、カタメンしよおや (しましよ)。

かためかため、**かためがわり** 交互に、交代して (布施田、鶴方、神明、立神、国府、甲賀) [会話] あんたな (貴方が)、今日はしたら、あした (明日) わしな (私が) する言うな (のを) カタメガワリ 言うて、カタメカタメ 言う人も有るし、カタメガワリ 言う人もあるし、かため (交互) にしよおやんか (しましよ

う)言うて。

かためごと【名詞】 お互い様 助け合い 互いに助け合う事 (志 (布施田)) [会話] 助けやいやよってん (助け合いだから)、もろたりやったり (貰ったり与えたり) カタメゴト。

かためし(堅飯)【名詞】 堅い御飯 [会話] カタメン炊く時もあるけど 水引きな(が) わりわい (悪いです) ゆきひらは。

かためしごと【名詞】 お互いに仕事を助け合う事 (志 (船越))

かために 交互に (志 (片田))

かためにする 交互にする 労働交換する (志 (片田))

かためばんこ【名詞】 交代 交互に

かためまき【名詞】 交互に種播きをする事 [会話] 仲間で 今日はわしげ (私家) の播いて、こんだ (今度) は あんたげ (貴家) の播きいして (播いて) かために (交互に) カタメマキシよおや (しましょう)。

かためんこ 交互 交代

かたやま(片山)【名詞】 剃り残しのある頭 とら刈り [会話] カタヤマ言うて 頭をはんぶすって (半分剃って) 半分置いとくと (ておく・残って居ると) カタヤマン (に) 剃って言うて。子供の時分 (時) に 泣いて はんぶすって はんぶ、すらんと来ると、泣いて すらせんで (剃らせなくて) 頭 カタヤマン (に) して言うて。頭 カタヤマに (に) 剃って あやあれ (あれ) 言うて よお言よおった (よく言っていました)。

かだら【名詞】 身体

かたわ(かたは)(片端)【名詞】 体の構造に欠患の有る人 (志 (浜島))

かたわかれ【名詞】 二派に別れること 派閥をくむ事 [会話] 赤旗やら (とか) 白旗やら言うて カタワカレン (に) なんの (なるのを) 党派な有って言うて。

かたわき(片脇)【名詞】 隅、邪魔にならない所 かたつら、かたわら参照 [会話] かたわらに (側)に 居る言う時と カタワキ (に) 行け 除けたりする時、カタワキ。

かたわし(かたはし)【形容詞】 人並みでない 可哀そうだ カタハ (不具) を活用した語 (志 (布施田)) [会話] 片端の子、ちんぼとか てえな (手が) いがんだり (歪んだり) すると、あや (彼は) てえな (手が) カタワシねよって (のだから) いたわつたらなほざんわれ (いたわってやらなければいけない) とか。

かたわら(かたはら)(傍)【名詞】 物の横側 近くの所

何かの端によつた所 [会話] カタワラ言うて あんなの (貴方の) カタワラに 私が居る言うのも カタワラなあ (です)。カタワライ (に) 寄って言うてなあ、側、言う意味やなあ (です)。カタワラに居る言う事と カタワライ (に) 行け。のけたたり (除けてやったり) する時、かたわき そちらの方 (に) のけとけ (除けておけ) 言うのをなあ そのカタワライ (に) やとけ (やっておけ) 言うのな (です)、かたつらい (に) よせとけ (寄せておけ) 言う時もあるしなあ。カタワラ かたつらいよせとけまあ 邪魔ん (に) なんのん (なるのに) 言う時もあるし。

かたわれ(片割)【名詞】 1) 仲間の一人 仲間の一部 2) 一対になって居る一方のもの、折れたものの片一方のもの [会話] 折ったた (折ってやった) カタワレを、もてこいまあ (持って来なさい) 言うて。双子のカタワレ 何んか、こお ふたあつ並べとんのを (ているのを) わけたると (分けてやると) カタワレ 何処 (に) やったんど (やったのか) 言うてなあ、二つ揃った物の一つをなあ カタワレやなあ (です)。カタワレ 何処 (に) やったんど そや、これとふたあつ並んどた (でいた) 言うてなあ。

かたんできた。かたんできたない。かたんできたれ 傾いて来た かたぐ参照

かたんでく(傾) 傾いて行く [会話] かたむいてくの (ていくのを) こっちゃいかたんどる (こちらへ傾いている)、あんな (あれが) かたぎやなあ (だ) 言うて、かたんどるとなあ 傾いてくのをなあ カタンデク、ぼおし (藁束) 積んでも そや、こっちゃい (こちらへ) カタンデタレ (でいった) はっぱりこおとけ (支柱しておけ) 言うてな、荒布 積んでもなあ ひとくらん (一度に) 積むとなあ カタンデク ねてや (傾いて行くのです) いくくらんもなあ (幾度にも) 積むと ええんけど (よいが) ひとくらん あんまり、たっこお (あまり高く) 積むと カタンデキテ (傾いて来て) そやまあ、かたんでたれ (傾いていった) 言うて。

かたんでくど 傾いて行くぞ

かたんでたない。かたんでたれ 傾いていった [会話] かたんどる (傾いている) のを見て あやれ (あれ) カタンドラレ言う かたんどて (でいて) あやまあ (あれは) 引つ繰り返ってくやら (か) 判らせんなあ 言うて かたんで来たれ (来た) 言う時もあるし カタンデタレ言う時もある。

かたんどる(傾) 傾いて居る [会話] カタンドル言う の (のです) カタンドルの見てな あやれ (あれ) ま

かたんどられ (傾いている) 言う。かたんどて (でいて) あやまあ ひっくりかえってくやら (ていく) 判らへんわれ (判らない) 言うてなあ、かたんできたれ (来た) 言う時もあるし、かたんでたれ (でいった) 言う時もあるしなあ。あやまあ 終いにや (には) ひっくりかえってくど (かえって行くぞ) 言うてなあ。見ておって (見ていて) かたんでたれ言う時はかたんでたれ言うて その、かたんできたれ (来た) 言う時もあるし かたんでくど (でいくぞ) 言う時もあるしなあ ひっくりかえってく (ていく) 言う。

かたんま 【名詞】肩車 人を肩に乗せたり 首にまたがらせたりしてかつぐこと (志 (浜島、立神、国府、安乗、甲賀)、鳥、桑市、員、三、四、鈴市、安、一、飯、阿、張、度、伊、南) [会話] 肩い (に) うまのりん (に) すんの (するのを) カタンマな (です)。ちっさい (小さい) 子らを よお (よく) カタンマ。男の人らななあ (が) カタンマするやんない (するでしょう)。かたうま言わずに カタンマ言うてな。とおやん (お父さん) に、カタンマしてもるて (してもらって) 行け言うて 昔よお カタンマしよおったけどなあ (して居たが) 今し (今) の人ら、よけしやへんな (あまりしません) たまに祭やどけに (などに) 見えやへん もんで (見えないので) しとるけど (しているが) 子供らん (に) 見せんのん (見せるのに)。

かち (徒) 【名詞】1) 乗り物を使わずに、自分の足で歩く (志 (布施田、鶴方)、員、北、南) 2) 陸地から泳いで行く海女 (志、鳥 (国崎、菅島)) [会話] 1) カチ言うて、歩いて行くのを、車え乗らんと 歩いて行くのもカチ。カチ 歩いて来たんかい (来たのですか) 言うて 車ん (に) 乗って来たんかい 言うてなあ。2) いそどな (海女が) はまこすんのもな (練習中の海女するの) カチドや (だ) 言うてな、浜からおえんでくのなあ (泳いで行くのを) カチドや (だ) 言うし。

かちあう (掲合) 【自ワ五】物事が一カ所でぶつかる 重なる 人と人が出会う (志 (布施田)、北)

かちあま 【名詞】舟で行かずに海岸から泳いで行く海女 (志 (越賀)、鳥 (国崎)) [会話] カチアマ言うのも一緒 浜からおえんでくのなあ (泳いで行くのを) カチアマや (だ) 言うてな。

かちあるき (徒歩) 【名詞】徒歩で外出する事

かちえ (かつえ) 【名詞】飢える事 (志) [会話] カチエ、かつちえとる。食うもんな (物が) ないと カチエて かれ (て行く) 言うて、飢死することを かつちえじ

にやれ (だ) 言うて 今日はみっか (三日) も食わんとおんね (食わずに居るのだ) かつちえじにやなあ (だ) 言うてな あの家、なんものおて (何も無くて) かつちえとんねてわれ (ている そおだ) 言うてな なんぎしとるとなあ (難儀している)。

かちえじに (かつちえじに) 【名詞】餓死 (志) [会話] カチエジニは 食わんと死んでく。

かちえど (かつちえど) 【名詞】飢えた人 (志 (立神、国府、安乗)、鳥) [会話] かつちえどみたよななあ (のようだ) 言うてなあ。食うのを かしえ かしえと 腹なへつとると (がへつて居ると) あれも食い これも食いして、人な (が) 見とて (見ていて) あやれ (あれ) あの勢い見よま (見なさい) かつちえとるくら いやなあ (ているくらいだ) 言うて、おおた カチエドな (が) 来たくらいいやなあ (だ) 言うたりなあ 食うのを あせて 食うと。

かちえとる 飢えている (志 (立神))

かちえる 飢える (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] カチエル言うのは 腹減らす。

かちかち 【副詞】1) 緊張している様 2) 物の堅い様を表す (志 (布施田))

がちがち 【副詞】【形容詞】1) 物の堅いさまを表す 2) 緊張しているさま 3) 寒いさま 4) 欲の深いさま

がちがちぶるい 【名詞】寒さのため激しく震える事 [会話] おおた (ああ) ガチガチブレイやよお (だ) 言うて、さぶうて (寒くて) ふるうやんな (でしょう) それより さぶうて ガチガチブレイな (が) した言うやんか (言います)。

かちき (勝負) 【名詞】負け嫌い

かちくう 食事を主食のみ食べ、副食を摂らないさま又、その反対 一方のみ食べるさま [会話] カチクウ言うな (のは、食べるもん (物) を、だいこ (大根) 漬けやどけ (など)、御飯そえんと (添えずに) バリバリ嚙むと (食べると) 御飯のおかず (副食) にせんと (せずに) 食べるのを カチクウ。御飯のおかずにせんと すぐち (そのまま) で食うのを かち、みな食たたない (食べてしまった) 言うて よお言うやんかい (よく言います)。かち 皆、こおだたよお (嚙んでしまった)、美味いもんで (ので) 言うて。御飯だけ食べるのも カチクウ。

かちど (徒人) 【名詞】船に乗らず、陸から泳いで海女作業をする海女 (志 (御座、甲賀)、鳥) [会話] カチド言うて おえんでく (泳いでゆく) 人らを。舟ん

(に) 乗って行く人ら 舟で行く言うし。おおぜ (大勢) 乗って、ふなど (舟人・二人で海女作業する、夫婦で女が潜り、夫は舟上で作業を助ける女の方をさす) やなしに (でなくて) 行くのも、カチドや (だ) 言うやんかい (いいます)。一ぱい舟で行くと カチドや (だ) 言うて。舟で 夫婦で行く人らは ふねど。皆 その他大勢で行くのも カチド そして浜から一人で泳いでくのも (行くのも) カチ。

かちに (徒荷) 【名詞】 牛馬を使わずに自分で背負う荷 陸路を人足が荷物を運ぶ事 (志) [会話] カチニ 言うな (のは) わしらな (自分達が) かいやま (山の木を薪木用に買う事) い (へ) 行くやがな (でしょう)、山、きい (木) 切って、家い (へ) かいりに (帰りに) いちわあつ持てこや (一束ずつ持って行きましょう) 言うて、にのたり (担ったり) 頂いたりして (頭に載せたり) くんの (来るの) カチニ して言うて、かいり (帰りに) 持つのを かちにぎ。かいりに かちにぎ に いちわあつ持てこや 言うて よお (よく) 越賀から、にのたり (担ったり) 頂いたりして きよおった わい (来て居ました)。かちにもちも一緒やわい (です)。カチニモチや (は) 歩いて行くねよつて (行くのだから)。かち行くも かちも一緒 自分で行って かいりに持てこや (帰りに持って行きましょう) 言うて 帰り掛けの駄賃や (です)。

かちにぎ 【名詞】 田、畑、山からの帰りに持って帰る薪 [会話] かいやま 帰りん (に) いちわあつ持てこや (一束ずつ持って行きましょう) 言うて にのたり (担いだり) 頂いたりして (頭に載せたり) くんの (くるのを) カチニ ぎして言うて、かいり (帰りに) に持つのを カチニ ぎ。

かちにもち (徒荷持) かちもち (徒持) 【名詞】 陸路を徒歩で荷物を運ぶ人 かちに参照 (志 (布施田))

かちやう 【自五】 かちあう、ぶつかる、物と物とが突き当る

がちゃがちゃ 【名詞】 1) くつむし 直翅目 キリギリス科に属す 体長50~70mm 全体緑色で有るが、枯草地に住むものは暗褐色になる 後肢は長く羽の中も広い、ガチャガチャと鳴く (鈴市、安、上、阿、張、伊、鳥) 2) 入り乱れて居る 混じりあって居る 副詞 [会話] ¹⁾ ガチャガチャ言うな (言うのは) あんたらな (貴方が) 採りん (に) 行きおった (行って居た) かぼちゃ 食う。こころ かぼちゃ飯 食うと ガチャガチャ みたいやなあ (のようだ) 言う。ガチャ ガチャ飯や (だ) 言うて かぼちゃ飯 炊くと あや

(あれは) いろいろいっつるのおを (入って居るのを) ガチャガチャ や 言わせんかい (言いませんか)。かぼちゃ飯い (に) 芋 (薩摩芋) も入れて ガチャガチャ 言う事は ませこぜ (入り混じる) 言うよおな意味やねえんかい (無いのですか)。かぼちゃを ガチャガチャな (が) 食うもんで (食べるので) 言わせんかい。かぼちゃは ガチャガチャ の餌やよつてんなあ (だから)。それやよつて (だから) かぼちゃ飯 食うと ガチャガチャ飯 言うて。ガチャガチャ は かぼちゃ のわた (中心部の綿状の部分) を入れて食べるけど ²⁾ なんやかや (色々の物) ゴチャゴチャ としたのを ガチャガチャ して言うやんかい (言います)。ごちゃごちゃん (に) してあんのを (有るのを) ガチャガチャん して言うやんかい (言います)。

がちゃがちゃめし 【名詞】 南瓜飯 南瓜を入れて炊いた飯 がちゃがちゃ 参照 [会話] 南瓜飯食うと がちゃがちゃ みたいやなあ (くつむ虫のようだ) 言う。ガチャガチャ メシや (だ) 言うて 南瓜飯炊くと。

がちゃがちゃんする 混ぜる ごちゃごちゃにする

かちわたる (徒渡) 【自ラ五】 ある場所から他の所へ歩いて移動する

かちわり (搦割) 【名詞】 ぶつかき氷 食用の氷を割ったもの (鈴市、安、上、阿、張、名、南、熊) [会話] カチワリ 言うな (のは) 氷のカチワリ 言うやんかい (ます)。まあさんと (廻さずに・氷かき器で雪状にしない) こなしてあんの (小さくして有るのを)、カチワリ。

かちわる 撲る 割る (志 (布施田)、鈴市、南) [会話] カチワッタロン (てやるぞ) 言うてな、そこらん (に) おつてみよ さわで (竿で) カチワッタロン 言うとなあ どづいたろん (叩いてやるぞ) 言う事やんかい (です)。ごおなわいて (腹が立つ) わるう (叱る) 時なあ だれ (どれ) そこらん おつてみよ おのれ さわで カチワッタロン 言うてなあ わるいおつたの (叱って居たのです)。叩くとか 撲るとか。物を割る時も カチワリ 言うてな、叩いてすんのを (するのを) 金槌か何んかで カチワッタラナ (てやらなければ) こやま かっとおて (これは堅くて) 割れやへんわれ (割れない) 言う場合もある。叩き割ったら なはざんわれ (てやらなければ駄目だ) 言う時もあるしなあ。

かちんかちん 【副詞】 かちかちに同じ 物の堅いさま 緊張しているさま

かちんもち 【名詞】 かちにもちの訛ったもの 陸路を徒

歩で荷物を運ぶこと又、その人

かつ (搦) **【動詞】** 搦く 叩く 殻類を殻竿で打って実にする

かつえかす (飢) 飢えさせる 空腹にさせる 食事の時間が遅くなる

かつえじに (飢死) **【名詞】** 餓死 (南)

かつえど (餓人) **【名詞】** 飢えている人 食べ物がなく腹がひどくへって苦しんでいる人 (志、鳥、南)

かつえる (飢) **【自ア下一】** 食べ物がなくて苦しむ 腹がひどくへってひもじくなる 食べ物を欲しがる (貝、鈴市、安、張、名)

かつおくい。かどくい **【名詞】** くらかじき マカジキ科の海魚 くらかわとも言う。かじき参照 (志、度)

かつか **【名詞】** 魚の骨 幼児語 (志 (布施田))

かつかつ **【副詞】** ぎりぎり一杯のさま ようやと (志 (布施田)) [会話] カツカツ言うのは こおと (儉約・派手にしない) な、なんやかや (何や・彼や) 物をしまつすんのを (大切にするのを)、カツカツする言う時も有るけどなあ (有りますが)。物を粗末ん (に) せんと (せずに) 始末 (儉約) する言う事を、けちやなあ (です)、けちる事をなあ カツカツする言うて。食べるもん (物) も 充分に食べる程せんと (せずに) 腹な (が) 膨れるやら膨れやせん (膨れない) よおなのを カツカツ。ほん (本当に) 飯もカツカツん (に) 炊いて言うて、腹一杯食う程炊かんと (炊かずに) 足らん位、お櫃 がしがし揺く位すると、カツカツで 気な (が) 引けるよおな 食い方やったなあ (だった) 言うて。カツカツして言うな (言うのは) けちる事を言うんやろなあ (言うのでしよう)。

がつがつ **【副詞】** 飢えて見栄も体裁もなくむさぼり食べるさま 飢えているさま (志 (布施田))

かつき (くあつき) **【名詞】** 活気 いきいきとして活動的な気分 盛んな勢 元気 活機 いきいきとした働き 景気の良いさま 火気 ほてり 火の勢い 勢い クワキ (火気) の急呼 (大言海) カキの促音化 (広辞苑) (北) [会話] カッキな (が) ええなあ (良い) 言うて、カッキな (が) 有る言うな (のは) 元気な (が) ある言う事やなあ (です)。世の中は カッキやなあ (だ) 言う事も有るし。景気がええ (良い) と カッキがええ 言うし、カッキな (が) 出て来たなあ 言うて、世の中な (が) よお (よく) なって来ると。そして 弱々しよおんしとたのおな (ようにして居たのが) ちょいと (少し) 丈夫になって来たのを、元気づいて来んのも (来るのも) カッキな 出て来たのお

(来ましたね) カッキついたなあ 言うて。

かづき (かづき) (潜) **【名詞】** 海に潜って 魚介類、海藻を採る事、またその人 かづき 参照 (志、鳥)

かつぎて (担手) **【名詞】** 棺を担ぐ人 又、それを助ける人 [会話] 棒 (ぼお) で、つんのおなあ (吊るのを) 吊ったりすんの (するのを) かづいてけ 言う人もあるしなあ。吊っていけ言う人もあるしなあ。葬式の時でも カツギテナ (が) 言うて、あの、隣の人らな (が) かかえて言うし かかえてのこをのお カツギテナ (が) 言う時もあんな (有るのです)。かづいてけ (ていけ) とか にのてけ (担なって行け) とか 吊ってけ (吊っていけ) 二人ですんのをなあ (するのを) 吊ってけ 言うて、一人ですんな (するのを) 一人でああ、にのてけ 言うて、一人かづいてかんかれ (て行きなさい) 言うてなあ。

かつきり **【副詞】** 限度、全く、丁度カギリ (限) の急呼 (大言海) [会話] カッキリ居らんよん (ように) なつた (ていった) 言うてなあ。何んも (少しも) おらんよんなつてくと (居ないようになっていくと) そいなときん (そんな時に) カッキリ言うんなあ (言うのです)。入れもん (物) に、きちきち一杯ん (に) なる時は きっちり一杯言うの (のです) 一杯ん (に) なるなあ、そや丁度 きっちり一杯ん (に) なつたれ (なつた) 言うて、カッキリ言う と すつかりないよん (無いように) なつたなあ言う時もあるし。

かづきんいく (かづきんいく) 海女が 作業に出かける (志) [会話] カヅキンイクな、いそかづき。海女ななあ (が) 沖い (に) 出てくの を カヅキンイク 言うの もぐんの (潜るのを) をなあ カヅク (潜く) 言うの。

かづく (かづく) (潜) **【自カ五】** 海女の潜水作業 水中に頭から潜り込む (志 (前島、甲賀、度) [会話] いそどな (海女が) ひとかづき (一回の作業) ふたかづき 言うのなあ (のです)、一遍行くのを ひとかづき。おかづきも 一緒やわい (です) かちど (岸から泳いで作業する海女) も ひとかづき、行てこおか (行って来ようか) 言うて 一遍行くのを ひとかづき 行てこおか 言うて、ふたかづき めに (二回目に) こんだ (今度は) 大漁するよおに 言うて、ふたあくら (二度) 行くときや (時は) ふたかづき 目言う (言います) カヅク 言うのは 潜るのを なあ カヅク 言うの (のです)。

かづく (かづく) (被) **【他カ五】** 肩で荷を担ぐ 頭上に載せて被る (志 (御座、片田、鶴方、神明、立神、国

府、安乗)、鳥、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、一、飯、多、上、阿、張、名、伊) [会話] カヅク言うのは 肩へ 天秤棒を据えんな(載せる)、肩へ載せんのを(載せるのを) 言うな、頭 載せんのは いた

かづけ (かづけ) 【名詞】 人になすりつける事 かこつけること (志 (布施田))

かづけごと (かづけごと) (託事) 【名詞】 かこつける他の事を口実とする事 [会話] わしら(私は) 相手な(が) 有るとか、家の都合がどおとか言うて カヅケゴト。

かづけやい 【名詞】 罪のなすりつけあい かこつけあうこと (南) [会話] あんたな (貴方が) 持てたねやんな (持っていったのだから)、あんな (彼が) 持てたねやんな (持っていったのだから) 言うてなあ、カヅケヤイする言うのなあ (のです)。とんびい (鳶に) 問えてや (と云えば) 鴉ん (に) 問え言うて カヅケヤイ すると 何ん (何にを) 言うとんねど (言っているのだ) とんびい 問えてや 鴉ん (に) 問え言うてな 昔の人らは そげん言よおった (そんなに言っていました) カヅケヤイ すると。とんびや (鳶だ) 鴉や (だ) 言うたてて、はざおかれ (言っているも駄目だ) 言うてなあ。お互いに、なすりつけやいする カヅケヤイ してなあ。わりこた (悪い事は) ま わがと (自分) かづからまい 言うて ま 人ん (に) なすりつけよ (よう) 言うて すんのを (するのを) かづける 言うの (のです)。昔なあ とんび 金おこせ (寄こせ) 言うて おや (俺は) おやしらん (に) 鴉ん (に) 問え言うて、鴉 金おこせ 言うてなあ とんびや 鴉な (が) とんど (と) となあ (飛んでいると) そげん 言うて おめきよ おったの (大声をあげて居ました)。

かづけられる 罪をさせられる 無実の罪にとわれる [会話] かづける言うのは 相手に (が) なんもしやせん (なにもしない) のを、お前な (が) したやんな (しただろう) 言うて かづけて (なすりつけて)、そしたら おら (俺は) かづかった (なすりつけられた) 言うて カヅケラレルと。

かづける (かづける) (被) 【他カ下一】 1) 人のせいにする 2) 口実にする かこつける (上、阿) 3) 責任や罪を他人に負わせる (志 (片田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥) [会話] 1) 相手に 何んもしやせん のを (何もしないのを) お前な (が) したやんな (したのだから) 言う。カヅケルそしたら (そうしたら) おら (俺は) かづかった 言う

てな、かづけられるとなあ。沖い (に) 行ても (行っても) ふたんな 行ておつて (二人が行っているのに) へえ (屁) ひって喧嘩して戻って来た言うねよつて (言うのだから)、兄貴 のな (お前が) へつたんでや (したのだ言うて)、おとたあ (弟は) のな へつたんでや 言うて、ふたんな おつて (二人が居て) へえ (屁) の、かづかりてな (が) のおて (なくて) 怒つて 沖い (へ) 行て (行つて) しょおばいせんと (仕事せずに) 戻って来たね。ふたんな おつて へえ (屁) ひつたぬしな (主が) わからんで それも一緒に かづけやい。

かづけんねない 人のせいにするのだ。罪をかぶせるのだ。

かっこ (かくこ) (各個) 【名詞】 一人で 自分勝手に [会話] 自分一人で勝手に行くな (のは) めんめんこ (銘々・各自) に行こや (行きましょう)。めんめんに行こやとか言うな (のは、まあ (もう) あんたげ (貴方の家) 呼ばせん (誘わない) カッコ で 行こや めんめんこ で 行こや 誘とらんと (誘わないで) 言うて。

かっこ 【名詞】 下駄 カラコロの軀 (大言海) マレー語 kanghong (木履下駄) からか、長崎ではカッコンと言う (方言俗語語源辞典) (志、鳥、員、一、飯上、阿、張、名)

かっこ 【名詞】 鯉の肉の堅くて生臭いもの [会話] カッコ 鯉のくさいの

かっこ (かっかう) (恰好) 【名詞】 格好 姿形 仕事振り (伊賀地方、熊)

がっこ (がくかう) (学校) 【名詞】 学校 末尾うの省略 (志、鳥、員、三、鈴市、鈴郡、亀、安、津、久、一、松、阿、度、伊、北、南) [会話] 勉強するところ ガッコい (に) 行かんかれ (行きなさい) 言うてなあ。早よ (早く) 行かな (なければ) おそなんど (遅くなるぞ) 言うて、学校 言わな (なければ) いけない のをなあ ガッコ 言うて。

がっこあがり 【名詞】 1) 小学校を卒業したばかりの若者 2) 義務教育以上の教育を受けた者 [会話] 1) 引き綱 漕ぎや (乗組員と) 言うて ガッコアガリ を 引き綱い (へ) 雇いん (に) 来るわい (来ます)。

がっこあがる 卒業する

かっこい 【形容詞】 賢い 利口である 賢明だ (志、鳥 (神島)、伊、上、阿、南、熊)

がっこいあがる 入学する 卒業はおりる あがるとおりる

がっこいき 【名詞】 児童 生徒 (志 (布施田)、一) [会話] 生徒のこと。ガッコイ きな (が) あやれ (あれ)

皆 今し行かれ (今行きます) 早よ (早く) 行け言うてな 中学校でも 小学校でも 大学生でも がっこい (学校に) 行くのな (のです) 学生。

がっこいのぼる 入学する

がっこおり 【名詞】 がっこあがりと同じ がっこで (学校出)

がっこおりる 卒業する。入学はあがる、のぼる (上昇) に対し、おりる (下、降) か。

がっこで (学校出) 【名詞】 義務教育以上の教育を受けた者 高等教育を受けた者 [会話] 中学出やてわれ (だそうだ)、大学出やてわれ 言うのを、ガッコデ。六年おりたんでわれ (卒業したそうだ) 言うてな、六年終ったばか (ばかり) 六年おりたんでわれ 言うてな。水産学校で 卒業したんでわれ言うて、言うのをな 水産学校出やてわれ 言うてな言うの (のです)。ガッコオリ言うのは 卒業した言うのを ま がっこおりた 六年おりて (卒業して) 何処そこい (に) 勤めとんね (ているのだ) 言う時もあるし、また これから 学校行くね (行くのだ) 言う時もあるしな (あります)。ガッコオデ言う時は 小学校 中学校は言わんと (言わずに)、高校や大学出たのを あやまあ (彼は) ガッコデやよってん (だから) えらいわれ (偉いです) 言うてな。高校出やよって まあ ええとこい (よい所に) 勤められられ (られる) とかなあ、雇とて貰われ (雇って貰える) 言うねんな (言うのです)。何処いでも、やとてもらわれな ああ、ガッコデやもん (なので) 言うて ええがっこ (よい学校) 出ると。

がっこのこらら 【名詞】 生徒 [会話] ガッコノコララ 言よおったけど (言っただけ) せえと (生徒) の事を。

がっこまれた 怒鳴り込まれた [会話] いきよいよおして (勢いよくして) 怒ってくんのを (来るのを) カッコマレタ よお言うて。

がっこまれて 怒鳴り込まれて

がっこまれる 駆け込まれる 怒鳴り込まれる 苦情を言われる [会話] なんやかや (いろいろ) 話のつづな (が) 判らんとか、気に入らんとか 言うて、その会議のとこい (所へ) 行くやんない (でしょう)。そすと あれん (彼に) カッコマレテ弱ったよお (困った) 言うて。

がっこむ (駆け込む) 【自マ五】 怒鳴り込む 駆け込むの音便 (大言海) (熊) [会話] かっこんで来た (駆け込んで来た) 言うてな、おおた (ああ) あれん (彼

に) カッコマレテ 言うて、尻持って来る言う事、苦情持てく (持って行く) のを カッコム 言うて、尻持て来て 苦情持て来て (持って来て) 言うのを、かっこんで来て、おまや (お前は) こげん (こんなに) 言うたやんかい (でないか)、あげん (あんなに) 言うたやんかい 言うて、わしら (自分の) 知らん事を、こげん 言うて あげん 言うて 言うのを カッコム。ものすごい勢いで そいな (そんな) 時や (は) 言うて 来んねやろな (来るのでしょうか) かっこんで来る言う時や (は) まあ (もう) 腹立って 腹立ってしゃあない もんで (仕方がないで) ものすごお怒って行くのを カッコム 言うんな (言うのです) 腹立ち川へ飛び込む程ごおわかすねやろな (腹を立てるのでしょうか)。

かっこむ (挿入) 【自マ五】 かき込む 掻き込むの音便 (大言海) 食物を急いで掻き入れるように口に入れる 飯などを大急ぎで食べる かき 接頭語 動詞に付いて語調を整え語勢を強めるのに用いる こむ 中に入れる こめる こめる 詰める 物の中に入れる (松、北、尾、南、熊)

かっこめ 急いで食べなさい

かっこわり 1) きまりが悪い 恥ずかしい (阿、張、名、南) 2) 形、姿が見苦しい

かっこんで来た 1) 怒鳴り込んで来た 2) 早く食べて来た [会話] なられた (怒鳴られた) カッコンデキタ 言う話しや (です)。

かっこんでく 1) 駆け込んで行く 怒りに行く 2) 急いで食べて行く。[会話] お前や (は) あの家い (へ) いて (行って) わしな (私の) 事 こげん (こんなに) 言うたやんない (でしょう) 言うて、ごおわかして (腹立てて) カッコンデク のな (です) いきよいよお (勢いよく) して 怒って行く を カッコンデク。

がっさい (合切) 【名詞】 合計する事 すべて ことごとく 一切合切 (志 (布施田)) [会話] いっさいガッサイ (一切合切) ひっからげて (絡げて・ひつは接頭語強調) 持ていた (行った) 言う事。一切ガッサイなん やかや (何も彼も) 皆、持てく (持って行く) 言うのを。一切ガッサイ 全部持てく (持って行く) 言う事を 一切ガッサイ ひっからげて 持ていたたない (持って行ってしまった)。

がっさいぶくろ (合切袋) 【名詞】 細々とした物一切を入れるため口紐のついた袋 信玄袋 (南、熊) [会話] わしら (私) 朝鮮行く のんな (のに)、荷物を一杯入 入れて、ひっかづいて (担いで) 信玄袋 とも言うしな

(言います)。それを、一杯に わがとな (自分の) 着る もん (物) 入れて よけ (多く) の もん (物) は 荷物ん (に) して 送ったんねけど (送ってやるのだが)、手荷物は ガッサイブクロ 入れて 眼鏡箱 眼鏡 を前 い (に) さがらして (吊して) ふりわけん (二つに分けて・振分に) して 弥次喜多 して 大阪の町も そらかしや (走り) 歩いて。

がっさぶろ 【名詞】 乱れた髪 乱髪

がっそ。 **がっそお** (冗僧、合総) 【名詞】 1) 江戸時代、男の髪形 月代を剃らず、伸ばした髪を頭上で束ねたもの 2) 江戸時代の子供の髪形 伸ばした髪がまだ束ねるに至らないもの 転じて頭髪を伸ばした儘で居る状態 (志 (布施田、甲賀、国府、安乗)、度) [会話] 2) 頭をかぶるん (草の名前に) して、ガツソオみたよん (みたいだ) 言うて。頭をばらいとると (乱雑にして居ると)。

かった 借りた (伊、松、鈴市、安、張、阿、北、尾、熊)

…**かった** (助) 【動詞】 であつた (志) [会話] この子な (が) まあなあ おつきいて (大きくて) こや (これは) 寸法とあわせんない (合わない) 言うてなあ。合す時んなあ (に) こや どいらい (大変) 寸法より おつきカッタなあ言うてな。鮑取て (取つて) きても きよおん (今日ののは) まあ どいらい おつきカ ツタれ どいらい おつきいの (大きいのを) 取てきた たれ (取つて来ました) 言うてな。おおた おつきカ ツタんなあ (のだ) 言うて 言うの。芋 取て来てか かぼちややとか (だとか)、すいかやとかでもなあ、取てくると どいらい おつきカッタなあ言うて。

かったあい。 **かったい** 【形容詞】 1) 堅い こわしたり、変形させたりしにくいさま 感情などが柔軟さに欠けて居るさま 融通が利かない (志 (神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎)、伊、松、鈴市、鈴郡、桑市、三、久、一、多、度、北、尾、南) 2) 実直である。堅実である。[会話] 1) 堅い言うのを カッタ イ言うな (言います)。物な (が) おおた (おお・感嘆符) このきんこあ (芋の煮切干は) カッタいなあ、まあ 干し過ぎで カッタいのも有るし (有ります)。2) 人間な (が) カッタイ言う人も有るし、真面目な人を あや (彼は) かっとおて (堅くて) 小麦団子やな あ (だ) 言うて。小麦団子は、こねよおん (混ぜ方に) よつて こねと かっとお、石みたよおんなつて くわい (石のようになって行きます)、ちよいとやい こい (少し柔らかい) 目ん (に) すると、ぜんざいや

どけ (など) すんな (するのは) やいこおしといて (しておいて)、しゃくし (杓) で汲んで ポタンとして 箸で切る位すんねけど (するが)、団子すんな (するのは) かっとお (堅く) こねると、さめると かっとおなつて くわい (なつて行きます)。 そやもんで (それで) カッタいと 小麦団子みたよな (のようだ)。

かったい 【名詞】 1) ハンセン氏病 カタイ (悲田院) は悲田院 (ヒデンイン) よりおこつた名 (物類稱呼) (志 (浜島)、鳥、上、度、桑市、員、鈴市、安、多、張、北、尾、南) 2) 乞食 (南)

がったい 【名詞】 蜻蛉の一種 雄のやんま ちよう 雌 ちよんがれ 雌雄共に相手の首に尾をつける状態 こし 雌雄の連なつた状態 (志、鳥) [会話] とんぼのお つきいの なあ (大きいのです)、男 (雄) をガッタイ。ガッタイ、ちよおや (だ) 言うて とんぼよりお つきい なあ (大きいです)。尻な (が) あおおて (青くて)。「ホロリやあ ホロリやあ げんばち 雀に このちよ おは いらなかなあ」(とんぼ釣りの歌) 言うて ガッタイと がしら言うのも有るやんかい (有ります)。ちよんがれ言うて さかつとんの (交尾して居るのを) 言わせんかい (言いませんか)。さかつとる 交尾しとる のおを ふたんな (二人が) 引つ張つとん (とる、て居る) のを ちよんがれ。こし言うのも さかつとんのを 交尾しとんのを こしや (だ) こしや (だ) 言うて ふたあつ (二つ) 尻と尻 (尾) とひつつけて 翔んどんのな (翔んで居るのが) 有るやんない (有るでしょう)。あれを こしや (だ)。

がったいびよお 【名詞】 ハンセン氏病

かったいぼし 【名詞】 1) ハンセン氏病、又はハンセン氏病を病む人を言う語。かったい参照 ぼし ぼうし 法師 仏道に入った人 僧 出家 法体をした俗人の男子 男の子 他の語の下に付いて人の意を表す 多くはぼうしとなる (志 (鶴方)、鳥、一、松、多、度、伊、尾) 2) 他人をののしつたり子女を卑しめて言う語 (志 (甲賀)、鳥、度、北)

がったぎ 【名詞】 1) いなご (鈴市) 2) やせた人 (北) [会話] 1) ガッタギ言うな (言うのは) バッタの事やねえんかい (でないのですか)。ガッタギ言うて がたぎ言うら (人達) も有るけど。がたんぎい 言よおつた (言っていました)。ガッタギ取りに行こや (行きましょう) 言うて、今頃 (7~8月) 田へ行くと ビュービュー翔んどて (で居て、今しや (は) 農薬やるもんで (ので) そげん (そんなに) おらせんけどなあ (居ませんが)。あれ おいしいけどなあ。焼い

て食べると。おおた (感動詞) わしや (私は) あれを、どこやら行たや (どこかへ行ったら) 出して来て、とびやがって (飛び上がって)、おおた おら (俺) こいなもん (こんな物) よお食わん (よく食べない) 言うて、食うたや (たら) うもおて (うまくて)。2) 痩せとる (て居る) 人も ガッタギ。ガッタギみたよおんしとる (のようにして居る) 言うてな。痩せとる 人も。おおた、あのうあ (人は) 痩せて ガッタギみたいなのあ (だ) 言うて

かつたなる 1) 堅くなる (熊) 2) 緊張する

…**かつたら** だったら

がたらばこ 【名詞】 組み立てに歪みが生じ、がたの来て居る状態 合体等箱 雑な物を入れる箱 (志 (布施田)) 【会話】 ガッタラバコ負いねて言う、ガッタラバコ 言うな (のは) がたがたと言う。えごと (立派に) しまつとらんと (縮まって居なくて) 壊れかけとんのを (て居るのを) ガッタラバコみたいなのあ (のようだ)。家でも ひつかたんだ (ひつは接頭、強調・傾いた) よおな 半分壊れかかつとる (て居る) よおな、なんでも 壊れかけてうちゃれてくよおん (壊れて行くように) しとんのを (して居るのを) ガッタラバコみたいなのあ。がたことと しとるもんで (して居るの) ガッタラバコやなのあ (だ)。

がたり 【副詞】 1) 力を落とすこと 落胆 2) 目に見えて哀えるさま (志 (布施田)) 【会話】 1) 今日 はガッタリやよお (だ) 言うて、何んか (何か) 無くしたりすると 何んやらま (何か) うしのたたや (失ってしまったら) ガッタリしたれ (しました) 言う時もあるんな (有ります)。海女でも 漁師でもな 漁な (が) ない時でも、今日は まなんも (全く) 漁な (が) のおて (無くて) まあ ガッタリしたよお (しました) 言うて。力な (が) 落ちたよお言うのを、ものすごい (大変) 力の落ちたのを ガッタリした言うのなのあ (のです)。今日は 鯛釣ってこおん (こよう) 思て いたのん (思って行ったのに) なんも釣れんで (全く釣れなくて) ガッタリしたよお 言うて。

…**かつたれ** …であった

がたんぎ 【名詞】 蝗 がたんぎ参照

かつちえ (飢) 【名詞】 生活に必要な栄養分や水分が欠乏状態になる事 かつちえ 空腹状態 (志、鳥) 【会話】 カツエル言う事なのあ (です)、物を食べんとおる (食べずに居る) 事。カッチェドみたよおな (のような)、がさがさと、はつくと (急いで食べる) あや (あれ、或いは彼) 食わんとおるよおな (だ) 言うのを。カッチ

ェドみたよんしとる (のようにして居る)。カッチェドみたよおん くうもん (食物) を かせかせとはついて。はつく言うのは くうもんを 慌てて食うて、掴み喰い (手づかみ) したりすんのを (するのを) カッチェドみたよな言うて。

かつちえじに (かつちえじに) 【名詞】 飢え死 飢えて死ぬ 事 【会話】 カッチェジニに、飢え死にする。くわんとおて (食べずに居て) 死んでく (で行く) 事やろ なのあ (でしょう)。

かつちえてかれ 飢えて行く 飢える

かつちえてく 飢えて行く 飢え死にする

かつちえど (かつちえど) 【名詞】 かつちえど かつちえて居る人 ど は人 【会話】 カッチェドみたよん (のよう)に、くうもん (食べるもの) あせつて、はついて よけ (あんまり) はつくな言うて。カッチェドみたよお なのあ (のようだ) 食わんとおんねなのあ (食べずに居るのだ) 言うて。

かつちえとられ 飢えて居る

かつちえとる 飢えて居る。

かつちえられ 飢える、飢えて行く 【会話】 稼ぎ手な (稼ぐ人が) のおて (無くて) おら (俺は) カッチェラ言うて。

かつちえる 【自ア下一】 かつちえる 飢える 食物が足りなくて苦しむ 不足を感じてしきりにほしがる

かつちやかしたんど 食事をさせず 飢え死にをさせてやる かつちやかしとこん参照

かつちやかしとこん 食事を与えないでおくぞ 【会話】 カッチャカシタンド言うて、食わさんと (食べさせずに) おると。子供らな (が) わり (悪い) 事すると なんも (なにも) 食わさんと カッチャカシト コン言うて おどすんやんかい (怖がらすのです)。

かつちやかす 飢えさせる。食事を与えない。

がっちり 【副詞】 固まっている様。丈夫なさま。(員、阿)

かつちんだま 【名詞】 ビー玉、子供の遊びに使う小さなガラス玉 (桑郡、北)

がつつく 【自カ五】 むさぼるように飲食、仕事、勉強などを行う

かつて (勝手) 【名詞】 1) 台所 食事を整える所 流し (志 (越賀、畔名、的矢、鶴方)、鳥、桑市、一、上、阿、張、北、南) 2) 生活状態 暮らしむき 3) 自分の都合よく振る舞うこと かつて こき かつて もん (志) 【会話】 1) カッテ言うな (のは) 炊事場の事も カッテ言うし、3) 自分 な (が) 人に 相談もなんも せ

んど (何もせずに) する事を、カッテにして。わがと (自分) 一人で 決める事を カッテにしとる。かっ
てもと お勝手の事、炊事場 一緒の事で 自分カッ
テにするので かっでもん (者) 言うと 我儘者で。
かって 借りて (津、桑郡、桑市、員、四、安、多、阿、
度、北、南、熊)
かっていい (**勝手言**) **【名詞】** 自分中心にものを言う人、
自己中心の人、かってこき参照
かっていえ。かってえ。かってええ。かってえな 借り
て下さい
かってかた (**勝手方**) **【名詞】** 食物を調理する人。[用例]
結婚式のごっつおすんのん (御馳走するのに) カッテ
カタ 頼まな (なけれど)。
かってがって 各人 めいめい (上、阿)
かってかれ 借りて行きます
かってかんか。かってかんかな (**女性語**)。かってかん
かれ 借りて行きなさい
かってきたれ。かってきたわい。かってきたわな (**女性**
語) 借りて来ました 借りて来た [会話] これ か
って (借りて) 来い言う、それ、かって (借りて)
行くと、カッテキタレ言うて。借して (借せて) 貰
うて来ました言うのを カッテキタワナ言うて。
かってく 借りて行く [会話] かってこんなあ (借り
て行きます) 言うて、あんたなもん (貴方の物) を
かしてもらう (借せてもらう) 時んなあ (に) これ、
カッテクンナア (借りて行きますよ) 言うて、カッテ
クどお (借りて行くぞ) 言うてな おお もてかんか
れ (持って行け) 言うてなあ。
かってぐち (**勝手口**) **【名詞】** 裏口 (南) [会話] カッテ
グチ言うな (のは) 炊事場から 入ってくんの (来る
のを) カッテグチから 入って来て言うてな。玄関か
ら入いらんと (入らずに) カッテグチから入って来た
ない (来た) 言うて。
かってくどお 借りて行くぞ、借りて行きます [会話]
あんたなもん (貴方の物) を 借して (借せて) 貰う時
ん (に) かってくんなあ (借りて行きます) 言うて
カッテクドオ言うて。
かってくる (**借来**) 借りて来る (志 (浜島、鶴方、神明、
立神、志島、甲賀、国府、安乗)、桑市、久、熊) [会
話] これかってこい (借りて来なさい) 言う、それ
をかって (借りて) いくと カッテクル 言うてな。
かってくんなあ 1) 借りて行きますよ 借ります。かっ
てくどお かってく参照 2) 借りて行くのですね。
かってこ 借りていこう

かってこい 借りて来い。京都にて借って来いは江戸に
て言う借 (かり) てこい也。(物数称呼) (志 (鶴方))
[会話] カッテコイ言うな (のは) かしてもろてこい
(借せてもらって来い) 言うんなしなあ (のですし)。
かってこかいなあ 1) 借りて行きましょうか 2) 借
りていきます [会話] 1) 家い (え) 持てて (持っ
て) 使うのん (のに) カッテコイナア言うて。
かってこき **【名詞】** 自分中心で他を考えない人 自分中
心でものを言う人 (志 (神明、立神、国府)) [会話]
勝手な事言うて、カッテコキやなあ (だ) 言うてな。
わがとな (自分が) すきなよん (ように)、わがとな
思たよおに言うのをなあ カッテユイや (だ) 言う。
わがとな 勝手に、わがとな ええよんばつか (よい
ようにばかり) 言うてな、わが (自分の) 勝手ばつか
(ばかり) 言うてな あやま (彼は) カッテコキやな
あ 言うて。
かってごと **【名詞】** 1) 炊事 (伊) 2) 自分の思う事。
自分の気儘に振る舞う事。[会話] 2) カッテゴト言う
と わがとな (自分の) 好きな事ばつかすんのを (ば
かりするのを) カッテゴト。あの人 カッテゴトば
か (ばかり) して言うし。1) そして カッテゴト言う
たら 勝手の事、洗ろたり (洗ったり) 煮物したりな
あ 炊事してなあ くいこと (食事の用意) したり、
たらもと (台所) も、しもたりすんのを (しまったり
するのを) カッテゴト言うの (のです)。カッテゴトは
年寄りの役で 洗ろたり (洗ったり) 炊いたりなあ
芋のかあ (皮) 剥いたり ええこた (よい事は) よお
せんけど (出来ないが)、年寄りな (が) するこたなあ
麦かして よましといて呉れやあ (下さい) ばあやん
言う時もあるし ばばやい (よ) よましとけやあ言う
てなあ そいな (そんな) 事すんのを (するのを) カ
ッテゴト。
かってこや。かってこやんか。かってこやんかな (**女**
性語)。かってこやんかれ 借りて行こうではありませ
んか。借りて行きましょう。
かってこんか。かってこんかな (**女性語**)。かってこん
かれ 借りて来なさい
かってくんなあ (**女性語**) 借りて行きます [会話] カ
ッテコンナア言うて 人のもん (物) 借して (借せ
て) 貰う時ん (に)。
かってつんぼ (**勝手壺**) **【名詞】** 自分の都合の悪い時に聞
こえないふりをする事、又、その人 [会話] カッテ
ツンボ、耳や (は) 聞こえておって (聞こえて居なが
ら)、聞いとも (ていても) すらしとんの (知らん振

りして居るの)、聞こえんよおなふり (聞こえない格好) しとるの (して居るのを)、聞いて わり (悪い) よおな事 聞かんふりしとんのを カッテツンボ。自分の不利ん (に) なるよおなこたあ (事は) 聞かせんね (聞かないのです)、ええ (よい) 事なら聞くねけど (のだが)。

かってまあり (かってまはり) (勝手回) 【名詞】 1) 勝手回 台所及びその周辺 2) 生活費 3) 自分気儘に遊び歩く事。[会話] 3) カッテマアリ言うて、勝手のことするのをなあ、カッテマアリをして言うて。1) 炊事場を カッテマアリをせなはざんのおで (しなければいけないので) 言うてなあ。3) わがと (自分が) 好きなよん (ように) 何処やかやい行て (行つて) 勝手に 何処でもまわつてくんのも (来るのも) カッテマアリして言うしなあ (言います)。好きなよん (ように) あそびまわつとんのも (遊び廻っているのも) カッテマアリ。

かってむき (勝手向) 【名詞】 家の生計、会計、生活費。
かってもと (勝手元) 【名詞】 1) 台所 (上、阿、南) 2) 生活費 暮らしむき [会話] 1) カッテモト言うて 炊事場のことを カッテモトな (が) きたのおて (汚なくて) あの家言うて。汚しとると (てい) あの家行くと だめのおて (汚くて) カッテモトな きたのおて 言うてなあ。カッテモトは 炊事場のことなあ (です)。

かってもん (勝手者) 【名詞】 好き勝手な事をする人 我儘者 かってこき (上、阿、張、名) [会話] 自分勝手にするので カッテモン 我儘者。

かってや (勝手) 俺の自由だ [用例] おんな (俺の) カッテヤ ほつといてくれ (邪魔をするな)。

かってや (借) 借りて下さい

かってゆい 【名詞】 自分の思ったことを遠慮なく言う人 [会話] わがとな (自分の) 好きなよん (ように) わがとな 思たよおに言うのを カッテユイヤ (だ) 言う。わが (自分) 勝手ばつか (ばかり) 言うて あや (彼は) カッテユイヤ 言うて。

かつどお (くあつどう) (活動) 【名詞】 活動写真の略 映画 [会話] 映画見んのも (見るのも) カツドオミ んこや (見に行きましょう) 言うて、カツドオ シャシ ンミ んこや 言うてなあ。

かつどおごや (くあつどうごや) (活動小屋) 【名詞】 映画館 [会話] カツドオ ゴヤ ごや 言うし 舞台小屋言うて 舞台小屋で かつどお すんねて われ (映画するそおだ) 言うてな。

かつどおしゃしん (くあつどうしゃしん) (活動写真)

【名詞】 映画 かつどお 参照

かつとおて 【形容詞】 堅くて

かつとおなる 1) 堅くなる (安) 2) 正座する 改まった態度をとる [会話] 2) おおたまあ えんりよ (遠慮) して カットオナル 言うのもあるしなあ、1) 死んどて (でいて) 知らんとおんのも (知らずに居るのも) 死んで カットオナル タンテワイ (なつて居たそおだ) 言うしなあ。2) そすと 緊張してしとんのを (しているのを) えんりよ して カットオナル 言うて。

かつとく 借りておく (伊、津、鈴市、多) [会話] これ カットク 言うてなあ、鉛筆でもなあ まあこれ ちよいと (少し) かつと こかいな あ 言うて ちよいと 時間、借る時なあ かつと こかいな あ 今し使う時なあ (です) 家い持てて使うのん (の)に まあ かつと こかいな あ 言うてな。

かつとくわい 借りておく 借りておきます [会話] カットクワイ 言うのも一緒やわい (です) かつとく わとか かつと こんねえ とか なあ。

かつとこ 借りておこう

かつとこかいな 1) 借りておきましょうか 2) 借ります [会話] 2) これちよいと (少し) カットコ イナア 言うて ちよいと の時間 借る時なあ。

かつとこんなあ。かつとこんねえ 借りておきます [会話] かつとくわい (借りておきます) 言うのも かつとくわとか カットコン ネエ とか 一緒や (です)。

かつとて (堅) 【形容詞】 堅くて (尾)

かつとて (借) 借りて居て。

かつとる 借りて居る

かつぱ (合羽) 【名詞】 1) 船の、扉のついた部分 物を入れたり寄せたりする。船艙 (志) 2) 合羽 (志) [会話] 1) 舟のカッパ有るし、2) 雨降りん (に) 着るのもカッパ。舟のカッパは、カッパの上 言うて (言つて)、雨な (が) 漏らんよおん (漏らないように) 言うて、デッキ みたよん (のように) して張つて 有ん (の上の板が張つて有るのを)。カッパの中い (へ) 布団入れて、カッパの中い (に) 入れとけ (入れておけ) 言うて、今は カバ (カバ・覆い) 張るけど、昔や (は) 板で 板土間言うて カッパ張る言うて。板い (に) 勾配 (傾斜) つけて 雨覆 (あまおい) にすん (するので)。魚やなんや (なにか) 入れるとこ やなしん (所でなくて)、にげな (人間が) 雨な (が) 降つて来た や (来たら) カッパの中い (へ) すくめ (隠れよ)

言うて 水や雨をよけるよおに 板で張って有るわな (有ります)。

かつば【名詞】海魚 ほおきはた スズキ目ハタ科マハタ属。マハタ属は、体は長楕円形で側扁する。口は大きく上主上顎骨が有る。両顎の先端に一对の犬歯がある。背鱗は11棘13～18軟條、尾鱗は3棘8～9軟條、尾鱗後縁は14形が僅かに湾入する。鱗は小さな櫛鱗。ほおせきはた、両眼間隔は僅かに隆起する。尾鱗後縁は載形、体の斑点は小さい。

がっぱい (ぐあっぱい) (月拝、月牌)【名詞】月に一度仏様を拝む 毎月死者の忌日に供養してもらう事 [会話] 日拝 ガツパイあげる (上げる・供える) 言うの (のを) ちゃあと。

かつばかば【形容詞】表面が固くなっている。(熊)

かつばのふた【名詞】船艙の蓋。かつば参照

かつばます【名詞】海魚 ほうせきはた かつば 参照

かつぶし (かとぶし)【名詞】鯉節 (伊、松、津、鈴市、桑市、員、安、久、一、上、阿、張、名、度、南) [会話] かつおぶしをなあ かとぶしや (です)、カツブシ。かとや (鯉だ) 言うて かとぶねな (鯉舟が) 入れて来て かともろて (貰って) 言うて 鯉言わんとなあ (言わずに) かと。

がっぺき (合壁)【名詞】壁隣り (志、鳥、張)

がっばり【形容詞】多量に、全て

かつやかす (飢)【他サ五】飢えさせる ひもじくさせる かすは接尾語させる [会話] カツヤカス言うの 餓死にさす言うことやわいな (です)。食わさんとおく言うことを カツヤカシタンネ (てやるのだ)。まあ 何んも食わさんとおいて 鳥でも 餌やらんと (やらずに) おって そや かつちやかしたんない (てしまう) そや言うて 言うやんかい (言います)。

…**かて**【副助詞】【接続助詞】でも けれども 逆説を表す (志、伊、松、鈴市、安、久、一、多、上、阿、張、名、度、北、南) [用例] わし (私) カテ、よおするわい (出来ます)。

…**がてら**【副助詞】【接尾語】ついでに しながら動詞の連用形、又は、体言を受ける (志 (鶴方)、津、三、鈴郡、亀、阿、張) [会話] 仕事しガテラ、しながらす。なんか (何か) これもしながら、どげんも (どんなに) 言うた、こげんも (こんなに) 言うた、喋りもて (ながら) 何んかすんのを (なにかするのを)。

かてん かなわない。勝てぬの訛 (志 (布施田)、上、阿) [用例] あれんは (彼には) カテン

がてん (合点)【名詞】納得 がってんの約

がてんする 1) 理解する 判かる 2) 承諾する

かと【名詞】かつら (志 (甲賀))

かと【名詞】鯉 硬骨魚類かつお科の魚 体は典型的な紡錘形で肥満し背側は暗赤色、腹側は銀白色で数本の薄黒色帯が縦に走る 体長は普通50～60cmで敏活の魚で20～23℃の水温を好む 従って常に暖水域に住み季節と共に大きく大洋を回遊する (志 (御座、畔名、浜島、甲賀)、鳥、度、北、南、熊) [会話] 鯉言うのを カトや (だ) 言うね (言うのです)。そして鯉舟をかと舟、鯉節をかとぶし言うて “づ” 使わんと (使わずに) すぐに かとぶし、ぼて屋な (魚の行商人が) 来ると カトやあ (だ) カトやあ 言うて 売りんきよおった (売りに来て居ました)。

かど (角)【名詞】1) 二つの面や線が出合って尖った所 2) 物の端の尖った部分 物の隅 首の折れ曲がって居る部分 (鳥、津、北、南) 3) 円満でなく他人と衝突しやすい性格、圭角 玉にある暇 (きず) 転じて、性質や言動にかどがあって円満でないさま、かどな有るかどなねえ [会話] 2) 四角なのおで (ので) カドな (が) 立っとて (て居て) 言うのも有るし、3) もの言うても (言っても) あのにげ (人間・人) 言うこた (事は) ほん (本当に) カドな (が) 立って、カドな (が) 立つ言い方やなあ (だ) 言うのも有るし。2) すみな (隅が) 立っとる (て居る) よおすま (四隅) の隅を カドや (だ) 言うて、そして 言葉も ものの言いよで カドが立つ言うやんない (でしょう)。そやよって (だから) 言いよの下手なのを カド立てて。道な (が) 曲がっとる (て居る) 所も 曲りカド言うなあ (言います)。

かど (門)【名詞】1) 家 家屋 (志 (甲賀)) 2) 門、門前、家の前。(志 (浜島、布施田、神明、志島)、鳥、鈴市、桑郡、員、三、四、安、津、一、多、阿、北、熊) [会話] 1) カド言うてなあ 入って来る入り口を。カドや (だ) 言うな 入り口とか 門とかなあ カドや (だ) 言うて。かどぐち (門口) や言うて かどぐちい (に) おいとけ (置いておけ) 言うて。

かどあめ【名詞】飴で作った菓子 鉄や糸で飴を切るので角が出来る。[会話] 飴 引つ張って しいろおしといて (白くしておいて、きちきち切ると) よおすまな (四隅が) 立つね (立ちます)。なあごお (長く) すると あめがしん (飴菓子) になんのなし (なるのですし)、ちよきんちよきんと 一寸位ん (に) 切ると 四隅な (が) 出来て そんな (それが) カドアメ。

かとおて 1) 堅くて (一) 2) 真面目で 3) 頑固で

かどがある 性格が円満でない。
かどかど (角角) 【名詞】 あちらこちらの隅 道の辻辻
[会話] カドカド言うと すみずみのことをなあ。あの道の辻 みつつじとか みつかどや言うしなあ。みつかどとか よつかどとか言うて。
かどかど (門門) 【名詞】 家家 それぞれの家
かどがない 性格が円満である。
かどがみさん (門神様) 門松 [会話] しょんがっ (正月) 門い (へ) 門松 立てるやんない (でしよう)、門松 なあ カドガミサンや (だ) 言うの (のです)。
かどくい 【名詞】 くらわかじき くらわか参照 (三重県全域)
かどぐち (門口) 【名詞】 家の出入り口 (上、阿、北)
[会話] 丁度 ここらな (が) カドグチん (に) なんぬ (なるのです)。
かどさき (門先) 出入り口 玄関 (鈴市) [会話] 軒や (とか) カドサキい (へ) 引っ掛けとけ (ておけ) 言うて、はやりことな (流行病が) して来ると。
かどつけ (門付) 【名詞】 人家の門口で芸を見せ、金品を貰い受ける事、又、その人 遍路 人家の門口で念仏を唱え 報謝を受ける事 又、その人 (員、度) [会話] へんだな (遍路が) 回って来て、昔や (昔は) カドツケ まあよおったもんなあ (回って居ました)。
かどて 堅くて (伊、鈴市、桑郡、亀、久、一)
かどなある 性格が円満でない。
かどなない 性格が円満で有る。
かどまあり。かどまわり 【名詞】 門回り 門つけ [会話] 新念仏の人ら (が) カドマワリして来るやんかい (来ます)。
かどなや 【名詞】 鯉節を作る工場。
かどぶし 【名詞】 鯉節 鯉を原料とした日本特有の水産製品で、だしとして広く調味に用いられる燻乾品 **かと参照** (志 (浜島、志島、甲賀)、度、南)
かどぶね 【名詞】 鯉舟 **かと参照** (志)
かどぶねこぎ 【名詞】 鯉舟の水夫 [会話] 鯉船い (に) 乗って かと (鯉) 釣りん (に) 行く人を、カトブネコギ 言うてな。ろお (槽) で 漕んで行きよおったもんで (漕いで行って居たので) カトブネコギ。
かとり。かとりしえんこ。かとりせんこ (かとりせんかう) 【名詞】 1) 蚊取り線香の略 蚊を駆除するため燻すもの (北) 2) 少し精神に異常の有る人 [会話] 1) カトリセンコかい (ですか)。せんこ。線香言わんと となあ (言わずに) せんこ言うね (言うのです)。
2) 頭な (が) ちよいと (少し) にぶい もんなあ カトリ

センコやなあ (だ) まきまきやなあ (だ) 言うて なあ、ちよいと (少し) 惚けたよん (ように) しとると となあ (していると) あや カトリセンコやれ (だ) 言うて。
かどわかす (かどはかす) 【他サ五】 子供や女などをむりやり、または、だまして他に連れ去る 誘拐する、かどわすの転、かどふの活用 [会話] カドワカス 言うな (のは) 人を騙して どこやかや連れてくの となあ (て行くのです)。カドワカシテ おやまん (女郎に) 売ったとか、人買いに売ったとか 言うの となあ 誘拐する 言う事やわい (です)。
かどんぼ 【名詞】 いととんぼ類 イトトンボ科に属する小形のトンボの総稱、体長4cm以下、腹部も羽も細い、体が空色や緑色など美しい種類も多い、止まって居る時は羽を背の上で合せる (尾)
…**かな 【終助詞】 【副助詞】** 1) ですよ 念を押す意、詰問の気持ちを表す 2) ですか (志 (布施田)、鳥、阿、度、北、尾) [会話] 1) 今日はまあ やめとこやんカナ (止めておきましょう) 言うて、何でも もなあ やめとこやんか 言うねやんカナ (のです) ただ か、やんかなあ (です) やめとこやんか、いこやんか (行きましょう) 言うて まあ 今日はこんで (これで) しまおやんか (終りましょう) 言うて、まだ しよおやんか (しましよう) 言うて なあ することを しよおやんか 言うて な 終わることを なあ しまおやんか 言うて なあ ただ かで 切っとくの (ておくのです)。
かなあみ 【名詞】 針金で編んだ 1) 真珠養殖のための籠 かなみとも 2) 魚、餅等、食べ物を焼くのに用いる物。[会話] 2) カナアミ 言うな (のは)、魚焼く カナアミ もあるし、垣に張る カナアミ もあるし なあ。
1) そして、真珠い (に) 使う カナアミ もあるし なあ。かなみ 言うのは あみい (網に) 組んで あん も なあ (有るのも) カナミ 言うの なあ。あみ (網) 言わんと カナミ (金網) 言うて な カナミ、焼くのん 持てこい (持ってこい) 言うて な。
かない 【名詞】 1) 家族 (南) 2) 妻 [会話] 1) カナ イ (家族) おおぜ (大勢) のう ちや (家は) 人、雇 て (とって)。
かないじゅう 【名詞】 家族全員
かないのもち 【名詞】 留守宅で当人の無事を祈って供する食事 (握り飯・団子など) 陰膳 [会話] お山 する ひい (日)。頂上い (で) 御鉢 回る 日を お山 する ひい や (日だ) 言うて。家で ひまち (日待ち・祝い) して、カナイ ノモチ して 祝い おったの (祝って居たのです)。
かない の こや もちやれ (だ) 言う けど なあ (言い

ます。それ 何んやかやを あたりを (配当を) こや まあ (これは) カナイノモチやれ (だ) 言う時もある けどなあ (有ります)。

かなう (かなふ) (叶) 【自ワ五】 望みがとどく 思う様になる。かのう カネアフ (兼合) の約 (大言海)

かなえる 【他下一】 望みをとどかせる。思うようにしてやる。望み通りにしてやる。

かながしら 【名詞】 海魚 ホウボウ科の海魚。体長三〇センチメートルに達する。頭は大きく角張り、大きい胸びれは、上の方が膜状、下の方が三本に分かれる。体色は腹面、腹鰭、尻鰭が白く、そのほかは赤色。第一背鰭に深紅色の斑紋がある。ホウボウに似るが、鱗が大きく、体表がざらざらしている。近隣種を含めて言う事が多い。

かなかな 【名詞】 ひぐらし セミ科の一種 赤褐色、又は、くり色、みどり色及び黒色の斑点がある。鳴く声を名とする。(上、阿)

かなきん (金巾) 【名詞】 上質の綿布

かなげ。かなげ (金気) 【名詞】 水に鉄分を多く含んで居る様 水に含まれる鉄分 (南) [会話] カナゲ、カナゲな (が) 浮いた、カナゲな 浮いとる (て居る) 言うて、かなさび (金錆) が浮いとる 言うのを、カナゲな (が) 浮いとる。かなもんな (金属製品が) しゃび (さび・錆) て来ると、水い (に) つけると それから きらきらしたのな (が) 出て来るわい (来ます)。かなしゃびな (が) 浮いて来た 言うて。わしらげの本家な (が) かなしゃびな よお出て カナゲ 瀧して こし水 (濾過水) して シュウロ (木の名) の葉 敷いて 砂やり (入れる) シュウロの葉やってな (敷いてが) 砂やり 濾して、そして あんまり濁ると 焼明礬を入れると じっぱ (立派) な水ん (に) なんの (なるのです)。

かなげくさい 水に鉄分の臭いがする (上、阿) [会話] カナゲクサイ言うて、鉄のもん (物) で、鉄鍋 するとなあ あの、かなげ (金気) 言うてな。しゃびみたよん (錆のように) 青いおな (のが) 浮いてくると、そすと カナゲクソオテ (くさくて) 言うてな 鉄鍋 すると カナゲクサイ 言うて。

かなご 【名詞】 錨 (志 (布施田、浜島)、鳥 (国崎)) [会話] 鉄の錨の事を カナゴ。ちっちゃい (小さい) 舟 は 石を縛って 錨にするのも有るし、おつきい (大きい) 船は そいな (そんな) 石みたよおなもん (のような物) はざんけど (駄目だけれど)、小舟は 石するわな (石でします)。カナゴ言うて せんと、(せず

に) おつきい石を絡げて (括って) それを 錨に。ちっさい 舟は そんで (それで) もつねけど (持つのですが) おつきい 船は そいな (そんな) 事せんと (せずに) カナゴで。

かなごいかり 【名詞】 金属性の錨 [会話] 四手ん (に) なってしとんの (しているのを) かなご、カナゴイカリ。今し (今) で言うて 普通の錨 いかりは皆 かなごん (に) なつとるよってんなあ (なっているから) カナゴイカリ 言うてな 昔は 石を縛ってしよおったけど (して居たが) 今しゃ (今は) かなごで、鉄でなあ。

かなさび (金錆) 【名詞】 金属に生ずる錆 かなしゃび 参照

かなし (姿) 【形容詞】 悲しい 嘆かわしい 残念だ 愛らしい意がもとの、後、悲しい意に使われる様になった。

かなしがりや 【名詞】 すぐ悲しがる人

かなしがる 【自ラ五】 悲しく思う

かなして 悲しくて (伊、鈴市、鈴郡) [会話] カナシテ 人な (が) 死んでも かなしな (悲しい) 言うしなあ。何か悪い (悪い) 事な (が) あると カナシテ カナシクテ 言うのをなあ カナシテ言うのなあ (です)。かなしがって言うてな かなしがって、あの人な (が) かわいそげなかつたれ (可哀想で有った) 言うのなあ。

かなしなる 悲しくなる (志、度) [会話] 何かまあま つらいことな (が) あると、カナシナル 言うて。つらい事をなあ かなしことや 言うて。かなして (悲しくて) かなして 涙な (が) とまらんで (止まらなくて) 言うてな。悲しい言うてなあ、かなしい 付けんと (付けずに) かなし 言うてなあ カナシナツテ 涙な (が) とまらせん (止まらない) 言うてなあ。

かなしゃび (金錆び) 【名詞】 金属 (特に鉄) の表面に出る錆 [会話] かなもんな (金属製品が) しゃびて (錆びて) 来ると、水い (へ) 漬けると それから きらきらしたのな (のが) 出て来るわい (出て来ます)、カナシヤビ 言うて。

かなずいの 【名詞】 細い針金で小さい目を作つてある篩 きぬぶるい [会話] カナズイノ 言うてな (のは) 金網 ほつそおいなあ (細い) 真鍮で組んで まあるいなあ (丸い) 榎でわくくん (枠に) してあんのを (あるのを) カナズイノ。こお (粉) ふるよおったやんかな (振るって居ました)。何んでも こお ひいてなあ (挽いて) すいの言うのはなあ きぬごしみたよんし

とんのなし (のようになっているのです) カナズイノ言
うな (のは) ちよいと (少し) あらくとおて (粗く
て) とびきとか 何んとか そいな (のを)。すいの
言うのは こお (粉) をなあ 振うの (のです)。言う
と きぬごしやわいな (です)。すいのはなあ 麻の
きれ (布) で、してあんのなし (してあるのです)
カナズイノ 言うななあ (のは) 真鍮の ほっそいの
おで (細いので) 編んであんのなあ (あるのです)。か
なみ みたよんしてなあ (金網のようにして) こお
(粉) 振うの (のを) つぶもん (粒物) 振うのを カ
ナズイノ。

かなだらひ (かなだらひ) (金盥) 【名詞】 金属製のたらい
多く銅、真鍮で作られ 洗面や入浴に用いる [会話]
カナダライ言うな (のは) 今しゃまあ (今は) プラス
チックやけど (だが)、昔なあ 顔 洗うの (のを) カ
ナダライ。カナダライ持てこい (持ってこい) 顔洗う
のん (のに) 言うてなあ。カナダライしよおった (し
て居ました)。今しゃ プラスチックで、あいな (あんな)
かねんないもんな (金属のものは有りません)。

かなづち (金槌) 【名詞】 1) 釘などを打ちつける道具
2) 泳ぎの全く出来ない事、又、その人 [会話] 1)
カナヅチ言う とんから。2) よお 泳がんもん
(者) を カナヅチや (だ) 言うやんかい (言います)。

かなつぼ (金壺) 【名詞】 さざえ [会話] 鬼の拳骨 (栄
螺) も カナツボや (だ) 言うて。磯桶へまつよおった
(祭って居ました)。おかのみ (鏡餅) の上へ 橙とか
だいこ (大根) や、なあ (菜) や、そして カナツボや
(だ) 言うて 栄螺を 海老もして。

かなつんぼ (金鑿) 【名詞】 全く耳の聴こえないこと、又、
その人 カナは堅き義、甚だしき意 (大言海) (志 (布
施田)、具、上、阿、北、尾)

かなてこ (金槌) 【名詞】 鉄製の槌

かなはず 【名詞】 1) ぎりぎり一杯の状態、きわどいと
ころ (志 (波切、布施田、立神、甲賀)、南、熊) 2)
危険 [会話] 1) カナハズ言うな (言うのは) すれす
れの事、きちきち一杯の事 カナハズや (だ) 言うて。
2) カナハズな事して言うて。危ないとこいても (所行
っても) そや (それ) カナハズなとこ 行くなよお
(行くな) 言うて はしつぼ (端) の事言うんなあ
(言うのです)。

かなぶん。かなぶんぶん 【名詞】 こがね虫 コガネムシ
科の昆虫。体長2cm、卵形で光沢の強い金緑色で時
に赤銅色、成虫は6~8月に発生し、ナラ、クヌギの
葉を食害。(上、阿) [会話] かねぶんぶん言うのなあ

(です)。あや (あれは) なりもんや (果物とか) 何ん
やかや、皆 あんな (あれが) 食たんね (食べてしま
うのです)、水蜜桃や (だ) とかな、梨や (だ) とか言
うて 生っても 紙かぶせやせんもんで (被せないの
で) カナブンな (が) 食たんの (食べてしまうの
です)。あっちゃの方はなあ 紙で 皆 包むもんで
(ので) ええけど 此処ら 裸やもんで (なので) す
いみとおな (水蜜桃が) 生っても 梨な (が) 生っ
ても 人間の口い (に) 入らせんの (入りません) 皆、
ぶんぶんな (が) 食たんね。

かなぼ (かなぼう) (金棒) 【名詞】 鉄棒 器械体操の鉄
棒

かなみ (金篋) 【名詞】 金属で出来て居る箕の小さいもの
穀物を擲くうのに用いる [会話] カナミ言うのもあ
ってな 石油缶をなあ 半分切ってなあ すんのは
(するのは) カナミ言うてなあ。あの、カナミも よ
おきやけどな (便利です)。カナミのふちい (縁に)
竹でかがってなあ てえな (手が) いた (痛く) ない
よんなあ (ように) ちりとりみたいなおやわい (の
です)。丁度あの 石油缶をなあ 一斗缶をなあ ふた
あつん (二つに) 斜めん (に) 切って カナミになあ
そいなの (そんなのを) したり ちりとりんしたりな
あ しよおった (して居ました)。

かなみ 【名詞】 金網 かなあみの話った語 かなあみ参
照

かなみごぼち 【名詞】 金網で出来た罾

かなもん (金物) 【名詞】 金属製品 金属 [会話] ちよ
いと (少し) 塩けな (が) まぜって (混ぜて) 来て、
カナモンい (へ) しゃびな (錆が) 来んの (くるので
す)。

かなもん 【名詞】 1) 高価な物 2) 買わなければなら
ない物

かなもんや (金物屋) 【名詞】 金物を売る商人 又、その
店 [会話] カナモンや言うな (のは) 鉄のもんや
(物だ) とかな、かなみやとか (金網だとか) 刃物や
(だ) とか 売んのなあ (売るのです)。カナモンや行
きや (行けば) 売つとられ (ている) 言うてな、出刃
や、ほつちよ (包丁) や言うて きれもん (切れ物)
を言よおった (言っていました)。

がなる 【自ラ五】 大声で叫ぶ カナル (轟鳴る) が憎み
で濁る (大言海) (志 (布施田、浜島、神明、立神、志
島、国府)、鳥、三、張、北、尾)

かなわ (金輪) 【名詞】 かまどの穴の大きさを調節する鉄
の輪 (志 (甲賀))

かなわず 及ばない 勝てない 不足だ (志 (波切))
[会話] 自転車 はずん (斜に) して乗る事 あたわ
ずの カナワズ。カナワズ 出来ない言う事や (で)
ねえんかい (無いのですか) 意味は こや (これは)
かなわんなあ。

かに 堪忍、許す (上、阿、度、北) [会話] かんにん
してくれ言うことを カニしてくれ こらいてくれ言
うの (のです) おおたまあ わりことしたてなあ (悪
いことしてしまつて) 家のこおな (子が) おた こら
いてくれ言うてなあ ゆるしてくれ言うのなあ こ
らいてくれ言うて たので (頼んで) こらいてもら
れ (もらった) 言うてなあ。

がに 【名詞】 1) かに 蟹 節足動物。甲殻類。十脚類。
十本の足がある。頭、胸部が大きく、平たく、腹部が
小さく頭胸部の腹側に折れ曲がって居る。十本の足の
うち、一番前の一対が鋏になりこれで餌を獲って口に
運ぶ。その他の足は左右によく動いて横ばいをする。
(志 (越賀、御座、布施田、磯部、片田、浜島、立神、
鶴方、神明、国府、安乗)、鳥 (国崎、答志、加茂、菅
島)、伊、松、鈴市、桑郡、桑市、員、三、四、鈴郡、
安、一、多、上、阿、張、名、度、北、尾、南、熊)
2) がに 海老 蟹の鰓 [会話] 1) 蟹の事、ガニ言
うて。

がにあな 【名詞】 蟹の穴 かにぼらに同じ

がにいそ。 **がにえそ** 【名詞】 やどかり [会話] ガニエ
ソ、ガニソ言うな (言うのは)、いそもん (磯で取れ
る小さな貝) の中い (へ)、やどかりに入つとんのなあ
(入って居るのを)。がにへそ ガニソ言うなあ (言
います)。やどかりをガニエソや (だ)。ガニエソな
入つとる (て居る) 言うて。いそもん拾いん (に) 行
くと 小さいのな (が) 入つとるやんかい (入って居
ます)。あや (あれば) ばりばりとこおだるやんかん
(咬んでやります) 抜いといて。咬んだる言うの (の
は) パリッとこおだれ (咬んでやれ) そいなもん (そ
んな物) 言うて。

がにおに 【名詞】 海胆の一種 [会話] ガニオニ言うの
はなあ うにと同じよんしとんねけど (ようにしてい
るが) 針な (が) なあごおて (長くて) それん (それ
に) 突かされると 毒な (が) あんのな (有るのが) あ
んねてや (有るのです)。今しや (今は) あの、ガニオ
ニも みな食うんてわい (食べるそおです) うに味増
ん (に) して食うね (食べるのだ) 言うて。毒な
(が) あつてなあ 針ん (に) 突かされるとなあ 瘤ん
(に) なつたりなあ、やめたりすんの (痛めたりしま

す) わしらな おおび (鮑) とんのんなあ (獲るの
に) 岩の下い (に) てえやると (手入れると) 知らん
と (知らずに) ガニオニやつたて (握ってしまつて)
まあ やめて やめてなあ (痛めて) まいきる (飛び
上る) 時な (が) あんね (有るのです)。ガニオニの針
は ほつそおてなあ (細くて) そして あたつたと
(当てる) まあ 刺さつてなあ それん (それ
に) 刺されると まな 抜けやせんね (抜けないの
です) せんぎり (十分に) な はあ (歯) で噛んで
こお (粉) にしたと (してやると) そすと (する
と) 治るとまあな こぶんなんの (瘤になるのです)
毒な (が) あるもんでな (有るので)。うにと一緒や
(です) くろおにや (黒海胆だ) あかおにや (赤海胆
だ) 言うてな あかおにや (は) ひげな (棘が) 短い
けど (が) くろおにや (は) 棘な (が) なあがいしな
(長い) ガニオニは くろおに (黒海胆) と違がう
んてや (違うのです) 棘な (が) ほつそおてなあ (細
くて) うにの仲間やけどな (です)が。

がにかご 【名詞】 釣り餌にする蟹を入れる籠 [会話]
とおやんな (夫が) がにだい (鯛釣り) 行くので、餌
とりん行くねよお (取りに行くのだ) 言うて ガニカ
ゴ持つて がに (蟹) を 釣つたり てえ (手) で押
さえたりして。

がにぐそ (蟹糞) 【名詞】 1) 新生児が初めてする便 出
産、産事をすべて、カニと言う。2) 瀕死の病人が死
の直前に出す便

がにだい 【名詞】 鯛を釣る餌にする蟹 蟹の餌で鯛を釣
ること。蟹鯛か。[会話] ガニダイや (と) 言うて
がに (蟹) 採りん (に) 行くと。鯛、釣る時ん (に)
たあ (田) のがに (蟹) を 採りん (に) 行きおつた
の (行って居たのです)。ガニダイはなあ 田圃におる、
がにをとりんいてなあ (獲りに行って) そして いけ
ふぬい (活船に) いけといて (活けておいて) それを
持つて 鯛、釣るの (釣るのです) がにな (が) 餌や
(です) そんで ガニダイ言うの。蟹をえさん (餌
に) してなあ 鯛、釣りん (に) 行くの (のを) ガ
ニダイ言うてなあ 今日は ガニダイで 行たもん
で (ので) たあ (田) の畦い (に) がに取りん (に) 行
くの (のです)。かから (妻は) がにとり えさとり
(餌の採集)、とおやんな (主人が) ガニダイえ (に)
行くので えさとりん 行くねよお (行くのだ) 言う
て。がに籠持つて がにを釣つたり 手で押さえたり
して あんな (蟹が) またなあ 畦をみな とおした
んね (穴をあけてしまうのです) がにぼらで。

がにどん【名詞】蟹 [会話] くうわんか (食べないか) 食わんか ガニドン 食うわんか。

がにばば【名詞】がにぐそに同じ (鳥、伊、松、員、一、名)

がにへそ【名詞】やどかり がにいそ がにえそに同じ

がにぼら【名詞】蟹の穴 [会話] ガニボラ 言うて がにな (蟹が) ほぜって なあ ぼら (穴) あけた ので (あけてしまうので) 畦を みな、田持ち な (が) 弱よ おった ね (困って居たのです) がにな よ け 居 つ て (沢山居て) 穴 通 した る (てやる) 言うて な、がに の ぼら (穴) だら け や れ (だ) 言うて な あ ぼら や (だ) 言うて、ガニボラ 止 め と か な (ておかなければ) 水 な (が) 皆 漏 つ て か れ (ていく) 言うて。

がにまま【名詞】1) 蟹が泡を吹き出す状態 2) 飴を炊く時に生ずる泡、御飯の炊き上がる時に出る泡。[会話] 1) 蟹 な (が) 泡 吹 い と と (て居ると) ガニ マ マ、が に よ ま ま (ご飯) 炊 け お や (俺は) 汁 炊 く に 言 う て 言 う と と (言っている)、が に な (蟹が) 泡 を 吹 い て 来 る わ な、め え (目) の あ い (間) か ら 泡 な (が) プ ー と 吹 い て 来 る も ん で (ので)、わ た し ら よ お 言 よ お つ た (よく言っている)。2) 飴炊くと、飴 な (が) 出 来 上 が る か つ と お (堅く) な る 前 ん (に) な る と、泡 な (が) ど い ろ お (大きく) ポ ン ポ ン し て 来 る わ な (来ます)。それを ガニ マ マ 言 う て ガニ マ マ 掬 つ て 飲 め 言 う て。

がにむすび【名詞】結び型の一つ 男結び、簡単に解けない様にする結び型。

がにもじき【名詞】すっかり、もいでやる事 簡単にもぎ取る事 [会話] ガニ モ ジ キ ん (に) し た ん ど (してやるぞ) 言うて な あ、指 を も じ い た る と な あ (もいでやる) ガニ モ ジ キ や な あ (だ) 言うて、何 ん で も、も じ い た る と お お た ガニ モ ジ キ、ず ん べ ら ぼ お い し た た ん な あ (してしまったのだなあ) 言うて な あ。

かね (鉄槌)【名詞】おはぐる かね つ け る お は ぐ ろ を 塗 る (志、上) [会話] カ ネ つ け る 言 う ん か い (言うのですか)、お は ぐ ろ の 事 カ ネ つ け る 言 う な あ (言います)。わ し ら (私は) か あ さ ん (母) の す ん の (するの) 見 と り お つ た (見て居ました)。火焚く く ど い (へ)、あ つ ば い (熱灰) へ ぬ く と め と い て (暖めておいて) 口を こ げ ん す ん の (こんなにするのを) 真似して、ど こ や か や 呼 ば れ て く や ん な (招宴を受けるでしょう) 他 所 行 き や (だ) 言う と カ ネ つ け な を し て ま っ く ろ ん し て。

かね (矩、曲尺)【名詞】1) かね じ ゃ く。金属性で有る事から。大工、建具職人などが用いる直角に曲がった金属性の物差し 表には実寸、裏にはその $\sqrt{2}$ 位 (裏目) $1/\pi$ (丸目) の目盛りが刻まれて居る (員) 2) 田植えの時に、苗と苗との間を正確にするための縄張りの位置をきめる木製の三角の板 [会話] 1) 大工の カ ネ ジ ャ ク、カ ネ 言 う し。2) た あ (田) 植 え る 時 に 縄 張 り を す る 時 に カ ネ ま く 言 う て、き い (木) で 三 角 な の お で (ので) 計 ん の (計るのを) カ ネ ま く 言 う て、カ ネ 持 て 来 た か (持って来たか) 言うて 言 よ お つ た ん な あ (言っているのだ)。

かねかしえぎ、**かねかせぎ**【名詞】金儲け [会話] か し え ぐ (稼ぐ) ぜん か し え ぎ ん (銭稼ぎに) い と ん ね (行っているのだ) 言うて カ ネ カ シ エ ギ 言 う の (のを) ぜん か し え ぎ ん (に) い と ん ね 言うて 今 年 は ど い ら い (大変) か し え ぎ な (稼ぎが) よ か つ た な あ 言うて、稼 ぐ 事 を あ せ ぎ 金 あ せ ぎ な わ り い て (が悪くて) 言うて 金 あ せ ぎ な (が) の お て (無くて) ま あ 言うて な あ 働 く と こ な (所が) 無 い と な あ 稼 ぐ 言 わ ん と (言わずに) あ せ ぐ 言うて な あ ぜん あ せ ぎ や (だ) 言うて。

かねがれる 依頼される 頼まれる [会話] 家 ん (に) お と (居ると) 仕 事 カ ネ ガ レ ル お も て (思っで) ま い き つ て た れ (逃げて行った)。

かねがんで 頼まなくても [会話] そ い な (そんな) ね き ん (近くに) 有 る も ん (物) 取 つ て く れ (下さい) 言うて 人 カ ネ ガ ン テ わ が と (自分が) 取 ら ん か れ (取りなさい) 言うて な あ。

かねぐ 依頼する (志 (布施田、鵜方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話] カ ネ グ。人 カ ネ グ 言 う や ん な い (でしょう)、あ ん た な (貴方が) わ し ら を カ ネ グ や ん な い。これ聞かしてくれ 言 う て (言っで) こ い な の を (こんなのを) カ ネ グ 言 う の (のです)。あ ん た ん (に) か ね が れ て、行 く ん で わ れ (行くそうだ)、人 か ね ぎ し て 言 う て、な ん も (なにも) わ が と せ ん と (自分せずに) わ し な の も (私のもの) し て く れ え (して下さい) 取 つ て く れ え (取って下さい) 言う と 人 か ね ぎ す る 言 う て 人、使 う 事 を。

かねくいびょう (かねくひびょう)【名詞】慢性の治りぬくい病気 [会話] な が わ ず ら い な あ (慢性病です)。肺病やどげやまあ (など) 治 ら せ ん の な あ (ないのを) 何 年 も わ ず ろ と ん ね (病気している)、あ や ま あ (あれは) カ ネ ク イ ビ ョ ウ や な あ (だ) 言うたり か ね く い む し や な あ 言うたり な あ。

かねくいむし (かねくひむし) (金食虫) 【名詞】 金銭が多くかかる人 出費のかかる者 浪費家 [会話] カネクイムシやれ (だ) 言うて。病気なあ (です) 肺病やどけ (など) 患うと あやまあ かねくいびよおやれ 言うてなあ、カネクイムシやなあ (だ) 言うて例えんの (例えるのです) 虫になあ。病気しとてなあ金な (が) よけ (沢山) 要るもんでなあ (ので) 博打うったりなあ 何んやかやして、遊んどて (でいて) 何んも (何も) 仕事せんと (せず) 金、使うとなあ、あやまあ (彼は) カネクイムシやれ (だ) あの家言うてなあ。

かねくらい (かねくくらい) (金食) 【名詞】 浪費家 金銭を多く必要とする人 多く使用する人 かねくい虫に同じ [会話] カネクくらいも わりい (悪く) 言う言葉やなあ (です)、くらい (食らい) 言うてなあ。くい (食い) 言うどけやええねけど (言うておけばよいのだが) くらい言うど、べつんも (特に) にくにくし (憎い) よおな言い方。

かねごえ (金肥) 【名詞】 金銭を支払って買い入れる肥料 化学肥料 (員) [会話] 畑い (へ) いたら (行ったら) 胡瓜やどけでも (などでも)、カネゴエはねえし (無いし)、皆 しもごえ (大小便) しいおったやんかい (して居ました)。

かねこおり。かねこり (金氷) 冷たい事、冷えた金属は特に冷たく感じる事から、かなこおり (度) [会話] 冬に 手な (が) 凍ってくと (て行く) カネコリン (に) なってた (行った) 言うて、冷とお (たく) なってくの (を) (て行くのを) カネコリン (に) なってたよお。ふうふう吹いて ああ 冷たいよお 手な (が) カネコリやよお (だ) 言うて。冷とお (冷たく) なって 鉄みたよん (のように) 冷とお なつとんの (を) (なつて居るのを) カネコリ。冷えきつとんの おを (て居るのを)。おおた (ああ) てえ (手) も カネコリ やんない (でしよう) そやれ 言うて。冷えきつとる 言うのを、冷えきつてくの (行くのを)、鉄は冷たいやんない (でしよう)。そやよつて (それだから) 鉄みたよん (のように) カネコオリやなあ (だ) 言うて。てえな こつたた事を (凍って行った事、冷たくなった事を) カネコオリや。

かねこんぶ 【名詞】 皮下に出来る脂肪の塊 金瘤 [会話] カネコンブ言うて どこや (どこか) 腫れてくると カネコンブやなあ (だ) 言うてなあ。カネコンブでもないねけどなあ (ないのだが) 瘤な (が) 出来てくる カネコンブな (が) 出て来て言うてなあ。大き

な瘤のことを 瘤な (が) 出来てくるとな、もこつとしてくると カネコンブやなあ (だ) 言うて。

かねざし 【名詞】 曲尺、大工建具職人の用いる、金属性の直角に曲った尺。かねに同じ。鯨尺の八寸を一尺とする。(南)

かねすこ 【名詞】 スコップ [会話] スコップ言うの (のを) カネスコもて (持って) 来い。

…かねた 【接尾語】 動作が精一杯で有る事を表す きいカネタ 行きカネタ

かねたたき 【名詞】 こおろぎ

かねづかい (かねづかひ) (金遣) 【名詞】 金銭の使い方、又、その程度 [会話] 金、使うのな (が) 荒いと、あの人 カネツカイな (が) あろおて (荒くて) 言うてなあ。銭を ざらざらと使うと あの人 銭も有ん ねやら (有るのか) ないねやら (無いのか) カネツカイな (が) あらいなあ言うて。

かねつける 1) 歯におはぐるを塗る 2) 鞘の有る豆類が熟し過ぎて黒くなる。(三重県) [会話] 1) はあ い (歯へ) おはぐるつけんの (を) (つけるのを) カネツケル。何処やかやい行く言うとな くどのあつばい かいて (熱い灰掻き出して) 来といて (来ておいて) それい こいなのおをなあ (のを) ぬくとめといて (温めておいて) それい おはぐる入れて 溶いといて なあ (ておいて)、よおじみたよな (楊枝のような) ので こげん こげんして カネツケル言うてな。2) そして そらまめ (空豆) でもなあ 剥いて すると みいな (実が) 入ってくるとなあ、くうる (黒く) なつて くの (を) カネツケテキタよつて こわいなあ (堅い) 言うて。ふさな (が) くろなつて (黒くなつて) 来るとなあ カネツケテキテ こわいわれ (堅いです) そや言うて、くうるおなんのは (黒くなるのは) カネツケル言うねやわな (言うのです)。

かねつぼ 【名詞】 さぎえ

かねばこ (金箱) 【名詞】 1) 金銭を入れておく容器 2) 利を生ずる元となる物。ドル箱。

かねばなれ (金放) 【名詞】 金を使い 拂う事。

かねのくめんする 金を借りる、収入を計る

かねぶんぶん 【名詞】 こがね虫 かなぶん ぶんぶん (員、名) [会話] カナブンブンの事言うしなあ (言います) カネブンブン。

かねまあり (かねまわり かねまはり) (金回) 【名詞】 かねまわり 金回り 収入が豊かであるか否かの様子 ふところぐあい [会話] カネマアリな (が) ええ (よい)、金よけ (沢山) 入るのをなあ カネマアリな

ええ 言うて。

かねまかない【名詞】1) 金銭の出し入れ 家計のきりもり 2) 会計。会計をする人。[会話] 1) 家の責任者で、カネマカナイしとんねよって (して居るのだから)、しんしょ持ちは (主人は)。あやまあ (彼は) カネマカナイよって、わがと (自分が) 何んでも ずばずばこおて (買って) 言うてなあ、しんしょもちで ま 金をわがと (自分が) 出したり入れたりするもんで (ので) カネマカナイよってん (だから) 言うて。
2) 今し (今) で言うたら かいけえみたよなおを (会計のようなのを) しとる (している) 人も カネマカナイ言うて。くみやい (組合) とか 役場やとか言うてなあ しとんのも (しているのも) あの人まあ くみやいの、カネマカナイしとるよってん 言うてなあ。かいけえしとる (会計している) 言う事をなあ カネマカナイしとる 言うね (言うのです)。自分が あっちこっちで 工面したりすんのは かねのくめんばつかしとるやんか (ばかりしているでないか) 言うやんかい (言います)、銭な (が) のおて (無く) 金、借りん (に) はしや (走り) 歩くと、かねのくめんに まあつとんねない (廻わっているのだ) 言うてなあ 工面に 追い回されとる (ている) 言うのなあ (です) かねのくめんで、はしりまあしとられ (ている) 言うて。

かねもち。**かねもちや** (金持屋)【名詞】財産家 (志摩市全域) [会話] かね (金銭) のよけ (沢山) 有るうち (家) カネモチ。物持ち 靴持ち 伊勢の名物 赤福 もっち (餅)。

かねやい (かねあい、かねあひ) (兼合)【名詞】両者がうまく釣り合いを保つ事 又、その状態 (員)

かねなる 金になる。売れる

かねんなる。**がねんなる** 1) 凝り固る 2) 頑固になって人の言う事を聞かない。

かねまなとおった【俚諺】大晦日の夜、金を積んだ馬が家の前を通る夢を見ると翌年金持ちになると言う。

かのう (かなふ)【自ワ五】叶う

かのこゆり【名詞】ユリ科の多年草。高さ1～1.5m。夏、大形の花を二～三ヶつける。白色で内側は紅色を帯び多数の鮮紅色の斑点が有る。(南)

かのじよ (かのぢよ) (彼女)【名詞】愛人で有る女性

かのた 叶った

カバ【名詞】カバー cover 全体をおおうもの。主として船で使われたが全体に広がった [会話] わがとら (自分達は) カバかぶって寝ておって (寝て居

て)。

かばう (かばふ) (庇)【他ワ五】大事にする 保護する 世話する いたわり守る あばうと通じる (大言海) [会話] カバウ言うて、体な (が) わりいてしとん (悪くして居るのを)、かばたらな (かばってやらなければ) はざんわれ (いけない)、あんまり (あまり) よけ (ようけ、余計、多く) 使わんと (ずに) 言うて。

かばかば【副詞】乾いて堅くなること (志 (甲賀)、員) [会話] カバカバん (に) 乾いて、乾いて カバカバん (に) なつてたれ (なつていった) 言うて。がさが さしとるとなあ (していると) まあ、乾いて カバカバやれ (だ) 言うて。何んでもなあ こお しっとり しとるもんななあ (湿気のあるものが) さんざりなると (乾いていくと) まあ 乾いて がさがやれ (だ) 言うたりなあ。

かばがば【形容詞】1) 大きすぎる様 2) 金などが、どんどん入って来るさま。

かばしら (蚊柱)【名詞】夏の夕方、軒先などに群がる虫の群。ふなた参照

かばんもち (靴持)【名詞】1) 上役の靴を持って供する事 2) 転じて上の者にこびへつらう者 (上、阿) [会話] 1) ものもち かねもち カバンモチ言うてなあ。真珠屋な (が) 入札行たり (行ったり) すると、カバンモチ付けて 行きよおったやんかい (行って居たで有りませんか)、今しや (今は) まあ 真珠な (が) そげんも (そんなにも) ないけど (が) けえきなええ (景気がよい) じぶんにや (頃には) 真珠屋のカバンモチでまあ、よけ (沢山) かねもおけて (金儲けて) 言うてなあ。よけ 金、貰よおったね (貰って居たのです) 真珠屋のカバンモチすると。これは 召使い言う様なもんやわいな (ものです) 真珠屋の小使いで 入札行たり (行ったり) するとなあ それい付いて それをなあ あの人の腰巾着や (だ) 言うて お供してくのを (して行くのを)。

かびいらす かびが生える かびをわかす 生えさせる [会話] にかえ (二階・屋根裏) は ひい (火) 焚くし しとりな (湿気が) あがらせんもんで (あがらないので) カビイラス いらしたると (てやると) はざん (いけない) お茶や (だ) とか、おしのみいや (味噌汁の具だ) とか言うもんなあ (物) 皆 にかえいあげんの (あげるのです)。

かびくさい (黴臭)【形容詞】黴の臭いがする

かびた【名詞】1) 出来物などの分泌物の固まった物 2) よく乾いて居る状態

…**かひて** (かいて かして) かと見えて かして か
副助詞 種類の語につく 不確かな気持ちを表す、疑
いの気持ちを添えて推量する時に使用 係助詞 種類
の語 語句について文末の述語を連体形で結ぶ 普通
上に疑問がつく 疑い 問いかけの気持ちを表す 不
足の気持ちを表す 反語の気持ちを表す。[会話] な
んやらかして (何かと思えて) そげなの (そんなの)
カヒテ あげなの (あんなの) カヒテ言うて。

かびよお (ぐあびやう) (画紙) 【名詞】押しピン

かびる (黴) 【自ハ上】黴が生える 古くなる

かぶ (株) 【名詞】 1) 身分 家柄 2) 本家分家の一団
(志、一、上、阿) 3) その人の持ち前となって居る
動作 状態 特有のくせ 4) 切り株、かぶた [会
話] 4) カブは畑の、木の**カブ**やら (とか)、たあきり
カブ (田の切り株)、キリカブやなあ (です)。1) 本家
カブ あのうちや (家は) 本家カブやもんなあ (だから)、よ
け (多く) いりよお (費用) もいられ (必要と
する) とか、2) 本家**カブ**や (とか) 隠居カブや、その
家の先祖の事を カブ言うて (言って) 言わせんかい
(言いませんか)。先祖の事を あのうちや 〇〇の
カブやよって (だから) よお (よく) 言う。木の株、か
ぶた いめ (木の名前) の**かぶた**で ぼぼ (女陰)
突いて言うて、とおまいどん、こいとばあこれ見てく
れんかい (見て下さい) 言うて。

かぶく 【自カ五】傾く。うわかぶきなる。

かぶさる (被) 【自ラ五】上に重さなる ある物の上にお
おうようになる [会話] カブサル おぼれかか
って来た言うのなあ (のです)。

かぶしえ、**かぶせ** (被) 【名詞】こませ 魚を誘い集める
ためにふりまく餌 いわゆるまき餌の事 アミ類やシ
ラス又、魚肉を細かく砕いた物 さなぎの粉 米ぬか
小麦などを材料にする 撒餌 (志 (浜島、布施田、鶴
方、立神、国府、鳥、北、尾) [会話] カブセ 魚を
寄せんのに (せるのに)、ついついといて (ておいて) 網
の袋い (に) 入れて、やると 魚な (が) 寄って来る
のを**カブセ**。餌**かう**のを (与えるのを) カブセをや
ったや (ら) 魚な (が) 寄って来た言うて、はね (竿)
の**先**い (へ) 巾着みたよおな (のような) 網の袋つけ
といて (つけておいて) それへ 魚のつついた (細か
く砕いた) のを入れて、突くと 海で広がるやがな
(でしょう)、それへ 魚な (が) 寄って**来ん**の (来る
のです) それで カブセこおて (かう・飼って) 魚
寄せる言う。カブセかう 餌を飼う言うのや (です)。

かぶしえる (被) 【他サ下一】浴ぶせる 上から覆う **かぶ**

せるに同じ カブラスル (被) の略転 (北)

かぶせかう 1) 撒餌をする。かぶしえ参照 2) 転じ
て金品を与えて人に恩を売り手なづける。

かぶせこおて 1) 撒餌して 2) 転じて金品を人に与
える

かぶせたんど 被せてやるぞ (布団など) 浴ぶせてやる
(水など) [会話] 水 カブセたんど言うて、したる
(してやる) 人は言うし、しやれた (された) 人は
カブセラレタ言うて。

かぶせられた 浴せられた 被う **かぶせたんど**参照

かぶせる (被) 【他サ下一】 1) 上から覆う **かぶ**らせる
2) 水などを頭から浴ぶせかける (南) 3) 責任を負
わす [会話] 1) カブセル言うてなあ 帽子でも 頭
いすえたと (のせてやると) 帽子被せた言うてなあ。
人なすると かぶせられた 言う、わがと (自分が)
すると かぶせたた (被せてやった) 言うてなあ。

かぶた (株) 【名詞】 1) **かぶ** 株参照 木の株 根株
切り株 株 木を切り倒した跡に残った部分 植物の何
本にもなった根。た 動作作用がすんで結果が状態と
して存在する事を表す (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、
立神、国府、安乗)、鳥、伊、松、鈴市、一、三、安、
久、多、上、阿、張、名、度、北、南) 2) 人をもの
しる語 [会話] 1) きい (木) の**カブ**た 2) 誰ん
(に) でもなあ ごおなわくと (腹な立つと) カブた
言うてなあ カブたは みにくいのおやもんで (の
だから) 言うんやるな (言うのでしょうか) そんでな
(それで) ちよいと (少し) わりこと (悪い事) して
も、カブた言うてなあ 言う時な (が) あんねてや
(あります)。

かぶち (臭橙) 【名詞】 1) だいたい 橙 日本の正月の
飾りに使うみかんの一種 代々は果実が越年しても樹
上に残る意味から 常緑の小高木 葉が厚く卵状 果
実は略球状 径約8cm 果面は橙色 カウエン (香
縁) の文字読 (大言海) (志 (布施田)) 2) 頭の大
きな人 [会話] 1) カブチ言うな (のは) しよんがつん
(正月に) 飾る、だいたい。せんな (神経痛のような
痛みが) おこって カブチ煎じて飲め言うて。昔や
(は) せんな (が) おこった言うて 神経痛やるなあ
(でしょう) あんで (あれで)、カブチ煎じて飲むとえ
え (よい) 言うて。風邪引いて 咳な (が) 出ると
カブチと 生姜煎じて飲め言うて。カブチ だいたい
は又違うんてや (違うのです)。だいたい、ふさ (果
実のつく蓋) に 桔梗に なつとんのを (なつて居る
のを) だいたい。カブチは ふさな (が) まるくとう

(丸く) なつとんの (なっています)。 そやもんで (それで) 見分けんの。 桔梗になつとる (なつて居る) 言うのは 切れ込みがある。 ふさに 丁度 桔梗みたいん (のように) いつつ (五) に、はなびら (花卉) な (が) 付いとるわい (付いているのです)。 カブチや (だ) 言うと ふさな (が) まるくたいし (丸いし) ふさで 見分けんの (見分けるのです)。 だいたいとカブチと。

かぶと 【**名詞**】 大きな鉢 深い鉢 三つ重ねに組んで有る兜鉢の略 うつむけるとかぶとの形に似て居る。 [会話] 鉢の事を カブトや (だ) 言うて。 一番のカブト せえ (しなさい) 言うて、おっきいの (大きいのを) 一番のカブトや (だ) 言うて、二番目んのおは (二番目ののは) 二番のカブトな (です)、そして、いっちち つちやいのは (一番小さいのは) 三番のカブト。

かぶのみ 【**名詞**】 乱暴に飲むさま (上、阿)

かぶのり 【**名詞**】 海藻 [会話] カブノリ 言うのは ま いまいや、からすごや 言うて、 はあな (葉が) からすごのはあみたいん (葉のように) しとるもんで (している) からすごのりや (だ) 言うて。 潮な (が) ひいてて (ていって) ひじきよりちよいと (少し) 上ん (に) つくんでや (つくのです)。 島のはら (中腹) につくんでや。 ふのりはええねけどなあ (よいのだが)、一番ねえな (値が) よかった。 そやけど (しかし) カブノリの方な (が) ええんでわい (よいそうです) 壁塗る時は そやもんで (それで) しゃかん屋な (左官が) ふのりより カブノリを かいん来よおった (買いに来て居ました)。

かぶもち 【**名詞**】 その人の状態 態度 性質などで 世間に名を知られて居る事 又、その人 かんばん持ち

かぶら 【**名詞**】 株 蕪 かぶが方言 (津) [会話] 畠のカブらかい (ですか) 野菜のカブラダイコン 大根のカブらの事。

かぶらかし。 **かぶらかす** 【**他サ五**】 舟を左右にゆり動かす、風雨のため舟が左右に揺れる カピロクの他動詞 カピはカブ (頭) の転 ロクは動揺する意 (大言海) かぶる参照 (志) [会話] カブラカス 言うのは なあ、舟い (に) 乗つとるやんない (乗っているでしょう)、そすと (すると) 動かす (揺する) 事を カブラカス。 ふねん乗つとたや (船に乗っていたら) カブラカして おとしかったんよお (怖かったのです)、よけ (あまり) カブラカスんまあ (するな)。 いごととさいご なあ わざと (故意に) こやつてすんねやんかな (するのです)。 カブラカシ 言うて 体、動して わざとに

なあ (です)。 よお (よく) 舟い (に) 乗るとなあ わざに こおこおしてなあ わざ (悪戯) してなあ、カブラカシさすやんかい (させるのです)。 それすると おとしもんでなあ (怖いので) 落つてく (落ちて行く) よおで 舟な (が) まけてく (転覆する) よおで よけ (あまり) カブラカスんまあえ 危ないのん (のに) 言うて。 カブラカシ 言うて 舟を 右左いご かす (動かす) のをなあ、カブラカシ。 そやもんで (それだから) 歩くのもこげんしてこげんして (肩を揺すつて) 歩いとる (ている) 人な (が) あるやんない (あるでしょう)、あやれ カブラカシして歩いとられ (ている)。 右左あげさげやわいな (です)。 肩もこげんすると (揺ると) カブラカシやわいな、カブラカシで 威張つとる (ている)、ちんばの人も 足な (が) 短いよつて (から) カブラカシするやんかいなあ (します) 歩くのんなあ (のに)、歩きや (けば) 踊るよおでおもしろい言うて 左右 揺れることを カブラカシ 言うね (言うのです)。

かぶらかしてあるく 肩をゆすつてあるく びっこ引く かぶらかし 参照

かぶらかす 【**動詞**】 被せる 被せる様にする

かぶり (被) 【**名詞**】 帽子など頭に乗せる物 (安)

かぶりつかれた 嗜みつかれた

かぶりつく (嗜付) 【**自カ五**】 1) 口を大きくあけて 勢いよくかみつく かじりつく カブル (齧) カミフ (嗜触) るの義 (大言海) ガブガブ (勢いよく飲む) のガブと関係あるか。(志 (布施田)、鳥) 2) 離れまいとして、しっかりくつつく しがみつく [会話] 1) かぶつと嗜むのを 嗜み付くのを カブリツク 言う のなあ (のです)、りんごでも、かぶつとすんのを (するのを) カブリツク 言うて なあ てえ (手) でも嗜むと てえ (手) カブリツイテおこしたね 言うて 犬ん (に) 嗜まれて言やええのん (よいの) に) カブリツカレテ 言うて なあ。

かぶりふりきつとる 頭を左右に振り激しく拒否する

かぶりふる 1) 頭を左右に振り拒否する 2) 頭を上下に動かし承知する

かぶりもん (被物) 【**名詞**】 笠、帽子など頭にかぶる物 かぶりもの [会話] 頭のカブリモン、道行く人のカブリモン 鳥打ち 中折れ 山高や シルクハットの類多し 言うて、カブリモン。 なんでもな 頭い (に) すえるもな (置く物) カブリモンやわいな (です)、手拭かぶつても 被る言うしな 波が打ち寄せて 波かぶる言うやんかい (言います)。 損させられた時も

かぶったよお言うやんか、あの人ん (に) だまされて
まあ かぶったよお言うて。

かぶる (被る) 【他ラ五】 1) あびる 浴びる 覆う
2) 舟が転覆する 3) 傘をさす。帽子をかぶる
4) 大酒を飲む 5) 人の罪を着る (志 (鶴方、立神、
志島、甲賀、国府)、鳥、尾) 6) 接尾辞化して物事を
大袈裟に言う。[会話] 1) 傘カブル 水カブル 土埃
カブル、土埃かぶって 飯、食お (食べよう) 言うた
てて (言った所で)、口や (は) 開いとても (て居て
も) がしがし言うて。めえ (目) も、あっこおなつて
た (赤くなっていった)、ほんどん (本当に) あっこお
なつた。まあ 向こお向かれやせん (向けないので
す) ばあつとして来て 食うのもそこで じょおく食
うねけど (いつも食べるのだが)、中い (へ) 入つて食
うて (食べて) 食われやせん (食べられません) 土埃
で。2) 舟をカブル言うて 舟な (な) まけたたのも
(転覆したのも)、舟な (が) カブツタ言うて。杉のず
うきん (頭巾) カブツタんでない (そうだ) 言うて。
まけたて (転覆して) 舟の下敷きん (に) なつてくと
(なつていくと) 舟は 杉で造つて有るやんない (で
しょう)。やい (呼び掛けの言葉) ないざい (落へ) 来
て 杉のずうきんカブツタヨオ (被ってしまった) 言
うて。舟な (が) うつぶいてて (うつむいていて)
その下い (へ) 入つた事を 杉のずうきんカブル言う
んやわい (のです)。舟の底な (が) 上ん (に) なつて。
3) 傘さす言うのは 傘カブル言うし (言います) 菅笠
カブルとか 編笠カブツたり 帽子カブルとか。

かぶる 船が激しく揺れる

かぶれ (気触) 【名詞】 動植物性の刺激物に依つて皮膚に
炎症を生じる事 接触性皮膚炎 (南) [会話] 漆にカ
ブレタとか、かぶれ虫にカブレタ。カブレて、かむい
て (痒くて) 里芋のかあむいたや (皮剥いたら) カブ
レて。

かぶれのきい 【名詞】 うるしの木 (志 (神明、立神、志
島、国府)、度、伊) はげの木 (伊、南) [会話] カブ
レノキイ言うのななあ、網掛けのうけ (浮子) にする
きいななあ (木が)、カブレノキイやなあ (です) カブ
レノキイで きいよおて (黄色くて) あきん (秋に)
なると まつかん (真赤に) なつてなあ、紅葉の時に、
ものすごお (大変に) きれいん (綺麗) なのおな (の
が) あるやんない (あるでしょう)、あれやんかい (あ
れです) カブレノキイ。かみやまい (に) 行て (行つ
て) やうちな (一同が) われ (自分) 切らまい言うて
かぶれるもんで (ので)。こや カブレノキイやどお

(木だ) 言うて、だれえ (どれ) 言うて かぶれんも
んわ (かぶれない者は) おんな (俺が) 切つたるわ
(切つてやる) 言うて、切んねけど (切るのだが) か
ぶれるもな (者は) 逃げや歩いてなあ (逃げまわつて)。

かぶれむし 【名詞】 毛虫 (志 (志島、越賀、甲賀、国府)、
南) [会話] カブレムシ、カブレムシ おらども (私
達) かぶらかしたら (かぶれさせたら) お月さんの檜
で じゃんと突け じゃんと突け言うて、カブレムシ
見ると言よおつた (言っていました)、ケムシの事 死
んだ毛虫で刺しはせん言うて。

かぶれる (気触) 【自ラ下一】 1) 動、植物性の刺激物に
依つて皮膚に炎症を起こす (志 (甲賀)) 2) 夢中にな
る。熱中する。(松、多、北、尾)

かぶる 【名詞】 1) 草の名前 かぶる草 がつそ参照
(伊賀地方) 2) 乱れた頭髪 (南) 3) じゃのひげ
蛇鬚 ユリ科の多年草。庭園垣根の下草として栽培さ
れる。高さ7~15cm、根は所々肥厚し、瘤を作る。
葉は根本から群がって生え線形で先は尖り10~30
cm、初夏葉間から葉より短い花茎を出し、淡紫色の
下向きの小花を数ヶ、総状につける。花被片は狭卵形
で六ヶ有り外側に反る。種子は球形で碧紫色。[会話]
1) カプロ言うて 畑のくるい (境へ) 土な (が) 流れ
んよおん (流れないように)、ほつそおおいはあ (細い
葉) で 紫色のもも (実) のなる。2) そして 頭 (頭
髪) 乱しとると (て居ると) カプロみたいななあ (の
ようだ) 言うて。

かぶんすう 【名詞】 頭の大きな人 [会話] 頭な (が)
おつきい (大きい) とさいご (その時)、あや (彼は)
カブンスウやなあ (だ) 言うやんかい (言います)。ど
たまな (頭が) おつきいにげや (大きい人間は) あや
まあ (彼) カブンスウやなあ言うてなあ。うわかぶき
な (が) しとるやんか (しているでないか) 言うてな
うわかぶき言うな (のは) 上な (が) おつきい (大き
くて) てなあ、下な (が) ちっさい (小さい) となあ。
うわかぶきな (が) して あたまでつかちでまあ う
わかぶきな (が) しとられ (している) 言うて。

かべ (壁) 【名詞】 障碍 邪魔 困難 [会話] 途中で障
害物があると こんな (これが) カベやなあ (だ) 言
うて、カベな (が) あつて言うて、にげ (人間) でも
意見な合わせんのな (ないのが) あるとなあ あしか
(あすこは) カベな (が) あつてなあ言うてなあ、難
し人を あのカベななあ (が) 言うて 言う時もある
わい (有ります)。障害物のことやわい (です)。すか
んこと (嫌なこと) 言うてするもんで (ので)、話な

(が) まとまらせんもんで、あのカベな (が) 邪魔してなあ言うて。白やてや (だと言え) 黒や (だ) 言うてなあ、それが、カベな (に) なって 話、進まへんもんで (ないので) あのひと居ると カベな (が) あって やりにくいなあ 言うて言うの (のです)。

かべいた (壁板) 【名詞】 外壁の上に張る板 [会話] 外側の囲い言うの カベイタ。

かべうち 【名詞】 子供の遊び 土塀、板壁に丸い薄い物 (栄螺の蓋 一文銭—かべうちのてぎ) を投げつけ、それが転がったのを他の物で当てる遊び (多) [会話] カベウチ言うなあ (のは)、銭をなあ 五文 十文つ揃えといて、壁いなあ (に) うちつけてなあ (叩きつけて) ころで (転んで) 来て ねきい (近くに) 来たのお てぎや (だ) 言うてなあ、まるくたいのおでなあ (丸いので) それ当てるね (あてるのです)。そすと 当たった言うて、当たった言うてな (は) 取りすね (するのです)。銭をなあ 壁か とお (戸) 向いて (向って) あいな (あんな) すべなええとこい、うつつけると (滑らかな所え叩きつけると) ころでくんねやんかな (転んで来るのです) 遠いとこや (所だ) 言うて ま 当たりのくいやんない (にくいでしょう)、そして、ねきんのをから (近くのから) ねきんのをから 当たって 当たったな (のは) わがとなもん (自分の物) に、それで 勝負するわけや (です)。そすと、後のもなあ (者は) まあ、遠いとこん (所に) なって くと (いくと) 当たりのくいやんない (にくいでしょう)。銭な (が) ないもんでのお (ので) まんぜん捨て (拾って) 来て、まんぜん言うたら さぎえのふさ (蓋) を あれを捨て来て まんぜんでなあ、しよおったなあ (して居ました) まんぜんうっつけてなあ (叩きつけて) 正月やったらな (だったら) みんなな (皆が) 出しよて (あって) 銭を (で) しよおったけど (して居ましたが)。

かべうちのてぎ 【名詞】 子供の遊びに使う丸い薄い物 一文銭など かべうち参照

かべつち (壁土) 【名詞】 壁に塗る土 赤土 [会話] カベツチ言うな (のは) 赤土のことなあ (です)。いしころな (が) ないので カベツチんええなあ (よいのだ) 言うて、いしころな (が) あると うわぬりするな (するのは) 皆 ふるて (振って) 石取ったでするしなあ (取ってやっけます) あらぬりのおや (時は) 荒壁 や そんなりやけど (そのままだが)。

かべどなり (壁隣) 【名詞】 壁を隔てた隣家。

かべぬる 壁を塗る。厚化粧する 顔料を塗りたくる

[会話] カベナル言うな こてで しやかんやな (左官屋が)、男の人らな おなご (女) のとこい (所に) てえ (手) おこすと こて使こて (使って) 言うやんかい (言います)。あの人、こて使いで 言うてなあ ちよいちよいつ (少し) てえ (手) 握りん (に) 来たりなあ 前の方い (へ) てえ なあ してくる人なあ (が) 有ると、あの人まあ こて使いで嫌いやなあ (だ) 言うて、壁塗る鏝、しやかんやの鏝、てえ (手) をだ、鏝、例えんねわいな (例えるのです)。尻 いろいん (触りに) 行たりするやんかい (します) そげんするもんでなあ (そんなにするので) こて使う 言うてなあ。女の人な (が) カベナル 白粉をなあ (です) あつつう (厚く) するとなあ、おた かべぬったよんして (ようにして) 言うてなあ。そやもんで (それで) 今しの (今) 人ら (は) 化粧すんのを (するのを) おら だれ (私はどれ) カベヌツケクルワ (来ます) 言うやんかい (言います)。

がへる 【名詞】 蛙 がえる参照

かぼ 【名詞】 頭部の湿疹 膿痂疹 (志 (布施田)) [会話] 頭のカボかい (ですか)。できもん (出来物) カボな (が) 出来た言うて 出来もん (が) すと (すると・出来ると)。

かぼう (かぼふ) (庇) 【他ワ五】 かぼう いたわり守る 他から害を受けそうなのを、そうならないようにする [会話] カボテ (って) もろて (貰って) 言うて、労働 ことを。あの人な (が) カボテ くれて、よかった言うて、いたわってくれる 言うことをなあ カバウ 言うて。親切にして貰ろた (貰らった) 事を カボテもろて (貰って) 言うて、何処やかや で 何んも (何にも) 仕事よおせん のん (出来ないのに) あのひた (人は) 仕事よおしてな (よく出来て) いたわってくれる てつとて (手伝って) くれて言うのを カボテ くれ 言うて。

かぼしんじゃ 【名詞】 出来物の多く出来る子供 [会話] ごおなわいて (腹が立って) 来ると、子供らわろう (叱る) のに カボシンジャ 言うて。かぼな (出来物が) よつけ (沢山) 出来とんのを (ているのを) カボシンジャ。何処もかも みな あやまあ (彼は) カボシンジャやれ (だ) 言うてな。そすと (すると) 悪り (悪るい) 事すると それん例えてなあ すかんこと (嫌なこと) してくると。

かぼそい 【形容詞】 細い カは接頭語 (志)

かぼちや 【名詞】 器量の悪い女 醜女

かぼちやいも 【名詞】 薩摩芋の一種 (志、鳥) [会話]

カボチャイモ言うな (のは) きいよいなあ (黄色いのです) かぼちゃと一緒に色しとるもんで (しているのです) カボチャイモ言うて。 きんこ (芋の煮切干) 炊く のん (のに)。

かぼちゃのこえ。かぼちゃのこやし 【名詞】 随胎した胎児 [会話] カボチャノコヤシ言うな (のは) 子 (胎児) をとったるのを (とってやるのを) 言うんやんかい (言うのです)。おろしたんの (随胎するのを) まあ 要らんよって (から) 拳骨したれ (随胎してやれ) 言うのを、カボチャノコヤシん (に) したれ 言うてな。 浜の土手い (へ) 行くとなあ かぼちゃななあ (の) ひとらばえんのおな (撒かずには生えるのが) 有ると、 こや (これは) おろしご (随胎児) で、 よお (よく) 効いて言うてなあ 浜のごみすてば (ごみ捨場) の下の方い (に) いけよおった (埋めて居ました)。

かぼちゃみそ 【名詞】 かぼちゃと一緒に芋、小豆等を入れて炊いた雑炊。 [会話] カボチャミソ炊こや (炊きましょう) 言うて、 なんも (全く) 味噌は入れやせん ねけど (入れないのですが) かぼちゃや 芋や、小豆やとか ささげやとか入れてすんのを (するのを) カボチャミソ。かぼちゃ入れると 味噌みたいん (のように) どろどろなるもんで (ので) かぼちゃ飯。 あんで (あれで) カボチャミソ 言いおったんやろなあ (言うて居たのでしょう)。

かぼちゃめし 【名詞】 南瓜と共に、米、麦、豆類を入れ炊いた物。かぼちゃみそより少し硬い。(志) [会話] かぼちゃで、飯炊くの (のを)。かぼちゃを、芋、切る よん (ように) 切っといてなあ (ておいて) そんで (それで) 米ちよいと (少し) 入れてすると カボチャメシ言うてなあ。やいこお炊くもんで (ので) みそや (だ) 言うて。カボチャメシはなあ かっとお (堅く) したのを カボチャメシ言うしな (言います)、みそ言うな (のは) まあなあ かぼちゃ 水な (が) 出てくるもんで (ので) 米よけ入れんと (沢山入れずに) まあ かぼちゃよけするもんで (沢山するので) そんで (それで) びちよびちよんなるもんで (ので) かぼちゃみそ言うて。かぼちゃと米 他に小豆や芋入れるけどなあ (が) 入れても そんでも、かぼちゃみそ 言うね (のです) カボチャメシとかなあ。

かぼて 1) 庇って 2) 庇って下さい

かぼてくれ。かぼてくれえ 庇って下さい

かま (鎌) 【名詞】 魚の部分の名称 腹肉の頭側につく鎌状の骨 (志) [会話] カマ言うな (のは) 鯉のカマの しよから (塩辛) 言うて、ここの、あごた (顎) の事

なあ (です)。うまかりおった (うまかった) カマの しよから。

かま 【名詞】 海魚 しいら シイラ科全長約1.8mに達する。体は著しく偏扁し、長い。背鰭の基部は長く頭頂部から尾鰭近く迄有る。尾鰭は深く二股に分かれる。体色は背方が青藍色で腹方は淡黄色、老成した雄では額が張り出しおでこ状をなす。頭の形が鎌に似る事から

かまいたち (鎌馳) 【名詞】 寒風の吹く時、転ろんで足に切り傷のような傷を受ける事をかまいたちに切られたと言う。突然、皮膚が裂けて鋭利な鎌で切ったような切り傷の出来る現象。気流の変動で空気中に真空部が生じた時、これにふれて生ずると言われる。(志 (浜島、布施田、甲賀)、鳥、桑市、飯、尾) [会話] 昔の人ら (人達は) なんもしやせんのん (何もしないのに)、風の中で傷すると、カマイタチに切られた言うて、ごそと取られたりおったの (取られて居たのです)。カマキリ言うな まあのもんや (魔の物だ) 言うて。 〇〇さん 言うのな (が) かりわざな (軽業が) 来て その真似して 足立てしてしやなあ (したら) カマイタチん (に) 切られて、ここ (下腿) ごそと (ごっそりと・根こそぎ) 取られたて (取られてしまって) あいなのおを (あんなのを) カマイタチ言うね (言うのです)。そすと ちいな (血が) 出やせん (出ません) ちいな出やんと (血が出なくて) 鎌で切ったよおんな (ように) ごそと 取られたたの (取られてしまったのです)、ほぜつといてくのなあ (ほじくって・くり抜いて行くのです)。魔のもんや 言うて カマイタチん (に) おおた (遭った) 言うて、なんも (何も) 形も めえんとおって (見えなくて) ぐちつとほぜつてくのなあ (です)、そやけど (しかし) 血は出やせんの (出ないのです)。口な (が) あいて (傷口が開いて) ごぼんとして えぐつといて (くり抜いて) 行くのなあ (のです) 鎌できゅつとしたよん (ように) してあんの (有るのです)。えぐつといて行くよおんすんねけど (ようにするのだが) 血な (が) なんも出やんと、そやもんで (それで) まあのもんにおおた 言うて。カマイタチは 他所の言い方 カマキリの事。

かまいだて (かまひだて) (構立) 世話をする 接待する事 相手になる事 [会話] カマイダテすんな (するな) 言うてな、何んやかや (いろいろ) 言うて 怒って来て あやまあ カマイダテせんと ほつと け (せずにほおっておけ) あや (彼は) 怒つとんねよ つて (ているのだから) 言うてな なんも言うな 言う

ことなあ カマイダテすんな 言う事はなあ。怒つと
んねよって 何んも (なにも) 言うなよ言うのなあ
(です) あいてんなんな (相手になるな) 言うことや
わいな (です)。来て貰っても カマイダテもせんと
何んも出さんと (なにも出さずに) ごっつお (御馳
走) も出さんと 言うのをなあ なんも かまわんと
なあ言うてな。

かまいて (かまひて) (構手) 【名詞】 構う人。相手にな
る人。カマヒト (人) の転

かまう (かまふ) (構) 【他ハ下一】 相手になる事 1)
関心を持つ 気にかける こだわる 相手になる 世
話をする (鳥) 2) からかう 馬鹿にする (志 (片田、
浜島、布施田、神明、鶴方、立神、国府、甲賀)、鳥、
伊、松、三、阿、張、名、北、尾、南) 3) さしつか
える 4) あやす (志 (鶴方))

かまうな 相手にするな な 動詞 助動詞の終止形
強い禁止を表す [会話] 世話やくな言う事を、おら
ん (俺に) カマウナ言うて。なんやかや (色々) も
の言うて来ても その人の言う事が気にいらん (いら
ない) 時ん (に)、おらん かもていらんわ (構ってい
りません) おらん カマウナ言うたり、子供らに、い
くら言うても 言う事聞かせんと (ないと)、そいなも
ん (そんな者) カマウナ、ほっとけ (ほおっておけ)
言うて。

かまえ (かまへ) (構) 【名詞】 1) 様子 態度 (志 (布
施田)、度) 2) 用意する 準備する [会話] 1) あの
家、カマエ どいらいええ (大変良い) カマエやなあ
(だ) 言うて、家な (が) おつきい (大きい) のを
立派なおを (のを) カマエな (が) ええなあ (よい)。
2) 走りあい (徒歩競争) する時ん (に) カマエよおい
(用意) どん言うて カマエんのなあ (かまえるので
す)。そや (それ) カマエせえ (しなさい) 言うてな。

かまえる (構) 【他マ下一】 1) 前もって用意する 準備
する 支度する 待ちかまえて居る (南) 2) 落ちつ
いて座って居る。悠々として居る。(熊) [会話] 1)
カマエとんねど (ているのだ) まあ来るか来るか思て。
先生な (が) 今日来るよって (から) まあ 早よ行て
(早く行って) カマエとろや (ていましょう) 言うて、
まっとろや (待っていましょう) 言うのをなあ、かん
まえとろや。待つて かんまえとらな 言うてな、ま
つとらな (待ってなければ) 言うのをな カマエと
らな 言うの、用意せえ言う事やわいな (です) 逃げて
かんよん (行かないように) かんまえとれよ言うて。

かまきり (蟻) (鎌切) 【名詞】 1) 突然皮膚が裂けて

鋭利な鎌で切ったような傷の出来る現象。気圧の変化
に依ると言われる かまいたち参照 2) 瘦せた人
(上、阿)

かまくび (鎌首) 【名詞】 首を伸ばして居る状態。怒って
居る様。

かまくびもたげる 首を伸ばして居る。怒って居る。も
たげる。持ち上げる。

かまける 【自カ下一】 1) 一つの事に熱中し、他がおろ
そかになる。2) ひるむ (張) [用例] 1) 遊びん
(に) カマケテ 勉強しやせん (しない)。

かまされる 1) 食わされる へえカマサレル 2) 騙
される 盗られる (阿、張、名) [会話] 2) 騙される、
カマサレル言うてなあ、あれん (彼に) カマサレたよ
お言うてなあ。 あや (彼は) 一つカマサレテまあ
あれん (彼に) 言うてな。騙されることをなあ カマ
サレル言うてなあ。 1) へえカマサレル言うてな へ
えかまされて その 騙されたことをな へえカマサ
レル言うてねなあ (言うのです)。

…**がまし 【接尾語】** 他の語について形容詞を作る。ら
しい

かましき (釜敷) 【名詞】 釜や鉄瓶などを置く時、その下
に敷くもの 藁、紙、木などで作る。[会話] 鍋のし
ずえのことをなあ、なべしき、カマシキ言うんなあ
(言うのです)。しずえや言うてなあ 炭な おちるも
んで、きい (木) で しかく (四角) ん (に) してな
あ ふちい (縁に) かいらんよん (引っ繰り返らない
ように) よおすまん (四隅に) して しずえや (だ)
言うてな、なべしきや (と) 言わんと (言わずに) し
ずえや (だ) 言うて。しずえおこせ (よこせ) そや
(それ) 言うてな

かます (仄) 【名詞】 1) 刻み煙草を入れる袋 煙草入れ
仄の転義、形が似て居るから 2) 蓆を袋状にした容
器 [会話] 2) カマス言うて 蓆をなあ のおた (縫
った) のをなあ、ムシロガマス言うて。ちよいと (少
し) ちっそお (小さく) して サンドガマスや (だ)
言うて、さんど (三斗) 入れんのは (るのは) ちよ
いと ちっそおして、シトガマスや (だ) 言うて、ど
いらい (大きい) 蓆をなあ じよおふちなあ (両縁) の
おたの (縫ったのを) ムシロガマス 言うてな、ごと
びよお (五斗俵) 言うて、ごと (五斗) なあ 入いよ
った (入りました)。シオガマス言うてなあ 塩をすん
な (するのは) また あらくたあい (粗い) ねてや
(のです)。カマスい (に) なんもかもみな 埋め込ん
でなあ、麦も米もなあ 扱もなあ。 1) そすと、きざみ

煙草入れる カマスもあるしなあ、たぼこ (煙草) 入れんの (の) カマス、カマス 一杯 たぼこも 詰めて言うてなあ よお (よく) 言よおったてや (言っていました)。

かます (噺) 【他サ五】 1) くわす 狭い所へ差し込む (鈴市、阿、張、名) 2) 盗む (南) 3) ごまかす いっぱい食わす [会話] ₁₎ 底でのみ カマシといて 来たねえ (来たのだ)、あわびい (鮑へ)のみ 食わしといて (ておいて) 来た言うね (言うのです)。カマスでも ええけどなあ (よいが)、どっちゃでも (どちらでも) 一緒やけどなあ (だが)。のみ 食わして 言うてな、のみ カマシイテ来た言う にげ (人間) もあるしな、いくら (どんなに) しても 取れんで (取れなくて) まあ のみカマシイテキタヨオ言うて。₂₎ カマシテキタ言うので 盗んで来た言うのも、カマシテキテ 言うやんかい (言います)。あれ カマシテキテ 言うて 言うねんなあ (言うのです) いたしてきて 言うて 言うけどな。

かます 【名詞】 海魚 やまとかます カマス科カマス属 体は細長く、口先がとんがり、鋭い歯を持つ。鱗は小さい。

かますあて (仄当) 着る物の破れをつくろう時 布を当てて周囲を綴じる つくろい方 [会話] 四角なのおを、(のを) 上からべたんと当てて、そのふち (縁) かがつとくんやんかい。(縫っておきます) カマスアテは ほんどん (本当に) そそくんな (そそくるのは) ていねん (丁寧) に 縞目 (模様) あわしといて (合わせておいて) 角も ちよいと (少し) 切って 立派ん (に) するやんかな (するのです)。

かません かまわない かまわん参照 (一、張)

かまだい 【名詞】 真鯛の老生魚 (志)

かまち (楯) 【名詞】 玄関の上がり口 床の間 縁側などの床の面の端を隠すための化粧横木 [会話] あがりガマチ 言うけど、カマチ 言わせん (言わない)。あがりカマチ 上がって来ると しき (敷居) を あがりカマチ 言うけど。

かまど (竈) 【名詞】 1) 家で火を炊き、物を煮炊きする所 (志) 2) 世帯、又世帯を数える単位。[会話] ₁₎ カマド言うな (のは) くどの事、へっつい 磯ばたで海女さんが 薪火しとる (している) とこ (所) は ひどこ。ひどこは きい (木) で梓組んで、赤土塗って、砂入れて ひどこ こさえて (作って) 火当たって。朝鮮へ行くと ひどこで 当たって しまいん (に) になると、水掛けといて (ておいて) それへ 板、

敷いて寝ると ほとつて (熱くて) 寝やれんで (寝れなくて) おんどるん (に) 入ったよおに しとて (して居て)。

かまどしょうぐん (かまど、しゃうぐん) (竜将軍) 【名詞】 1) 薪が燃えやすいように竈の内に入れる金属製の棚 2) 家で威張って、外では何も出来ない人 (志 (志島、甲賀)) [会話] ₁₎ カマドショウグン 言うな (のは)、火、炊く くど い (に) かぬ (金属) で 足な (が) 二本ついて、割木 炊く時に、べたんと してかん (していかない) よおに ショウグン 入れんねてや (入れるのです)。₂₎ 人間な (が) えらつそぶつとんのを (偉そうにして居るのを) カマドショウグン みたよななあ (のようだ) 言うて。家で威張って しとんの (して居るのを)、あや (彼は) カマドショウグンやよつて (だから)、家で、奥さんら わるい殺して (叱りつけて) すると カマドショウグンやよつて 言う。わるい殺して 叱り飛ばす 言う事やわい (です)。叱り飛ばして 言うの (のを) わるい殺す言う。

かまどのかみさん 【名詞】 かまどを守る神。三宝荒神。

かまぼこ 半円形の盛り上がった状態 [会話] カマボコんして こお盛り上がつると こんもり 真中な (が) あると カマボコがたに 言うてな、カマボコがたん (に) して言うて、だいこづけ (大根漬) を 切らんと (切らずに) カマボコ

かまぼね 【名詞】 肩甲骨 (志 (布施田、鶴方、神明、立神)、上、阿、張、名) [会話] この ぎつちよの骨を カマボネ

かまみたいなて 【名詞】 太く短い指を持ちみにくい手

かまれた 怒られた 怒鳴られた

かまわれる からかわれる 馬鹿にされる [会話] 何んやかや 言うて カマワレル。あんたと (貴方と) あの人と 一緒ん (に) なつとんね (なっているのだ) てわれ (そうだ) 言うて、カマワレルな。若いと きなあ (です) 噂されて 言うのを カマワレル 言うんかいな (言うのでしょうか)。いろいろ 評判たてられるとか 人の噂も ひちじゅうごんち (七十五日) 百日たてば うわのそら (上の空) 言うてなあ 百日たてば 忘れたて (てしまつて)。

かまわん (構) 取り合わない 心配しない いいでしょう (一、北、南、熊) [会話] おら (俺) な (の) 事 カマワんと ほつとけ (ほうっておけ) 言うて、かもてくれんな (かまってくれるな) まあ 言うの (のです)。

かまわんと 相手にせず
かまわんとく 相手にしない (上、阿)
かまわんとけ 相手にするな
かまん かまわない 相手にしない (一、北、南、熊)
がまん (我慢)【名詞】 強情。辛棒
がまんた【名詞】 海魚 おはぐるべら うか参照
がまんな 強情だ [会話] ガマンナ 言うな (のは)、強情なことをな (です)。あの人まあ ものすごい (大変) 強情で 言うのをな。そして、がまんする言うは こらえる (耐える、許す) 言う。ものすごお こらえる 言うことも、がまんする 言うしなあ (言います)。
がまんなことゆう 強情を張る 自分の言い分 考え方を強要する [会話] こおじくな (強情な) こと言う と、ガマンナコト**ばっか** (ばかり) ユウテまあ。負嫌いな事 言うとなあ ガマンナコトユウテナあ なんも (少しも) 人の言うこと 聞かんと (ないと)、わがとな (自分の) こと 通すと がまんな ねよって (のだから) 人の言うこた (事は) 聞かせんね (ないのだ) 言うてなあ。
がまんなもんで 強情なので
かみ (紙)【名詞】 だしこぶ 板状にした昆布 [会話] 今しや (今は) 科学調味料やら (とか) するよってん (するから)、昔や (昔は) そいな (そんな) もんは (物は) ねえし (無いし)、鯉節を 削って、カミを 短こおしたりして (短くしたりして) したじ (おつゆ) こさえよった (作って居ました)。
かみ (上)【名詞】 1) 上座 床の間に近い場所 2) 体の上の部分 特に口 3) 東の方向、北の方向、昔は西の方向も (志 (布施田)) [会話] 1) えらいきんなあ (偉い人) カミのひと 言うてなあ。そして、わしら みたいなのお (のは) しもじも 言う。3) 私らな (が) あきし (秋の日履) に 行くやんない (でしょう)、そして あの だんだん うえい (北の方へ) あがってく (上がって行く) のもなあ カミい (へ) のぼってこや (登って行きましょう) 言うて 言うやんない (でしょう)。伊勢を働いといてなあ (ておいて) 津の方い (に) 行くとな しもから カミい (へ) 登って来た 言うてな、いせあき (伊勢の秋の収穫) しといて (しておいて)、こんだ (今度は) 津在え行くとな あ カミい (へ) のぼらな (登らなければ) はざん (駄目だ) 言うてな、わしら 言よおったなあ (言っていました)。カミい (へ) 行きや (行けば) ねえ (値) な (が) ええしなあ (よいので) 言うてなあ。
つう (津) の方い (に) 行くとなあ ねえ な (が)

ええね (よいのです)。カミいのぼらな いせあきや (伊勢秋は) 安うて (安くて)、カミのくちな (が) あかな (開かなければ) はざん (いけない) もんでなあ (ので) それまで 伊勢で 働いとてなあ (ていて) 17銭 貰ろて 尻から けぶり (煙) な (が) 出るほど 使われよおったね (使われて居たのです)。かわ はらだいなあ (川原田へ) 行くと 1円30銭 貰ろてなあ (貰って) かわはらだい あの 四日市のなあ 築港の方や (です)、かわはらだい 初めて 行た (行った)、そんだい 働きな (が) えろおて (大変で) えろおてなあ 朝も早いし、よさり (夜) も おっせいし (遅いし) そんだい (その代わり) ちん (賃) は よけ (沢山) もらうんけどな (のだが)、ちんこぎや まいこぎる 言うてなあ。たまり (項参照) やどけん なるとなあ (などになると) まあなあ ほんとなあ (本当に) 蕨をなあ 腰つくるくしといてなあ (吊しておいて) 刈ってあんのを (あるのを) でっころぼおずに (束ねる) なあ ま するだけや (だ)、そのはやい のな (が) 追われて 追われて わしら ま 尻から けぶりや (煙です)、わしら 初めて 四日市 の かわはらだい 行たや (行ったら) 築港のはた (側) やてなあ (です) 荷物 は 持たんで (持たなくて) ええけどな (よいが) 川で 舟 でなあ 運ぶもんで (ので) そやけど (しかし) 働くな (のは) えらか ったわ (大変でした) 乾かして ま 干して 乾いて まあ 立派ん (に) 仕上 がったとこを (所を) たまり 言うて しいん (しに) 行くやんかい (行くのです) その時のえらいのなあ (大変なのは) 腰は痛 いし。
かみあう (かみあふ) (噛合)【自ワ五】 1) 喧嘩する 2) 両面が一致する。
かみあげる 髪を結う。
かみあらいこ (かみあらひこ) (髪洗粉)【名詞】 髪を洗うのに用いる粉 ふのり メリケン粉 椿の実のしぼりかす等 [会話] カミアライコ 頭 洗うのなあ (のです) カミアライコ 言うてな 今しや (今は) シャンプーやけど (だが)、昔 薦 を 取て (取って) 来て なあ 砕いといて (ておいて) びしゃいて なあ (潰して) あや (あれは) かづら (蔓) 言うんやんかい (言うのです) かづら を 取て 来て あらよ おったね (洗って居たのです)。かづら かりん いて (刈りに行って) きい (木) まきついとるわい (まきついています) そんで なあ (それで) きれい (布に) つつん どいて なあ (包んでおいて) そすと よお (よく) おちんねてや (落ちるのです)。はたぶら (椿の実) 絞

った 粕 油粕でもなあ しよおったな (して居ました) 銭出したもん (物) しやせん (しません)。

かみいれ (紙入) 【名詞】 紙幣を入れるもの。財布

かみがみ (副詞) 喧しく文句を言ったり叱ったりするさま。(志 (甲賀))

かみきず (咬傷) 【名詞】 咬まれて出来た傷

かみくずかい (かみくづかひ) (紙屑買) 【名詞】 紙屑やその他の不用品を買い歩く職業 又、その人 くず屋 [会話] カミクズカイな (が) 来たら、これ替えんのん (替えるのに) 言うて、貯めといて (ておいて) 替えおった。(替えて居ました)。

かみごと (囃事) 【名詞】 1) 叱ること 小言 吾党にて人を罵言するをカミ言と言う。他国に無き辞なり。歯にて囃む如く罵ると言うより出たなるべし。(伊勢の浜荻) (志 (志島、甲賀)、鳥、多、伊、尾、南、熊) 2) 不平 不満 (度)

かみざ (上座) 【名詞】 上位の人や客の座る場所。

かみさげむし (紙下虫) 【名詞】 糞の中に生じる蛆 ちはやぶる卯月八日は吉日よ かみさげむしを成敗ぞする、と言う歌を書いた紙をさかさまにして張ると虫が来ないと言う俗信が有る (玄関に張る)。

かみさん 【名詞】 神様 神を親しんで言う語。

かみさんしごと 【名詞】 非常にまれな出来事 (志 (布施田))

かみしも (袴、上下) 【名詞】 1) もとは上に着る衣と下に跨ぐ袴 つまり上下二部で一具をなす衣服 葬儀の時、帷布 (女子) と共に男子役割を言う 古く上下は小忌衣 (おみごろも) と言われた事があり これから出たか。(員) 2) 嘔吐と下痢 かみつかう参照 3) 飲酒と女遊び [会話] 1) カミシモは 有りおったのに (有ったのに) 昔。カミシモ 皆 白木綿でこしらえて、葬式に 着んのん (着るのに) 言うて。葬式の時、帷布とカミシモ、昔は カミシモ 着よおったんねやるな (着て居たのでしょうか)、カミシモギ言うて。カミシモギへ つけてもるて (もらって) つけといてくれ (下さい) 言うて。こいもん (血縁の濃い人・親交の深い人) を カミシモギや (と) 言うて、あとつり (後吊) さきつり (先吊) いわいもち (位牌持ち) 葬式の時、女は 帷布 男はカミシモ。

かみしもぎ (袴着) 【名詞】 葬式の時、袴を着る人 血縁者 親しい人など故人と関係の深い人になる かみしも参照

かみしもつかい 【名詞】 酒も飲み女遊びもする人 道楽者 かみ、かみしもなえらい参照

かみしもつこて 酒も飲み女道楽もする かみしもなえらい参照

かみしもなえらい よく酒も飲み女性とも関係する [会話] カミシモツコテ (使って) 言うて 男の人らな (が) 酒も飲むし、しも (性器) も 働くと あや (彼は) カミシモナ (ガ) エロオテ (えらくて、大変で) 言うて、どおらくもん (道楽者) や (です) おなご (女) 道楽に酒道楽 あや (彼は) まあ カミシモツカイやなあ (だ) 言うて

かみしんじん (神信心) 【名詞】 神を信心する事。期待を込めて願う事。

かみすり (剃刀) 【名詞】 髪、ひげなどをそるのに使う小型の刃物 かみそりの変化した語 (志 (浜島)、鳥、伊、松、鈴市、鈴郡、桑市、員、三、一、多、上、阿、張、賀、度、北、南)

かみすり 【名詞】 海魚 ぎんぼ ギンボ科の海魚 全長 20 cmに達す。体は側扁し、細長い、体色は淡褐色で褐色の不規則な斑紋が有る。頭は小さく、背鰭、尻鰭とも尾鰭に連なる

かみすりばね 【名詞】 向う脛 下腿の太い骨 脛骨 (志 (布施田))

かみすりまけ 【名詞】 剃刀で剃った後に生じる皮膚炎

かみそりそお 【名詞】 いわれんげ 葉は青白色で肉は厚くへた状をし、蓮華状に多数重なり合う。夏から秋に葉芯から20cm 内側の茎が伸び白い花が総状に密生する、岩上やかやぶき屋根の上に自生する。

かみそりばね 【名詞】 脛骨 すねの骨で、その外側にある腓骨と共に下腿の支柱をなす [会話] ここや (です) ここ (下腿) カミソリボネ これ 打つと 痛と おて (痛くて) 弁慶なかし

かみたらす 嘔んで飲み込まずにする。

かみつかう 嘔吐する (志 (布施田、甲賀、立神)、阿、張、名) [会話] カミツカウ 言うて、げえ申すのを カミツカウ 言うやんかい (言います)。むなぐるして (胸苦しくて) げえ申す (嘔吐する) やんない (でしょう)、それを カミ ツカウ。くだすと (下痢する) かみしもや (だ) 言うて。吐いたり くだしたり すんのを (するのを) かみしもして 言う (言います)。

かみつく (囃付) 【自力五】 反論する。食ってかかる。文句を言う。(志 (甲賀))

かみて (上手) 【名詞】 1) 上座 上席 2) 東の方向 しても 西の方向 [会話] カミテ しもて (下手) 言うな (のは)、うわてや しもてや (とか) 言うて。
2) おしま (大島) い (に) 行くと、東の方を カミテ

や(だ)言うて、西の方をしもてや 言うて。1) 座敷で 床の間へ座ると かみい(に)座れ、かみぎや(とか) しもぎ(下座)や 言うて。あんた(貴方)かみい(へ) 行けえ(行きなさい) 濃い(血縁が濃い) のおに(のに) 言うて、上座へ座れ 言うてなあ **かみでつぼ(かみでつぱう)**【名詞】紙鉄砲 子供の遊具 竹の筒で作り、弾は、紙を嚙んで作る。[会話] 紙、嚙んどいて(でおいで) しよおった(して居ました)。カミデッポや(だ) 言うて。

かみなげ【名詞】1) 鰻 2) 鰻の幼魚 かいなげ(腕毛)の転か(志(越賀)) [会話] 1) カミナゲ言うな(のは) 鰻の事を、川鰻の事を カミナゲや(だ) 言うて。おつきい(大きい) ちっちゃい(小さい) やなしん(でなしに) 皆 カミナゲ、川鰻の事を カミナゲ。今しは(今は) うなぎ うなぎ言うけど、昔や(昔は) カミナゲや(と) 言うて カミナゲ釣りん(に) 行こや(行きましょう) 言うて。

かみなりちょう(かみなりてふ)【雷蝶】【名詞】あげはちょう アゲハチョオ科の蝶、羽の開張8~12cm、羽は淡黄色に黒い筋と斑点が有り 縁は黒く、黄色紋が並ぶ、後羽に細い尾状の突起が有る。(志(磯部)、三、上、阿)

かみなりにつかまれる 雷に打たれる 落雷に当たる [会話] カミナリン(に) ツカマレル言うて、雷ん(に) 打たれて 死ぬやんない(でしよう)、カミナリ ニツカマレル 言うて、カミナリンツカマレテクドオ(つかまれて行くぞ)。

かみのい【名詞】海亀 [会話] カミノイ かやしたんてわれ(ひっくり返したそうだ) 言うて、広の浜い(に) カミノイ な(が) 卵 生みに来やおったやんかい(来て居たではありませんか)。

かみのいじ【名詞】頭の施毛(鳥(答志))

かみのいち【名詞】頭髮 特に女性のもの(志(甲賀)) [会話] カミノイチ 頭の毛の事、カミノイチ 髪の毛

かみのけえ【名詞】頭髮(志(志島、甲賀))

かみやう(かみあう、かみあふ)【自ワ五】嚙合う1) 一致する 2) 喧嘩する

かみやしゃぐり【名詞】綱紐の結び方 解けない結び方(志(布施田、甲賀)、鳥(答志)) [会話] カミヤシャグリ 言うななあ(のは) こげんして(輪にして) すんのを(するのを) カミヤシャグリ 言うね(のです)、こやって(二重の輪にして) すると きゅつと 引いて 締めんの(るのを) カミヤシャグリ、こんし

て(こんなにして) したら めったん(絶対) ほどけやせん(解けない)。ともづな(轡綱)をなあ カミヤシャグリン(に) しとけ(しておけ) 言うやんかい(言います)。じょおし(漁師) な(が) 結ぶな(のは) こんして 結ばな(なれば) ほどけてく(解けて行く) もんで(ので) 何んでも カミヤシャグリ

かみわざ(神業)【名詞】神様のした様な立派な出来上り、人のする業でない。

かむ(嚙)【他マ五】1) 食べる(志) 2) 怒って大声で交渉する いい込める(志(志島、甲賀)、度) 3) 干渉する(度) [会話] 1) カム 嚙む 言うし、2) 人を カムな(のは) あれん(彼に) 今日 なられた(鳴られた・どなられた) 言うの(のを) カマレタ 言うて。なられた かつこんで来た(駆け込んで来た) 言う訳やわい(です)。言い込められた 今日 カマレテ 言うて、言い込められる事を カマレテ 言うね(言うのです)。鼻カムも 有る。

かむ【他マ五】鼻の穴に溜まった鼻汁を鼻から強く吹き出して取り除く。かぶ

かむ 嗅ぐ [会話] てんか(てんかん)の 屁 カムと 移る

がむしや。がむしやら(我武者)【名詞】【形容詞】向こう見ずに行動するさま 血気にはやるさま 又、その人 一つの目的に向かつて勢い込んで、向こう見ずにする事 が 我 自分本位の主張をして人の言葉に従おうとしない、心がむさぼり(我貪)の意 武者は当て字。ガ(我)を張る武者の意(大言海)(志(布施田)、伊、度) [会話] ガムシャラとも言うし、ガムシャ言うし、ら つけん(る)のも 有るし、唯 ガムシャ 言うのも有るし。ガムシャラ 言うな(のは)、野暮に あとさき(前後) 無しん(に) ガムシャランして 言うて、こころえなしん(心得無しに) なんも かも(すべて) する、野暮ん(に) する 言う事やな あ(です)、ガムシャラ 言うななあ(のは) 野暮な事

かむろ【名詞】乗組員の起居する船室

かめ(亀)【名詞】大酒飲み 酒豪(志(越賀、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、南) [会話] 大酒飲み あや(彼は) カメや(だ) 言うて。いっしょ かぶ(一升株・一升飲む人)で、カメや れ(だ) 言うて、亀に酒飲ませて帰したる(てやる)ので、亀ん(に) 飲ますと いっしょ(一升) 位 かぶつたる(飲んでしまう) やろな(でしよう)。かぶる よけ(沢山) 飲む事を 酒かぶんねよって(かぶるのだから)。

かめ (巻) 【名詞】 1) 船中の生け簀主に鰹釣り漁船に用いられる漁槽の一つ 漁槽を二本の従隔壁で三分し、さらに横にいくつかの隔壁で区切るが中央のものを活漁槽とし、両側を氷倉とする。鰹釣りには餌として活きた鰯を用いるので鰯を生きかして漁場に航海するため活漁倉の船底に換水孔を6～14カ所、船の大きさに応じてあける。船の動揺につれて換水される。餌をすべてついやすと換水孔をしめ海水を汲み出す漁獲魚を入れ帰港の際、魚槽となる 2) 島の中の肥溜め

かめだわし (かめだはし) 【名詞】 亀の子束子 転じて女陰

がめつい 【形容詞】 1) 大変を表す語 2) あつかましい 凶々しい (南)

かめのこお (かめのかぶ) (亀甲) 【名詞】 亀の甲 子供を背負う時に上から着せる 四角なものに紐をつけたもの (松) [会話] ねんねこ 言う人も 有るし カメノコオ 言う人も 有るし。

かめのごおた 【名詞】 1) 子供を背負う時上から着せる四角の綿入れに紐のついたもの、かめのこお 2) 亀の甲羅 [会話] 1) カメノゴオタ、四角なおで (ので) 襟だけつけて ひぼ (紐) つけて 裾ばな (を) 丸くとおして (丸くして) 袖な (が) のおて (無くて)。

かめのでえ 【名詞】 ツルアシ類ミョウガガイ科の節足動物、全長3～4cm 外形は亀の前足に似て三角形の頭上部と、それを支える肉柄からなる。頭状部は30～34枚の爪状の殻板でおおわれ、その内8枚は特に大きい。肉柄は細かみ、暗褐色でおおわれる。海岸の礁の割れ目に肉柄で附着する雌雄同体、殻は白色。

かめのふちのくわないも 【名詞】 不器量を言う わたっしや参照

かめぶし 【名詞】 鰹の片身を背、腹、に分けずに一本にして亀の形に作った鰹節 (員、上、阿) [会話] 鰹ふたつん (に) したの (のを) ふたつん (に) 割ったの (のを) カメブシ 片身づつ そすと よつつわり (四つ割) するのは 背節 腹節 言うてな

がめる 【他マ下一】 1) 盗む 2) 頑張る

かもた 1) 相手になった 2) からかった (志、伊) [会話] 2) まあ あの方は だてこき (洒落者) やな あ (だ)、おぼもち (妾持ち) やなあ言うて かまうのをなあ カモタ 言うてな。人のわりくち (悪口) 言うのをな カモタ 言うてなあ。からかうのをな あの人 カモテ おらな (俺達) 言うてなあ。そすとその人 カマワレタ 言うてな。1) おらな 行ても何んも カモテ くれんで (くれなくて)。相手ん

(に) ならせんのなあ (ならないのを) 相手ん (に) してくれやへん (くれない) 言うのをな、カマワセン。おらな 行ても あいくらうたせん (返事しない) とか 言うてな それを、カマワセン 言うおな (ので) 愛想 せんことをなあ (しないことを)。

かもたる 1) 相手になってやる 2) からかってやる (南) [会話] 1) 相手に したる (してやる) 言う事 やな (です) カモタル。2) もお一つ その からかう言うんか。

かもたれ 1) 相手になってやれ。子供などをあやしてやりなさい。2) からかってやれ

かもとる 1) かまって居る 世話をしている 面倒を見ている 2) からかって居る [会話] 1) 昔や (は) たあ (田) や、畑や、磯 (海女) いこ (行く) 言うて (言って) こおん (子供に) カモトル時や (は) 無かったやんかい (有りませんでした・無かったのです)。

かもめどり 【名詞】 かもめ [会話] カモメドリ みた いなの (のようなのを) 海猫言うて

かもや 構えば 相手になれいば

かや (芒) 【名詞】 すずき 日本全土に群生する大形の多年性草本、稲科、太く短い根茎から密に群生し、高さ1～2mの大きな株を作る。葉は密に生じ根性、又は、やや茎上性でよく伸長し、線状で巾1～2種、中脈は太く縁はざらつく 茎は太く中実で夏秋に頂部に花序を出す、かやの意味として か 上や、屋の意味で、もとは屋草ふく藁をかやと言う (古事記) のように総称的な言葉であった。(志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、張、阿、熊) [会話] カヤ 言うな (のは) てえ (手) 切る、子供らな (が) 出刃のきい (木) や (だ) 言うやんない (でしょう)。カヤで 手切ると、あたると (さわると) 手 切んど (切るぞ) 言うもんで (ので) かあやん こや (これは) 出刃の木か 言うて 出刃の木やよって (だから) あたつたら 手 切んど 言うて。

かや 【名詞】 松落葉

かやい 【名詞】 痒い (志 (立神)、鳥、伊、松、一、多、度)

かやええのん 1) 買えばいいのに (亀) 2) 借りればよいのに

かやかく 1) かや (芒) を刈る 2) 落葉を集める [会話] 1) 芋、掘ると カヤカクので、かやや (とか)、笹を 畑のくる (境) ん (に) 有るのを かいて (刈って)、乾かして あんね (有るのです)。

がやがや【副詞】多くの人が集まって騒がしい様 カマカマシの意。カマカマシ、カマシのカマは騒がしい音、ガヤガヤに通ず(大言海)

かやぎれ【名詞】かや(芒)の葉で切った傷 細い事に例える [会話] カヤギレ言うて かやで切ると ほっそお(細く)切れる やんない(でしょう)。

かやく【加薬】【名詞】1) 香辛料として料理に添えるもの やくみ 漢方で主薬に少量の補助の薬を加える事(張、南) 2) 関西で五目飯などに入れる肉や野菜具 かやくもの [会話] 2) なんもかも(なんにもかも) ごしやごしや(ごちやごちや) ん(に)して、カヤク飯 言うて、ごんぼ(牛蒡) や(とか)人参 こんにやく(とか)刻んで 入れるのを カヤク飯、五目飯言うのを カヤク飯。カヤクも 早よ(早く)切ったか 言うて、カヤク飯い(に)入れる材料をカヤク言うなあ(のです)。人参や、牛蒡や、高野豆腐や、こんにやくや 入れる 花火の火薬みたよんだ(のように) 詰め込むのなあ(のです)。

かやくた【名詞】がらくた [会話] 芋がらや 麦藁や 皆 焚きおったの(ました) カヤクタ やてやら(だとか)

かやくなたらん 火薬が足らん 馬鹿 [会話] 知恵な(が) うっすい(薄い) のおを(のを) カヤクナ(ガ) タランおなあ(のだなあ) 言うて

かやくめし【加薬飯】【名詞】五目飯 かやく参照(志(鶴方、神明、立神、志島、国府)、鳥、鈴市、員、四、安、一、上、阿、張、名、南) [会話] うどんでもかやくうどん 言うのな(が) 有るやんない(有るでしょう) それも 一緒やろのお(でしょう)。昔や(は) きざみ昆布を 炊きおったなあ(炊いて居ました) カヤクメシん(に) 入れおった。 ごみ(昆布) あれも入れて あれ 入れると おいしかよおった(おいしかった) あれ 入れると べつんも(大変・特に) 飯な(が) よごれて。

かやげ【名詞】稲、麦等を刈り終わる 又、その時の饗宴 かやげる参照(志(越賀))

かやげた 刈り上げた

かやげる 稲、麦等を刈りおわる 刈り上げる [会話] こきあげ(脱穀終了) や(とか)、カヤゲや(だ) 言うて、たあ(田)を カヤゲると、今日は カヤゲで ごっつおした(御馳走した)。全部 刈った時ん(に) カヤゲ。

かやさな 返さなければ

かやさん 帰さない 返さない [会話] なんやかや

(いろいろ) 言うても よお(よく) カヤサンと 返事な(が) 無いやんない(でしょう)。

かやし【名詞】1) 返礼 御札(志、鳥(坂手・相差)) 2) 台風などで、風向きの変る事。[会話] 1) れえガヤシ 祝儀してくと(していくと) れえガヤシ や(だ) 言うて、皆なあ 十銭持てくと(持って行くと) 五銭 カヤシて(返して) すんのをなあ(するのを) れえガヤシも来んと言うて よお(よく) 言よおったやんなあ(言って居たでしょう) れえ ガヤシな(が) 来やせんとか(来ないとか)。

かやしき【名詞】かいしき 木を薄く削で物を包むのに用いる物。

かやした かやすの過去形 帰した 倒した 嘔吐した 返した

かやしてくれんねど 返してくれるのか [会話] 金、借ってて いつ カヤシテクレンネド 言うて しええきゅう(請求) しやれて(されて)

かやす【帰す、返す】【他サ五】1) 人を始めに居た所、又は本来の居場所に戻らせる 又、その方向に行かせる かやす 返す 反す かえすの転 物を本来の持ち主に戻す 返却する もとの状態に戻す 向きを反対にする 裏返す 2) 倒す ひっくり返す(志、伊) 3) 吐く 嘔吐する(志(甲賀、国府、安樂)) 4) 海女が潜る [会話] 1) 裏ガヤス(返す) 言うて、着物を裏ガヤスのも カヤス。4) 磯人(海女) な(が) 磯 行て(行つて) こおすんの(頭から潜るのを) 尻カヤス そこいり(底入り・潜る) すんのも(するのも) 尻カヤス。3) げえ(嘔吐) 申すのも カヤス。1) 帰つてけ(帰つて行け) 言うのも カヤス。 まあ(もう) 行けよ(行きなさい・帰りなさい) 言うのも カヤス。3) 乳あます(余らす・口から吐き出す)のも 子供らな(が) 乳カヤス あますとか カヤスとか。

かやす【解】孵化させる

かやぶき【茅葺】【名詞】茅で屋根を葺く事 又、その屋根、わらぶき参照(上、阿、張、名、熊) [会話] くさやぶき(草屋葺)の事 葺葺 カヤブキ とも

かやぶきや【茅葺屋】【名詞】茅で屋根を葺いた家。

かやり。かやりこ【蚊遣粉】【名詞】蚊を追い払うために煙をいぶらせるもの 蓬の乾燥させたものなどを用いた [会話] 蚊取り線香のこと カヤリコや(だ) 言うてなあ。あいな(あの様な) かとりせんこ(線香) 言うな(のは) ないしなあ、カヤリコや(だ) 言うてなあ、よごめ(蓬)、カヤリコ 言うて 何んもなあ

(何にも) そげん (そんなに) ないしなあ (無いので)。
かとりせんこ (線香) 言うな (のは) なかったなあ
ほとくさん (仏壇) の線香、たいたりしよおった (し
て居ました) やんかいなあ

かやりしな【名詞】 帰るその始めの時、帰る途中 かえ
りしな [会話] カヤリシナ、かいりしなに まごき
(店名) で 何んか こおて (買って) 来て呉れえ
(下さい) 言うて、カヤリシナ いきがけ とかなあ
いきがけに 言うの、来る時はなあ いきがけ、帰つ
てく (て行く) 時 カヤリシナ 言うてなあ。

かよ 替えよう

…**かよ** 疑問、ですか

かよい (かよひ)【通】【名詞】 1) 預金通帳 2) 借り
買いをつける帳面、通帳 3) 嫁の家に夜、通う事
(三重県全域) 4) 通勤 [会話] 4) 工場い (に) カ
ヨウとか、3) 昔や (は) しゅと屋カヨイ 言うて、結
婚するとさいご (以降)、婿さんな (が) しゅうと屋
(女性の家・舅姑の居る家) い (へ) 泊まりん (に)
行くのを カヨイ。しゅうと屋ガヨイ。2) 帳面 綴じ
て すんのも (するのもの) カヨイ カヨイ こさえた
か (作ったか) 言うて、今し (今) でも 葬式の時に
帳面 一つつつ 持って 紐な (が) 付いとんの (付
いて居るのを)、カヨイ 持てかな (持って行かなけれ
ば) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。
1) 郵便貯金の通帳もカヨイ。あれも カヨイヤ (だ)。
4) 住み込みとか カヨイとか言う、勤めんのおも (強
めるのも)。

かよいちよお (かよひちやう)【通帳】【名詞】 1) 預金
通帳 2) 掛売りの時、品名、金高、月日を記入し、
後日支払いの時証拠とする通帳

かよう (かよふ)【通】【自ワ五】 婚約がととのい 嫁の
実家へ婿が出入りする事 [会話] 嫁さんそこ (所)
い (に) かよてくのを カヨウ 言うなあ。舅屋 (嫁
の家) へ カヨウ。

かよおった 1) 借りて居た かりおった参照 2) 買
って居た 3) 刈っていた [会話] 1) 借りに 行き
よおった (行っていた) ことを カヨオッタ 言うね
やるなあ (言うのでしょうか)。

…**かよおった** かった であつた

から (空、戯)【名詞】 1) 外殻のみで中身のない事 殻
と同語源 2) 不漁の時 (志 (布施田)、鳥 (菅島))
[会話] 1) カラ からっぽ 言うて、無くなった事、
カラ 言うし、菜螺でも 何でも 剥いたあと から
っぽ カラ 言うし。豆腐のしめたかすも オカラ

言うし。2) 漁な (が) 無かったのも カラやった (だ
った)。今日はカラやった。何も いっとらせん (入
つて居ない) のを カラとも 言うし。いれもん (入れ
物) に こや (これは) カラやよお (だ) からっぽや
(だ) 言うて。

がら (柄)【名詞】 1) 模様 文様 もよう 物の表面に
快い変化を与え、装飾的効果をあげるため工夫された
点、線、面、色、形などのまとまりのある構成若しく
は秩序 2) 人格、性格 からだつき 体格 その人
や物の基底に有ると思われる性質 3) 名詞について
その事本来に備わつて居る性質状態を表す 又、その
事から予想されるとおりの状態で有る事を示す。[会
話] 1) ガラ 言うな (のは) 着物のガラ、2) 人ガラ
ガラな (が) わり (悪い) よつて (から) 言うて、着
物の ガラも 有るし、2) 人ガラも 有るし やくざ
みたよおな にげ (人間) を ガラな (が) わりいて
(悪くて) 言うて。

がら【名詞】 1) 殻の変化した語 山や崖の崩れた岩石
がれ がれき (志 (浜島)、伊、鈴市、度、一) 2)
土と石の混じっている物 (志 (鶴方、神明、甲賀、国
府、安乗)、鈴市、一、飯、伊、鳥) [会話] 1) 土お
こす (掘り起こす) のん (のに)、石な (が) まざつと
んのも (混ざつて居るのもの) ガラ。1) 土手をぐわす
(壊す) と ガラな (が) よけ (沢山) 出て 言うて、
土や 言わんと (言わずに) ガラや (だ) 言うて、石
ころな (が) よおけ (沢山) まざつとるもんで (混ざ
つて居るので) ガラや (だ) 言うて。

がらあい (柄合)【名詞】 模様の具合 柄のようす [会
話] ガラ (模様) をなあ みんのん (見るのに) ガラ
アイな (が) わりいてなあ (悪くて) 言うてな。がら
な 悪りと (悪いと) ガラアイな わりいてなあ 色
な (が) 悪りとかなあ いろあいが 悪りととか 言う
となあ。いろあいが 言う時は 色のことなし (です)、
ガラアイ言う時はなあ 模様の事を言うね (のです)。

がらあき (がらあひ)【名詞】 内部ががらがらにあく事
内部が全く空になる事 (志 (布施田)) [会話] ガラア
キ 言うな (のは) 何んも (少しも) はいっとらん
(入っていない) ことをなあ ガラアキやなあ (だ)、
映画館行つても (行つても) まあ だれんも (誰も) は
いっとらせん (入っていない) ガラアキやつた (だつ
た) 言うてな。風呂屋 (大衆浴場) い (に) 行つても
今日は まあ ガラアキ やつた (だつた) 言うてな
あ。人な (が) よけ (沢山) おらん (居ない) ことを
ガラアキ 言うてな

からあし (空足) 【名詞】 1) 行っても目的を果たせない事 徒に行く事 無駄足 2) 足を踏む時、高低を間違えて足によけいな力が入ったり、よろけたりする事 3) からうすを踏む [会話] 1) 行ても (行っても) おらへんもんでなあ (居ないので) 戻ってくると カラアシ 踏んだ 言う事やなあ (です)。これは 其処え 行ても 自分の目的が 果たせなかった 言う事や (です)。そこで カラアシ ふんだよ 言うてなあ、よお (よく) 言うな (言うのです)。思う事なまあ かなわなかった 言うことやわな (です)。

からいばり (空威張) 【名詞】 実力が無いのに表面だけやらそうにしたり、又は、強そうな様子をする事。虚勢を張る事 かすいばり参照 [会話] かすいばり カライバリ してんね (しているのです)。年な (が) よ っておってなあ (取って居て) 主婦業してなあ 頑張らな (なければ) 言うてな カライバリ してんね。かすいばりん (に) 威張って 言うて 何んもならんとおってなあ (何にも役立たないのに) えらっそおななあ (偉そうな) えらい よおな事言うとなあ、ふん 何んもならんとおって かすいばりん (に) いばつとられ (威張っている) 言うてな カライバリ も かすいばりも 一緒。

からうけやい 【名詞】 簡単にもの事を引き受ける事 軽々しく約束する [会話] 何でも あげん (あんなに) もの たやすう (簡単に) 言うて、カラウケヤイ して、自信もなしに 口先だけで カラウケヤイ で よおせんとおって (出来ないのに) おんな (俺が) したる (してやる) 言うたりすると カラウケヤイ して

からうす (唐白) 【名詞】 白を地面に埋め挺子を応用して 足で杵の柄を踏みながら、杵を上下し米などの穀類を搗くもの (志 (布施田)、鈴市、張) [会話] 戦時中は、からさわやなしん (でなくて)、カラウス でも 搗きよった (搗いて居ました)。カラウス 麦搗くのん (の) に うまな (が) あって 足 四つ付いとんで (付いて居るので) そんで (それで) とも (爐・後ろ) 踏んで なかふみ (中踏) もして 麦、搗きおったやんかな (て居ました)。あれ カラウス なかふみすんのな (するの) 怖かりおったね (怖かったのです)、うしろから シャンシャン と 始めや (始めは) わしらん (に) なかふみさし といて (させておいて)、とも ピュッと 押さえておこすと 馬もなんもやっからかすよおん (ひっくり返すように) して おこして (よこして)、なかふみしとると (して居ると) 落とされるやか (か) と 思て むしりつきあるいとる (むしやぶり

ついて居る)。むしりつく、落つてく (落ちて行く) か 知らん思て (思つて) 何かへしがみつく しがみつ 言う事やなあ (です)。

からうすふむ 1) 不安定である からあし 2) 失敗する [会話] 1) カラウスフム 言うな (のは) こっちゃとこっちゃとして 半、半しとるとええんけど (半分して居るとよいが) しぶろく (四、六) にして 4分の方がいい登ると はんつ (半端) などこい (へ) 登つて かいと (ひっくりかへると) カラウスフンデ ひっくりかえつたよお言うの (です)。はんば (中途半端) 登つたて (てしまつて) カラウスフンデ ひっくり返つたよお言うの。

からえずき (からえづき) (空嘔) 【名詞】 胃に内容物がなく嘔吐するさま えずき参照 から 空 穀と同じ中に物が入って居ない事 うつつ からつぽ、接頭何も持って居ない 何も伴って居ない意 (員) [会話] カラエズキ 言うな (のは) げえげえ (嘔吐) して むなぐるし (胸苦し) よおん (ように) なつて。げえは 出やんとおつて (出なくて) 声ばつか (ばかり) げえげえ 言うの (のを) カラエズキ。つわりや (とか) 何かん (の) 時 カラエズキ して 言うて、物は 出やせんねけど (出ないのだが) むなぐるしよおん (ように) なつて げえげえ 言うたると (言つてやると) 気持ちな (が) ええ (よい) のなあ (のです)。

からおけ 【名詞】 やす受けあい から受けあい からうけの音訛 [会話] カラオケ で なんでも (何でも) 引き受けて 鼻の先でふんふん言うて 引き受けて **からおけばかちよかすかちよ 【俚諺】** やすうけ合いをする人を卑しめる語

からかさ 【名詞】 雨傘 カラカサ (柄笠) の義 (大言海) (志 (浜島)、阿、張) [会話] カラカサ 枕にしてやつた 言うて、カラカサ あまがさ 畑 かぶんな (被るのは) 菅笠。

からかす 枯らす (伊、鈴市、安、北、南) [会話] 木 カラカス。水 やらんとおつて (やらずに居て) カラカシタ 言うて、水 やららつたら (やらなかつたら) カラカシタ。

…**からかす 接尾** 動詞の連用形について意味を強め、一心にする 盛んにする意を表す 火たつカラカス と ばくカラカス (志 (布施田)、北) [会話] たつカラカス 言うて どんどん燃やす と たつカラカス、そや 鍋もうちやつたられ (壊してしまう)。とばくカラカス 言うな、(のは) 走りきつてく (行く) 事を、とばくカラカシテ おりさか (下り坂) を 引つ張らな (なければ) と

ばクラカシテド (て行くぞ) 言うて。

からかみ (唐紙) 【名詞】 襖 ふすま 中国渡来の紙 又は、それに偽せて日本で作った紙 模様を摺り出した厚手の紙で 中世には手紙や装飾紙に用いられ、中世以後は主に襖を張るのに用いられた 唐紙障子 唐紙で張った襖障子 (志 (鶴方、甲賀)、鳥、三、四、津、一、上、阿、張、南、熊) [会話] カラカミ言うな (のは) 襖をカラカミ、そして 三枚の のやとか (物とか) 五枚や六枚のも 有って、こな (これが) カラカミや (です)。

からから 【副詞】 よく乾いた、渴いた状態。

がらがら 【副詞】 1) 性質、言動などがあけっぴろげで、がさつなさま 気さくなさま (志 (布施田)) 2) 非常にすいて居るさま (志 (布施田)) 3) 振るとガラガラと音のする幼児の玩具 名詞 (張) [会話] 1) ガラガラ言うな (のは) ガラガラと、きげん (機嫌) な (が) よおて (良くて)、ガラガラと あいそ (愛想) な (が) ええ (良い) 言うのも 有る

がらがらばたけ 【名詞】 水すきのよい畑 すぐ水分のなくなる畑 [会話] うめしよ (埋所) の とこ (所) や (だ) 言うのと、じっきん (すぐに) 水な (が) すいて くもんで、(行くので) ガラガラバタケや (だ) 言うて、水な (が) すいて とこ (所) は ガラガラバタケ。うるおい (湿気・水分) な (が) じっきん きれ てくね (なくなるのです・切れて行くのです)。

がらがらまき 【名詞】 綱や糸の巻き方

からがる 【自ラ五】 1) もつれる、こんがらがる 2) 連なる 3) 繋がる

がらくた (ぐわらくた) **がらくたもん** 【名詞】 役にたたない品物 価値のない品物 からはがらからと、相触る音クタはクチ (巧) (大言海) 2) 小さな貝殻。[会話] 1) ガラクタモン (物) 言うたら、いらん (不要) よおなもん、間に 合わん (合わない) よおなもん (物) な (が)。ガラクタモン (物) な (が) 一杯あつて おぞげやなあ (腹立たしい) 言うやんかい (言います)。²⁾ 浜い (に) かいぞろ (小さな貝の殻・おはじきにする) 拾いん (に) 行ても (行っても)、ちっちゃい (小さい) のは かいぞろや (だ) 言うて、とおちんこや (とか) にしこ (螺子) の おつきい (大きい) のはガラクタモン。そや (それは) 又、ガラクタで ぜん (銭) に なりおつたんでや (なつたのです)。かいぞろは 銭になって ねえ (値段) な (が) ええん けど (よいのだが)、ガラクタは一升 捨てても 二銭か三銭より なららつたね (ならなかつたのです)、かいぞ

ろでも 五銭か六銭より せらつたもんなあ (しなかつた)。そやけど (しかし) ガラクタでも 捨て来て 皆うよおつたの (売って居たのです)。¹⁾ そこの家の 周りん (に) でも いらんよおな 間に 合わんよおなもん (物) な (が) 有るやんない (有るでしょう)。ガラクタモンな (が) よけ (沢山) 有つて おぞげや れ 言うて、ビールの 空箱や (だ) とか、なんやらの (何かの) 入れ箱や (だ) とか 言うて、ガラクタモン ばつか (ばかり) 寄せ込んで 邪魔ん (に) なんのん (なるのに) この ガラクタモン ほつたれ (放つてやれ) 言うて。

からくち (辛口) 【名詞】 1) 口あたりの辛いこと、又、その物 特に酒について 酒飲みの人 2) 皮肉 [会話] 1) しょからい (塩辛い) の おな (のが) 好きな もん (者) と、辛い もんななあ (物が) とんがらし (唐辛子) や、生姜 なあ (です)。からいもん な (が) すきなもん (好きな者) な (を) あやまあ (彼は) カラクチ や (だ)。酒の好きでもなあ カラクチ や 言うしなあ (言います)。²⁾ 皮肉言うたり きつい こと 言うのも カラクチ。

からくり 【名詞】 細工、仕組み、転じてたくらみ (志 (布施田))

からくる (絡繰) 【他ラ五】 物を探し求める 工面する 調達する カラミ (絡) 繰る義 (大言海) (志 (浜島、布施田、立神、甲賀、国府)) [会話] カラクル 言うのは なんやかや 探して くんの (来るのを) 探す (のを)。おまえらげん (お前の家に) なんな (このような物が) 無いかい (有りませんか) 言うて、そして どこそこに 有るわい (ます) 言うて、そこい (へ) いて (行つて) あすこで (あそこで) カラクッ テキタ 言う (の) (です)、そげな (そんな) 時ん (に) 使うやんかい (使います)、探して 分けて もろて (貰つて) 来た 言うのを。あすこや (あそこや) ここい (に) とおて (尋ねて)、そして 有つて 分けて もろて (貰つて) 来た 言う (の) (を) あつちやこつちやで カラクル。

からけし (空消) 【名詞】 消し炭。水を使わないで壺などで自然に燻を消して炭にしたもの (志 (浜島、鶴方、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、一、上、阿、張、名、度、南、熊) [会話] 消し壺したのを カラケシ 言うし、水で消しても 消し炭 言うし、ジュウジュウと 水い (へ) 火箸突つ込むのを。消し壺 い (に) 一杯 ん (に) なつて来ると それ あけ て いて (ておいて) こんだ (今度は) 又 しい、カラケシ 一杯 やよつて

(だから) 水い (に) つけたれ (つけてやれ) 言うて、水い (に) じゅうじゅうして。きんこ (芋の煮切干) 炊いた後でこの炭や (は) もったいないゆれ (です) 言うて 消しといて (消しておいて)。何でも 無駄ん (に) せらったけど (しなかったが)。

からけつ (空穴) 【名詞】【形容詞】無一文 (志 (布施田)、鈴市、上、阿、張、北、南) [会話] さいふあ (財布は) カラケツ やれ (だ) 言うてな、何んも (少しも) ないよん (ように) なつてくと (いくと)、おら まあ (私は) さいふあ カラケツん (に) なつたよ 言うて、銭 よけ (沢山) 使こたや (使ったら) カラケツ や (だ) 言うてな。

からげとけ 縛っておきなさい。束ねておきなさい。

からげる (絡げる、繋げる) 【他カ下一】紐などで縛る 縛って束ねる 着物の裾や袂をまくり上げて落ちないようにとめる (志 (立神)、員、三、安、阿、張、名、北) [会話] カラゲル 言うな (のは)、なんやかや 置いてあんの (有るのを) ゆわえる。なあ (縄) でも ひぼ (紐) でも ゆわえるとか、カラゲルとか。山、行て (行つて) 今日は 木カラゲナ (なければ) 言う やんかい (言います)。皆 いちいち (一つ一つ) 切つて 倒してあんのを (有るのを)、こんだ (今度は) カラゲンノ (からげるのです)。こまこお (小さく) して、麦、刈つて かりぼし (刈干) して来たよつて (から) あれを カラゲン (に) 行かな (なければ) とか、ゆわえん (に) 行かな とか、言うて ゆわえん (る) の おも カラゲン (る) の おも (のもの) 一緒の意味 やけど どなあ (だけれども)。ゆわえん (に) 行く 言う人もあるし 束ん (に) する事を。

からげんき (空元気) 【名詞】口先ばかりで体を動かさないこと。うわべだけ元気が有るように見せかけること。[会話] あや (彼は) なんも (全く) はざんとおつて (駄目なのに) カラゲンキで 言うて、体 いご かんと (動かずに) おつて (居て) 口ばっか (ばかり) 元気 出して あや (彼は) カラゲンキで まあ 言うて

からころ 【副詞】駒下駄の音 [会話] 芸者の下駄 カラコロ カラコロ、日和 (天気) な (が) ええのん (よいのに) まあ カラコロ カラコロと 下駄 履いて 言うてな、さしげた 履いて なあ 日和 下駄 を なあ ひよりげた 言うて なあ はあ な (歯が) 短い のおな はやり (流行) やつて なあ

からさお。 **からざお**。 **からさわ** (からざを) (穀竿、連枷、唐竿) 【名詞】稲、麦などの穂を打つて脱穀するのに用いた道具 柄の先の枢 (くる) に打棒をつけ柄を振り

打棒を回転させ、筵の上の穂を打つ まいぎね、くる り棒 (志、度、多、阿) [会話] カラサオ や (だ) 言うて、さわ (竿) の 端い (へ) 木を しといて (しておいて)、そんで (それで) バツタンバツタン 言うて どばしよ おつたの (叩いて居たのです)、カラサワ で なあ。 昔 や (は) よこづち (手槌) で しよ おつたけど (して居たが)。麦 かち (麦の脱穀) 言うて なあ 麦を 干しといて (干しておいて) カラサワ で どばしよ おつたん やん かな カラサワ なら ええ けど (よいが) よこづち で しよ おつたの。そん な (それが) こんだ (今度は) 木 で 初め しよ おつて、(して居て) 柄 は 木 で その どばす のも (叩く所も) 木 で、そした や (そうしたら) 木 では おれ よ な まず い (こなれ方が不十分) も んで (ので)、鍛冶屋 で この 位 (約1m位) の 鉄の 棒 を に ほ (二本) 木の 代わり につけて、それ を 叩くと よ お (良く) 落ち ん ね て や (落ちるのです)。一つ どばすと (叩くと) ど い らい (大変) 落ち る よ お な 感じ な (が) して。子供 ら な (が) 言う 事 聞か せ ん と (聞かないと) カラザ オ で どば した るか (てやろうか) 言 よ お つ た ね (言ったのです)。この前の浜い (へ) 皆 あり あり (各人各様に) 筵 敷 いて そして 二枚 敷 き 位 (畳二枚分) の ばあ (場・場所) に し と いて (しておいて) カラサワ で どば す ん や ん かな (叩くのです)。そしといて ひと に わ (一回) 叩 いた、ふ た に わ 叩 いた。ひと と こ (一カ所) い (に) ふ ご い (に) 一杯 位 あ け と いて (ておいて)、前 の 浜 で 和 具 じゅう な (中が) 寄 つ て 来 ん ね や ん かい (来るのです)。それ 皆 わ が 家 い (へ) めん めん (各自) 筵 八 枚 十 枚 づ (ずつ) 敷 いて こん だ (今度は)、又 次 の 人 ら な (達が) その 次 い (へ) 敷 き して、里 の 浜 広 か つ た も んで (ので) そこで 皆 しよ お つ た (して居ました)。麦 か ち ん (に) な る と 間 崎 の 人 な (が) 山 桃 売 り ん き て (売りに来て)、そして 種 ご ち (ごと) 皆 飲 んで 種 出 さん と (出さずに) 種 出 した ら と (出してしまおう) 山 桃 食 べ た よ お ん (ように) ない 言うて、山 桃 その ま ま 種 も 出 さん と ひと つ か み い つ (一掴みずつ) 掴 ん ど いて (ておいて) ロ い (に) 込 め と いて (ておいて) 食 べ よ お つ た わ (食べて居ました)。美味 か つ た て や (のです)。この 浜 で み ん な (全部) 叩 いて こん だ (今度は) 夕方 ん (に) な る と ま ぜ な (南風が) 吹 いて 来 ん の (来るのを) 待 ち か ね と て (て居て) た て ん ね (穀と実をよりわけのです)。そ す と (すると) した ば (下場・風下) ん (に) な る も な (者は) は し こ お て、う わ ば (風上) の も な え

えけど(良いが)場所な(が)無いもな(が)したばでも しゃあないね(しかたがないのです)。そげんしてすると(そんなにすると)下場ん(に)おる者な(が)かぶって(は)しこおて(は)しこおて ほんどん(本当に)あのむきかちな(が) いっち(一番) つらまし(つらい) かよおった(かった)。私らな(が) こわかいしゅ(小若い衆)の時分に かちよおったので(叩いて居ました) かつ(叩く)のに又、よおせんねてや(出来ないのです) ガッチャン ガッチャン 言わしたて(言わせてしまって)、上手ん(に) せんと(しないと) カラサワで かちあう(ぶつかる)言うて かちよたて(ぶつけてしまって) よお(上手に) どばさんと(叩かずに) 手ぶつか(ばかり) こついとて(叩いて居て) 稽古の時分な(には) よおせんで(出来なくて)。家内(家族) おおぜ(大勢)の うちや(家は)人 雇て(雇って) よつたり(四人)五人で ふたあれつ(二列)になつて(て居て) こつちや(こちら) な(が) しとると(して居ると)、あつちや(あちら) な(が)して、じつきん(じきに・すぐに) 叩いたて(てしまって)。こつちや な(が)一つすると 向こうな(が) すぐん(に) 叩いて パタ パタ言うて めんしよな よおなかつたの(ようでした)。名所言うのを めんしよ。どこやかや(あちらこちら)行くと 景色見たりすると 名所やなあ(だ) じっば(立派) な(だ)言うよおな意味やなあ(です)。名所 な(の) よおな なあ言うて。あちらからも こつちやからも四、五人で しとると、(して居ると) むぎかち歌 うとて(歌って) 昔の人らな(が) そげん(そんなに)すると 大勢で 揃て(揃って)すると じっば(立派) なんてや(なのです)。見とると(見て居ると) はりやい(張り合い) な(が) ええ、(よい)そして 下の板、敷いとる(て居る) 家や(は) ボンボン言うて 太鼓叩くよおな音 な(が)してなあ。そいらの時 や(は) 見るもん(物)も無いし そいなの(そんな) 珍しかったわな(です)。皆 上手に あつちやからと、こつちやからと 揃えて 三人位つ(ずつ) じよおほお(両方) い(に) 分かれて しとると(して居ると)又 はりやいな(張り合いが) ええよおんしてなあ(よいようにして) 叩きおったわな(叩いていました)。家内 すけない(少ない) 家や(は) かためがち(交互に) 交互に しよおや(しましよう)言うて、もよといて(仲間になって)する 家ら(は) 揃て(揃って)すると 気色な(気分が) ええ程 そやもんで(それで)それを めんしよな(の) よおな

(だ)言うて。

からず(鴉)【名詞】物を忘れる人 鴉は餌になる粟などをくわえて行って土中に隠しておくがその場所を忘れてしまうと言う事から(方言俗語語源辞典)(上、阿、尾、南) [会話] あやまあ(彼は) カラス やなあ(だ)言うて、言うのはなあ、じつきん(すぐに) 何んやかや(いろいろ) 忘れたてなあ(てしまって) 何んやかや まあ かこて(しまって) 忘れたるとなあ(てやると) 何んでも な じつきん 忘れたんの(てやるのを) あやま(彼は) カラス やよつてん(だから) 言うねんなあ(言うのです)

からすぐち【名詞】からすくちなあと同じか 蛇の一種(尾) [会話] カラスグチ 言うのは 色な(が) ついたり しとる(して居る) 蛇の事。

からすくちなあ(からすくちなは)(烏蛇)【名詞】しまへびの黒色変種の俗称 やまかがし ヤマカガシ科の有毒蛇、体長約70cm 体色は普通緑褐色で不規則な黒斑が並び、体側に赤い斑文が有る。頸部に有る隆起を強く押すと黄色の液を出し目や口に入ると強く刺激する。水田や水辺に多くカエル、イモリを捕食し、怒ると頸の部分の赤く見える。(志(布施田)) [会話] カラスクチナア 言うのは 黒いんやんない(黒いのでしよう)。怖い 言うやんない(言うでしよう)。真つ黒な蛇で。

からすご【名詞】からすうり ウリ科のツル性の多年草、山麓に生える根は塊状に肥厚する。茎は長さ3~5m。巻きひげで他物にからむ、葉は長さ15cmの卵円形で拳状に浅く3~5裂する。茎、葉共に白色の粗い毛が有る。雌雄異様、夏の夕方、葉腋に花冠の五裂した白色花を開く、裂片の縁は細かく切れて糸状に垂れる。果実は長さ5~7cmの楕円形円状で、秋に赤く熟す。種子は黒褐色、カマキリの頭または結び玉に似て居る。根、茎、種子は薬用にす。 (志、度) [会話] あつかあい(赤い) もも(実) な(が)、はあ(葉) が ぼろ ぼろと落ちる臭い木。厄病よけ 言うて、カラスゴで くすべとけ(ておけ) 言うて、はやりかぜ(流行性感冒) な(が) すると カラスゴ 生のお(のを) 切って来て、それ 燃えやせんもんで(燃えなくて) くすぼる(くすぶる) やんない(でしよう)。家の内をくすべて かど(軒先・門) い(に) 下が らかして(吊して)、悪い病氣や 悪事災難 な(が) のがれるよおに くすべよおつた(いぶして居ました)。あつこお(赤く) 真つ赤になって。言うとき さいご(例えると) くちなし(梔子) みたよん(のような) なって、まるくた

いん (丸い) けど (のだが) あからむ (成熟する) と
ぱっと開いて、あっかい みい (実) な (が) 出て来
て、あん (あれが) 一番 よけ (沢山) はえるわい
(生えます)。鳥な (が) くわえて来たり、小鳥な
(が) くわえて来たりして行く先ん (に) 生えて来て
おぞげや (腹立たしい)。そやけど (しかし)、魔除け、
厄除けや (だ) 言うて 昔の人ら あれを ちよおほお
(大事に) に しよおったんなあ (して居たのです)、
カラスゴを。そこいら (その辺に) 引つ掛けとけ (て
おけ) たら (とか) 言うて、軒い (へ) なあ。はやり
こと (流行病) な (が) すると 軒い (へ) や、(と
か) かどさき (門先・出入口) い 魔除けや (だ)
言うて しよおった (して居ました)、臭いもんで (の
で)。

からすごのり 【名詞】 海藻 かぶのり参照

からすとんび 【名詞】 鳥賊、蝟の口にある上下の顎板

からすなきなわり 【俚語】 死者が近出ると言う語 (桑
郡) [会話] 人な死ぬ時 なあ ガアー ガアー 言うて
な 憐れな よおん (ように) 言うてな 鳴くと、今日は
どいらい (大変) カラス ナキナ ワリ 誰か 死んで
くねなあ (で行くのだなあ) 言うて、必ず 死んでく
なあ (で行きます) あげん (あんなに) 人の 死んでく
(死んで行くのが) 判って おって わがと (自分) て
つぽ (鉄砲) で いられんな (射られるのは) わからせ
んね (わからないのです) 人の 死んでく (で行く
の) ばっか (ばかり) 知らして

からすのしろくそ 黒と白の対比 鴉 (黒い) のしろく
そ (白い糞) 反対の事を言う例 [会話] あんごし (馬
鹿な) の おえ (者に) 賢い こおな (子が) 出来ると あ
や カラスノ シラクソやなあ (だ) 言うて

からすのせえ 【名詞】 かめので、かめのでえ参照 [会話]
カラスノセエ言うて 島の中に はさかつとるやんな
い (挟まっているでしょう)。切れ目ん (に) 筍な
(が) 出たよおん (に) して 中は あっかい (赤
い) みいな (が) 有って、中 ざらざらん (に) なっ
て 中に 身な (が) 有って 爪みたよな (のよう
な) とか 採らんと (採らずに) ざらざらみたよおな
(のような) 中に 入とんのおで (入っているの
を) 剥いたて (剥いてやって) 食うと どいらい (大
変) あんもおて (甘くて) 美味しいね (のです) 殻の
しろい (白い) かつとお (堅く) しとる (してい
る) 島の峠に はたくら (間) ん (に) 立とるやん
ない (立っているでしょう) 筍な (の) 出たよおん
(に) して こいなかたで (こんな形で・三角形) ど

いらい (大変) 美味しいね 根元を食うと 美味しい
の、炊いといて (炊いておいて) かあ (皮・殻) 剥い
たると (剥いてやると) じっば (立派) な 身な
(が) 出て来んてや (来るのです)。つづも 美味し
いけどのお (なあ) つづと あれは 瀬の上で 一番
美味しいなあ (のです)。

からすのやまて 【名詞】 海上で位置を決めるのに下手な
人 当にならない。[会話] あの山ん (の) とこん
(所に) 鳥な (が) 止まつたよってん (て居たか
ら) 言うて、今度 行くと 鳥な (が) 飛んで おらせん
やんかい (居いのです)、そすと (すると) 山な あわ
せん (位置が決まりません) そやよって (それだか
ら) カラスノヤマテ 言うん (言うのです) 下手なの
おを (のを)

からすめ (烏目) 【名詞】 両眼の視線の一致しない目 (南
熊) [会話] カラスメ言うな (のは) 人 見とんねけど
(見て居るのだが) 目は 横向いとん (向いているの
です)。

からぜき (空咳) 【名詞】 痰の出ない咳

からせん 1) 借りない 2) 刈らない

がらぢ (からじ) 【名詞】 小石の多い土地 (志 (鶴方)、
鳥、飯、多) [会話] あしかまあ (あすこは) ガラヂ
でなあ、土な (が) なんものおて (少しも無くて) 言
うなあ (言います)、がらがら や (だ) 言うてなあ。
がらぢちのとこい (所に) 百姓 するとなあ、おらげ
(私家) の 畑 がらぢちで じっきん (すぐに) 水な
(が) すいてて (排けて行って) まあ 言うて、あの
石ころ ばっか (ばかり) の とかな (所は) じっきん
水な (が) すいてくの (排けて行くのです)、地床の
とこ (所) は みずつき 言うて 何時まで 水の 保ち
な (が) あって、おらげや (俺の家は) まあ みずつき
やよってん (だから) 芋 植えんな (植えるのは) 心配
せんで (しなくて) ええ (よい) 言うて。何時まで び
ちよびちよ しとる (しています)。いしころ ばっかの
畑はなあ がらがら で おらげん (俺の家の) 畑 雨な
(が) 降ると ま 直ぐん (に) ひいてて (排けていっ
て) 芋 な (が) 植えられやせん (植えられない) 言う
て がらがら や (だ) 言うて。

からっけつ (空穴) 【名詞】 【形容詞】 全く無い事 特に
金が全く無い事 カラケツの促音化 (広辞苑) [会話]
からけつ も 一緒 何んも (少しも) ないよん (ないよ
うに) なつてくと (て行くと) からけつ 言うてな、何
んでもな 米びつ でもな 何んも ないよん なつて
くと ま こめびつ も ま カラケツ や (だ) 言うて

な、財布もカラッケツ やしなあ(です)。

からっと かりりと、よく晴れた状態。天婦羅などのあがった状態(三)

からっぺた(空下手)【名詞】【形容詞】 全くの下手 カラヘタの促音化(広辞苑)

からっぽ(空)【形容詞】 中に何も入って居ない事 又、そのさま そこに誰も居ない事 又 その様 っぽ 名詞について そのような立場、状態に有る事を表す(志(布施田)、伊、鈴市、鈴都、張) [会話] カラッポ言うな(のは)、なんも(なにも) 無いよん(ように) なってく(行く) 事、こころん(の) 人ら(は) カラッポや(だ) 言う。なんも 無いカラッポにしといてたわれ(しておいて行った) そわれ(それ) 言うて。皆 食うたて(食べてしまつて) カラッポやんか(だ) こや(これは) 言うて。財布も 銭も 皆つこて(使つて) カラッポにしたた(してしまつた)、御飯も 皆 食うたて 何も ねえ(無い) やんか(ではありませんか)、はんたい(飯櫃) カラッポん(に) しといて た(しておいて行った)、はんたい も カラッポや(だ)。

がらっぽ【名詞】 糟 役に立たない物。[会話] ガラッポ 言うて。何んやかや(いろいろ) まあ がちやがちや しとると(していると) ガラッポ ばっか(ばかり) よけ(沢山) 集めて来て 言うてな、物 あつても なあ、ものん(物に) ならんよおな なもん(物を) ななあ がらくた ばっか(ばかり) や(だ) 言うてな

からでっぽ(からでっぽう)(空鉄砲)【名詞】 1) ほら大言 事実で無い話 2) 屁 [会話] たあ(田) の おどし がすでっぽ。1) カラデッポ放なして ばあんばあん 言うてなあ。2) へえ(屁) も くそ(糞) な(が) 出やんと(出なくて) かす ばっか(ばかり) 出てカラデッポ やったよお(だった) 言うてな、便所 い(に) 行ても(行つても) ま へえ ばっか 出て糞 な(が) 出やんと カラデッポ 放して来たよお 言うてな、物でもなあ 取る(取ろう) 思てしても(思つてしても) 何んにも 取れやへんと(取れないと) まカラデッポ やったよお(だった) 言うてなあ、漁い行て何んも(少し) 取れん(取れない) 時もなあ カラデッポ や(だ) 言うなあ。1) 言うだけ 言うて 何も せんの をカラデッポ、嘘 ばっか(ばかり) 言うて、まあ あんな(彼の) 言う こた(事は) あてんも(当にも) くそも なるかれ(ならない) 言うてなあ。

がらなわり 下品だ。性格が悪い。乱暴だ。

からのかがみ【名詞】 盆の仏前に供えるところでん 唐鏡

(貴重な物の例 広辞苑) からか [会話] ところてん炊いて、皿い(に) 入れといて、(入れておいて) それ さましてカラノカガミや(だ) 言うて、ほとくさん(仏様) へ 供えおつたの(供えて居ました) 盆になると。

がらばたけ【名詞】 小石の多い畑(志(船越)) [会話] みずすき(水排けの) の ええ(よい) 畑 なあ(です) ガラバタケ 言うのな(のです)

からはら(空腹)【名詞】 腹がすいて居る事 腹の中が空であること [会話] 腹な(が) すいとる(て居る) 時な(です) すき腹、カラハラい(に) 酒のおどら(飲んだら) よおてくんど(酔つて来るぞ) 言うやんかい(言うて有りませんか)。そやけど(しかし) 男の人ら、その よおて来んのな(酔つて来るのが) ええ もんで(よいので) 食わせんねやろなあ(食べないのでしょう)。カラハラい(に) 飲まな(なければ) 酔わせんね(酔わないのです)。カラハラや(で) なけな(なければ) 美味ない 言うて 酒ななあ(が)。

からはらではかいくな【俚諺】 空腹で墓に行つてはいけない。餓鬼にとりつかれると言う。

からびょうき【名詞】 神経病 心因性疾患 [会話] 自分のきい(気持ち) で、気な(が) いらいらするとか、神経よけ(沢山) 使うとか 言うて、詰まるよおん(ように) 実際に食べる時は つまらせん(つまりません) カラビョウキやなあ(だなあ) からやまい 言うのなあ(言うのです)。

からふね【名詞】 積荷の無い船、乗客の乗って居ない舟 [会話] だれん(誰) も 乗つとらせんね(ていないのです) 人な(が) 乗つとらん(ていない) 舟 カラフネ、荷物 積んどらせん時もカラフネなあ(です)。荷船(貨物船) な(が) 荷物 積んどらせん時は、今日は、カラフネ やなあ(だ) 言うてな。

からまい(借)借りない [会話] カラマイ、あの家で 何んも(何にも) カラマイや かりちん(借用料) な(が) たっこおて(高くて) とかなあ、貸惜みしてとか 言うてな そいなのおで(そんなので) カラマイやなあ 言うてな

からまい(空舞)【名詞】 無駄働き [会話] カラマイ な(が) しとる(している) 言うてな 機械な(が) かからんで(掛らなくて) カラマイ やったよお(だった) 言うけどな、にげ(人間) でも働いても 何んも(なんにも) ならんと(ならないと) 働いたてて(ても) カラマイや(だ) 言うてな、ちん(賃金) も 何んも(少しも) 貰われやへん(ない) 事をな、カラマイ。

からまい (刈) 刈らない

からまる (絡) 【動詞】 1) まといつく 甘える 2) もつれる 3) 巻きつく

がらめ 【名詞】 網の目の大きいもの (鳥) [会話] 網のめえ (目) あらくたい (粗い) のは ガラメや (だ) 言うんなしなあ (言うのですし)、こまかあい (小さい) めえ (目) は しょおめや 言うて。

がらもん (柄物) 【名詞】 模様の有る品物 衣類 [会話] きもん (着物) のガラモン、ガラな (が) あんのを (有るのを) ガラモン ばっか (ばかり) 着て言うて、模様の あんのを ガラや (と) 言うね (言うのです)。模様を ガラ 言うんやんかい (言うのです)。

からやまい 【名詞】 1) 神経症 からびょうきに同じ 2) 長い病気 [会話] 2) カラヤマイ やなあ 言うて、まあ 頭な (が) じょおく (いつも) 病めとる (痛い) にげ (人間) は なあ、あやまあ (彼女) カラヤマイで 年内 (一年中) あげん (あんなに) 言うとる (言っている) 言うんかい (言います)。 じょおく ねじゃか (寝ている) みたよん (ように) しとる (している) 人なあ (です) あやまあ (彼女は) カラヤマイ やれ (だ) 言うて、1) 何時も ぐじゃぐじゃと 病気 みたよん (のように) しとんのを なあ (しているのを)。 たいして どこな (何処が) わり (悪い) 言うこた (ことは) ないねけど (無いのだが) どこな (が) わり、わがと (自分が) 思とんねやるな (思っているのでしょうか) そやもんで (それで) 人な (が) 見ると あや (彼女は) カラヤマイ やなあ (だ) 言うてな、病気の もと (原因) な (が) 判らんとおってまあ (判らないで居て) わがとは (自分は) ま 具合なわり 具合なわり 言うてしとんな (しているのを) あや カラヤマイ やれ (だ) 言うてなあ。

がらゆき (柄行) 【名詞】 模様の形や色合 模様

からら 【名詞】 体、身体 (志、上、阿、度)

からら 借ります

からりこんがりひとこえなき 【俚諺】 やきもち嫉妬のやき方 [会話] カラリコンガリ ヒトコエナキ 言うて、やきもち焼き過ぎると はざんし (いけないし)、又 焼かんのも わりんてわな (悪いぞおです)

がらわり 品が無い。下品だ。人格、性格が劣る。乱暴だ。(北)

からん 借りない (志、安、一、飯、松、多、上、張、度、北、尾、熊)

からんと 借りずに

がらんど。がらんどお 【名詞】 【形容詞】 空洞 大きな物の中に何も無い事 誰も居ない事 又、そのさま がらんどうの変化した語 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、伊、三、鈴郡、上、阿、張、名) [会話] ガランド 言うのも 空の事や (で) ねえんかい (ないのですか)。家も誰も おらんで (居なくて) ガランド やったれ (だった)、なんもかも (何も彼も) 皆、持逃げして、空ん (に) しといて た (しておいていった) 言うて、なんも (何も) 無い事を ガランド。家訪問しても、誰も おらんと (居ないと)、誰も おらんで (居なくて) ガランド やった (だった)。そして なんも 無い よん (ように) したる (してやる) 事、からっぽや (だ) とか ガランドや (だ) 言うて、ガランドや (だ) 抜けがらや (だ) 言うて。

かり 【名詞】 かりくび 雁首の略 亀頭

がり 【名詞】 魚はがつお サバ科の海魚全長約1mに達す。体形は鰹に似て、背側は青藍色で6~7条の黒色縦帯が有り、腹方は銀白色を呈する。食用、両顎に鰹より強く大きい歯の有ること。及び口蓋背にも強い歯の有る事からこの名が有る。(志、度)

がり 【名詞】 腔腸動物 サンゴの一種

かりあげ (刈上) 【名詞】 1) 稲、麦の収穫の終る事。刈り終わる事。(度) 2) 理髪にて、下部を短く刈る事、又上の方まで短くする事。

かりあるく (借歩) 【他カ五】 金品などをあちらこちら借りまわる [会話] カリアルク 言うな (のは) あつちや (あちら) でも、こつちや (こちら) でも 借りして 何んも (少しも) 戻さんと (戻さずに) カリアルク 人な (が) あるんかい (有るで有りませんか)。 何んも (少しも) 戻さんとおって (居て) あつちや で 借り、こつちや (こちら) で 借りして まあ 何んや かや (いろいろ) まあ カリアルク 言うてな。金でもなあ 何んでも 借って 戻そとせんと (戻そうとしない) 借るばっか (ばかり) の のおを なあ (のを) カリアルク 言うな

かりうつり 【名詞】 家を新築した時、棟祭り以前に、その家に入って生活する事、棟祭り参照 [会話] 入ると こ (所) の無い家や 棟祭り も せんとおるけど (しないで居るが) ちよいと (少し) カリウツリ しょおや (しましよう) 言うてする時も あんね (有るので)。

かりおった 1) 借っていた、借りた 2) 刈って居た。

[会話] 1) カリオッタ 言うな (のは) あの人に 何時でも かして もらよおった (借してもらって居た) 言う事を、カリオッタ 言うの (のです)。なんやらか やら (いろいろ) じょつく (いつも) あの家で カリオッタ、あの家えまあ じょおく、何んやかや (いろいろ) かりんきょおった (借りに行って居た) 借りに 行きょおった (行って居た) ことを、カヨオッタ 言うねやろな (言うのでしょうか)。かりん (借りに) 行た (行った) ことな。カヨオッタ かりよおった あの家で じょつく カヨオツタ なあ あの家で 車も かして くれえ (貸して下さい) ああ なん かして くれ 言うて 何んもかも (すべて) あの家で カリオツテナあ 言うて

…かりおった であった [会話] つらましカリオッタ 言うのは それ すんのな (するのが) いやなかつた (いやだった) つらかったのを、つらましかつた言うの (のです)。つらましかつた 言うのを つらましカリオッタ 言うねやんかい (言うのです)。昔や (は) あげな (あんな) カリオツタ言うて 済んでた事を カリオツタ言うて。

かりおや【名詞】 親代りの人 結婚、養子縁組などで種類の事情から その者の名義上の親となる者 (鳥、伊、度) [会話] カリオヤ 親代わり みたよんなあ (のように)、こお (子) ななあ (が) 死んでて (でいって) ばつか (ばかり) おつてなあ、そすとさいご (するとその時) 丈夫な家の こお (子) に してもらを (もらおう) 言うてな、カリオヤになって もろて (もらって) 言うてな、言うわい (言います)。あの家の子供らは みな いかつい (丈夫) よつて (から) その家 いに (に) 似る よんな (ように) あの家 の こお (子) ん (に) して もらをや (もらいましょう) 言うてな。あの男の こお ばつか (ばかり) でまあ おなご (女) の こお (子) な (が) 育ちのくい (にくい) 家 な (が) あるとなあ、あの 健康な 家の子にして 貰らう 言うてな、親代わりんな (に) してもらう、そいなのおを (そんなのを) 言うんやろな (言うのでしょうか)

かりかた【名詞】 借りる人 借りた人 [会話] お金でも 借りると 一筆書いたもん (物) もろとかな (貰っておかなければ) 言うて、貸した人は カリカタに 書いたもん (物) もろとこかいのお (貰らっておきましようか) こんだけ (これだけ) あんたん (貴方に) 貸した よつて (から) とか

かりかり【名詞】 あられ カは音、リは添えたる語 (大

言海) 幼児語 [会話] カリカリ。あられをなあ、カリカリ いつて (炒る) くれるわ (あげます) 言うてな、ちっさい (小さい) 子供らんな (に) あられ や (だ) 言わんと (言わずに) カリカリやど (だぞ) そや 言うてな、呉れよおったな (呉れて居ました)。カリカリ 貰るて (貰らって) 来た言うてな あられの ことを カリカリや (だ) 言うて。

かりかりぱつと 容易に はっきりと ぱつと、動作や状態の変化が突然、又は、瞬間的であるさま 一挙に集まったり、散らばったりするさま 派手で目立つさま 見栄えするさま [会話] カリカリパット しやせん (しない) 言うな (のは)、はっきり しやせん 言う事やろな (でしよう)、はっきりせんと (しなくて) なんか ぐちゃぐちゃと。病氣も治ったねやら (のか) 治らんねやら (治らないのか) ぐちゃぐちゃしとる (して居る) と さいご (その時)、カリカリパット せんで (しなくて) 言うて。病氣や (が) なあごおて (長くて)、治ったねやら 治らんねやら 判らんで (判らなくて)、カリカリパット しやせんな、やつぱし (やはり) わりねなあ (悪いのだなあ)。

かりくび【雁首】【名詞】 雁の首に似て居るもの 特に亀頭 (志 (布施田)、員)

かりこむ【借込】【他マ五】 借る。収入以上に借りる。財産収入より借金の方が多い。

かりこむ【刈込】【他マ五】 理髪で短く刈る。

かりしお【かりしほ】【刈時、刈機】【名詞】 刈潮 麦とか稲を刈る時期 [会話] カリシオな (が) すんどる (過ぎてている) 言うて、刈る時な (が) すんどる 言うの (のです)。カリシオな (が) すんで (過ぎて) ほお (穂) な (が) 皆 落ちて 言うて

かりたおす 捕らえようとして、又、追い拂うのに 盛に竿を振り廻す

かりたおす【借倒】【他サ五】 1) 方々で借金をする。 2) 借りた金を返さない。

かりだし【駈出】【名詞】 隠れひそんで居るものを、追出し引つ張り出す事、又、その物 解熱剤 [会話] 神さんへ しょんがつ (正月) に 供えた海老、あれを煎じて飲むと 熱、カリダシや (だ) 言うてとととくの (保存しておくのです)。

かりたてる【駈立】【他タ下一】 1) 探し出して追い立てる 無理に行動させる 2) 行灯の火を明るくする [会話] 2) ひょうそくの明りで 勉強しとんねやんかい (して居るのです)。そすと (そうすると) 暗がり (暗い) もんで (ので) カリタテルと、よけ (沢山)

カリタテル 油な (が) いんない (要る) 言うて 怒られて、又 ひっこめて カリタテル 言うな (のは) あかるう (明るく) すんの (するのを)。

かりて (借手) 【名詞】 借りる人

かりどき (刈時) 【名詞】 稲麦、穀類を収穫するのに最も適した時、かりしお参照

かりばし (刈干) 【名詞】 麦などを刈り取って、束ねずそのまま地面に並べて乾燥させる事 (安、多) [会話] 麦、刈って カリボシ して来たよって (から) からげな (束ねなければ)

かりまくる (借) 方方から借りる、借りるのが多い。

かりまくる (刈) 一生懸命で刈る

かりめんのどきい 【名詞】 いぬ榎 クスノキ科の常緑小高木、高さ5mに達す。葉は長さ4~8 cm先端と基部の光った長随円形で光沢有り裏面に白い微毛が密生する。三月頃多数の紅色の花が葉腋と若い枝の基部に咲く。(北)

かりもん 【名詞】 借物、人から借りた物。

かりや (仮屋) 【名詞】 1) 一時的な用のため作った家。

昔、女性が月経や出産の時に籠った仮小屋 月経、出産など血を見る事は、一種のケガレとして仮屋に別居、別火を守る習慣が有ったその名残でこの語が残って居る (方言俗語語源辞典) ギリシャ語の kalia (木材で建てた家) は石造建築が、本建築であった。ギリシャでは仮屋であり偶然としては興味深い (方言俗語語源辞典) (志 (布施田、甲賀)、鳥 (坂手、浦村)、伊、鈴市、南、三、四、度、南) 2) 月経 1) からの転 (志摩市全域、鳥、伊、多、度) 3) あめふらし 海牛 刺激を与えると赤紫色の分泌物を出す事から呼ばれる 2) からの転 (志 (甲賀)) 4) 借家 [会話] 2) カリヤ言うのは、今しの (今の) 月経の事、昔の人から カリヤ。4) 家 かんのも (借りるのも) カリヤ (借家)。2) 人間のカリヤ。生理ん (に) なる言う事をカリヤ。3) 海に なまこ みたよな (のような) いそつぼ あれ びしゃく (潰す) と 真つ赤ん (に) になると カリヤ や (だ) 言うて、いそつぼの事はカリヤ 言うなあ (言います)。あんでなあ (あれで)。人間な (が) 月経なつて あつかい (赤い) なるもんで、(ので) そすと (そうすると) いそつぼを 子供らな (が) カリヤ言よおつたんやかなあ (言ってる居たのでしょうか)。あれ つぶすと 海な (が) 真つ赤ん (に) なつて 一つで こげん (こんなに) あっこお (赤く) なんのか (なるのか) 言う程 なるもんで こらら (子供) な (が) カリヤ言うて。

…**かりや 【名詞】** 動詞についてそれをしたがる人、好んずする人

かりやかした 枯らした

かりやど 【名詞】 忌み屋 忌み人 どは人の意。(志 (御座)) [会話] カリヤド言うて、月経になると じよおし (漁師) の家は 一緒ん (に) 食わさんと (食べさせずに)、しょんがつ (正月) になると 別に 納屋の隅で食わしよおつたもんで (食べさせて居たので) おおた かりや みたよななあ (のようだなあ) 言うて、納屋の隅で 炊いて食うたり しとると (していると) 言よおつたわい (言ってる居ました)。月経ん (に) になると 別に 食わすの (食べさせるのです)、穢れる言うて、漁師の人ら 特に 嫌いおつた (嫌っていました)。特別やてや (です)。なんも ならんでも (月経でなくても) 正月ん (に) になると、くいのけ 言うて なんも (少しも) 楽しみな (が) 無いわい (有りません)、ごつお (御馳走) も 何も 食べられやせん (食べられない)。くいのみ言うて 若い娘な (が) 有ると、いつなんどき (どんな時) そげん (月経に) なるか わからせん (わからない) やんない (でしょう)。くいのけ 言うて 娘ら くいのかしよおつたね (して居たのです)、昔や (は)。そして 神さんの下も通るな 言よおつた (言っていました)。昔や (は) 月経ん (に) になると じよおし (漁師) の家は どいらい (大変) 嫌いおつた (嫌っていました)。ひい (火) な (が) わりなる (悪くなる) 言うて。

かりやむつき 【名詞】 月経帯 T字帯の中を狭く局部を厚くしたもの [会話] カリヤムツキ 言うな (のは)、昔や (は) 紙や綿 使わせんし (ないし) きれ (布) 四つん (に) してなあ、ひぼ (紐) 付けて 腰巻の中い (に) 禪ん (に) かきおつたの。言うたらまあ月経帯やわい (です)。ほっそい (細い) ので 其処い (に) 行くところ (所) だけ あつつう (厚く) して、えっちふんどし (越中禪) の中の せばい (狭い) のです えっちふんどし は 一巾やんない (でしょう)。一巾ん (の) のを 四つん (に) へし折つて 股だけ来るよん (ように) 禪の間は きれ (布) 入れんと (入れずに) まあ あつつう (厚く) 刺してあんの (有るのです)。あつつう みいこ (三重) も よおこ (四重) も きれ (布) 当てて とおつて こんよおん (浸み出さないように)、股のところ (所) だけなあ よけ (沢山) きれ (布) 入れてあんの (あるのです)

かりゅう。かりゅうど (かりうど) (狩人) 【名詞】 狩人 かりひとの略 狩を職業として居る人 (志摩市全域、

鳥 (相差、国崎、神島)、張) [会話] カリュウド 言うな、(のは) てっぽうち (鉄砲撃ち) なあ (です)。てっぽうちの事 カリュウドや (だ)。撃ちに行くのな (のが) カリュウド 言よおった (言っていました)。今し (今) でも 狩りや (だ) 言うやんかい (言います)。今しや (今は) カリュウな (が) 来やせんもんなあ (来ません)。

かりよ 借りよう かる参照

かりよおった 借りていた [会話] かりん (借りに) いた (行った) ことなあ かよおった (借りていた) カリョオッタ。

かりわざ (軽業) 【名詞】 曲芸 見せ物の一種 曲芸を見せる興行 見せ物、カルワザの訛 (伊、桑郡、員、鈴市、鈴郡) [会話] カリワザ 言うな (のは) 芸をして 見せんの (見せるのを)。梯子い (に) 登って なんやら (何か) したり、腹の上で餅ついたりして、カリワザや (です)。なんやかや おとし (恐ろしい) よおな事すると カリワザ みたよおなあ (のようだ)。

かりわざし 【名詞】 身軽な動作で種種の曲芸を巧みに演じる芸人 [会話] 越後獅子な (が) かえる (ひっくり返る) よおん (ように) くるっと ひっくり返る カリワザシの 真似して

かる (狩) 【他ラ五】 払う 取り除く 追い求めて捕らえる 叩き落す (志 (浜島、神明、立神、国府、安乗)) [会話] すすはき 竹切って来て カル やんない (でしょう)。すす竹 言うて あん (あれで) 皆 かつ (払って) おいて から、こんだ (今度は) 拭くのなあ (のです)。

かる (借) 【他ラ五】 借りる (志、鳥、伊、松、鈴市、鈴郡、津、久、一、飯、多、上、阿、張、名、度、北、尾、南、熊) [会話] 物をカル 金 カル

…がる 【接尾語】 【自ラ五】 動詞について その様にした い気持を表す。行きたガル。泣きたガル。アガルの約で情のそそる意 (大言海)

かるいし (軽石) 【名詞】 1) あばた面 2) 馬鹿

かるう 【形容詞】 軽く (北) [会話] おもたい (重い) よって (から) カルウなる よん (ように) 干しとけ (ておけ) 言うたりな (言ったり)、ご飯でもな 一杯 盛ると (よそうと) 多い時にな 半杯 盛って (よそって) 貰いたい時になあ カルウ 盛って (よそって) 呉れ言うのな (です)、かあるうもって 呉れえ (下さい) 言うて、半分より 飯な (が) いらん (いらない) 思うとな ま カルウ もってえ (よそって下さい) 言うてな、ま 二杯 食うて 三杯目ん

(に) なって、まあ 三杯も いらんな (いらない) 思ても (思っても) も おちよいと (少し) 食いたい (食べたい) 思う時なあ (です) こん (これで) かあるう くれえ (下さい) 言うてなあ

かるうなる 1) 軽くなる 2) 病気がよくなる

かるこ 【名詞】 金属で出来た鉤状の物 二本を綱でつなぎ物の運搬に用いる道具、鉤は一本の事も二本の事もある [会話] カルコ 言うのは、たある (樽) ひつ掛ける 金のもん (物)、先が曲って 二本有って こ が (少し大きい樽) い、(へ)、わあ (輪) い (へ) 引つ掛けといて (ておいて)、金の角の二本 しとんの (して居るのを) カルコで、あや (あれは) ちんちよ (とも) 言うやんかい (言います)。ここの人ら (は) カルコや (と) 言うけど、他所の人ら、ちんちよ。あんな (あれが) 又 こ が する時や (は) なけな (なければ) ならんで (ならなくて)、そん (それが) 無い (と) 昔や (は) 畚 (で) つよ おった (けど) (吊って居た) が、畚あ (は) せわなやんない (面倒でしょう)、乗せん (ならん) し (乗せなければ) いけ (ない) し。そ すと (そうすると) カルコは 引つ掛け (といて) (て)、つや (吊れば) ええ ね (よいのです)。昔や こ が ばつ か (ばかり) 使 よ お つ も ん な (使って居たので) 麦 何杯 言うて、こ が い (に) 並 (べて)、きん こ (芋の煮切干) しても こ が い (へ) 皆 入れて 金の鉤 (で) かぎ みたよおん (のように) して 紐つけて。

かるこべ 【名詞】 馬鹿 人をのしる時の使用 こべ こうべ 首 頭 上部 かみへ 髪部の転 首から上の部分 (志 (布施田、甲賀))

かれ 【名詞】 小潮 しお 干満の差が最小となる潮汐の状態 又、その時期、上弦下弦の月のあと一日から二日で生ず [会話] にち ひき (みち・満、干き) な (が) あんの も (有るのも) カレ 言うし、カレの時は あん まり 潮 な (が) 干 か せん (干かない)、カレ や (だ) 言うと 朝 潮 な (が) 干 く と ゆう し お (夕方の潮) な (が) カレ ん (に) なるけど、カレ や (だ) 言うと 大体 な (が) 夕方 や な あ (です)。十二時 す ん で (過ぎて) から や な あ 潮 な (が) く ん な (来るのは)、カレ ん (に) になると、今日は カレ や よ つ て (だから) 潮 な (が) に つ と ら れ (満ちて居る) 言うて。

かれ 【名詞】 亀頭 かれくびに同じ [会話] 男のカレ カレ ク ビ や わ い (です)。そして しん し よ (身上・資産・財産) し も て (終わって・破産して) なんも 無 い よ ん (ように) なって、なんも 無 い ん か い (無い)

のですか) 言うたや、金(きん) な (が) 二万両 有るわい (ます) 言うて、それだけかい (ですか) 言うたや、(たら)、まら (まだ) 有る 言うて まら (魔羅・男根) な (が) 有るもんで (ので)。

かれ (かれひ) (鮎) 【名詞】 かれい 鱈の変化した語カレイ科の海魚 体は扁平 卵形 両眼は片側 (右側) にあり所により表面は褐色など黒みを帯び周囲とまぎらわしい色に変わる事が多い下面是白色 食用に供す (志 (志島、船越)、鳥 (国崎、答志)、伊、松、三、鈴市、一)

…**かれ (かい)とも言う** 1) 助詞、か、しなさい 行かんカレ 泣かんカレ 見やんカレ 2) 遠回しに命令する気持ちを表す (志、上、阿、張、名、度、北、尾、南、熊) 3) 確かめの気持ちを表す (志、鳥、度、北、尾) 4) 反語を表す 反駁する気持ち表す 相手をなじる気持ちを表す (志 (神明、立神、志島)、北) 5) 念を押す気持ちを添える 誘い依頼の気持ちを表す 6) 独り合点の気持ちを表す 願望を表す [会話] 1) しなさい 言う事 せえ (せよ) 言う事を。せんカレ 言うて、しなさい これして やりなさい言うのを これしたらんカレ言うて、行かんカレ (行きなさい) こんカレ (来なさい) 言うて。

がれ 【名詞】 急な斜面 特に岩石の多い所

かれきり 【名詞】 男が初めて女性と性的交渉を持つ事 [会話] 男の 初めてをなあ カレキリや (だ) 言うや んかい (言います)。男な (が) 初めて おなご (女) と寝るとカレキッテ もろた (貰った) 言うてなあ。おやまん (女郎) に カレキッテ もろた (貰った) 言うやんかや。おやまかい (女郎買) してなあ おやまん な (が) 初めてあがる人 しつとてなあ (知っていて) お前や (は) 初めてやなあ (だ) 言うて 問うてわい (そうです)、そすと 初めてや (だ) 言うとなあ カレキッテ くれるてわい (そうです)。

かれくび 【名詞】 亀頭 [会話] 男のかれ (亀頭) カレクビ やわい (です)

かれし (彼氏) 【代名詞】 ある女性が愛して居る男 情夫 [会話] さばんこ (情夫) のこと。カレシのことを さばんこ やてら (とか) けんし (情夫)

かれやかした。かれやかしたた 枯らしてしまった (志 (甲賀))

かれやかす 1) 枯させる 枯らす (志 (鶴方)、鳥) 2) 老衰 3) 熟達する [会話] 1) カレヤカしたた (てしまった) 言うてな。乾いてく (ていく) ことをなあ。物 植えてもな、まあ 雨な (が) 降らせん (な

い) もんでな (ので) 皆 カレヤカシタレ (てしまった) 言うてな、けえてたれ (消えてしまった) とかな、乾かしたたれ 言うてな、カレヤカシタ 言うの カレヤカシタ (枯れさせた) 言うね、皆 カリヤカシタ (枯らしてしまった) とか、かれてた (枯れて行った) 言うけどな (言います)。かれてた 言うてな、雨な (が) 降らんで まあ 水 よおやらんとなあ (やらないと)。ま かわいてくとなあ (ていくと)。ま、みなカラカシタヨオ (枯らしてしまった) 言うて。

かれる (枯) 【自ラ下一】 1) 上達する (上、阿) 2) 老衰 (南)

かろ 【名詞】 かど 門 (松)

かろ 借りよう 他人の品物や金銭などを自分の用に使う [会話] これ 借りよ (借りよう) 言うて、カロ (借りよう) 言うのを これ かりよかいなあ (借りようか) 言うて、かってこ (借りて行こう) かいなあ (かな) 言うの、かりよ 言う。カロてこかいない (借りて行こうかな) カロかいなあ (借りようかな) 言うて、かしてくれえ (貸してください) 言うの (のを) カロかいなあ 言う人も 有るし。

かろがろし (輕輕) 【形容詞】 軽卒 思慮分別の無い事。落ち着きがない事。かるがるし、カロシ (軽) を重ねて意を強くする (大言海)

かわ (かわ) (皮) 【名詞】 皮膚 肌

がわ (側) 【名詞】 1) 周囲 周辺 (張) 2) 周囲の人世間 3) 桶などの輪 たが 4) 財布 5) 枠 [会話] 1) ソトガワ ウチガワも有るし、布団の表や裏や 言うのを ガワや (だ)、布を、布団に覆せてある布を。

かわあがり 【名詞】 全くの不漁

かわい (かわい) (可愛) 【形容詞】 かわゆいーかわいー →かわい、と変化した語 1) 愛らしい かわいらしい いとしい (志、鳥) 2) かわいそうだ 不憫である 3) 両方の感じが混じって居る (志 (浜島 志島 国府)、鳥 (国崎 答志 坂手)) [会話] 兄貴にかくして、2) 弟な (が) カワイもんで (ので) 弟の家へ せごしてた (移して行った)。

かわいがる (かわいがる) 【他ラ五】 かわゆがるの転、可愛ゆく思う。慈しむ。

かわいげ (かわいげ) (可愛気) 【形容詞】 いかにも愛らしいと感じさせるさま 他人に好感を与えるさま

かわいげない (かわいげない) 可愛いらしきがない (上、阿) [会話] かわいげ な (が) させんなあ (しな

い) 言う おっちゃくで にくたらしなあ (憎たらし) 言うとなあ、カワイゲナイ子やなあ (だ) 言うてな。

かわいげなさせん。**かわいげな**たたせん 可愛いと言う気にならない。憎い。かわいげない参照 (志 (布施田))

かわいそ (かわいそ) (可哀) 【形容詞】 気の毒 かわいそ うちの末尾の省略 (安) [会話] 可哀想な、可哀想に言うの (のを)、いたわる事を、憐む事を カワイソゲン、憐む事を 可哀想んなあ (に)。カワイソゲン 言うて あや (彼は) カワイソゲン 死んでたん (死んでしまった) てない (そうだ) 言うて、カワイソゲン 言うな (のは) 悲しい時ん (に) 一番悲しい時ん (に) 言う事や (です)。

かわいそげ (かわいそげ) いかにも気の毒なさ (志、鳥 (答志))

かわいそげで 可哀想で

かわいそげな 可哀想だ。かわいそげに参照

かわいそげに。**かわいそげ**ん 可哀想に (志 (布施田)、鳥 (答志)) [会話] カワイソゲン みな一緒のことや (です) カワイソゲナなあ言うてな 言うのも かわいそおやなあ (だ) 言うの なし (です)、カワイソゲン 言うのも おた (ああ) かわいそおやなあ (だ) 言うん なしな (のです)、おんなし (同じ) ことや (です) カワイソゲニ まあ死んでた (でいった) てない (そおだ) 言うてな、カワイソゲンなあ あのかあ (子は) ええ (よい) 子 やったのんなあ (だつたのに) まどこ やらい (何処かに) まもらわれてたん (貰われていった) てわれ (そおだ) 言うてなあ。よお 昔なあ、こお (子) を 呉れよ おったやんかな (呉れて居ました) やしなかす (養女にやる) 言うて、養女んやること やしなかしたる言うてな やしなかされてたん (貰われていった) てわれ、カワイソゲン 言うてな 勿体ない よお (よく) あいな (あんな) こお 呉れたたれ (てやった) 言うの な (です)。やしなかしたる (てやる) 言うの そして ま嫁ん (に) 行てもな おれげやなあ (俺の家は) あの こお (子) な (が) どこそこいやしなれてて 言うて みきびらき に 酒一合づ (づつ) こばよ (配る) おつてなあ、やしなれてた 言うて、嫁ん (に) 行た (行つた) のもな やしなれてた 言うて。

かわいらし (可愛) 【形容詞】 いかにも愛らしくと感じさせるさま かわゆらしの転 (南) [会話] 優しいなあ 言うとかワイラシなあ 言うてな、おおた どいらい

(大変) やさし (優しい) こお (子) やなあ (だ) 言うの をな カワイラシ こおや (だ) 言うの (のです)

かわうなぎ (川鰻) 【名詞】 うなぎ うなぎ科の魚 体は円筒状に長く 後部は側扁する。皮下に肉眼では殆ど、見えない鱗が埋没して居る。目は著しく小さい。大きな鰓穴が体側に有る 体色は普通暗褐色で、腹側下半分は銀白色をして居る。腹びれを欠き 背びれは胸びれの尖端後方より始まり、尾びれと完全に連続する下顎が上顎より長い。うなぎ参照 (志) [会話] 川におる (居る) うなぎ。カワウナギ。

かわかしたた 枯らしてしまった。

かわかぶり (皮被) 【名詞】 1) 包茎 亀頭の皮に包まれているもの 2) 虎の威を借る狐。力が無いのに、後盾を持って威張る事。[会話] 2) カワカブリ やなあ (だ) 言うてな 何んも (全く) はざんとおつてなあ (駄目なのに) えらつそおな (偉そうな) こと 言うたりすると、あやカアカブリ やどお (だ) 言うてな、カアカブリや (だ) 何んも (全く) はざんとおつて 言うて 嘘言い 言うことを 言うんやろな (言うのでしよう)、カアカブリや (だ)、1) 男のカワカブリ 大事の もん (物) ななあ (が) あや (あれば) すつぽ 言うねやんかい (言うのです) すつぽちんぼで 気 な (が) 行く なれば むけた ちんぼは むげぞんや 言うて よお 歌よおつたんな (歌いました)。

かわきり 一番最初に行なう事 (志 (布施田))

かわく (乾、渴) 【動詞】 1) 乾燥する 2) 植物が枯れる (志) 3) 渴える のどがカワク [会話] 1) 天火 (日光・太陽) に乾かすとか 言うの、干して 乾燥する言う事を カワク 言う。乾かさな (乾燥させなければ) 言うて、2) 木も枯れてくと (て行くと) カワク、植えたけど 水 くれらつたら (なかつたら) かわかしたた (乾かしてしまった)。からかしたた (枯らしてしまった) 言うても (言つても) ええ (良い) よおな もんやけど、(ものだが)、木 な (が) しなぼれて (しぼんで) 来ると、かわいて来た 言うて。なすび (茄子) の苗 かわかしたた、枯れたのおを (のを) カワク 言うてなあ。

かわざかな (川魚) 【名詞】 川、湖などに住んで居る魚 かわうお かわいお [会話] 鮎や (だ) とか、鮒やとかな、どじよおやとか 言うの カワザカナ やわいな (です) 鯉やなあ (とか) 真水の魚や (です)

かわさき。**かわ**さきいお 【名詞】 魚名 あかいさぎ きょうもどり スズキ科の海魚、形は鯛に似てやや細長

く、全長50cmに達す。体色は赤色でやや黄味を帯び、背鰭に黒い斑点が有る。京都に出荷しても新鮮でありあまり新鮮なので戻されたのが名となった。(志、鳥) [会話] カワサキ 言うのは、なんやら (何か) あっかい (赤い) よおな うつくし (美しい) 魚や (です)。めんつ (魚名) みたよおな (のような) 魚、めんつではないんけど (が)、めんつ みたよな色の、ひらくたい (平らな) 美しいのなあ (のです)。

かわさきどんや (河崎問屋) 伊勢市河崎に有る問屋 [会話] 榎本言う さと屋 (砂糖屋) な (が) 有るやんかい。(有ります) カワサキドンヤに。

かわざらい (かわざらひ) かわざらえ (かわざらへ) (川浚) 【名詞】川底にたまった土砂や汚物をすくい取る事 かわざらえ [会話] 盆に 波で 川が止まって、人ら (達) 皆 踊つとる (て居る) てのに (と言うのに)、わしら カワザライ いっしょけんめ (一生懸命) しとるなが (して居るのです)、たあ (田) が つかって (水に浸かって)。

かわじり (川尻) 【名詞】川が海などに流れる口 河口 (地区名になって居る) (員) [会話] カワジリ言うな (のは) 墓へ行くとこ (所) の 浜をなあカワジリ。カワジリ 川な (が) 流れとた (て居た)、ずうっと。川は ほつそおおい (細かい) のおな (のが) 今し (今) でも 大谷から 流れてくんで、(来るので)、水な (が) 絶えんで (絶えなくて) 夏中わしらな (私達が) あしこ (あそこ) で 水 浴びたり、洗濯したりして、いくら ひでり (日照り・晴天が) 続いても、めった (絶対) ん (に) 絶えやせん (ない)。石ケ中のもん な (者が) 洗濯しよおって (して居て)、そして 磯 行て来ると あすこで (あそこで) 水浴びて、よけ (沢山) 雨な (が) 降ると、ぼら (穴) 掘つとくと (ておくと)、それい (へ) 水な (が) 一杯 溜まって、そこで 浴びて、いそもん (磯物・海女の用具) も 洗て (洗って) しよおったの (して居たのです)。すそで (下の方で) ないざ (汀) で 水な (が) 来るもんで (ので) そやよって (それだから) 上では 始終 (いつも) 洗濯もん絶やさんと (さずに) どげな (どんな) 日照りでも あすこあ (あそこは) 水な (が) 切れやせん (絶えないのです)。

かわす (かはす) 【他サ五】 1) 移す 移動させる 2) かくれる 避ける (志 (布施田)) [会話] 1) あすこい (に) カワシトケ まあ (ておけ)、其処い (に) 置いたら 雨な (が) もんど (漏るぞ) 言うてなあ、その カワス もあるしなあ。場所を移す 場所を カワ

ス こっちやい (こちらえ) カワシトケ (ておけ) 雨な (が) もんど とかな、波な (が) くんど (来るぞ) とか 言うのな (です) こっちやい よせとけ (寄せておけ) とかな、カワシトケ とかなあ、そっちやい (そちらえ) カワシトコヤンカレ (ておきましょう)、こか (ここは) 波な (が) くんのん (来るのに) とか、雨な (が) 降ると そかま (そこは) ぬれられ (濡れる) とか。

かわすそ (かはすそ) (川裾) 【名詞】川の水の流れて行く方 川口に近い方 川尻に同じ [会話] 川のすそ (裾) カワスソ 言や (と云えば) 浜い (え) まで 続いとて (ていて) 浜いなあ (に) 海い (え) 流れんの (るのを) カワスソ 言うてな カワスソ い (え) まで 流れてたれ (流れていた) 言うてな

かわせん。かわせんわい。かわせんわな (女性語)。かわせんわれ 買いません (志 (船越)、桑郡、三、四、鈴郡、北)

かわながれ (かわながれ) (川流) 【名詞】大水の出る事 [会話] じゃり 言うな (のは) カワナガレで、水が流れた後で あらくたい (粗い) 砂だけ 残るとそれを、じゃりな (が) 残つとる (て居る) 言うて。

かわながれのもくず 【俚語】 川流れの藻屑 気にかかる (気、木) [会話] なんやかや (色々) 気にかかると カワナガレノモクズ きにかかると 言うわい (言います)

かわのはた 【名詞】 川の近く 川岸 (志)

かわのふち 【名詞】 川岸 (張)

かわやなぎ (川柳) 【名詞】御茶の名前 [会話] ちゃあ (茶) も カワヤナギ 言うのな (が) あるやんかい なあ (有ります)。お茶をなあ カワヤナギ 言う、まめちゃ みたよん (のように) しとんのを (しているのを) こや (これは) カワヤナギ やなあ (だ) 言うやんかい (言います)

かわら 【名詞】 側

かわら (かはら) (河原) 【名詞】河岸 カワハラの約 (広辞苑) (名、張) [会話] 川な (が) 有って、水遊びな (が) 有って カワライ (へ) バッチ干したよおな (ようだ) 言うて、洗濯してカワライ (へ) 干すと。カワライ (で) あおぬいて (仰向いて) だんばら (大きな腹) かえして (見せて) 寝とると (て居ると)、カワライ (に) バッチ干したよおん (ように) して 寝とられ (て居る) 言うて。川のはた (側) の 水遊びな (が) 有るとこ (所) を、カワラ 言うんやんかい (言うのです)。

かわらき。かわらけ (かはらけ) (土器) 【名詞】 1) 釉をかけないで焼いた杯、素焼きの杯 屠蘇を飲む杯 (志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、南、津、多) 2) 無毛の女性陰部 (志 (浜島、鶴方)、員、多、上、阿、張) [会話] 1) 盆のほとくさん、(仏さま) 今しや (今は) 霊供膳で するけど、昔や (は) カワラキ 土器で八寸の膳へ とおつうつ (十ずつ) 並べて。

かわらった。かわらったない (女性語)。かわらったれ。かわらったわい 買わなかった [会話] あれ こおて (買って) 来たか てや (と云えば) 買わんと (ず) に) 来ると 買わせんわれ (買いません) カワラッタレ 言うて

かわらぶき (かはらぶき) (瓦葺) 【名詞】 瓦で屋根の葺いてある事。又その家。[会話] 瓦で葺いてある屋根のことを カアラブキ。カワラブキ 言わんとな カアラブキ 言うの (のです)。カアラブキで あの家 や (は) 言うてな。くさやぶき や、カワラブキ や 言うて。

かわり (かはり) 1) 代る事、交代 2) 代理人 3) 弁償する (熊) 4) 御飯などを再度すすめる語 5) 衣服、用具の替え物、又その数 (替)

かわり。かわりえび 【名詞】 脱皮直後の甲羅の固まらないえび。又は、直前で古い殻の下に柔らかい殻を持つもの

かわりがわり (かはりがはり) (代々) 【副詞】 互いに代わりあって 動詞かわる (代) の連用形を重ねたもの かありがあり参照 (鈴木)

かわりばえ (かはりばえ) (代映) 【名詞】 代ってよくなる事。代った後の状態

かわりばん (かはりばん) 【名詞】 かわりばんこに同じ交代する事 (志 (布施田))

かわりばんこ (かはりばんこ) (代番) 【名詞】 交代でかわるがわるすること かわり、代わり、交替する事、又、その人や物他の人や物の代理をする事、又、その人や物 (志 (浜島、鶴方)、鳥、伊、員、上、阿、張、名) [会話] かためかためん (交代に) しよおや (しましよ) 言うて、かためかためん (に) しよおやん か 言うのをな かわるがわるする言うのをな、かためかためん (に) しよおやんか (しましよ) 言うてカワリバンコ言うて、かため 交代する言う事、交代にかためっこする 言うのな (のです)。かためがわり ん (に) しよおやんか 言うて、仕事しとても (して居ても)、どお (櫓) 漕んどても かわるがわるに代わる。代わるのな (のです)。代わる代わる しよお

や 言う事を、かためん (に) しよおや 言うて。麦 撒いとても (て居ても) 隣と かため撒き しよおや (しましよ) 言うて、今日は わたしげ (私の家) の 撒いたや (たら)、明日 あんたげ (貴方家) んの す つと (する)。田でも かため仕事 しよおや 言うて、かためん (に) する事を。その時は 二軒なり 三軒なりの人が 審つとて (寄っておいて・集まって) 次から 次の家 今日 は あんたげ 言うて すんのな (するの) が かため。二人なり 三人なりが 一軒の家 しとて、今日は わしんとこ (私の所) しよおや、明日 あんたんとこ (貴方の所) しよおや 言うて、かためん (に) すんのな (するのを) かためしごと、一人で しとると (して居ると) たんの (堪能・飽きる・いやになる) するし。

かわりばんこに 交互に、交代して。

かわりめ (かはりめ) (変目) 【名詞】 状態の変る時、変わる所。

かわりもん (かはりもん) (変者) 【名詞】 変人 (北) [会話] カワリモン やなあ (だ) あや (彼は) 言うてな、人より変った事 言うたり したりな ふう (格好) でもな 人より変った ふう する人、あやま (彼は) カワリモン やよつて (だから) あの ふう 見よま (見なさい) 言うてな

かわりやい (かはりやい) 【名詞】 代合、互に交代する事。

かわるがわる (かはりがはり) 【副詞】 交代で

かわろ 1) 代りましよう 2) 代りなさい

かわろか 代りましようか

かわろや 交代ましよう 代わりましよう [会話] どお (櫓) カワロヤ。どお 漕んどても (でいても) わしや (私は) 休んどる (でいる) もんで (ので) かわるわい (代ります・交替します) 言うてな、漕んどる人と 代んのな (代るのです)。座る場所をな あんたと (貴方と) こつちとカワロヤ 言うて 言うこと な。

かわん 買わない

かわんかい。かわんかな (女性語)。かわんかれ 買いなさい

かわんてて 買わなくても

かわんてない。かわんてわい 買わないそうです

かわんとけ 買わずにおけ

かん (筈) 【名詞】 かんの虫 かんむし参照 ひきつけを起す小児の病気 かんしゃく はげしい気性 (志 (布施田)) [会話] かんむし、かんむしな (が) 出て 押えて 貰いん (に) 行く 言うて、こらら (子供) カン

な (が) 起って夜泣きすると、うしろこぶと 目の間を、ふたくら (二度) 位 押えてもらおうと、楽ん (に) 寝よおった (寝ました)。薬もだ カンの妙薬 孫太郎虫 (まごたろむし) 言うの 飲ましたり しよおったけど (して居たが)、そやけど (しかし) 昔や (は) 年寄りの人らに 押えてもらいん (に) いきよおった (行きました)。押えてもらいん (に) 行く 言うて、うしろこんぶのみぞを 押えて、そして まいのき (眉毛) の あわい (間) と 押えてくれると、子供らな (が) どいらい (大変) 楽ん (に) 寝よおったの (寝たのです)、虫押える 言よおったの (言うて居たのです)。今しや (今は) あいな (あんな) 事あ (は) しやせん (しません)。医者い (に) 皆 行くよって (から) 夜泣きしたりすると 虫な (が) 出とんのやれ (出て居るのだ) 言うて、大人で言うて ストレスな (が) たまったのを 言うんやろなあ。(言うのでしょうか)

がん (くわん ぐわん) (龕、棺) 【名詞】 棺桶 かんひつぎ 死人を入れて葬るのに用いる桶 いろふねのりふね 俗に棺をガンといふは龕の義也。ガンヤなともいふめり。(倭訓栞) ガンヤ 死人を納める龕、棺、仏像を納める厨子。(鳥(鳥羽)、津、貝、熊) [会話] かんおけ 言うのをガンや (だ) 言うの。が**ん**びつ こさえる (作る) 人 な (が)、が**ん**びつ屋な (が) 矢浦ん (に) 有ったやんかい (有ったで有りませんか)。死んでくと (で行くと) その家い (に) 行くと こさえて (作って) くれん (るのです)。のりふね 言うんなあ (言います) が**ん**びつの事を、が**ん**びつ 言うて べつんも (特に) わり (悪い) もんで (ので) のりふね 言うて、がいな (大変) 聞き良いけど (聞こえがよいが) が**ん**びつ 言うな (のは) べつんも いやらし (いやらしい)。

がん (ぐあん) (願) 【名詞】 願い望む事

かんえんする。**かんべん**する 許す 耐える [会話] 勘弁して 呉れえ (下さい) 言うのかい (だすか)。勘忍して呉れ 言うて 今し (今) 言うの (のを) こらいてくれえ (許して下さい) 言うてな、カンベンシテモラワナ (なければ) 言うてな 言うのをな、こらいてもらわな (許してもらわなければ) 言う事、こらいて呉れえ 言うて、おお こらいたるわ (許してやる) 言うてな、カンベンスル。

がんおけ (ぐあんをけ) (棺桶) 【名詞】 柩 がん 参照 (松、尾、南)

かんおこす 1) 痙攣する 引きつける (南) 2) 腹を立てる、怒る。[会話] 2) ごおわかす (腹立てる) こと、

カンオコス。かんたてる とかな。今日は かんな (が) おきて 言うて ものすごい (大変) 腹な (が) 立つとる (ている) 時になあ あの、腹立てる 時をなあ (です)。おら (俺は) まあ今日は ものすごお カンナ (が) オキテ 言うて言うのな (です)。子供らでもな カンナ (が) オコルト 泣いて まあ 熱な (が) する時も あるしなあ (あります)、かんおこり やなあ (だ)、泣いて ばっか (ばかり) おつてなあ (居て) おおた (ああ) 守り すんのん (するの) 親な (が) 守りせな (子守りしなければ) はざんわれ (駄目だ)、かんな (が) おこつて (おこっている) まあ 言うて、かんむし おさえん (に) 行てもらわな (なければ) はざんわれ 言うてな。

かんおこり 【名詞】 子供が腹を立てて熱を出すこと [会話] 子供らでも かんな おこると (腹を立てると) 泣いて 熱な (が) する時も 有るしなあ (有ります) カンオコリ やなあ (です)。

かん**がえ** (か**ん**がへ) (考) 【名詞】 1) あれこれと頭を働かせて得た意見、結論、予想、覚悟 2) 他人の様子を探る よい機会をねらう [会話] 1) 師走の がえる (蛙) で か**ん**がえる (寒蛙)。これ しよおかいな あれ しよおかいな 思て (思って) カンガエル。カンガエな (なければ) はざんわれ (駄目だ) 言うてな、カンガエて せえまあ (しなさい) 言うて、何んでもむちゃくちゃに するとなあ、カンガエナシの はてなしや (果てなしは) 言うて カンガエル 言うて 普通に考える か**ん**がえる と、2) 色々お人の事 さぐったり すると 人の事 ばっか (ばかり) カンガエテ 人の悪い (悪い) 事 ばっか カンガエテ てやらな (とか)。

かん**がえごと** (か**ん**がへごと) (考事) 【名詞】 いろいろと考える事。特に心配事。

かん**がえなし** (か**ん**がへなし) (考無) 【名詞】 無分別の人 か**ん**がえ参照 (阿)

かん**がえもん** (か**ん**がへもん) (考物) 【名詞】 軽々しくしてはいけない事柄。疑問に思う事。

かん**がえられる** 様子をさぐられる 機会をねらわれる か**ん**がえる参照

かん**がえる** (か**ん**がへる) (考、勘) 【他ア下一】 1) 様子をさぐる 機会をねらう 2) 注意する 気をつける (張) [会話] 1) あれと (彼と) あれと (彼女と) よんべや (昨夜は) しとたや (していたら)、それを カンガエラレル 言うてな、うかごてなあ (窺って) あの家 なんしとんのかいな (なにをしているのだろう)

か) あれとあれと どげん (どんなに) しとらへんの
かいな (していないのか) 言うて、うかごたりな (窺
ったり) すんのをな (するのを) カンガエル。

がんがさ (雁瘡) 【名詞】皮膚病、湿疹、痒疹を言う 四肢に出来、非常にかゆい 俗に雁の来る頃に出来、去る頃に治るところから言う (員) [会話] よこねに ガンガサ 雁が鳴く時になるとな かさ (着) な (が) おこって (生じて) くるもんで (くるので) ガンガサ 言うんな (言うのです) よこねに ガンガサ 揚梅瘡 言うて

かんからかん 【副詞】 1) 干上って、一滴の水も無い状態 (志 (布施田)、北) 2) 何も無い事、無一物 [会話] 1) カンカラカン 言うな (のは) 乾き切つとる (て居る)、水も なんも (何も・全く) のおて (無く) て カンカラコ (に) なって言うて、カンカラコ 言うて 水気な (が) なんも (全く) 無いよん (ように) なってくと (いくと)、カンカラコ。2) そやけど (しかし) 米櫃でも 麦櫃でも、なんも 無いよん なってくと、米櫃もカンカラコに なつとられ (なつて居る)。水も汲みん (に) 行くもんで (ので)、水甕も カンカラコやれ (だ) 言うて、水な (は) 貰い水 しよ おったもんで (して居たので) 水道 無いし、隣ん (に) 井戸な (が) 有ると、貰い水 しよ おったもんで 水汲ん どけ (でおけ) 水甕 や (は) カンカラカン やれ (だ) 言うて。

かんからかんのすつからかん 【名詞】無一物、何も無い事。

かんからこ 【副詞】干上って一滴の水も無い状態 かんからかん 参照

がんがり 【名詞】貝や海草など海底にある獲物を採る道具 木杵に竹櫛をつけ石の重りで沈め船上より引張って採取する (志 (布施田、志島)、鳥) [会話] ガンガリ 天草ひく ガンガリも あるしなあ (有ります) ガンガリは ガンガリだけや (です)。三角の のいなあ (のへ) 竹の てえ (手) な (が) さらい (熊手) みたよん (のように) 付いとんの (ているのです)、それガンガリで こげた言うなあ (のは) 網な (が) ついとんの (ているのです)。

がんがりひき 【名詞】 がんがりを曳いて海底の海草を採る作業 [会話] ガンガリ ヒキ言うな がんがりを 漕んで (漕いで) 曳くの ガンガリ ヒキ や (です)。

かんかん (くあんかん) (看貫) 【名詞】 1) 竿秤 かんかん ばかりの略 (志 (布施田)) 2) はかり 目方 [会話] カンカン ハカリ なあ (です)、秤も カンカン

ハカリ言うのな 有て、竿秤 言うのも 有るし、わしらの時や (は) 皆 竿秤でかけんの (計るのです)。おらも (私も) 体 ちよいと (一寸) かけて (計つて) くれ 言うと、ぶらさがつて かいだりて (だるくて) は よ (早く) せえまあ (しなさい) 言うて ぶらと さ がりおったね (さがつて居たのです)。

かんかん (くわんくわん) 【副詞】日の光が強いさま 火がよく燃えて居るさま カカ (赫赫)の音便 (大言海)

かんかん (瘡瘡) 1) 気性の激しい事 すぐかつとなる事又、その人、強く腹を立てるさま 硬く凍ったさま 2) 硬く乾燥したさま

かんかん (缶缶) 【名詞】鐘 がんがんに同じ (志 (布施田)、鈴市、鈴郡、安) [会話] ちゃあ (茶)の ええ (良い)のは カンカン 入れたりして (入れて)。

がんがん 【名詞】缶 金属、特にブリキ製の入れ物 金属製の容器 (桑市) [会話] 缶の事なあ (です)。カンカンの事をガン言うて、いっしよ (一升) 缶でも ちっさい (小さい) 缶でも、カンカン ガン。一貫入りの カンカン や (だ) 言うて、昔や (は) カンカンへ 飴を 缶入りの飴 や (だ) 言うて かよおった (買っていました)、一斗缶で 買う家も有るし、三貫入りで買う家も有るし、昔や (は) かしん (菓子) 言うて そげん (そんなに) よけ (沢山) 買わせん やん ない (買わないでしょう)、無いし、贅沢な事 しや せん も んで (しないので) 家で、芋の飴炊いたり、とびきの飴 炊いたり (作る) して、カンカンへ 皆 詰めよおったの (詰めた・入れたのです)。

かんかんでり 【名詞】夏に日光が強く照りつける事 や かんでり (志 (布施田)) [会話] 雲 な (が) いっ ぺん (一片) なしん (なしに) 照とんの (て居るのを)、カンカン デリ。上天気の日を カンカン デリ。

かんかんばかり (かんくあんばかり) (看貫秤) 【名詞】竿秤 かんかん参照

かんかんぼお 【名詞】かんかん帽子 麦桿で作った夏の帽子

かんかんむし 【名詞】 1) かん 瘡 参照 かんをおこす虫 原因 2) はげしい気性の人、又その人に表現された現象 [会話] 1) カン カム シ な (が) 出て 言うて、カム シ な (が) 出たや (出たら)、押えて貰いん (に) 行た (行った) 言うて、虫取る ばあ やん (婆さん) な (の) と こい (所へ) 行きよおった (行つて居た)。

かんかんりゅう 【名詞】観海流 日本泳法一派 平泳ぎ

で遠泳に適する [会話] 猫おえぎ (犬掻き) から平泳ぎして カンカンリュウ で おえんで (泳いで) 言うて。

がんぎ (雁木) 【名詞】 軒先 ガンシ (雁歯) 雁行の歯牙の形をしたものの木の意 (大言海) (南) [会話] 家ののき (軒先) の事 ガンギ 言うて、軒先 石 ちよいと (少し) ガンギイシ やるやんかい (埋める)。ガンギの石や (だ) 言うて、いずいし (伊豆石) を 今しゃ (今は) コンクリヤけど (だけれど) ガンギイシ や (石です)。

がんぎいし (岩岐石) 【名詞】 四角な棒状に切った石で、伊豆地方に産する物を多く使った、御影石 がんぎ参照 (志)

かんきよ (閑居) 【名詞】 1) 隠居した人が更に隠居して住む所 (志 (立神、志島、国府)、鳥 (相差)) 2) 未婚の女性の別宅 [会話] 1) 隠居 本屋 カンキョ 言うて、隠居の次な (が) カンキョ。カンキョ言うな (のは) 有るけど、隠居しといて (しておいて) 又、その次い (へ) 隠居してくのを (して行くのを)。隠居 本屋 カンキョ 言うて、昔や (は) カンキョ カンキョ 言よおったけど (言うて居たけれど) 今しゃ (は) そいな (そんな) 事 言わせん (言いません)。

かんぎょう (かんぎやう) (寒行) 【名詞】 念仏講の人が寒の日の内三日間を各家に念仏して布施を受ける習慣。本来の寒行は寒の三十日間毎夜、寒苦に耐えてする修行 その功德は、他季の平易な修業に勝るとされた。 [会話] カンギョオ 言うな (のは) 寒になると、新念仏の人らな (人が) かどまわり (門回り) して来る やんない (でしょう)、あれ カンギョオ 言うのなあ (言うのです)。

がんくび (雁首) 【名詞】 1) キセルの煙草をつめる部分 2) 人の首 頭 人数 3) 亀頭 [会話] 1) 煙管のガンクビ、蝮な (が) こえんして (首をあげると) するとな ガンクビもったてて (持ちあげて) あや (あれ) 言うてな。こんこんと 叩いても 憎くて 叩くと思ふなよ かわいけや (可愛ければ) こそまた 口で 吸え 言うてなあ、きせる。2) ガンクビ 揃えて 言うてなあ よけ (沢山) 集って すると ガンクビ揃えとんね よお (ているのだ) あしこい (あすこえ) 行けまあ 言うてなあ、あやまあ ガンクビ揃えとるよお (ています)、頑固なお (の) ばっか (ばかり) 言うてな。

かんぐる (勘繰) 【他ラ五】 1) 案ずる 思案する 2) 邪推する [会話] 2) カングル言うのは、うたごて (疑って) 人の言うとる (言うて居る) 事 聞いとて

(て居て)、あやまあ (あれは) なつと (何と) 言うと んかいなあ (言うて居るのかなあ) 言うて (言うて)、こちらで 考えとん (て居る) のおを (のを) カングル 言うんかいなあ (のでしょうか)。内緒 (内密に) しとるやんない (して居るでしょう)、そすと (そうすると) 外で あの人ら (達は) なん (何) しとんねかいな あ (して居るのだろうか) 言うて、外で聞いとる (て居る) 事を、カングル 言うね (言うのです)。考えとるもんで (て居るので) カングル 言うんかいなあ。

かんけえ (くあんけい) (関係) 【名詞】 男女間の交わり かんけいの詛。

かんけえする (くあんけいする) 男と女が情を交わす性的交渉を持つ [会話] おなご (女) と 男と カンケエスルとか。あの男と あのおなご (女) と カンケイな (が) あんねてわい (あるそおだ) 言うやんかい (言います) 交わる事をな。

かんこ 【名詞】 活魚倉 かめ 生賛参照 漁船で獲った生魚を活しておく場所 (志 (布施田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、伊、桑市、鈴市、度) [会話] カンコ 魚入れる カンコ、船のカンコ、オモガンコ へガンコ。オモガンコ 言うな (のは) おっきい (大きい) ので、へガンコ言うな (のは) その次ん (に) ちっちやい (小さい) のおな (のが) 有って、魚を 別々ん (に) 活ける時や、 (は) オモガンコと へガンコと 二つい (に) 分けて。

かんごえ (寒肥) 【名詞】 寒中に鳥の肥料をやる事、又 その肥料。

かんこお (かんこう かんかう) (勘考) 【名詞】 思案 工夫 (志 (布施田)、鳥、桑郡、桑市、上、阿) [会話] 考えな (なければ) はざんわれ (駄目だ) 言うことを、カンコオ な (が) 無い 言うてな。カンコオせな (しなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うのをな、考えな (なければ) いかんわれ (駄目だ) 言う事を、こげん (こんなに) しよお思て (思つて) カンコオ しとんねよお (しているのです) 言うな (のは) 考えとる (ている) 言う事や (です)。こやまあ (これは) こおして ああして 思て カンコオしとんね 言うて

かんこなもめる 1) 大漁でかんこの内が一杯になり魚が自由に動けないさま 2) 大勢でさわぐさま [会話] 1) かんこ一杯 魚 よけ (沢山) 活けると、ごちやごちやするわい (します)、そやよつてん (それだから) カンコな (ガ) モメルよつてん (から) へがんこ いも (にも) 分け (分けろ) 言うて、そげんして (そんなに) する時も あるわい (有ります)。

かんこぼり【形容詞】充分に堅く膨れて居る事(志(布施田)) [会話] 腹 な (が) 張ってカンコバリ やよお (だ) 言うてな、食べすぎてなあ 腹な (が) 張って 腹な (が) かちかちん (に) なつてく (なつていく) 時な (が) あるやんかい (有ります)、それを 腹な (が) カンコバリ や (だ) 言うのな。水 飲んだり、よけ (沢山) すると ばんばん になって くるやんかな (来ます)、それを カンコバリ。河豚でも この河豚の腹 見よま (見なさい) カンコバリ やなあ (だ) 言うたりなあ。膨れるとなあ、カンコバリ や (だ) 言うなあ (言います)。ふくろんどる (膨らんでいる) ことをなあ 何んでも 一杯ふくろんどるのを カンコバリ やなあ 言うてな、物入れて ふくろんどてもなあ (膨れていて) おっかい (大きく) になって、硬い言うこと や (です)。物凄 おっかい になって、ま かつとお (硬く) になって しとんのをな (しているのを) 今にも まはり さけお なのおを (のを) カンコバリ 言うねな (言うのです)。袋入れ とてもな (ていても) 米や 何んやかや 入れ とても そやま (それ) 袋な カンコバリ やない (だ) しや (それ) はり さけて くど (張り裂けて行くぞ) 言うて よお 言よ おった (言っていました) 今まさ はり さけんと する様 なのを カンコバリ と 言うん やろな (言うのでしょ)。

かんごみ【名詞】ままごと(志)

かんころ【名詞】雑穀飯の一種(志)

かんざげ (燻酒)【名詞】燻をして温めた酒

かんざまし (燻冷)【名詞】飲み残して銚子の中で冷えた酒、燻の冷えたもの [会話] 酒の カンザマシ 酔えん、カンザマシ よえん 言うて、銭 四円 出 し と いて (出しておいて) こや (これは) なんどい (何ですか) てや (と問うと)、カンザマシ で よえん。カンザマシ 酔 わせん (酔わない) よつて (から) カンザマシ 持 て 来 と いて (持って来ておいて) こや (これ) なんどい てや 四円。

かんさん【名詞】神様 [会話] カンサン へ 上げ た の (供えたのを) さげ る (おろす)。

かんじえたれ 1) 数えてやれ 計算しなさい 2) 数えました [会話] 1) 数える ことを カンジェル 言うて、それを カンジェタレ 言うて、かんじよ せえ (計算しなさい) 言うのを、えごと (十分に) カンジェタレ 幾つ あるど (あるか)、お金でもいくら 有るか カンジェタレ 言うて。

かんじえとる 数えて居る [会話] 具合 な わり いて (病氣して) ひが ない ちんち (一日中) 寝 と ると (寝てい

ると)、てんじよ (天井) の板 カンジェル 言うてな。

かんじえる 数える(志、鳥(加茂)) [会話] 数える ことを カンジェル 言うてな、それを かんじえたれ まあ (数えてやれ) 言うて、かんじよ せえ (数えよ) 言うのをな、えごと (十分に) かんじえたれ まあ いくつ あるど (あるか)。お金でもいくら 有るか かんじえたれ 言うたり、かんじよ (勘定) したれ (してやれ) 言うたりな、かぞえる 言うことを カンジェル。

がんじからみ。 **がんじがらめ** (雁字搦)【名詞】雁字雁が一列に整然と飛ぶさまを文字にみだてて言う語がらみ 絡み からむ事 まきつく事 1) 縄や紐を上下左右から幾重にも巻き付ける事(志(布施田)) 2) 精神的束縛を受けて自由に動けなくなる事 [会話] 1) カンジガラメ 言うて、いご かれん よ お に (動けないように) ひくく つて (堅くくつて) あん の (有るのを) ガンジガラメ 言う やんかい (言います)。よお いご かん (動けない) よおん (ように) ひち なん から げん (に) して 捲 いて 捲 いて しとく と (しておく) ガンジガラメ ん (に) お お た (あつた) ガンジガラメ ん (に) し や れて (されて)。いく巻きも捲いて 金縛り みたよん (のように)、いご かれん よ おん しと ると (して居ると)、ガンジガラメ や (だ) 言うて。ひちなんからげ 縄で捲いて 捲いて、ひちなんからげ 言うの、七巻も捲いたの 言うん やろな (言うのでしょ)。ひちなんからげんして 言うて よけ (多く) 捲いて有る事を こや (これは) ひち なん から げん (に) して 有ん ない (有る) 言うて。

かんしゃ【名詞】疝の強い人、気性の激しい子供 かん しよ 参照

かんしゃく (癩癩)【名詞】腹の立つさま 少しの事でもすぐ激怒する性質 カン (疝) の病の積る。(大言海) [会話] カンシャク (癩癩) 持 ち や (だ) 言うて、気 な (が) 短 い 人 カンシャク ダマ で あや (彼は) 言うて、じっ きん (すぐに) 怒 つ て 来 る 人 を、じっ きん 怒 つ て 来 て、気 な (が) 短 こ お て (かくて) カンシャク ダマ や ど (だ) あや (彼は) 言うて。

かんしゃくだま (癩癩玉)【名詞】腹の立つさま 怒りの気持ちが玉になって体内に溜まって居ると考えられる事から 癩癩に同じ

かんしゃくもち (癩癩持)【名詞】すぐ腹を立てる人(志(立神))

かんしよ (癩症)【名詞】神経質な人 気性が強くてすぐ感情を激しくする人(志(布施田)) [会話] カンシヨ

カンシャク、疝な (が) 強い子 かんしゃく持ちや (だ)、あや (彼は) カンシャ なねえよって (のだから)、搔きむしって おこした (よこした) てら (とか) 言うて。よお (よく) 喧嘩すると 言よおった (言っていました)、カンジョ 言うて 気な (が) 短こおて (短くて) こんじょ (根性) な (が) わりて (悪くて) すんのを (するのを) カンジョ

かんじょ (かんぢやう) (勘定) 【名詞】 1) 計算する 支払いをする かんじょの略訛。(桑市、多) 2) 給与 3) 仲間に入れる 考えに入れる [会話] 1) カンジョ 言うのは 物を数えるのも カンジョ、銭を数えるのも カンジョ、物 獲ったのも。寝間カンジョ 言うのも 有るし 金のなあ カンジョ すんのを (するのを)、金ばかや (ばかりで) 無しん (無くて・無しに) 物も数えるのおを (のを) カンジョする 言うわい (言います)。カンジョ せえまあ (しなさい) 幾つ あんど (ありますか) 言うて、しなもん (品物) でも カンジョ しとけよ (しておきなさい) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。数 取つとく (計算する) 事を カンジョ しとけ 言うて。
3) 仲間に入れといて (ておいて) 言うのも それを一人、二人のカンジョや (だ) よって (から) それを おらも (私も) カンジョん (に) 入れといて (ておいて) くれよお (下さい) 言うて。

かんしよお (癩症) 【名詞】 かんしよに同じ

かんじょお (かんぢやう) (勘定) 【名詞】 かんじょに同じ (度)

かんじょがき (かんぢやうがき) (勘定書) 【名詞】 計算書 請求書 領収書 [会話] カンジョガキ 言うな (のは) 請求書 かんじょ して呉れえ (して下さい) 言うて 請求書 書いて 呉れ言うのを かんじょして呉れえ (して下さい) 言よおったのな (言っていました)

かんじょかた (かんぢやうかた) (勘定方) 【名詞】 計算関係の事務を行う事 会計係 [会話] あん人は まかないに 付いたんてわれ (付いたそうだ) 言うて 組合のカンジョカタする人を まかない (賄い)。

かんじょくり 【名詞】 こより 紙縫 観世より 和紙を長く切って、よりを掛けしたもの これを更に二本、三本とより合わせて強度を増した物もある。より継ぐ事に依って短い紙片から長い紙紐を作り出す事も出来る [会話] カンジョクリ 言うて、かんよくり カンジョクリや (と) 昔や (は) 言よおった (言っていました)。みりがみ (和紙・二厘紙) で、よつといて (ねじ

て) 磯 (海女) 行くのん (のに) ねまき (根巻) や (だ) 言うて 爺やんな (が) よって くれよおった (くれて居ました)。いそまげ (海女仕事の時の結い方) ん (に) 結うて、それを からげん (くくる) のおん (のに) カンジョクリを ほっそお (細く) しといて (しておいて)、それを みいこによって (三本組み合わせて) ねまきや (だ) 言うて。いそまげ 結うて (結って) ほどけて来んよおん (来ないように) きりきり巻いて、磯から 上がって来ると、磯籠の紐い (へ) きゅつと 結んどいて (結んでおいて) ねまきや (だ) 言うて。

かんじょごつお 【名詞】 その月の仕事に対しての支払いをした後 皆が祝宴を行う事 [会話] 何んやかやして そして おまや (お前は) いくら おまやいくら 言うて、かんじょ (労賃) 貰ろてすと (貰うと) まその後でなあ カンジョゴツオ やろや (しましよ) 言うてな、後で ごつお (御馳走) すんな (します)。うちあみでも なんぼくでも するとなあ 月 ごつと (毎に) かんじょ (計算) して 親方な (が) 呉れると 今日 は カンジョゴツオやよって (だから) こいよお (来なさい) 言うて よばれてきよおった (招待されて行きました)

かんじょする 計算する 給与を支払う (志、鳥、伊、松、津、鈴市、鈴郡、四、安、一、飯、多、上、阿、度、北、南、熊) [会話] 金をなあ 分けて呉れん (るのを) 魚 とてきたの (獲ってきたのを) いちい (魚市場へ) 渡して あんのをな (あるのを) お前いくらや (だ)、お前 いくらやどお (だ) 言うて 組合で 貰ろて来てな (貰って来て) そすと (すると) こんだ (今度は) またその ねまかんじょ してなあ、いくら いくら 言うて 呉れるやんない (呉れるでしょう) それを カンジョスル そすと した後で、かんじょごつおや (だ) 言うてな ごつお (御馳走) してな (して) ごつお 言うたてて (言っても) ごもくして 食うぐらいやわいな (です)。

かんじょだかい (勘定高) 【形容詞】 金銭などの計算が細かく損得に敏感である。けちけちして居る (志 (布施田、鶴方、立神、志島、国府)) [会話] カンジョダカ イやなんや (とか) 言うのは 欲しんぼ (欲深) で きぶい (きつい) と 又 違うね。

かんじょづく (かんぢやうづく、かんじやうずく) 勘定 尽 金銭ですべての事を処理する事。事をするのにすべて損得を考へて行動すること。

かんじょもぼおんもあわん 全く利益がない かんじょ

んあわん参照

かんじょり【名詞】 かんじょくりと同じ(鳥、三、上、阿)

かんじょんあわん 損をする 割に合わない [会話] そいな (そんな) 事 しとたら (していたら) カンジョンアオカレ 言うてなあ。日にち (日数) よけ (沢山) かけて そいな (そんな) 事してなあ そんだけやどけ (それだけ程) もろたら (貰ったら) カンジョンアワン 言うて、損する言う事や(です)。お医者さんな (が) 薬 調合すん (る) のも ぜん (銭) も よお払わんのん (払えないのに) よけ (沢山) 高級な薬つこて (使って) したや (したら) カンジョモ ポオンモ アワセンワレ、そげな (そんな) ねえ (値) の ええ (よい) 薬 出したたら (出してやったら) 言うてなあ。

がんじる【名詞】 汁の中の野菜類等具のない、汁のみの状態 [会話] ガンジル 言うのは、なんも (何も) 汁の実 入れんと (入れずに) 味噌汁そのまま。おつけ実 入れんと おおた ガンジル やなあ (だ) 言うて、汁の実 入れんと すんのを (するのを) ガンジル。味噌だけ炊いたのおな (のが) ガンジルやなあ (です)。汁の実な (が) 少ないと おおた (ああ) ガンジルみたいやなあ (のようだ)。そして 死んだおりん (時に) たてじる するもんで (ので) あんで (あれで) あれを (名前を) して有んねやろなあ (有るのでしょう)。実 入れやせんもんで (入れないので)。実 入れんと 死んだおりん (時に) たてじるや (だ) 言うて、味噌入れて 飯と汁。お盆でも 霊供膳へもる (よそう) やんない (でしょう)、その時ん (に) ガンジル、たてじる 言うて 味噌へ 水落と して とくだけを、たてじる。ガンジル 言うななあ (のは) おつけの実な、(が) 何も 入れんと、味噌と だしと そんなり (そのまま) 炊いたの、ガンジル。

かんす(くあんす)【名詞】 茶に使う湯を沸かす釜 茶釜 禪家より出た語 (大言海) (志 (浜島、布施田、片田、船越、鶴方、神明、志島、甲賀)、鳥 (坂手・石鏡)、津、鈴市、上、阿、張、名、熊) [会話] 茶釜、茶釜の事 文福茶釜な (が) 有るやんかい (有ります)。あいなのお (あのようなのを) 茶釜 あれを カンス 言うの (のです)。

がんず【名詞】 全く耳の聞こえない事 [会話] 耳な (が) ガンズ やよお (だ) 言うてな、耳な (が) 聞こえやへんのをな (ないのを) ひとつつも (全く) 聞 こえやへん。声は 聞こえても、つぶな (内容が) 判

らせんね (判らないのです)。ガンズで まあ ひとくらごと (一度ごとに) 問い返さな (なければ) はざん (いけない)。

かんすじ【名詞】 青筋 顔面 特に額の静脈の怒張したものの(南、熊)

かんすじたてる 腹を立てる(熊) [会話] かんすじ 言うて ごおなわいて (腹が立って) 顔も 真っ赤してなあ してくると、そして、こめかみい (側頭部に) いもがら (薩摩芋の茎) 干したよん (ように) しとんなあ (しているなあ) 言うてなあ。怒って カンスジタテルと、あやれ (あれ) いもがら 干したよん しとんない (している) 言うて、よけ (あまり) 怒つとると (ていると) 言いおった (言っていました)。ご おおかして (腹立てて) カンスジタテル 言うて、あやまあ カンスジタテテ いもがら ほしたよん しとられ (している) 言うて。カンスジタテルは ごおなわいて (腹が立って) ごおなわいて しよな (しかたの) ない時ん (に) カンスジタテル言うてな。

かんぜた 数えた

かんぜたれ 数えてやれ

かんぜとられ 数えて居る かんぜとる参照

かんぜとる 数えて居る 計算している(志) [会話] かぞえる 言うの (のを)、かんじよ (計算) しとる (している)、カンゼトル言うてな。かぞえんのを (えるのを) カンゼトル。何んやかや (いろいろ) あやれ (あれ) かんじよしとられ (計算している) 言うて、カンゼトラレ 言うね (のです)。

かんぜる 数える 計算する(志(神明、立神)、鳥(加茂)、伊、員、三、鈴市、鈴郡、一、上、阿、張、名) [会話] 一ケ ニケ 言うて カンゼル。

かんぜるほど 少し

がんぜん【名詞】 うに 海胆の一種 バフンウニ、オオバフンウニ科、殻径5cm、殻高2cm上下にやや扁平な球状、短くて細い棘が全面に有り普通暗緑色をしている(志) [会話] まるきたい (丸い) の (のを) ひげな (が) 短い (のを)。うに 言うな (のは) 針が長いし、ガンゼン言うな 針が短い。わしらの時分(時) にや (には) ガンゼン みたよなもん (のようなもの) せせかして (面倒くさくて) 食わらった (食べなかった) よって (から)、うにばつか (ばかり) とりおった (獲っていました)。今しや (今は) うにな (が) すけない (少ない) もんで (ので) ガンゼン も皆 獲て来といて、(来ておいて) かなみ (金網) い (に) すえて (のせて) 焼くと、その実、取ると ど

いらい (沢山) いっとるの (入って居るのです) うま
いねてや (美味しいのです)。おらな (私達が) 行く時
分 (頃) こいなもん (こんなもの) 相手に せらった
けど (しなかったが) うにな (が) 無いもんで 言う
て、ガンゼンも、皆 焼くの (のです)。うにばな
(は) 獲って こや (これは) 商売にして。

かんだかい (疝高、感高) 感性が強い 疝が強い 気性
が激しい [会話] カダカイ子は わあわあ言うて来
ると、(泣いて来ると) くちびろ (唇) の色な (が) 紫
になって来て。

かんだしび 【名詞】海魚 びんなが鮪 (志)

かんだてる (疝立) 腹を立てる 癩癩を起こす 怒る
[会話] ごお わかす (腹立てる) こと かんおこす
カンタテルとか

かんだり 【形容詞】倦い (北)

かんだるい (腕弛) 【形容詞】だるい 倦い (度、南) [会
話] カダルイ 言う にげ もあるし、かいだり
(だるい) 言う にげ (人間) も有るし。

かんだんふく (簡單服) 【名詞】単純な形のワンピースで、
多くは夏の婦人用家庭着として用いられる。

かんち 【名詞】 1) 一眼の倒語 目いちの転 片目、又
は片目の人 転じて体の働きの不十分な人 (志 (鶴方、
浜島、布施田、御座、船越)、鳥 (答志)、員、桑市、
三、鈴市、鈴郡、上、阿、張、名、南) 2) 炊き損じ
て芯のある飯 半煮えの飯 かんちめし (志 (鶴方、
神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、南) [会話]
1) カンチ 言うな (のは) めえな (眼が) かたつぼ
(片一方) より 無い カンチも有るし、2) 御飯の飯
な (が) 水がすけないと (少ないと) 米が開かせんの
(膨らまない)。そして ひい (火) 炊く時や (は)、
火回りがわり (悪い) と カンチな (が) 出来んね
てや (出来るのです)、かたいつぼ (片一方) 煮えても、
かたいつぼ 火回りのせん (しない) とか (所は) 飯
ん (に) ならんと (ならず) カンチで、それ カン
チ 言うな (言うのです)。

かんちがえ (かんちがへ) (勘違) 【名詞】かんちがい
考え違い 思い違いをする事

かんちめし 【名詞】炊き損じて芯のある飯 半煮えの飯
かんち参照 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国
府、安乗)、鳥 (鳥羽)、一、飯、北、南) [会話] 飯
な (が) こちこち はんぶ (半分) 煮えて、はんぶ
煮えんとなあ こちこち しとるとなあ (してい
る) カンチメシや (だ) 言うてな。かたいつぼあ (片
一方は) 米でおるし、かたいつぼ 煮えとんのに (て

いるのに) しとんのをな (しているのを) カンチメシ。

かんちゅう (顔中) 【名詞】顔面の中風、顔の機能が一
部損なわれること [会話] 口な (が) 引きつった言
うて、横い (に) してくと、あのかた (人) ガンチュ
ウやなあ (だ) 言うて、口な 横いひきつつたてや
(とか) めえ (目) な、ひきつたてやらなあ。

かんつ 【名詞】すぐ腹を立てる人 (志 (浜島、布施田、
鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、伊
松、一) [会話] カンツ言うな (のは) 疝の高い人
疝の強い人。かんで じっきん (すぐに) 怒って来て、
カンツやよってまあ (だから) 言うて、じっきん 腹
立てて来るにげ (人間) を、カンツや (と) 言うわい
(言います)。

かんづく (勘附) 【自力五】気付く、それとなく察す。

かんづよい (疝強) 【形容詞】気性が激しい。

かんでき 【名詞】七里 こんろ (志 (立神)、一、上、阿、
張、名、南) [会話] こんろ (焔炉) のこと カンテ
キや (だ) 言うて かぬののおな (のが) あよおつて
なあ (有って)、カンテキや (だ) 言うて かぬののこん
ろを カンテキや (だ) 言うて 言よおつた (言っ
ていました)。

かんでら カンテラ 【名詞】灯火具の一種 銅、又はブ
リキ製の 綿糸を芯として火をともし 携帯用石油灯
ラテン語 candela (燭台) オランダ語 cau
delaar (燭台) から (南) [会話] カンテラ
言う と 四角な よおすま (四隅) は ブリキでな
それい ガラスな (が) してあつて よなべ すん
ん (するの)に それ たてとると その すみい (隅
に) 来ると 暗ごおてなあ (暗くて) それを きゅ
きゅと 回しやいしてなあ

かんど (勘当) 【名詞】絶交する事 親に見放される事
かんどの变化した語 (志 (片田、布施田)、鳥、上、
阿) [会話] カンド、親にカンドされた 言うのかい
(ですか)。親に見放された 言う事やなあ (です)。
カンドや (だ) 言うて、おらん (私達の) ちっちゃい
(小さい) 時分 (頃) にや (には) カンドや のこぎ
りや 言うて 親ん (に) カンド しやれたね (され
たのだ) 言うて。

がんど 【名詞】大型の鋸 がんどからの転か ががり
木を挽く時の音からと言う大鋸 おがの転おが 大鋸
おおのこぎりの転 切り出した木を板に挽くための縦
びきの大きな鋸 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立
神、甲賀、国府、安乗)、鈴郡、阿、度) [会話] ガン
ド言うな (のは) きい (木) 切る鋸、鋸は ひらくた

い (平である) んなし (のですし)、ガンド 言うのは柄のついて ちよいと (少し) 曲がっとの (て居るのを)、そして めえ (歯) が 大っかい (大きい) の おを (のを) ガンド 言うて、こまかい (小さい) の おを 鋸 言うね (言うのです)。ガンドと 鋸や (は) 違うね (のです)、ガンドなあ 縦びきする 板を 挽くのを、ひらくとおて (平らで) 真っ直ぐん (に) なっとの (なつて居るのを) ガンド、のこ (鋸) 言うのは 曲がって 木切るのなあ (のです)、そしてだ (そうして) 大っかい のは のこでも あざりな (が) 大っかい。めえ (歯) な (が) たっかい (高い) の おと (のと) ひっくい (低い) の おと (のと) 有んなあ (有ります)。あざりな (が) 大っかいとか ひっくい (低い) とか 言うなあ (言います)。あざり 言うな (のは) 目を あざり 言うの (のです)。たっかいとか ひっくいとか 言うて、あざりな (が) おっかいと き切んの (切るのに) ざらざらとするし あざりな (が) こまかい (小さい) の おが くずな (が) こまこお (小さく) なるやんない (でしょう)。ガンドと 鋸は 又、違うね (のです)。ガンドは 縦挽き 言うて 板、挽く時ん (に) 大工な (が) 使うやんない (でしょう)。あんな (あれが) ガンドなし (ですし)、そして 山へ持つのは 鋸。鋸でも 大きい木 切るよおん (ように) なると、あざりの おっかい たっかいの、木挽な (が) 持つ あれ あざりな (が) おっかい やんない。あいな (あんな) の おは (のは) 大っかい木 切る時んなあ (に)。

かんどころ (肝所) 【名詞】肝心な所。急所。

かんどつくり (爛徳利) 【名詞】酒の爛をするのに用いる徳利 とつくり (とくり) かんびん参照 [会話] カンドックリ、ありよおったやんかい (有ったで有りませんか)、しいろい (白い) のおな (のが)、いっしょどつくり (一升徳利) 爛すんの (するの)に 紐つけて、釜い (に) 入れて ガンドックリや (だ) 言うて、あの 神崎与五郎な (が) 振り回し 歩いとる (歩いて居る) やんかい。

かんとどよおと 【俚語】死人の多い季節

かんどる 仲間に加わって居る 加担して居る

かんどる 1) 嗅いでいる 2) 嘔んでいる

かんなくず (かんなくづ) 【名詞】鉋で削った木屑

かんなたつ 腹が立つ

かんなべ (金鍋) 【名詞】金属製の鍋 土鍋に対して [会話] カンナベ 今しの (今) あの鍋 かね (金属) の鍋をなあ カンナベや 言うてな

かんならず 必ず [会話] 富士詣り 行て (行つて) 来た人ら (は) カンナラズ あらめさんえ (に) 参り おったやんかい (居ました)。

かんに。 **かんにん** (堪忍) 【名詞】忍耐する 怒りをこらえて 他人の過ちを許す事 こらえる事 (鈴市、安、上、阿、張、名、南) [会話] カンニン言うのは 忍耐する言う事を。“忍ぶと言う字を分析すれば 心は刃の下に住む” 言うの (のです)、心無くては忍ばれん 言う その カンニンや (です)。堪忍袋の 緒な (が) 切れた 言うやんかい (言います)、業な湧いて (腹が立って) しとんのを (して居るのを) しんぼ (辛抱) して しんぼして しんぼしいきれんで (辛抱しきれなくて)、尻の先い (へ) 突き通つてら (とか) 言うて。

かんにん (ぐあんにん) (願人) 【名詞】1) 訴を出した人 2) 願いをする人 祈り願いをする人

かんぬき (くあんぬき) (間貫木) 【名詞】支柱 芯張り棒 クワンノキの 転 関の 木の義 (大言海) カンノキの 転 (広辞苑) (熊)

かんの 借りるの 借りるのです [会話] あんなげん (貴方の家に) 有るもん (物) 借してくれえ (借して下さい) 言うて カンノ。

かんのあめはのり 【俚語】寒に降る雨は糊のようになる [会話] カンノアメハノリん (に) なる 言うて、かん (寒) には 雨な (が) よけ (沢山) 降らせんもんで (降らないので) 雨な (が) 降つたのを 今度 乾かすと ぱんと なるもんでな (もので、カンノアメ (は) ノリん (に) なる 言うて、かん (寒) 言うのは だいかん (大寒) しよおかん (小寒) のなあ、かん (寒)。そして かんには そげん (そんなに) 雨な (が) よけなあ 降らせんもんでなあ その降つた雨は 糊やれ (だ) 言うて 濡れても 乾かしとくと (ておくと) ぱんぱん なるもんで カンノアメ ノリん (に) なる 言うて

かんのき (貫木、門) 【名詞】1) 戸、門扉などが開かないように横にさす木 かんのき 貫木の 変化した語 かんぬき 2) 支柱 (南) 3) 船首に有る部分 (四、鈴) [会話] ① カンノキ いれる 言うて、時化 (台風) な (が) して来ると、戸な (が) 落つて こんよん (こないように) 棒で カンノキ通し な (が) あつて、それい (へ) すんのな (するのが) カンノキ。それから ③ 舟にも おもて (船先)の 端に カンノキ 言うの な (が) あつてな、そして、錨あげるときや (時は) それい (へ) おらえと いて (支えておいて) すんのな (するのです)。カンノキい (に) 縛つと け

(ておけ) 言うてな 言よおった (言っていました)

かんのし (神主) 【名詞】 神に仕える人 神官 神職 神のウシ (大人) の約 (大言海) (志、鳥 (加茂)、伊、員、三、鈴郡、安、名、尾、南) [会話] 神の のし カンノシ、神主さん ねぎさん (称直さん) のこと 神主な (です) かんぬし、よお 言わんと カンノシ。

かんのたつ 腹が立つ じれったい いまいましい (上、阿、張) [会話] 腹の立つ時 カンノタツ時、疳な (が) たつ時や (は) 茶碗で 酒飲んで ひといき (少しの時間) やすませ (寝させ) 言うて、その腹な (が) 立つのなあ (のを) カンナ (が) タツ言うね (のです)。ごおのわくこと (腹の立つこと) それを カンナタツ 言うねやんかい (言うのです)。今日は まあ カンナタツ カンナタツ 言うて よお (よく) 言よおったやんかい (言って居たで有りません)。ごおなわいて ごおなわいて 言うのをなあ カンナタツ カンナタツ ま しよおなのおて (しかたなくて) 言うてな。

かんのばい 【名詞】 どんぐり (志)

かんのぬれつち 雨の後で風の吹く事

かんのむし (害虫) 【名詞】 神経質の者 気性のはげしい 事 疳の病原と考えられる虫。(志 (立神、志島、国府)) [会話] カンノムシな (が) おさまらん 言うやんかな (言います)。ごおなわく (腹の立つ) 事を 言うんやろな (言うのでしょうか)。

かんのもどり (寒戻) 【名詞】 春になって異常に寒くなる現象。

かんのんさま (くあんおんさま)。かんのんさん (くあんおんさん) (観音様) 【名詞】 1) 女陰 (志、鳥) 2) 虱 シラミの六本の脚が千手観音の多くの手の様だから。(方言俗語源辞典) (伊、上、阿、張、北) [会話] カンノンサン 言うな、(のは) 拝む カンノンサンも 有るし、おなご (女) の前も カンノンサン。ひやあれまあ (ひやあ・感動詞) カンノンサン出して 言うてなあ。カンノンサン 出して まあ カンノンサンに 御利益な (が) 有って 言うて。カンノンサンで、男よおする人 (多淫な女性) あや (彼女は) カンノンサン 御利益を受けて 言うなあ。

かんぱく (くあんぱく) (関白) 【名詞】 人の言を入れず、自分の思う様に振る舞う人。

かんばし 【形容詞】 香ばしい、よい匂がする。コウバシの音便 (大言海) カグハシの転 (広辞苑)

かんぱち (間八) 【名詞】 海魚 アジ科、全長1、5mに達する魚形は鰯によく似て居るが、体高が高く鰯のよ

うな青味が無く、背部は赤紫色を帯び体側の淡黄色の一縦帯が有る。(志、鳥、北、尾)

かんぱる 言いつのる。腹を立てて言いつのる。頑張るの訛りか。

かんぱん (爛番) 【名詞】 酒の爛をする役 またその人 [会話] 酒のカンパンする 言うて 今しやまあ (今は) 家で しやせんけど (しないが)、家ですると カンパンな (が) おってな (居て)、結婚式や 初午や 言うとな、カンパンや カンパンや (だ) 言うて 大きななあ 一升徳利で かん (爛) しといて (しておいて)、そして 銚子い (に) 移してな 座敷なあ 出してくの (出して行くのです) カンパン (爛番) な (が) ついとて (ついていて) 言うてな。こやまあ どんかん (爛がぬるい) やんかあ (ではないか) てやらな (とか)、つきすぎ やてら (だとか) 言うてなあ 飲むもな (者は) じゃじゃ (文句) 言うてな。

かんぱんもち (看板持) 【名詞】 その道で有名な人 その人の行為が世間に知れ渡って居る事 [会話] あや (彼は) カンパンモチやなあ (だ) 言うて、何んでもあの人 偉いなあとかな、何 何な (が) あの人 カンパンモチ や (と) 言うね (言うのです)。ええこと (よい事) すや (すれば) ええの (よいの) カンパンモチや (だ) 言うてな、その人柄をなあ よお (よく) 言うてや (言います) カンパンモチや (だ) 言うてな。

がんびつ (棺櫃) 【名詞】 棺 がん参照 [会話] 死んだ人 入れる四角の舟 のりふね ガンビツ 四角な舟 い (に) 乗るまでや (だ) 言うてな。

がんびつや 【名詞】 棺を作るのを業とする人、がん参照

かんびん (爛瓶) 【名詞】 1) 爛徳利 かんどつくり参照 (南) 2) 銚子 [会話] カンビン言うな (のは) 爛するビンを言うんかい (のですか)。爛徳利に カンビン 言うのな (が) 有るよって (から)。カンビン言うな (のは) ガラスでしてあんのも (作って有るのも) あるし。火鉢の上で カンビンや言うて、どびん (土瓶) みたよん (みたいに) して、そして 爛徳利言うな (のは) いっしょどつくり (一升徳利)。

かんびんたん (寒貧短) 1) よく乾いたもの 水気のない事 (志 (浜島、布施田、鶴方、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、安、一、阿、張、名、北、尾、熊、南) 2) やせた人 [会話] カンビン う う すう (薄く) なると (行くと)、乾き切つて 薄か つたりすると、カンビンタンや (だ) 言うて。2) 瘦せ とても (て居ても) 瘦せて、カンビンタン みたよ

なあ (のようだなあ) 言う場合もあるけど。1) そやけど (しかし) うっすう なって、乾き切ったのおを (のを) カンピントンに なっとんない (なって居る) 言うて。

かんぶくろ (紙袋) 【名詞】 かんぶくろの転 紙で作った袋 [会話] カンブクロ 言うと、紙の袋 紙で張った袋、昔や (は) カンブクロや (だ) 言うてなあ。にげ (人間) でも 怒って来ると カンブクロ 張って 言うやんかい (言います)。怒るとなあ あやまあ (彼は) カンブクロ 張って 行たよお (行った) 言うて、怒って行た 言うの (のを)。怒って 頬 ふくらかして (ふくらませて)、そやもんで (それで) カンブクロ 張った 言うて、よお (よく) 怒る人を カンブクロ 張りやなあ (だ) 言うて。

かんぶくろはる 怒って頬をふくらす事 かんぶくろ参照 [会話] あや (彼は) ふくれて カンブクロ ハットラレ (張って居る) カンブクロハッテ、怒って いたよお (行ってしまった)。

かんぶり (雁振) 【名詞】 屋根の一番上の部分 かんむり 棟瓦 屋根の棟の頂部を覆うための丸形の瓦 (志) [会話] 屋根の瓦 ガンブリ。棟い (に) かぶせんの (被せるのです) ガンブリな (が) とんでて (飛んで行って) 言うて これは 屋根の一番上いん 屋根の上のなあ 棟い 被せてあんの (あるのを) あれ ガンブリ。

かんぺき 【名詞】 壁隣り [会話] カンペキ 距てて お (居て) 言うて 隣のことなあ (です) カンペキを 距てて カンペキ ならべて 言うなあ (言います)。壁並び 言うのをなあ 隣な (が) ひつついとると となあ (くっついてると) カンペキ 並べてお (居て) 喧嘩ばっか (ばかり) して 言うね (のです)。カンペキ 言うと 隣、隣やわなあ (です) 壁並びのことを言うよってなあ (のだから)

かんべら 【名詞】 燈火 金属製の丸い容器の中央に芯出しがあり、石油を入れて灯火とした [会話] わしらよなべ すんのも (するのでも) ひょうそく 昔や (は) カンペラや (だ) 言うて。

かんべんする 容赦する 許す 勘弁 過ちや不都合を許す事 [会話] カンベンスル 言うのは、こらいて (許して・こらえて) くれ 言う事。こらえてくれ 言う事。カンベンスル言うの (のです) 謝る事。許すのも カンベンスル、許して貰う人も かんべんして もるて (貰って) 言うて、かんべんしてくれえ (下さい) 言うて。かんべんしてもるて 言うてなあ。

かんまえ (構) 【名詞】 構え 様子 態度 用意 準備 かんまえ参照 (南) [会話] カンマエとれよ (ていなさい) そや 言うて、なんぼくい 行ても (網漁に行っても) そや (それ) カンマエよお 言うてな。なか舟な (指示する船が) 魚な (が) 網のなあ 袋のとこい (所へ) くんのをまあ (来るのを) のぞいとんね (覗いているのです) かがみ (で、そすと、魚な (が) あんばいよお (都合よく) よけ (沢山) 寄った時に さあ カンマエよ 言うてな、すと (すると) 網 持ってすると さあ よいよい 言うてな なか舟な (が) こおすと (合図すると) わああ言うて その網をなあ 引くの (引き上げるのです)。早よ (早く) あげえ (揚げよ) 言うて かまえとけ (構えておけ) 言う事をお、カンマエ 言うの (のです)。用意せえ (しなさい) 言うことや (です) ええか (よいか) カンマエよお (なさい) 言うてな、まあな 網 持って (ていて) カンマエとんね (ているのです)。そすと よいよい 言うてな 丁度 ええときん (よい時に) になると やうちな (一同が) カンマエとるもんで (ので) むし くるのなあ (一生懸命です)。

かんまえとる 構えて居る。待ち構えて居る。かんまえ参照

かんまえとれ 用意しておれ かんまえ参照

かんまえる (構) 【他ア下一】 構える 準備する 用意する [会話] 構える 構える言う事を、喧嘩すんの (するの)に 掛って来い 言うて、かんまえ すんの (するの) カンマエル 言うてなあ。すもと (相撲取り) な (が) こおする 構え それを カンマエル 言うの。構える言う事を カンマエル 言うの (のです)。そや (それ) やるよって (やるから) 受けよ カンマエトレヨオ (構えておれ) 言うて、撒いておこすね (よこす) よって (から) カンマエトレヨ 言うて、おら (私は) カンマエトタけど (構えて居たが) なんも (何も) 放って くれらった (くれなかった)。

かんむし (疥虫) 【名詞】 幼児が無性に泣くようになる かのむしに同じ (志 (布施田、神明、立神、国府)) [会話] カムシな (が) おこつとて (おこつていて) 言うてな、ごおなわいて なあ (腹が立って) すると カムシで、熱な (が) してくる時な (が) あんの なあ (有るのです)。そやもんで (それなので) 子供でもな 疳な (が) おこると 熱な (が) して来て、むし 押さえて 貰え カムシオコリ やなあ (だ) 言うて、医者い (に) 行かんと なあ (行かずに) そえんして (そんなにして) 家でなあ。そやまあ

(それ) むしおこりな (が) して来て 熱な (が) すられ (する)。 もんな おこられ (熱が出る) 言うて、 熱な (が) すんのを (するのを) もんな おこってきた 言うて。

がんむり 【名詞】 屋根瓦の一番上の部分 棟瓦 かんむり の変化したものか がんぶりに 同じ

かんめ (貫目) 【名詞】 重量 [会話] 目方の事を かんめ きんだまの目方 と一緒 三百二十匁 そやけど (しかし) 目方 今し (今) の 子ら (は) 判らせん (ない) もんなあ (です)。

かんもち (寒餅) 【名詞】 寒中に搗いた餅 (熊)

かんもち (拵持) 【名詞】 気性の激しい人。すぐ腹を立てる人。(南)

かんやせ (消瘦) 【名詞】 神経質でやせて居る事 又、その人 [会話] かんやせ 言うな (のは) まあ ごおなわいて (腹が立って) むしな (が) おこって まあ 言うて、 ちっさい (小さい) 子供言うしな (言います)。 にげ (人間) まあ あやまあ (彼は) かんやせ やれ (だ) 言うけどな (言います)。怒って ばっか (ばかり) 居る人な (が) あんで (あれで) 神経質 のことを 言うんやろな (言うのでしょうか) かんやせやなあ (だ) 言うてな それで 痩せとる人 を あや (彼は) かんやせ やなあ 怒ってばっか おってな (居て) やせる人な (が) 有るやんかい (有ります) 何んでも ごおわかしてな (腹立てて) すると あんで (あれで) 神経質 の にげ (人間) な (が) じっきん なあ (すぐに) ごおなわいて (腹が立って) くるやん かいなあ (来ます)。 あいなの (あんなのおを) 言うん やろな (言うのでしょうか) あや (彼は) かんやせやどお (だ) 言うてな。

かんよくり。 **かんより** (紙繕) 【名詞】 紙こより 観世繕り (志 (布施田)) [会話] かんヨリ。紙でなあ 二厘紙 でなあ (です) かんぢよくり やら かんヨクリ やら (とか) 言うて 言うどた (言っていました)。 かんぢよくり 言うの、 かんぢよくり でああ かんヨリ 言うのんなあ (言います) かんぢよくり や 言うて、 こして こして してな 昔 かんぢよくり よっとけ (燃っとけ) そや (それ) 言うてな。

かんろく 【名詞】 冬の最中 厳寒期 [会話] あげな (あんな) 格好 して、 かんロク みたいななあ (の様だ) 言うやんかい (言います) さぶいと (寒いと) もつば着たよん (ように) しどると (して居ると)。 おおた、 あやれ、 かんロク みなよん しどられ (している) 言うてな。 冬の最中 よけ (沢山) 着込んどると

な。夏でも よけ着込んどると、 おおた かんロク 程着込んどんない (で居る) そや (それ) 言うやんかい (言います)。 かんロク みたいなふう (格好) してあやれ言うてなあ よけ着込んどると。